

一般国道180号道路改良事業に係る  
埋蔵文化財発掘調査報告書II

鳥取県米子市

# 古市遺跡群 2

古市コガノ木遺跡

古市流田遺跡

2000

財団法人 鳥取県教育文化財団

### 正誤表

頁	行	誤	正
28	10	22は8世紀代の…	21は8世紀代の…
28	10	23は弥生土器の…	22は弥生土器の…
36	22	66の頸部には10条…	66の頸部には9条…
36	27	74は9条の…	74は9条以上…
55	19	177~183は突帯文土器の…	177~184は突帯文土器の…
88	表	漁労具の所の、石鏝	石錘

一般国道180号道路改良事業に係る  
埋蔵文化財発掘調査報告書II

鳥取県米子市

# 古市遺跡群 2

古市コガノ木遺跡

古市流田遺跡

2000

財団法人 鳥取県教育文化財団



SD 9 出土土器 (78)



剥片石器類



SX 2 出土土器

古市流田遺跡出土遺物

## 序

鳥取県西部に位置する米子市は、北に中海・日本海に面し、東に秀峰大山を望む豊かな自然に恵まれた地域です。また、「山陰の商都」といわれ、産業・文化・観光など、この地の中心的役割を果たしています。昨今、環日本海交流が推進されるなか、米子市の果たす役割も重要性を増してきており、道路・通信などの整備も一段と進んでいます。また、開発に伴う埋蔵文化財発掘調査によって、縄文時代から近世に至る多様な遺跡の存在、そして古代の米子の様子が明らかになってきました。

当財団では一般国道180号道路改良工事に伴う発掘調査を、鳥取県の委託を受け平成10年から実施して参りました。調査の結果、各時代の遺構や遺物を多数検出し、縄文時代以降、弥生時代から古墳時代にかけての集落像を知るうえで貴重な資料を提供できたと考えております。

本発掘調査の成果が、今後の教育および学術研究のため多くの方々に活用していただければ幸いに存じます。

最後になりましたが、鳥取県土木部道路課及び鳥取県米子土木事務所、並びに地元の皆様をはじめご協力いただいた方々、その他関係各位に対し厚く御礼申し上げます。




平成12年3月

財団法人 鳥取県教育文化財団  
理事長 有田 博充

## 例 言

- 1 本報告書は、「一般国道180号道路改良事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅱ」として実施した、埋蔵文化財発掘調査の報告書である。
- 2 本発掘調査は下記に所在する遺跡を対象として実施された。  
古市コガノ木遺跡：鳥取県米子市古市字コガノ木1008、1009番地  
古市流田遺跡：鳥取県米子市古市字流田918～926番地
- 3 本報告書における方位、座標値は、国土座標第V系の座標値である。また、レベルは海拔標高を表す。
- 4 本報告書に掲載した地形図は国土地理院発行の1/50,000地形図「米子」を使用した。
- 5 本発掘調査の実施に当たっては、花粉分析、プラント・オパール分析、遺跡の空中高所写真撮影をそれぞれの業者に委託し、現地における基準点測量及び方眼測量を測量コンサルタント業者に委託した。
- 6 遺物の実測は調査員及び室内整理作業員が行った。石器実測及びトレースの一部を業者に委託した。
- 7 掲載図面は、調査員が作成したものを調査員及び室内整理員が浄書を行った。
- 8 現場の写真撮影は調査員が行い、遺物の写真撮影は牛嶋 茂氏、杉本和樹氏にお願いした。
- 9 発掘調査によって作成された記録及び出土遺物は鳥取県埋蔵文化財センターに保管されている。
- 10 本報告書は調査員の協議に基づいて執筆及び編集し、文責は目次及び文末に記した。
- 11 現地調査及び報告書の作成に当たっては、多くの方々からのご指導及びご助言をいただいた。明記して深謝いたします（敬称略、順不同）。  
遠藤勝寿、佐伯純也、下高瑞哉、九州歴史資料館、宗像市教育委員会、山口市教育委員会、米子市教育委員会、米子市教育文化事業団埋蔵文化財調査室、米子市市史編さん室、米子市立山陰歴史館

## 凡 例

- 1 本報告書における遺構の略称は以下のとおりである。  
S I：竪穴住居跡    S B：掘立柱建物跡    S D：溝状遺構 自然流路    S K：土坑  
S X：不明遺構    P：ピット
- 2 遺物実測図のうち、須恵器は断面黒塗りにし、それ以外は白抜きであらわした。
- 3 遺構、遺物に用いたスクリーントーンはそれぞれ以下のものをあらわした。  
赤色顔料     磨面     地山 
- 4 石器実測にもちいた実線は磨面、破線は敲打痕の範囲をあらわす。
- 5 本文中、挿図中及び写真図版中の遺物番号は一致する。また、石器、石製品には番号の頭にS、木製品にはW、玉類（石・ガラス製品）にはJ、金属製品にはFを冠している。
- 6 出土した遺物には以下のように遺跡の略称を記してある。  
古市コガノ木遺跡：F K G    古市流田遺跡：F N
- 7 本報告書における土器の時期決定には、主に以下の編年案を参考にした。

### 縄文時代晩期～弥生時代前期

濱田竜彦 1999「古市河原田遺跡出土の突帯文土器—古市河原田式の提唱—」『古市遺跡群1』鳥取県教育文化財団  
2000「山陰地方における弥生文化成立期の様相—山陰東部を中心に—」『弥生文化の成立』第47回埋蔵文化財研究集会

### 弥生時代

正岡睦夫・松本岩雄 1992『弥生土器の様式と編年 山陽・山陰編』耳木社  
松井 潔 1997「東の土器、南の土器—山陰地方東部における弥生時代中期後葉～古墳時代初頭の非在地系土器の動態—」『古代吉備』19 古代吉備研究会

### 古墳時代以降

牧本哲雄 1999「古墳時代の土器について」『長瀬高浜遺跡Ⅷ 園第6遺跡』鳥取県教育文化財団  
田辺昭三 1981『須恵器大成』角川書店  
萩本 勝・佐古和枝「須恵器について」『陰田』米子市教育委員会  
八峠 興 1998「山陰における中世土器の変遷について—供膳具・炊飯具を中心として—」『中近世土器の基礎研究』日本中世土器研究

# 目 次

序

例言・凡例

目次

第1章 調査の経緯	濱田	1
第1節 調査に至る経緯		1
第2節 調査の体制		2
第2章 位置と歴史的環境	濱田	4
第1節 古市遺跡群の位置と歴史的環境		4
第2節 古市遺跡群について		6
第3章 古市コガノ木遺跡の調査	濱田・濱・吉田	9
第1節 調査の経過と方法	濱田・吉田	9
第2節 調査区内の堆積について	濱田・吉田	9
第3節 遺構と遺物	吉田・濱田	12
1. 概要		12
2. 遺構と遺物		12
3. 包含層出土の遺物		19
第4節 まとめ	濱田・濱・吉田	19
第4章 古市流田遺跡の調査	濱田・内田	21
第1節 歴史的環境からみた調査の課題	濱田	21
第2節 調査の経過と方法	濱田	21
第3節 調査区内の堆積	濱田	22
第4節 古墳時代前期以降（第1遺構面）の遺構と遺物	内田・濱田	22
1. 概要		22
2. 遺構と遺物		25
第5節 縄文時代～古墳時代前期初頭（第2遺構面）の遺構と遺物	濱田・内田	30
1. 概要		30
2. 縄文時代の遺構と遺物		30
3. 弥生時代前期～中期前葉の遺構と遺物		33
4. 弥生時代中期中葉以降の遺構と遺物		58
第6節 包含層出土の遺物	濱田	81
1. 概要		81
2. 土器・土製品		81
3. 石器		81
4. 石製・ガラス製玉類		90
5. 金属製品		90
第7節 自然科学分析		111
1. 古市流田遺跡－SD9－におけるプラント・オパール分析	株式会社 古環境研究所	111
2. 古市流田遺跡－SD9・SD15・SX2－における花粉・プラント・オパール分析	株式会社 古環境研究所	115
第8節 まとめ	濱田・内田	124
第5章 考察 古市流田遺跡出土の弥生時代・第Ⅱ様式土器について	濱田	127

# 挿図目次

- 第1図 陰田・奥陰田・新山・古市遺跡群
- 第2図 周辺遺跡図
- 第3図 古市・新山遺跡群
- 第4図 調査区グリッド配置図
- 第5図 調査区内の堆積
- 第6図 遺構配置図
- 第7図 SD1・SD2・SD3
- 第8図 SD4・SD5
- 第9図 SD6
- 第10図 SX1
- 第11図 SX1出土遺物
- 第12図 P29・P38~40・P59・P66
- 第13図 4層出土遺物
- 第14図 3層出土遺物
- 第15図 調査区グリッド配置図
- 第16図 第1遺構面・第2遺構面遺構配置図
- 第17図 調査区内の堆積
- 第18図 SB1
- 第19図 SB1 P136・P137・P138・P141出土柱材
- 第20図 SB2・SB3
- 第21図 SD1・SD2・SD3・SD4平面図
- 第22図 SD1・SD2・SD3・SD4断面図
- 第23図 SD1出土遺物
- 第24図 SD2出土遺物
- 第25図 SX1及び出土遺物
- 第26図 SK7
- 第27図 SK7出土遺物
- 第28図 SK8
- 第29図 SK8出土遺物
- 第30図 SK9
- 第31図 SD9・SD11・SD12・SD13・SD14平面図
- 第32図 SD11断面図
- 第33図 SD9①層出土遺物1
- 第34図 SD9①層出土遺物2
- 第35図 SD9②~⑤層出土遺物1
- 第36図 SD9②~⑤層出土遺物2
- 第37図 SD9②~⑤層出土遺物3
- 第38図 SD9②~⑤層出土遺物4
- 第39図 SD9②~⑤層出土遺物5
- 第40図 SD9出土遺物
- 第41図 SD15
- 第42図 SD15出土遺物
- 第43図 SX2
- 第44図 SX2③層遺物出土状況



- 第45図 SX 2 ⑦～⑪層遺物出土状況
- 第46図 SX 2 ③層出土遺物 1
- 第47図 SX 2 ③層出土遺物 2
- 第48図 SX 2 ③層出土遺物 3
- 第49図 SX 2 ⑦～⑪層出土遺物 1
- 第50図 SX 2 ⑦～⑪層出土遺物 2
- 第51図 SX 2 出土遺物
- 第52図 SI 1 及び出土遺物
- 第53図 SB 4 ・ SB 5
- 第54図 SB 6 ・ SB 7
- 第55図 SB 8 ・ SB 9
- 第56図 SB 10 ・ SB 11
- 第57図 SB 12
- 第58図 SK 1
- 第59図 SK 2 及び出土遺物 ・ SK 3
- 第60図 SK 3 出土遺物
- 第61図 SK 4
- 第62図 SK 5 ・ SK 6
- 第63図 SK 10
- 第64図 SD 5 及び出土遺物
- 第65図 SD 6 ・ SD 7 ・ SD 8 平面図
- 第66図 SD 6 ・ SD 7 ・ SD 8 断面図およびSD 6 出土遺物
- 第67図 SD 10 及び出土遺物
- 第68図 SD 16
- 第69図 P 35 ・ P 56 ・ P 61 ・ P 68 ・ P 66 ・ P 70 ・ P 74 ・ P 90
- 第70図 P 93 ・ P 95 ・ P 99 ・ P 105 ・ P 107 ・ P 109 ・ P 111 ・ P 114
- 第71図 P 115 ・ P 120 ・ P 129 ・ P 130 ・ P 135 ・ P 137 ・ P 140 ・ P 147
- 第72図 P 153 ・ P 178 ・ P 186 ・ P 189 ・ P 193 ・ P 194 ・ P 195
- 第73図 P 197 ・ P 198 ・ P 254 ・ P 282 ・ P 313 ・ P 314 ・ P 317
- 第74図 ピット出土遺物
- 第75図 5層出土遺物 1
- 第76図 5層出土遺物 2
- 第77図 5層出土遺物 3
- 第78図 5層出土遺物 4
- 第79図 5層出土遺物 5
- 第80図 6層出土遺物 1
- 第81図 6層出土遺物 2
- 第82図 6層出土遺物 3
- 第83図 6層出土遺物 4
- 第84図 5 ・ 6層出土石製品 ・ ガラス製品 ・ 金属製品
- 第85図 古市流田遺跡SD 9のプラント・オパール分析結果
- 第86図 古市流田遺跡SD 9における花粉ダイアグラム
- 第87図 古市流田遺跡SX 2における花粉ダイアグラム
- 第88図 古市流田遺跡SD 15 ・ SX 2のプラント・オパール分析結果
- 第89図 SD 9 ・ SX 2出土の土器

# 挿表目次

- 表1 古市・新山遺跡群古墳一覧表
- 表2 古市コガノ木遺跡ピット一覧表
- 表3 古市コガノ木遺跡土器観察表
- 表4 古市流田遺跡ピット一覧表1
- 表5 古市流田遺跡ピット一覧表2
- 表6 古市流田遺跡ピット一覧表3
- 表7 古市流田遺跡ピット一覧表4
- 表8 古市流田遺跡ピット一覧表5
- 表9 古市流田遺跡ピット一覧表6
- 表10 古市流田遺跡ピット一覧表7
- 表11 古市流田遺跡出土状況別石器組成一覧表
- 表12 古市流田遺跡土器・土製品観察表1
- 表13 古市流田遺跡土器・土製品観察表2
- 表14 古市流田遺跡土器・土製品観察表3
- 表15 古市流田遺跡土器・土製品観察表4
- 表16 古市流田遺跡土器・土製品観察表5
- 表17 古市流田遺跡土器・土製品観察表6
- 表18 古市流田遺跡土器・土製品観察表7
- 表19 古市流田遺跡土器・土製品観察表8
- 表20 古市流田遺跡土器・土製品観察表9
- 表21 古市流田遺跡土器・土製品観察表10
- 表22 古市流田遺跡土器・土製品観察表11
- 表23 古市流田遺跡土器・土製品観察表12
- 表24 古市流田遺跡土器・土製品観察表13
- 表25 古市流田遺跡土器・土製品観察表14
- 表26 古市流田遺跡土器・土製品観察表15
- 表27 古市流田遺跡土器・土製品観察表16
- 表28 古市流田遺跡土器・土製品観察表17
- 表29 古市流田遺跡土器・土製品観察表18
- 表30 古市流田遺跡土器・土製品観察表19
- 表31 古市流田遺跡石器一覧表1
- 表32 古市流田遺跡石器一覧表2
- 表33 古市流田遺跡SD9のプラント・オパール分析結果
- 表34 古市流田遺跡SD9・SD15・SX2の花粉分析結果
- 表35 古市流田遺跡SD15・SX2のプラント・オパール分析結果
- 表36 壺形土器・甕形土器の分類表

# 図版目次

巻頭図版 古市流田遺跡・S D 9 出土土器 (78)

古市流田遺跡・S X 2 出土土器

古市流田遺跡・剥片石器類

## 古市遺跡群

図版 1 1 古市の平野と大山

2 古市遺跡群遠景

## 古市コガノ木遺跡

図版 2 1 調査前全景 (北西から)

2 P 29 (北から)

3 ピット群完掘状況 (北から)

4 S X 1 検出状況 (北から)

5 S X 3 検出状況 (東から)

図版 3 1 S D 3 完掘状況 (東から)

2 東壁土層断面 (西から)

3 東壁土層断面 (西から)

4 S D 5 完掘状況 (東から)

5 トレンチ内土層断面 (西から)

6 S X 1 土層断面 (東から)

7 完掘状況 (南東から)

8 完掘状況 (北西から)

図版 4 古市コガノ木遺跡出土土器

## 古市流田遺跡

図版 5 1 調査前全景 (南から)

2 完掘状況 (北から)

図版 6 1 S B 1 完掘状況 (東から)

2 S B 1 P 136 (南西から)

3 S B 1 P 138 (東から)

図版 7 1 S B 2 完掘状況 (北西から)

2 S D 1 土層断面 (南東から)

3 S D 1 完掘状況 (北から)

4 S D 2 土層断面 (北西から)

図版 8 1 S D 2 完掘状況 (北西から)

2 S D 3 完掘状況 (西から)

3 i 6 区 5 層遺物出土状況 (北から)

図版 9 1 S I 1 完掘状況 (北から)

2 S I 1 遺物出土状況 (東から)

3 S B 4 完掘状況 (北西から)

図版 10 1 S B 5 完掘状況 (南から)

2 S B 6 完掘状況 (南から)

3 S B 9 完掘状況 (南から)

4 S B 10 完掘状況 (南から)

図版 11 1 S B 11 完掘状況 (南から)

2 S B 12 完掘状況 (北から)

3 S K 3 遺物出土状況 (南西から)

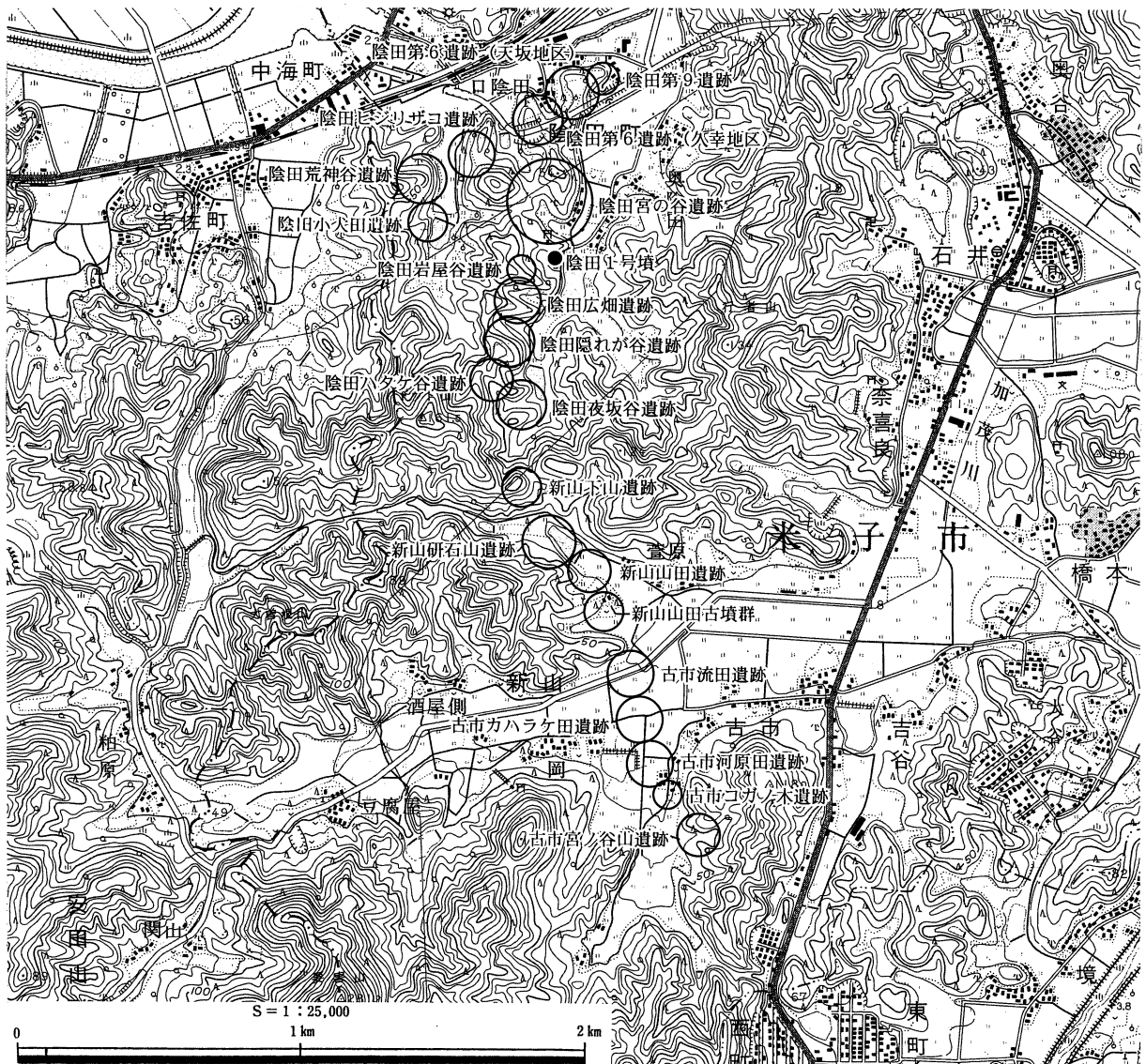
- 4 P 179遺物出土状況（南西から）
- 図版12 1 SK 7 遺物出土状況（南から）  
2 SK 8 土層断面（西から）  
3 SK 8 完掘状況（北から）
- 図版13 1 SK 9 完掘状況（西から）  
2 SD 5 遺物出土状況（南西から）  
3 SD 6 土層断面（北から）  
4 SD 6 土層断面（西から）  
5 SD 6 完掘状況（北から）
- 図版14 1 SD 9 土層断面（南から）  
2 SD 9 土層断面（南から）  
3 SD 9 遺物出土状況  
4 SD 9 遺物出土状況  
5 j 5・k 5 グリッドSD 9 土坑状の落ち込み（北から）  
6 SD 9 完掘状況（南西から）
- 図版15 1 SD 10 土層断面（南から）  
2 SD 10 完掘状況（南から）  
3 SD 15 土層断面（西から）  
4 SD 15 完掘状況（東から）  
5 SD 15 完掘状況（西から）
- 図版16 1 SX 2 ③層遺物出土状況  
2 SX 2 ⑪層遺物出土状況  
3 SX 2 土層断面（北から）  
4 SX 2 完掘状況（南から）
- 図版17 SD 1・SD 2・SX 1 出土土器
- 図版18 SB 1 出土柱材
- 図版19 SK 7・SK 8・SD 15 出土土器
- 図版20 SD 9 ①層出土土器
- 図版21 SD 9 ②～⑤層出土土器
- 図版22 SD 9 ②～⑤層出土土器
- 図版23 SD 9 ②～⑤層出土土器
- 図版24 SD 9 ②～⑤層出土土器・土製品  
5層・6層出土玉類・鉄製品
- 図版25 SX 2 ③層出土土器
- 図版26 SX 2 ③・⑦～⑪層出土土器
- 図版27 SX 2 ③層出土土器
- 図版28 SX 2 出土土器
- 図版29 SI 1・SK 3・SD 6・SD 10 出土土器
- 図版30 5層出土土器
- 図版31 6層出土土器・土製品
- 図版32 石器（礫石器他）
- 図版33 石器（石斧類）
- 図版34 プラント・オパール（植物珪酸体）の顕微鏡写真
- 図版35 プラント・オパール（植物珪酸体）の顕微鏡写真
- 図版36 花粉・孢子遺体

# 第1章 調査の経緯

## 第1節 調査に至る経緯

本発掘調査は、鳥取県が進める一般国道180号（米子バイパス）道路改良工事を原因とし、米子市古市地内の工事予定地内に存在する埋蔵文化財の記録保存を目的としたものである。バイパスは米子市陰田町の山陰道陰田ランプを起点として、同市新山、古市を経て西伯町を結ぶ。この改良工事における埋蔵文化財の保護と事業計画の調整については、事業計画策定に沿って関係機関で協議され、米子市教育委員会による試掘調査が実施されてきた。また、本事業に伴い陰田・新山間の発掘調査が国道180号バイパス関係埋蔵文化財調査団、財団法人米子市教育文化事業団によって実施されている<sup>1)</sup>。

古市地内の道路予定地については、1996・1997年度に米子市教育委員会により試掘調査が行われ、縄文時代～古墳時代の遺物・遺構が確認された<sup>2)</sup>。これを受けて、鳥取県土木部道路課および鳥取県米子土木事務所は鳥取県教育委員会事務局文化課と協議を行い、文化財保護法第57条の3に基づく発掘通知を文化庁に提出した。その上で、記録保存のための事前発掘調査の指示を得た鳥取県土木部道路課は、発掘調査を財団法人鳥取県教育文化



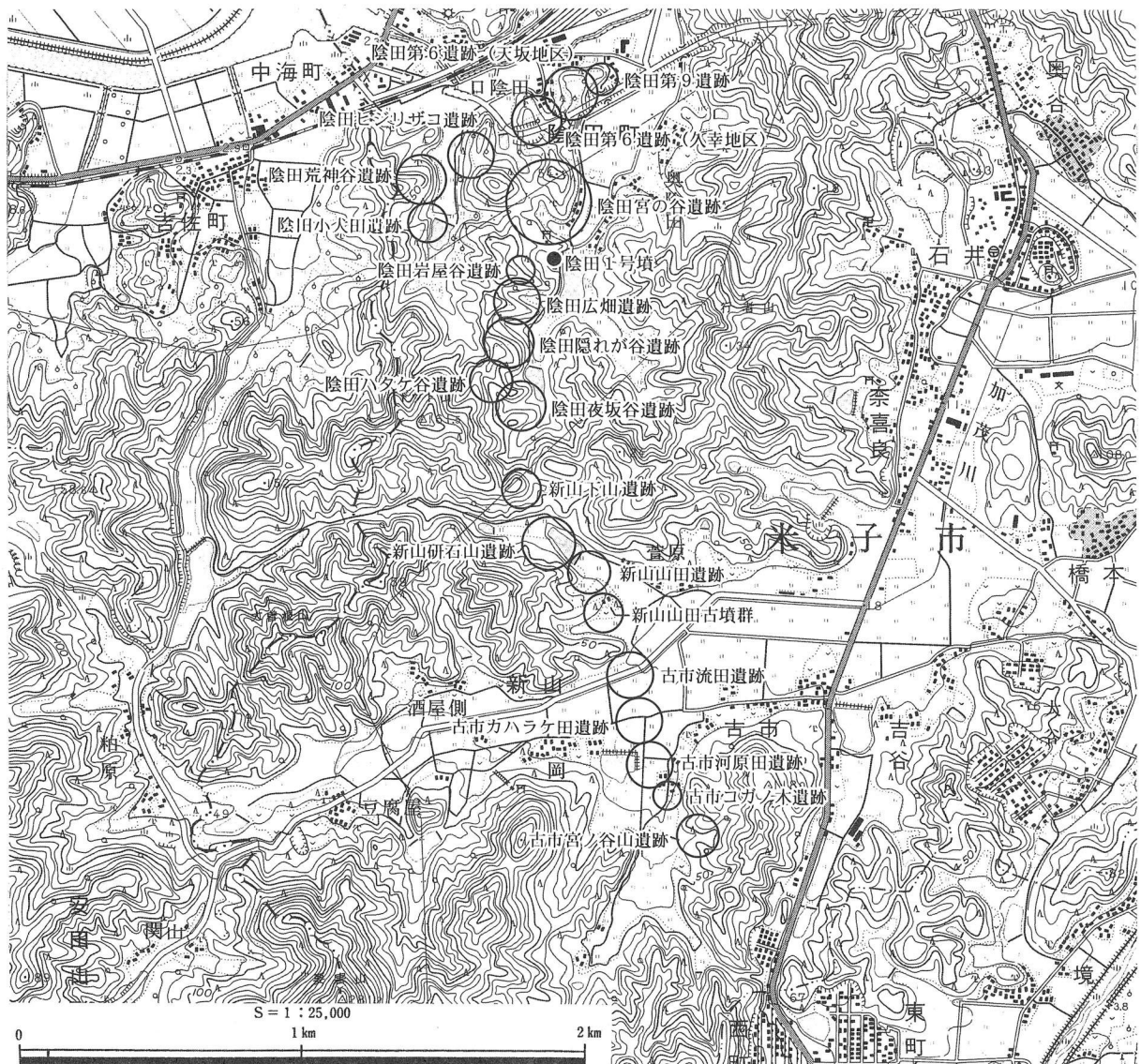
第1図 陰田・奥陰田・新山・古市遺跡群

# 第1章 調査の経緯

## 第1節 調査に至る経緯

本発掘調査は、鳥取県が進める一般国道180号（米子バイパス）道路改良工事を原因とし、米子市古市地内の工事予定地内に存在する埋蔵文化財の記録保存を目的としたものである。バイパスは米子市陰田町の山陰道陰田ランプを起点として、同市新山、古市を経て西伯町を結ぶ。この改良工事における埋蔵文化財の保護と事業計画の調整については、事業計画策定に沿って関係機関で協議され、米子市教育委員会による試掘調査が実施されてきた。また、本事業に伴い陰田・新山間の発掘調査が国道180号バイパス関係埋蔵文化財調査団、財団法人米子市教育文化事業団によって実施されている<sup>1)</sup>。

古市地内の道路予定地については、1996・1997年度に米子市教育委員会により試掘調査が行われ、縄文時代～古墳時代の遺物・遺構が確認された<sup>2)</sup>。これを受けて、鳥取県土木部道路課および鳥取県米子土木事務所は鳥取県教育委員会事務局文化課と協議を行い、文化財保護法第57条の3に基づく発掘通知を文化庁に提出した。その上で、記録保存のための事前発掘調査の指示を得た鳥取県土木部道路課は、発掘調査を財団法人鳥取県教育文化



第1図 陰田・奥陰田・新山・古市遺跡群

## 第1章 調査の経緯

財団に委託した。調査の対象となった遺跡は古市カハラケ田遺跡、古市河原田遺跡、古市コガノ木遺跡、古市流田遺跡である（第1図）。これにより、平成10年度から西部埋蔵文化財米子調査事務所が調査を担当することとなり、財団法人鳥取県教育文化財団鳥取県埋蔵文化財センター所長から文化庁長官に文化財保護法第57条第1項に基づく発掘届を提出した。このうち、平成10年度には古市カハラケ田遺跡、古市河原田遺跡、古市コガノ木遺跡の発掘調査を行い、古市カハラケ田遺跡、古市河原田遺跡について調査報告書を刊行した<sup>3)</sup>。

## 第2節 調査の体制

### 平成10年度

調査主体 財団法人鳥取県教育文化財団

理事長 田淵 康允（鳥取県教育委員会教育長）  
常務理事 大和谷 朝（鳥取県教育委員会事務局次長）  
事務局長 岡山 宏徳

財団法人鳥取県教育文化財団鳥取県埋蔵文化財センター

所長 古井 喜紀（鳥取県埋蔵文化財センター所長）  
次長 八木谷 昇  
調整係長 松田 潔  
調査員 小谷 修一（平成10年6月末で退職）  
庶務係主任事務職員 矢部 美恵  
事務職員 嶋村八重子

調査担当 財団法人鳥取県教育文化財団鳥取県埋蔵文化財センター西部埋蔵文化財米子調査事務所

所長 国田 俊雄  
主任調査員 濱田 竜彦  
調査員 濱 隆造 吉田 学  
整理員 塚田 文子

調査指導 鳥取県教育委員会事務局文化課 鳥取県埋蔵文化財センター

下記の方々に発掘調査作業、整理作業に従事または協力いただいた。

安達久美子、安部好江、石橋幹夫、遠藤綾子、遠藤清子、片岡登志枝、倉敷精、角田輝彰、高田茂、高塚早智子、長田慶子、西本友一、野口洋一、長谷川節子、伴藤栄、細田恒夫、本田昇、本田美雪、益井季里子、松浦万喜男、都田三郎、中橋智明、小原円

### 平成11年度

調査主体 財団法人鳥取県教育文化財団

理事長 有田 博充（鳥取県教育委員会教育長）  
常務理事 大和谷 朝（鳥取県教育委員会事務局次長）  
事務局長 岡山 宏徳

財団法人鳥取県教育文化財団鳥取県埋蔵文化財センター

所 長 古井 喜紀 (鳥取県埋蔵文化財センター所長)  
次 長 八木谷 昇  
調整係長 松田 潔  
文化財主事 高垣 陽子  
庶務係主任事務職員 矢部 美恵  
事務職員 嶋村八重子

調査担当 財団法人鳥取県教育文化財団鳥取県埋蔵文化財センター西部埋蔵文化財米子調査事務所

所 長 国田 俊雄  
主任調査員 濱田 竜彦  
調 査 員 内田 浩文  
整 理 員 山崎 裕子

調査指導 鳥取県教育委員会事務局文化課 鳥取県埋蔵文化財センター

下記の方々に発掘調査作業、整理作業に従事または協力いただいた。

秋里登志子、安達久美子、安部好江、板英臣、遠藤綾子、大櫃光江、片岡登志枝、勝部恵、川成寿々子、倉敷精、  
埜畑友雄、笹谷加寿夫、角田輝彰、高田茂、高塚克人、高塚公栄、高塚早智子、新田幾子、野口洋一、野口葉子、  
長谷川節子、畠延子、伴藤栄、干村澄子、細田恒夫、本田昇、本田美雪、前田文子、益井季里子、松浦万喜男、  
吉原和行、渡貞夫、遠藤万須美、小原円

註1) 杉谷愛象ほか 1994 『萱原・奥陰田Ⅰ』 米子市教育文化事業団

小原貴樹ほか 1998 『萱原・奥陰田Ⅱ』 米子市教育文化事業団

2) 下高瑞哉 1998 『米子市内遺跡発掘調査報告書』 米子市教育委員会

3) 中森 祥・濱田竜彦ほか 1999 『古市遺跡群1』 鳥取県教育文化財団



発掘調査参加者



## 第2章 位置と歴史的環境

### 第1節 古市遺跡群の位置と歴史的環境

古市遺跡群は島根県との県境にほど近い、米子市の南西部に位置している。新山に発し、米子市街地へと流れる加茂川によって形成された東西に長い小平野に面し、母塚山から派生する南側の丘陵から丘陵裾および加茂川右岸に遺跡群が展開している。この小平野からは秀峰大山が一望できる（図版1）。また、北側の丘陵部には、古市遺跡群から中海に向かって新山遺跡群、奥陰田遺跡群、陰田遺跡群が連なる（第1・2図）。

古市遺跡群周辺での人々の生活は縄文時代草創期に遡る。陰田宮の谷遺跡、奈喜良遺跡では、縄文時代草創期のものと思われる尖頭器が単独で出土している。また、新山山田遺跡では、早期中葉の押形文土器が少量出土している。

周辺で安定した集落形成がなされたのは縄文時代早期末～前期以降である。縄文時代早期末～前期にかけて海岸線近くに位置する陰田遺跡からは多量の土器・石器などの遺物が出土している。中海沿岸地域は中国地方を代表する縄文遺跡の密集地で、陰田遺跡をはじめ目久美遺跡、タテチョウ遺跡、西川津遺跡などが知られている。

古市遺跡群では、縄文時代中期中葉以降に人々の生活が始まるが、具体的な様相は明らかでない。縄文時代における遺跡のピークは、後期、晩期後葉にある。後期の遺構は、古市河原田遺跡、古市カハラケ田遺跡で土坑などが検出されているが、集落の縁辺部と思われ、主体には調査が及んでいない。また、古市河原田遺跡では晩期後葉の突帯文土器がまとまって出土している。

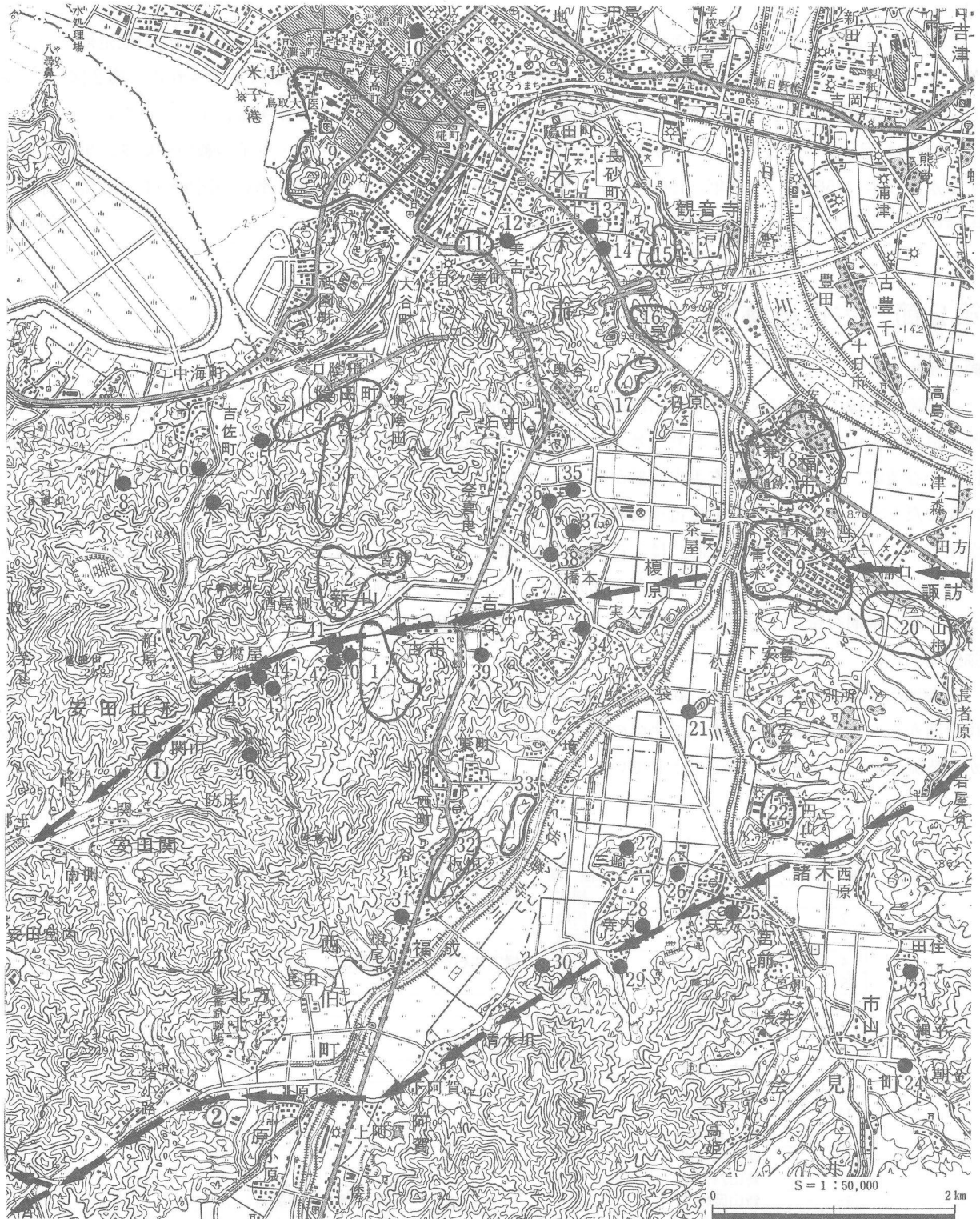
古市遺跡群では弥生時代前期にも継続して集落が形成されている。古市遺跡群の周辺では新山遺跡群、奈喜良遺跡でも該期の土器が出土している。加茂川によって形成された小平野が初期水田に適した土地として選地されたものと考えられる。遠賀川式土器が出現する直前段階の縄文時代晩期末葉には、それ以前と比べ遺跡数が増加する。いずれも規模は大きくないが、低地ないし低地にほど近い丘陵裾に位置するものが多く、時期的にも稲作の受容・定着の過程における現象として興味深い。

弥生時代中期後半になると、丘陵上に集落の形成が始まる。長期間継続する遺跡と、短期間ないし断続的に存続する遺跡がある。中期後半以降～後期にかけて存続する青木遺跡は前者の代表例である。この時期、淀江町と大山町にまたがる妻木晩田遺跡群、会見町と岸本町にまたがる越敷山遺跡群、そして青木遺跡など地域の拠点と目される大規模な遺跡が丘陵上に出現する。一方、平野部にも目久美遺跡のように長期間存続する遺跡がある。目久美遺跡は前期以来、地域の拠点的な集落であったと考えられるが、後期前半に大規模な洪水災害を受けることで土地利用が断絶していると推定される。丘陵部における大規模な集落の出現には様々な社会的背景が考えられるが、平野部における環境変化との関わりも一考を要する問題である。

陰田から新山にかけての丘陵部では、弥生時代中期後半から後期にかけて集落が営まれており、古墳時代前期へ継続していく。古市遺跡群では、弥生時代前期に集落の形成が始まり、弥生時代を通して断続的に集落が営まれ、古墳時代前期へ継続していく。

古墳時代中期になると陰田・新山遺跡群で古墳の造営が始まり、後期になると約60基の古墳、約50基の横穴墓が造営される。これらの造墓集団は、陰田から新山にかけての丘陵ないし谷に面した斜面地に集落を形成していることが、国道9号、国道180号道路改良工事に伴う一連の発掘調査から明らかになっている。古市遺跡群でも同時期の集落が存続しており、母塚山から派生する丘陵の先端付近に古墳、横穴墓が築かれている（第3図）。

7世紀後半以降、陰田・奥陰田遺跡群は官衙的な性格を強める。陰田遺跡群の口陰田遺跡では「館」「多知」「田知」と記された墨書土器が出土しており、館の存在が推定される。さらに陰田第6遺跡では8世紀に比定される石敷道路が検出されている。これらの地域では、谷に面した斜面を造成、段状に加工し、掘立柱建物や堅穴住居を構築している。また、鉄滓が陰田・新山地内の各遺跡で出土しており、陰田広畑遺跡では鍛冶炉が検出されて



- 1. 古市遺跡群    2. 新山遺跡群    3. 奥陰田遺跡群    4. 陰田遺跡群    5. カンボウ遺跡
- 6. 平ラⅠ遺跡    7. 平ラⅡ遺跡    8. 徳見津遺跡    9. 米子城跡    10. 錦町第1遺跡
- 11. 目久美遺跡    12. 池ノ内遺跡    13. 長砂第1遺跡    14. 長砂第2遺跡
- 15. 長砂古墳群    16. 東宗像古墳群    17. 宗像古墳群    18. 福市遺跡    19. 青木遺跡
- 20. 諏訪遺跡群    21. 大袋丸山遺跡    22. 諸木遺跡    23. 田住桶川遺跡
- 24. 口朝金遺跡    25. 天万遺跡    26. 宮尾遺跡    27. 三崎殿山遺跡
- 28. 天萬土井前遺跡    29. 寺内8号墳    30. 枇杷塔遺跡    31. 清水谷遺跡
- 32. 福成古墳群    33. 福成早里遺跡    34. 榎原第1遺跡    35. 奈喜良遺跡
- 36. 奈喜良1・2号墳    37. 橋本要害    38. 橋本遺跡    39. 吉谷トコ遺跡    40. 新山類ノ下遺跡
- 41. 新山岡横穴    42. 新山23号墳    43. 新山22号墳    44. 新山神田遺跡
- 45. 新山大谷原遺跡    46. 新山要害    ①古代山陰道（中村説）②古代山陰道（日野説）

第2図 周辺遺跡図

いる。

また、古市遺跡群の位置する加茂川によって形成された東西に長い谷筋は、古代山陰道の通過推定地の一つとされている。この地を山陰道が通過した場合、鳥根県伯太町へ抜ける峠が手間割に推定される（第2図）。しかし、平成10年度に実施された古市カハラケ田遺跡の調査では山陰道の存在を確認するに至っていない。

中世には新山城（長台寺城）が築かれる。築城時期は定かではないが、毛利・尼子の戦いが伯耆、出雲で激化する永禄6年（1563年）～9年（1566年）にはその存在が知られており、伯耆、出雲の国境のある古市の谷筋は国境の重要な街道であったことが窺われる。（濱田）

## 第2節 古市遺跡群について

### 縄文時代

古市流田遺跡の北側に位置する新山山田遺跡では早期高山寺式に相当する押型文土器が出土している。早期段階の遺跡は大山山麓に集中しており、米子の平野部では新山山田遺跡が唯一の例である。古市・新山周辺では陰田宮の谷遺跡、奈喜良遺跡で有舌尖頭器が出土しており、今後、平野部でも草創期～早期の遺跡の存在が明らかになるだろう。古市遺跡群内では古市河原田遺跡で中期～晩期、古市カハラケ田遺跡で後期～晩期の遺物や遺構が出土している。後期中葉の段階には、古市河原田遺跡で土坑や溝、古市カハラケ田遺跡で土坑が検出されており、具体的な様相はわからないが、集落が形成されていたものと推測される。また、古市河原田遺跡では、まとまった量の晩期突帯文土器が出土しており、土器片の中には靱痕と思われる圧痕の付着するものも認められる。

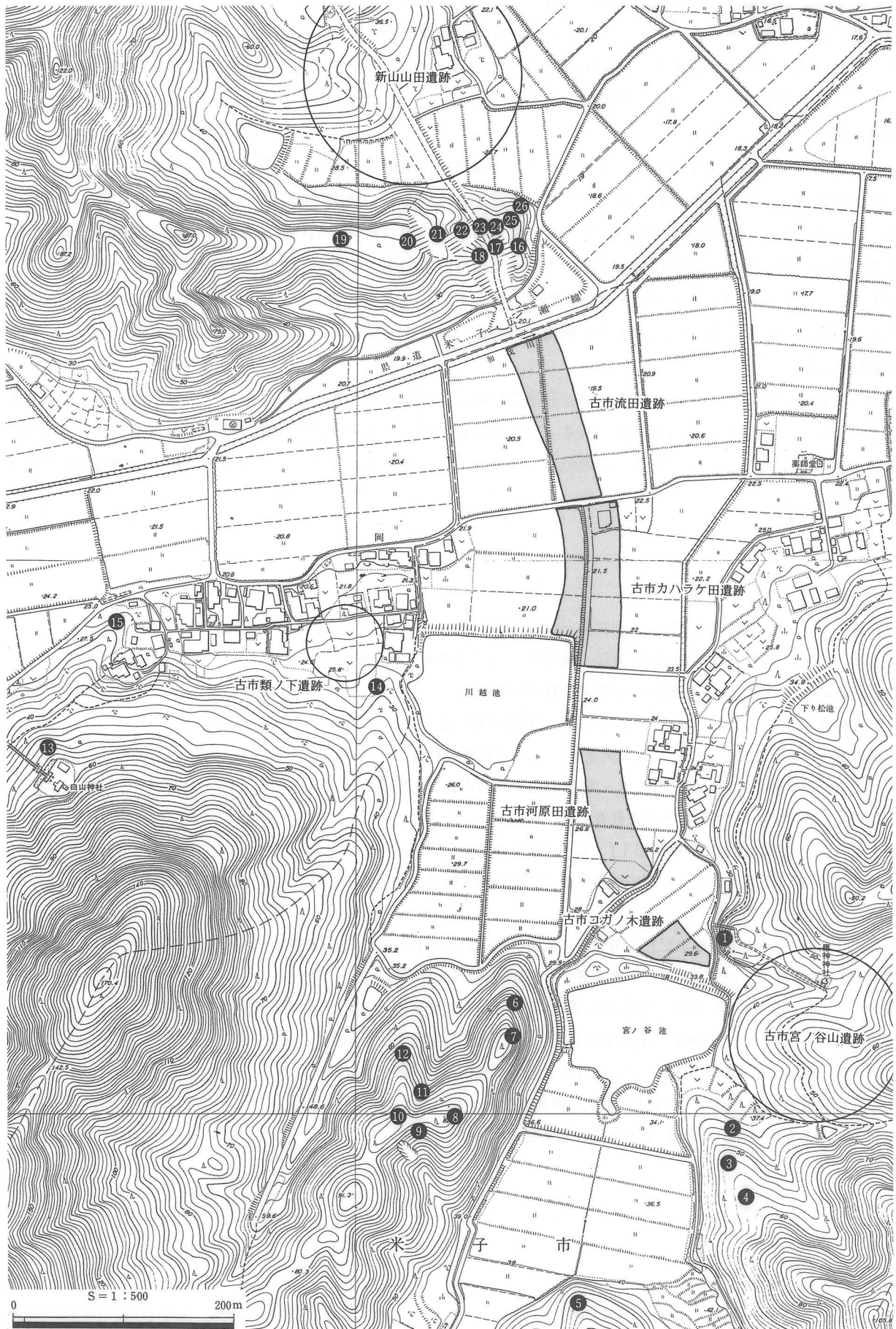
### 弥生時代

古市地内では古市河原田遺跡、新山地内では新山山田遺跡から前期中葉～後葉の土器が出土しており、縄文時代晩期から、ほぼ間断なく連続して生活の痕跡が認められる。また、古市流田遺跡の調査では、中期前葉の土器が自然流路などからまとまって出土している。しかし、これに続く中期中葉の土器は古市地内ではほとんど出土

1994『米子市埋蔵文化財地図』をもとに作成

No.	名称	種類	遺跡の概要
1	古市横穴墓	横穴	横穴状の落ち込み?
2	古市1号墳	円墳	
3	古市12号墳	円墳	
4	古市13号墳	円墳	横穴式石室・天井石露出
5	古市11号墳	円墳	
6	古市10号墳	円墳	
7	古市9号墳	円墳	
8	古市8号墳	前方後円墳	石棺材露出
9	古市7号墳	円墳	
10	古市6号墳	円墳	
11	古市5号墳	円墳	
12	古市4号墳	円墳	
13	新山23号墳	円墳	
14	新山24号墳	円墳	
15	新山岡横穴	横穴	1976『鳥取県米子市埋蔵文化財報告』I
16	新山1号墳	円墳	
17	新山13号墳	円墳	現況は楕円形を呈す
18	新山14号墳	円墳	現況は楕円形を呈す
19	新山2号墳（山田1号墳）	円墳	1994『萱原・奥陰田』
20	新山3号墳（山田2号墳）	円墳	1994『萱原・奥陰田』
21	新山4号墳（山田3号墳）	円墳	1994『萱原・奥陰田』
22	新山5号墳（山田4号墳）	円墳	1994『萱原・奥陰田』
23	新山6号墳（山田5号墳）	円墳	1994『萱原・奥陰田』
24	新山7号墳（山田6号墳）	円墳	1994『萱原・奥陰田』
25	新山8号墳（山田7号墳）	円墳	1994『萱原・奥陰田』
26	新山9号墳（山田8号墳）	円墳	1994『萱原・奥陰田』

表1 古市・新山遺跡群古墳一覧表



第3図 古市・新山遺跡群

## 第2章 位置と歴史的環境

していない。新山地内でも新山山田遺跡で数点レベルで出土しているに過ぎないようで、この時期、一時的な断絶が認められそうであるが、このことについては今後の調査に委ねたい。中期後葉になると再び土器が認められる。また後期になると、古市カハラケ田遺跡、古市流田遺跡では竪穴住居跡、掘立柱建物跡が検出されている。しかし、弥生時代を通じての集落規模は不明である。

### 古墳時代

古市地内では、古市河原田遺跡、古市カハラケ田遺跡で古墳時代を通じた遺物が出土している。また、古市カハラケ田遺跡では古墳時代中期の竪穴住居跡が確認されているし、新山地内の新山山田遺跡、新山研石山遺跡では古墳時代を通じた集落の存在が確認されている。古市地内では宮ノ谷池の西側丘陵上に前方後円墳1基を含む7基、東側丘陵に3基、北側丘陵に1基の古墳が築造されている。これらは古市地内に居を置く小集団のものと推測され、前方後円墳である古市8号墓を盟主とするものと考えられる。一方、新山地内の丘陵上にもいくつかの古墳群が認められ、新山地内の集落を形成した集団の単位を示唆している可能性も考えられる。

### 奈良時代以降

古市・新山周辺では、7世紀後半以降、官衙的色彩を帯びる遺跡が集中する。特にその傾向が顕著なのは、新山遺跡群の北に位置する陰田遺跡群である。古市遺跡群では、この時期の具体相が明らかではないが、第1節に概略を述べたように、古代山陰道の通過地点の候補地の一つである。また、これ以降の時代の遺物も古市地内で確認されている。(濱田)

### 参考文献

- 加藤義成 1957 『修訂 出雲国風土記参究』 今井書店
- 加納真人 1994 「新山地域の歴史」『萱原・奥陰田』 米子市教育文化事業団
- 北浦弘人ほか 1996 『陰田遺跡群』 鳥取県教育文化財団
- 小原貴樹ほか 1976 『鳥取県米子市埋蔵文化財発掘調査報告』 I 米子市教育委員会
- 小原貴樹・北浦弘人ほか 1986 『目久美遺跡』 米子市教育委員会
- 小原貴樹・杉谷愛象ほか 1998 『萱原・奥陰田Ⅱ』 米子市教育文化事業団
- 杉谷愛象ほか 1984 『陰田』 米子市教育委員会
- 1994 『萱原・奥陰田Ⅰ』 米子市教育文化事業団
- 中林 保 1971 「駅家を中心とした古代山陰道の歴史地理学的考察—特に、但馬、因幡、伯耆の三国について」  
『人文地理』23-1
- 中村太一 1989 「『出雲国風土記』に関する一考察—意宇郡を中心として—」『出雲古代史研究』2
- 中森 祥・濱田竜彦ほか 1999 『古市遺跡群1』 鳥取県教育文化財団
- 濱田竜彦・松林隆裕ほか 1997 『陰田第6遺跡 陰田宮の谷遺跡3区・4区』 米子市教育文化事業団
- 濱田竜彦・平木裕子ほか 1998 『目久美遺跡V・VI』 米子市教育文化事業団
- 日野尚志 1991 「伯耆国の駅屋について」『佐賀大学教育学部研究論文集』38-2-1
- 米子市教育委員会編 1994 『米子市埋蔵文化財地図』
- 米子市史編纂室編 1999 『新修 米子市史』第7巻

## 第3章 古市コガノ木遺跡の調査

### 第1節 調査の経過と方法

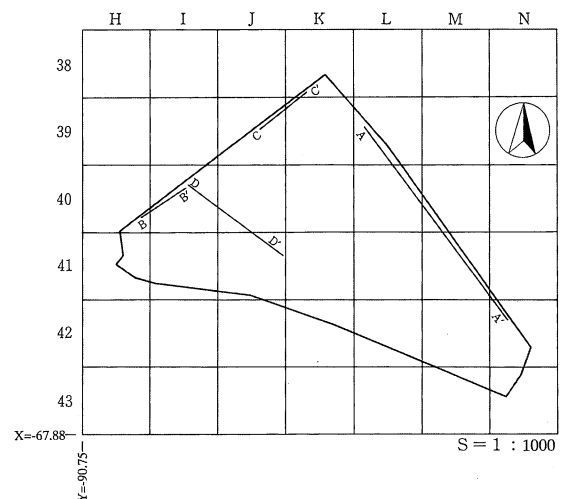
古市コガノ木遺跡は、米子市古市字コガノ木に所在する遺跡である。調査地は、東西南の三方を山に囲まれ、母塚山から派生する南東側丘陵の裾部に位置する。調査地の南西側には宮ノ谷池があり、東側には應神社が鎮座している。調査地内の標高は28.2m～29.4mであり、東から西へ緩やかに傾斜する。米子市教育委員会により事前の試掘調査が行われ、弥生時代～古墳時代の遺物、中世の遺構が確認されている。これらの遺構、遺物の検出状況から調査範囲が設定された。調査前の現況は田圃で、遺跡の一部は圃場整備に伴い掘削を受けている可能性が想定された。

現地調査は、平成10年10月に着手し、11月に終了した。調査面積は1,605m<sup>2</sup>である。重機により、表土の除去を行ったが、その際、隣接する溜め池の堤防からの水漏れを防ぐため、排水と土層観察を兼ねて調査区南側の境界に沿って幅約1.5m、深さ1mのトレンチを設定した。トレンチの南側壁面を観察した結果、表土の下に遺物包含層と、その下に浅いピット状の落ち込みを検出した。

重機による掘削終了後は、調査区内に南北軸に沿う10m画グリッドを設定した（第4図）。また、ベルトコンベアーによる排土処理の関係から、調査区の南東から順次調査を進めた。包含層に含まれる遺物の取り上げについては、グリッド毎に一括して取り上げたが、遺物の出土状況によってはトータルステーションと平板で出土状況を記録した。また、遺構や地形の測量はグリッド、トータルステーション、平板を併用して行った。

包含層の掘り下げは、調査区南側のサブトレンチによる壁面、北側壁面、北側のトレンチによる壁面、西側のトレンチの壁面を観察しながら行った。9層・10層上面で遺構を検出したが、予想以上に遺跡が削平されており、その数は少ない。なお、検出した遺構、遺物についてはそれぞれ写真撮影、実測を行い、記録にとどめた。

（濱田・吉田）



第4図 調査区グリッド配置図

### 第2節 調査区内の堆積について

土層断面の観察は、グリッドラインに沿って設定したトレンチ、および調査区内の壁面で行った。ここで図示した土層断面図（第5図）は調査時に基本層序としたものでA-A'は調査区北東の壁面で、北西-南東方向の堆積状況である。B-B'、C-C'は調査区北西に設定したトレンチ内の堆積状況であり、南西-北東方向の堆積状況とSX1（池状の落ち込み）との切り合い関係を示す。D-D'はSX1内に設定した北西-南東方向のトレンチ内の堆積状況である。以下、堆積について概略する。

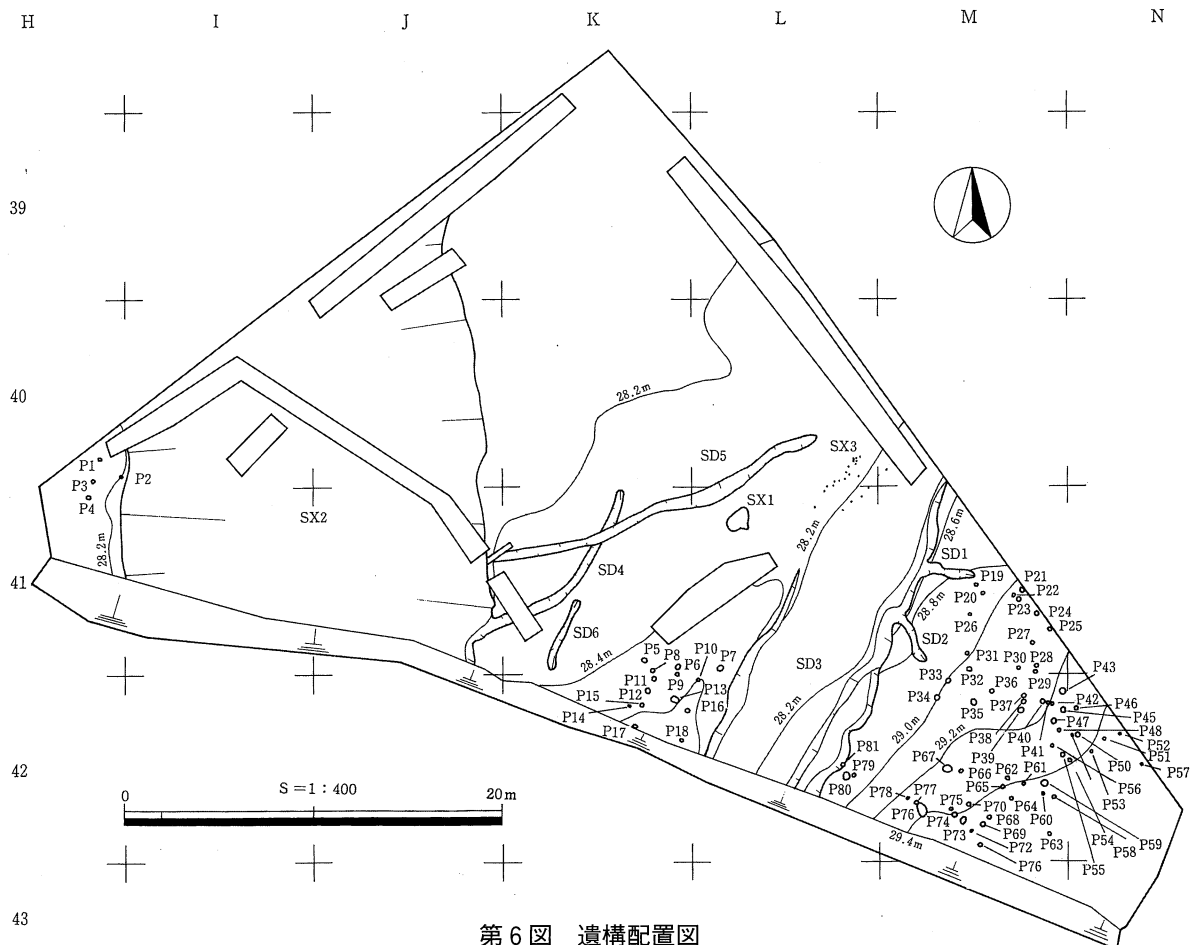
- 1層 表土
- 2層 黄灰色土
- 3層 褐色土（微細炭化物を少量含む）
- 4層 暗褐色土（1～5mm程度の白・黄色岩粒を多く含む）
- 5層 暗黄褐色土（1～5mm程度の白・黄色岩粒を多く含む）



第5図 調査区内の堆積

- 6層 暗灰色土（黄褐色土が混じり、1～5mm程度の白・黄色岩粒を多く含む）
- 7層 黄灰褐色土
- 8層 暗灰褐色土
- 9層 黄灰褐色砂
- 10層 暗灰色土（粘性が強い） SD3埋土
- 11層 黄褐色礫層
- 12層 黄褐色土
- 13層 黄灰色土（灰色ブロックを多く含み、粘性が強い）
- 14層 淡黄灰色土
- 15層 暗灰褐色土（黄褐色砂礫を含み、粘性が強い） SX1埋土
- 16層 黄褐色土（暗褐色礫が混じり、黒色岩粒を含む）
- 17層 黄灰色土（粘性がやや強い）
- 18層 淡灰色土
- 19層 暗灰色土
- 20層 淡青灰色礫層

9、12層上面で遺構を検出した。4層で中世の土鍋が出土していることから、これを中世の包含層と考え、SX1、杭列以外の遺構は中世またはそれ以前のものであることがわかる。一方、5～8層からは遺物がほとんど出土していない。4層やSX1埋土中に須恵器、弥生土器の小片が少量含まれていたが、これらの時期の遺物包含層、遺構面は認められなかった。2、4、8層の上面は圃場整備により上面を削平されている。なお、10層はSD3、15層はSX1の埋土である。（濱田・吉田）



第6図 遺構配置図



## 第3節 遺構と遺物

### 1. 概要

本調査区で検出した遺構は、ピット81基、溝状遺構6条、集石遺構、池状の落ち込み・杭列である（第6図）。9、12層上面で検出したピット、溝状遺構、集石遺構からは遺構の時期決定に有効な遺物が出土していないが、検出面を覆う4層に包含される遺物から、中世ないし、それ以前に形成されたものと推察する。池状の落ち込みからは近世の遺物が出土している。杭列も時期決定に有効な遺物が伴わないが、近世以降のものと思われる。以下、遺構と遺物、そして包含層から出土した遺物について報告する。

（吉田）

### 2. 遺構と遺物

#### 溝状遺構・自然流路

##### SD1（第7図）

調査区の東側、M41グリッドに位置する。東から西に延びる浅い溝であり、SD3につながる。検出できた遺構面は9層上面であり、検出規模は幅約0.5m、長さ約2.7m、深さ約0.2mを測る。埋土は暗褐色土である。9層は後世の土地造成により削平を受けていることから、本来は、さらに東に延びていたと考えられる。なお、遺物は出土していない。

（吉田）

##### SD2（第7図）

調査区の東側、M41グリッドに位置し、1m北側にはSD1がある。南から北に延びる浅い溝であり、SD3につながる。SD1とよく似ており、9層上面で検出した。埋土は黄灰褐色土である。検出規模は幅約0.5m、長さ約2.3m、深さ約0.4mを測る。SD1と同様、本来の形状は示しておらず、さらに南東方向に延びていたと考えられる。なお、遺物は出土していない。

（吉田）

##### SD3（第7図）

調査区やや東側、L41・42、M41グリッドに位置し、調査区を南東―北東方向に横断する形で検出した溝である。9層上面で検出した。遺構は後世の土地造成によりかなり削平を受けており、遺構の北西の掘り方は検出できなかった。検出規模は最大で幅約7.5m、長さ約18m、深さ約0.8mを測る。溝の底面の高低差から、流走方向は北から南方向と思われる。遺物は出土していない。

（吉田）

##### SD4（第8図）

調査区の中央よりやや南側、K41グリッドに位置する。12層上面で検出した。溝は緩やかな曲線を描いており、北側端は後世の土地造成により削平されている、南側端はSX2に切られている。さらにSD5にも切られている。検出規模は、最大幅約0.6m、最小幅約0.4mを測り、長さ約10m、深さ約0.1mである。埋土は、暗褐色土である。遺構底面の高低差はほとんどないが、やや北側端が低いため、流走方向は南から北方向と思われる。遺物は出土していない。

（吉田）

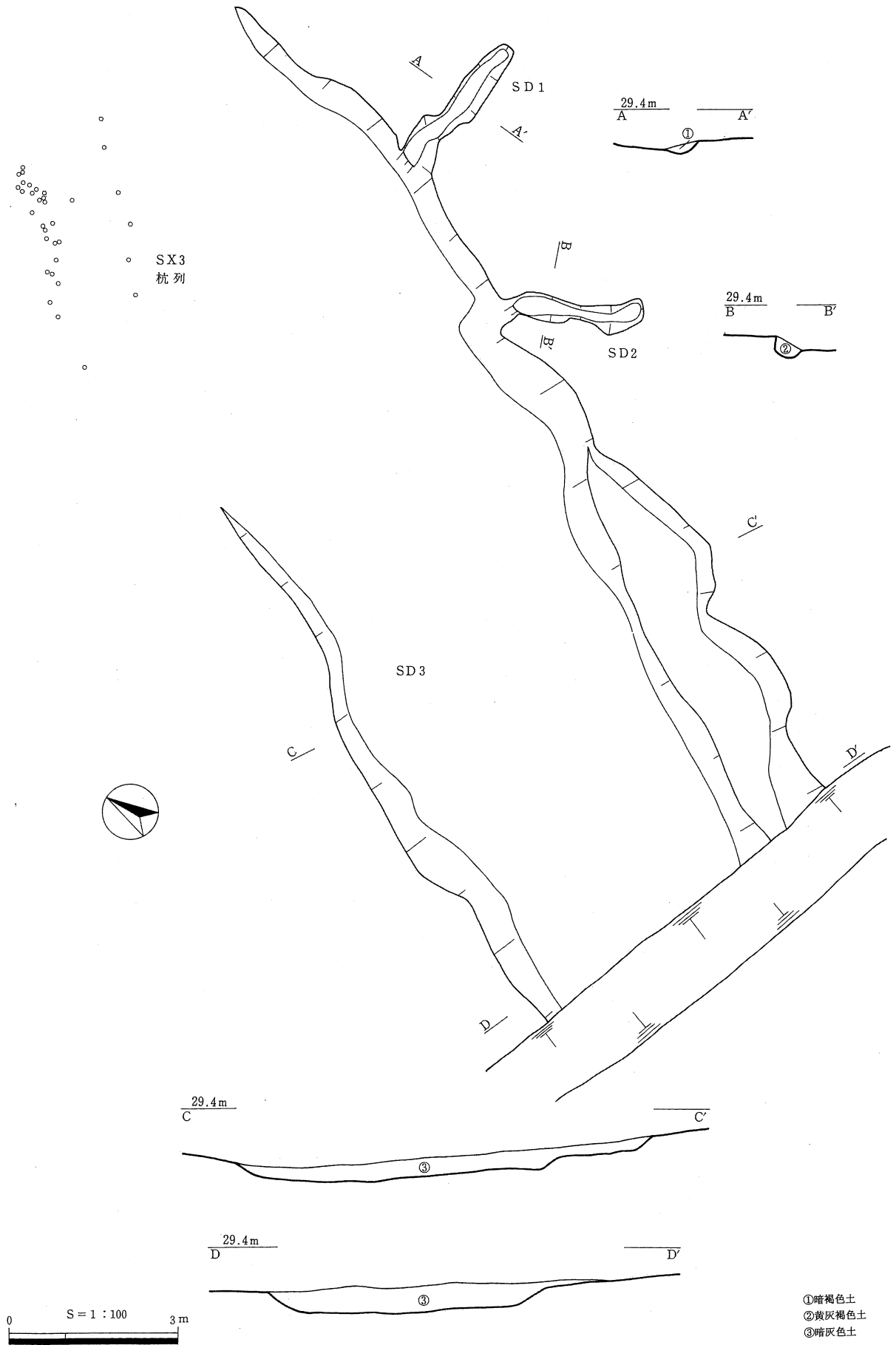
##### SD5（第8図）

調査区ほぼ中央、K41、L40・41グリッドに位置する。SD4と同様に12層上面で検出した。溝は直線的に南西―北東方向に延びており、東側端は後世の土地造成により削平を受けており、西側端はSX2に切られている。SD4を切っていることから、SD4より新しい時期であるといえる。検出規模は、最大幅約0.9m、最小幅約0.35m、長さ約18.5m、深さ約0.2mを測る。埋土は暗黄褐色土である。遺構の底面の高低差は東側端と西側端では0.21m東側が低い。流走方向は西から東方向と思われる。遺物は出土していない。

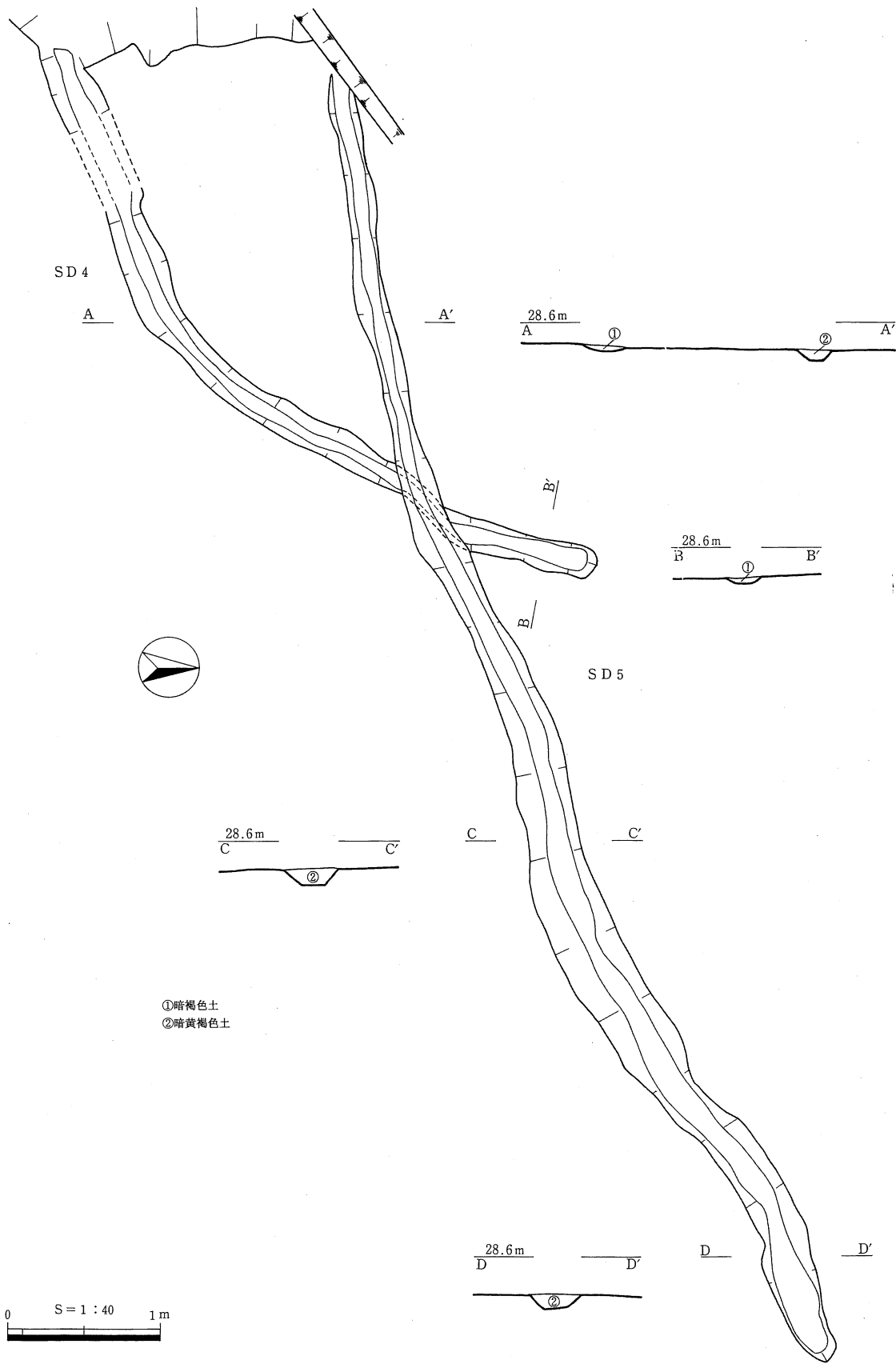
（吉田）

##### SD6（第9図）

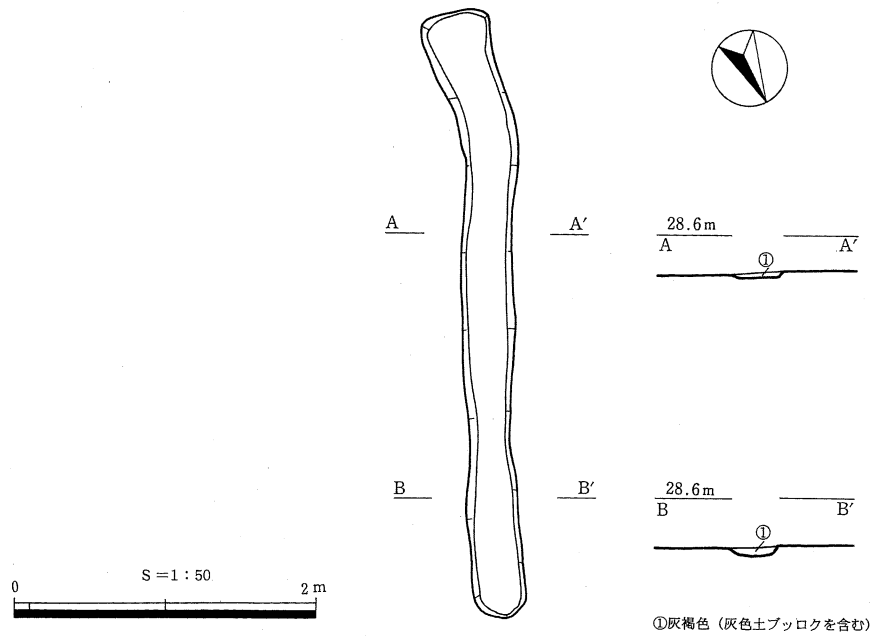
調査区の南端、K41グリッドに位置する。SD4・5と同様に12層上面で検出した。溝は直線状に北―南方向に延びている。検出規模は、幅約0.35m、長さ約4.1m、深さ約0.1mを測る。後世の土地造成により削平を受け



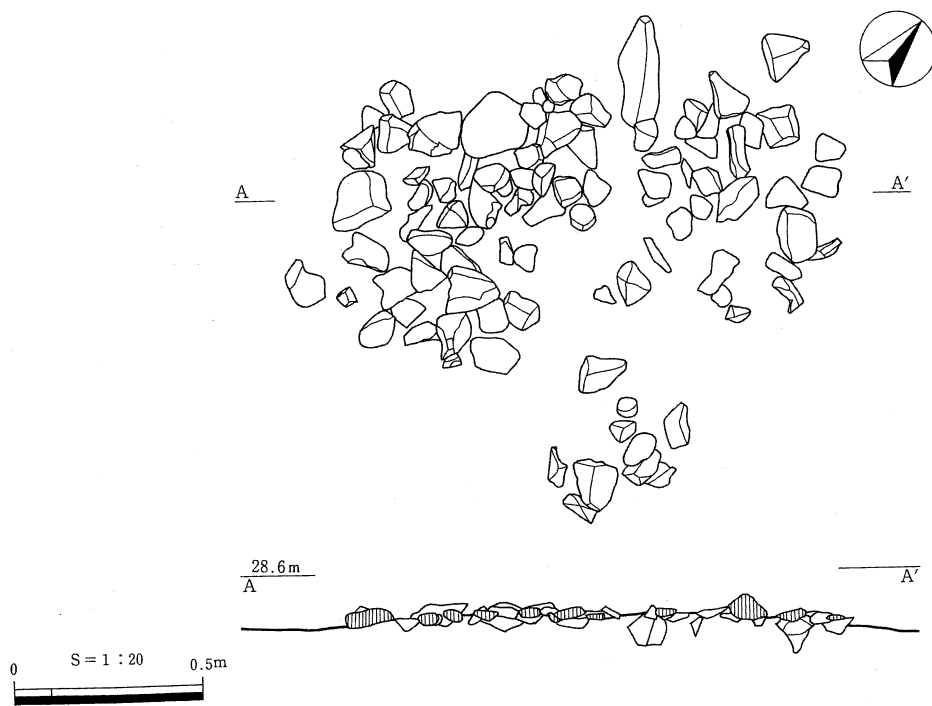
第7図 SD1・SD2・SD3



第8図 SD4・SD5



第9図 SD 6



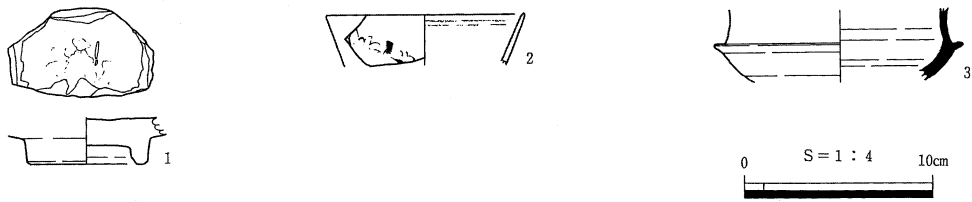
第10図 SX 1

ており、当時の形状を留めていない。埋土は灰色土を含んだ黄褐色土であり、遺構底面の高低差はほとんどないため流走方向は不明である。なお、遺物は出土していない。(吉田)

集石遺構・池状の落ち込み・杭列

S X 1 (第10図)

調査区のほぼ中央、L41グリッドに位置する集石遺構である。12層上面で、直径0.1~0.2mの礫を集中して検



第11図 SX1出土遺物

出した。石の配置に規則性はなく、集石の周囲には炭化物などの痕跡は見られなかった。遺物も伴っておらず、遺構の性格は不明である。(吉田)

SX2 (第6図)

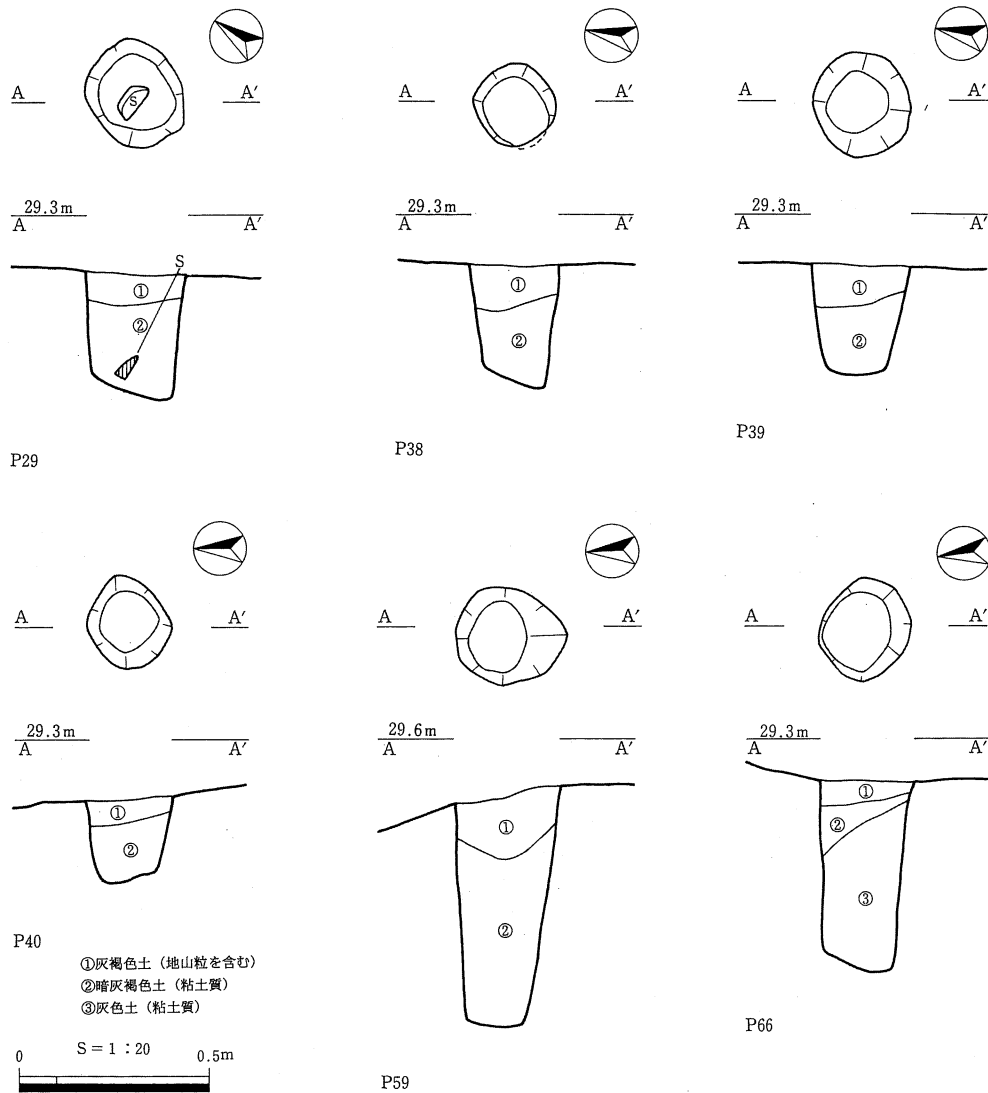
調査区の西側、I40・41、J39・40・41グリッドに位置する池状の落ち込みである。遺構の範囲は調査区外に延び、さらに南北に広がっていくと考えられる。表土を剥いだ16層上面で検出した。埋土は黄褐色砂礫を含み、粘性が強い暗灰褐色土である。検出規模は、長軸約18m以上、短軸約19m、最大深約1mを測る。埋土中からは、15世紀代の龍泉窯の青磁碗(第11図1)、18世紀代の磁器碗(2)、6世紀中葉の須恵器坏身(3)などが出土しており、近世の遺構であると思われる。(吉田)

SX3 (7図)

調査区の中央やや西側、L40・41、M40グリッドに位置する杭列である。杭は34本あり、先端が折れた状況で検出した。折れた杭の先端は、ほぼ標高28.5mで、1層と8層の境界付近であり、おそらく圃場整備により削平を受けて折れたものと思われる。12層は土地造成による削平を受けていることからすると、杭は土地を造成した後、打ち込まれたものである。このことからして、杭列は他の遺構に伴うものではなく、SX2を除いた他の

遺構名	グリッド	長径(m)	短径(m)	深さ(m)	土色
P 1	H 4 0	0.25	0.21	0.17	淡褐色土
P 2	H 4 0	0.22	0.2	0.1	淡褐色土
P 3	H 4 0	0.17	0.15	0.21	淡褐色土
P 4	H 4 1	0.14	0.14	0.1	淡褐色土
P 5	K 4 1	0.31	0.3	0.09	暗褐色土
P 6	K 4 1	0.32	0.28	0.11	暗褐色土
P 7	L 4 1	0.35	0.35	0.28	暗褐色土
P 8	K 4 1	0.19	0.16	0.05	暗褐色土
P 9	K 4 2	0.21	0.19	0.16	暗褐色土
P 10	L 4 2	0.16	0.15	0.09	暗褐色土
P 11	K 4 2	0.22	0.2	0.13	暗褐色土
P 12	K 4 2	0.36	0.36	0.08	暗褐色土
P 13	K 4 2	0.34	0.28	0.12	暗褐色土
P 14	K 4 2	0.16	0.16	0.15	暗褐色土
P 15	K 4 2	0.21	0.18	0.24	暗褐色土
P 16	K 4 2	0.25	0.23	0.24	暗褐色土
P 17	K 4 2	0.19	0.18	0.15	暗褐色土
P 18	K 4 2	0.16	0.16	0.17	暗褐色土
P 19	M 4 1	0.16	0.12	0.04	暗褐色土
P 20	M 4 1	0.22	0.2	0.1	暗褐色土
P 21	M 4 1	0.28	0.24	0.15	暗褐色土
P 22	M 4 1	0.24	0.23	0.13	暗褐色土
P 23	M 4 1	0.26	0.21	0.37	暗褐色土
P 24	M 4 1	0.25	0.24	0.29	暗褐色土
P 25	M 4 1	0.27	(0.15)	0.33	暗褐色土
P 26	M 4 1	0.17	0.12	0.07	暗褐色土
P 27	M 4 1	0.2	0.16	0.21	暗褐色土
P 28	M 4 1	0.23	0.23	0.16	暗褐色土
P 29	M 4 1	0.28	0.25	0.33	別項
P 30	M 4 1	0.19	0.17	0.17	暗褐色土
P 31	M 4 1	0.25	0.17	0.44	暗褐色土
P 32	M 4 1	0.25	0.22	0.2	暗褐色土
P 33	M 4 2	0.25	0.24	0.1	暗褐色土
P 34	M 4 2	0.35	0.25	0.33	暗褐色土
P 35	M 4 2	0.33	0.24	0.19	暗褐色土
P 36	M 4 2	0.26	0.2	0.18	暗褐色土
P 37	M 4 2	0.23	0.23	0.31	別項
P 38	M 4 2	0.2	0.2	0.31	別項
P 39	M 4 2	0.26	0.26	0.31	別項
P 40	M 4 2	0.25	0.22	0.23	別項
P 41	M 4 2	0.19	0.17	0.22	暗褐色土
P 42	M 4 2	0.2	0.2	0.15	暗褐色土
P 43	M 4 2	0.32	0.32	0.25	暗褐色土
P 44	N 4 2	0.14	(0.11)	0.09	暗褐色土
P 45	M 4 2	0.3	0.3	0.23	暗褐色土
P 46	N 4 2	0.2	0.16	0.19	暗褐色土
P 47	M 4 2	0.26	0.24	0.17	暗褐色土
P 48	M 4 2	0.19	0.16	0.25	暗褐色土
P 49	N 4 2	0.13	0.12	0.12	暗褐色土
P 50	N 4 2	0.27	0.26	0.29	暗褐色土
P 51	N 4 2	0.14	0.1	0.08	暗褐色土
P 52	N 4 2	0.2	0.16	0.15	暗褐色土
P 53	N 4 2	0.14	0.12	0.03	暗褐色土
P 54	N 4 2	0.19	0.18	0.09	暗褐色土
P 55	M 4 2	0.21	0.17	0.11	暗褐色土
P 56	M 4 2	0.23	0.2	0.06	暗褐色土
P 57	N 4 2	0.18	0.15	0.03	暗褐色土
P 58	M 4 2	0.16	0.12	0.04	暗褐色土
P 59	M 4 2	0.25	0.21	0.2	別項
P 60	M 4 2	0.17	0.16	0.13	暗褐色土
P 61	M 4 2	0.23	0.22	0.11	暗褐色土
P 62	M 4 2	0.34	0.25	0.39	灰色土
P 63	M 4 2	0.13	0.11	0.08	暗褐色土
P 64	M 4 2	0.25	0.17	0.2	暗褐色土
P 65	M 4 2	0.25	0.2	0.17	暗褐色土
P 66	M 4 2	0.27	0.23	0.52	別項
P 67	M 4 2	0.59	0.42	0.04	暗褐色土
P 68	M 4 2	0.21	0.2	0.16	暗褐色土
P 69	M 4 2	0.26	0.24	0.27	暗褐色土
P 70	M 4 2	0.35	0.17	0.08	暗褐色土
P 71	M 4 2	0.24	0.23	0.1	暗褐色土
P 72	M 4 2	0.16	0.14	0.06	暗褐色土
P 73	M 4 2	0.35	0.31	0.1	暗褐色土
P 74	M 4 2	0.28	0.25	0.4	暗褐色土
P 75	M 4 2	0.25	0.21	0.22	暗褐色土
P 76	M 4 2	0.76	0.48	0.13	暗褐色土
P 77	M 4 2	0.33	0.22	0.32	暗褐色土
P 78	M 4 2	0.22	0.18	0.16	暗褐色土
P 79	L 4 2	0.23	0.18	0.18	暗褐色土
P 80	L 4 2	0.41	0.31	0.24	暗褐色土
P 81	L 4 2	0.27	0.25	0.37	暗灰色土

表2 古市コガノ木遺跡ピット一覧表



第12図 P 29・P 38～40・P 59・P 66

遺構より新しい時期のものであるといえる。

(吉田)

ピット群

ピット群1 (P1～P4・第6図)

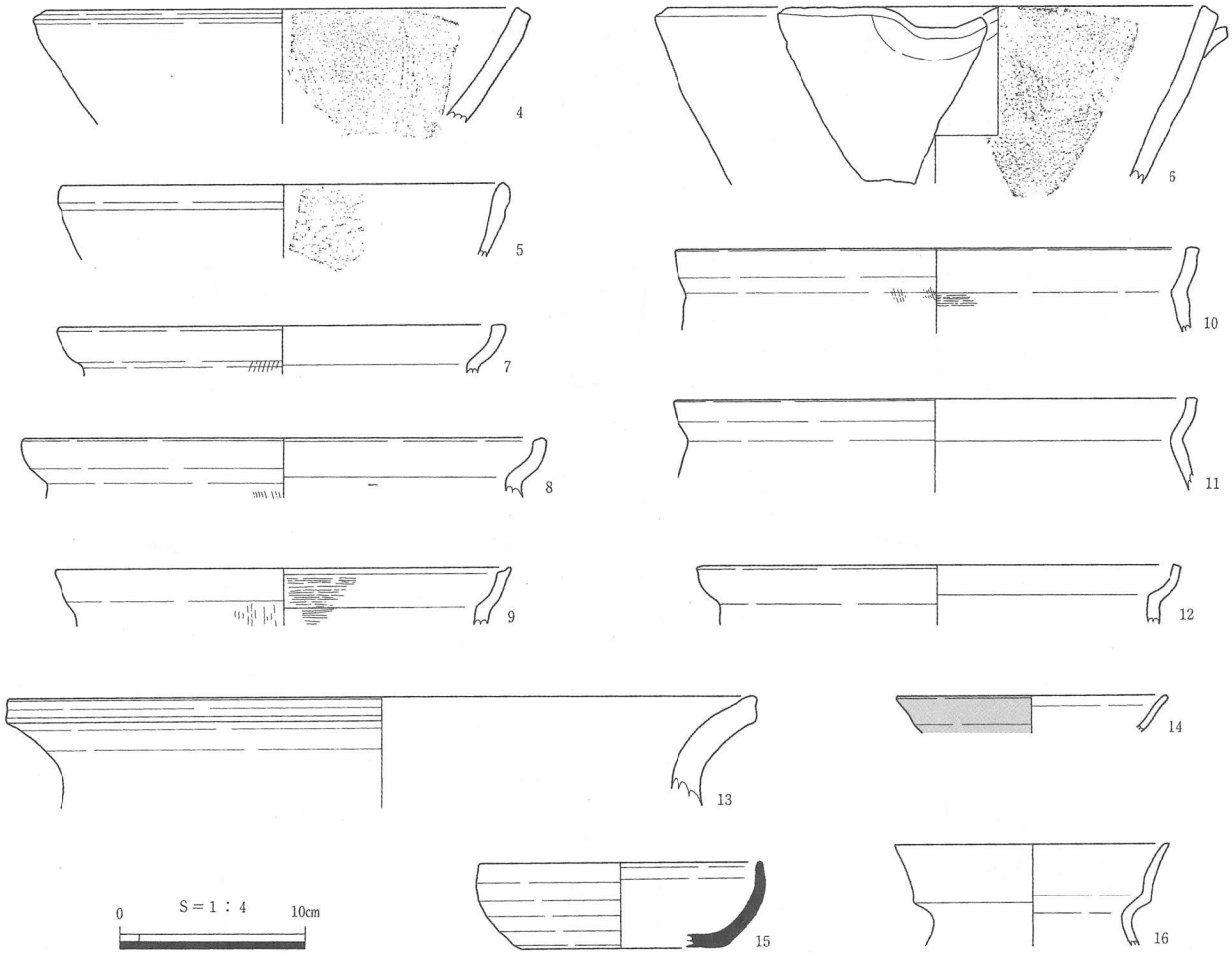
調査区の西側、H40・41グリッドで検出したピット群である。16層上面で検出した。4基ともに柱痕跡は見られず、ピットの並びも確認できなかった。埋土は淡褐色土である。16層は後世の土地造成による削平を受けており、ピットの上部は本来の形状を留めていない。なお、ピット内から遺物は出土していない。(吉田)

ピット群2 (P5～P18・第6図)

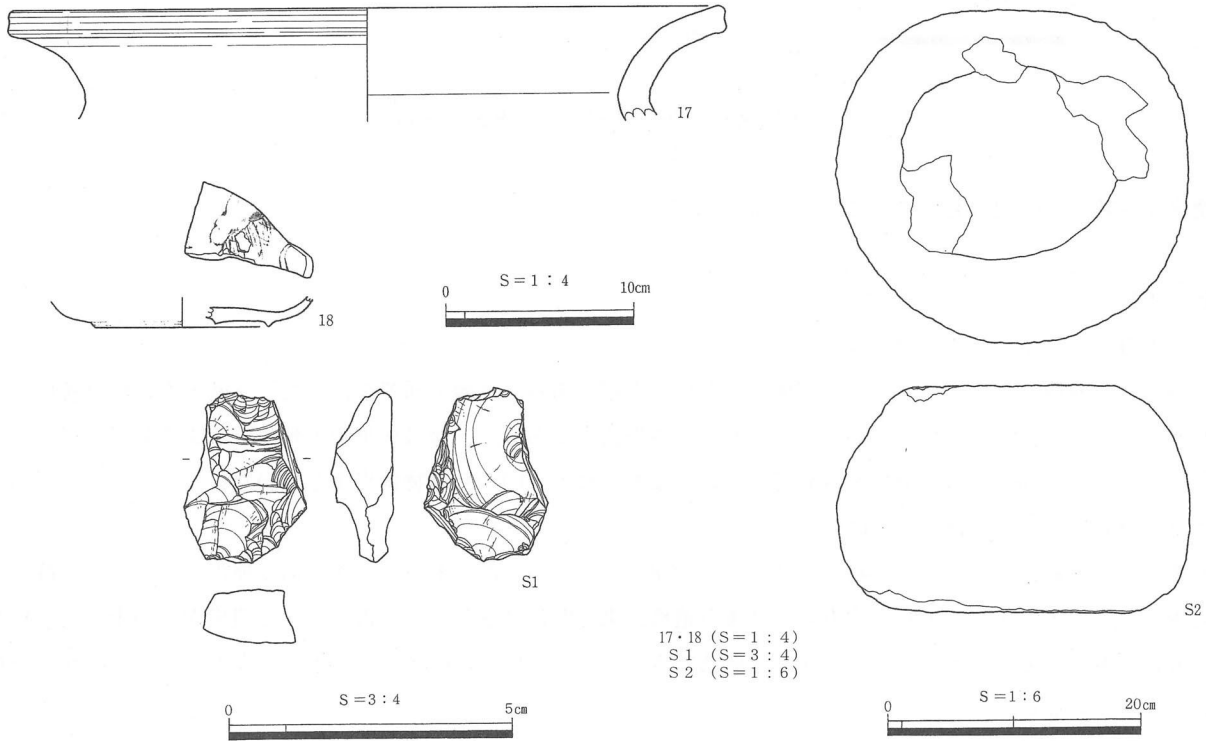
調査区の南側、K41・42、L41・42グリッドで検出したピット群である。12層上面で検出した。ピット群2の北西方向にはSD4・5・6、北方向には集石遺構、東方向にはSD3が位置し、同じ遺構面で検出した。14基ともに柱痕跡は見られず、ピットの並びも確認できなかった。埋土は暗褐色土である。なお、ピット内から遺物は出土していない。(吉田)

ピット群3 (P19～P81・第6図)

調査区の南東側、L42、M41・42、N42グリッドで検出したピット群である。9層上面で検出した。ピット群



第13図 4層出土遺物



17・18 (S=1:4)  
 S1 (S=3:4)  
 S2 (S=1:6)

第14図 3層出土遺物

3の西方向にはSD1・2・3が位置する。63基ともに柱痕跡は見られず、ピットの並びも確認できなかった。P29・38～40・59・66の埋土は2～3層に分層できた(第12図)。P62は灰色土であり、その他は暗褐色土である。なお、ピット内から遺物は出土していない。(吉田)

### 3. 包含層出土の遺物

包含層からは、中世の瓦質土器を中心に、土師器・須恵器・磁器・石器などが出土している。以下、層位別に報告する。

#### 4層(第13図)

第13図4～13は中世の瓦質土器である。4・6は播鉢、5は鉢、7～12は鍋、13は甕である。鍋は14世紀後半～15世紀前半のものと思われる。それ以外のものについては時期が判然としないが、鍋は時期的にまとまっており、概ね、同じような時期のものではないかと思われる。14は土師器の皿で、外面は赤色塗彩されている。9～10世紀のものであろう。15は須恵器の坏身で、8世紀代のものである。16は古墳時代前期の土師器の壺である。

#### 3層(第14図)

第14図17・18・S1は3層、S2は表採品である。17は瓦質の甕である。第13図13と同一個体の可能性あり。18は18世紀代の磁器で皿である。S1は黒曜石製の楔形石器、S2は五輪塔の水輪である。

(濱田)

## 第4節 まとめ

古市コガノ木遺跡では、溝状遺構、自然流路、集積遺構、池状の落ち込み、杭列などを検出した。時期がはっきりとわかる遺構は少ないが、概ね、中・近世のものと思われる。調査区の西側にはピットが集中するが、掘立柱建物跡のように規則的な並びが確認できるものはない。ここでは、今回の調査で得た以下のことを取り上げ、調査のまとめとしたい。

まず、中世の瓦質土器である。量的には少ないが、鍋を主体に、播鉢、鉢、甕が出土している。もっともまとまる鍋についてみるなら、形式的な差は各個体にあまり認められない。鍋はいずれも受け口状の口縁をもつもので、焼成は比較的良好であるが軟質に近い。内外面の調整にハケメを残すものも認められる(第13図9・10)。受け口の形態はいずれもあまい。八峠興氏による山陰地方の中世土器編年案によるなら<sup>1)</sup>、鳥取中世IV期～V期の中に収まる。鍋の形態的特徴、特に受け口の形態を重視するなら、鳥取中世IV期・V期に提示されている土器の中間的様相をもっているように思われることから、14世紀後半～15世紀前半に位置づけられるだろう。しかし、県内におけるこの時期の一括資料は不足しており、実態は不明である。また、甕については、県内では類例が少なく、時間的位置づけが難しいが、この類の甕は14世紀前半には少ないようであり、概ね、鍋類と同じような時期のものと考えられる<sup>2)</sup>。

また、赤色塗彩された土師器の皿が1点出土している。9～10世紀のものと思われるが、古市コガノ木遺跡の南東側における、この時期の遺跡の存在を示唆しているものと考えられる。(濱田・濱・吉田)

註1) 八峠 興 1998 「山陰地方における中世土器の変遷について—供膳具・煮炊具を中心として—」『中近世土器の基礎研究』XIII 日本中近世土器研究会

2) 八峠興氏のご教示による。



### 土器観察表

1. 法量については、反転復元による推定値は ( ) で示した。
2. 土器・土製品の色調については、『新版 標準土色帖』を参考にした。

遺物 番号	挿図	地区 遺構	器種	時期	法量 (cm)	特徴	調整		色調	胎土 焼成	備考	
							外面	内面				
1	11	SX1	碗 底部	15c	底径(5.9)	青磁、内面見込みに花文のスタンプ	釉は畳付を越えて高台内にまわるが内面途中で止まり、底部外面は露胎のまま。	施釉	オリーブ灰	緻密 良好	胎土は灰色	
2	11	SX1	碗	18c	口径(10.5)	磁器・染付、口縁部内面に2条の圈線		施釉	-	緻密 良好	胎土は灰白色	
3	11	SX1	坏身	6c	受部径 (13.2)	須恵器、受部は短い		回転ヨコナデ	回転ヨコナデ	青灰色	密 良好	
4	13	L41	擂鉢	14~ 15c	口径(25.0)	瓦質土器、内面に一単位2~3条の卸目		ナデ	調整不明	灰白色	密 良好	6と同一個体の可能性あり
5	13	N42	鉢	14~ 15c	口径(23.5)	瓦質土器、口縁部に玉縁状の肥厚		ナデ	口縁部ナデ、頸部ヘラケズリ	にぶい黄橙色	密 良好	0.1~1mm内外の砂粒を含む
6	13	L41	擂鉢	14~ 15c	口径(30.5)	瓦質土器、片口が付く、内面に14条のオロシ目		ナデ	調整不明	灰白色	やや粗 良好	4と同一個体の可能性あり
7	13	L41	鍋	14~ 15c	口径(23.8)	瓦質土器、口縁部の屈曲が甘い		口縁部ヨコナデ、頸部ハケメ	ヨコナデ	外)にぶい黄橙色 内)灰白色	密 良好	
8	13	M42	鍋	14~ 15c	口径(28.1)	瓦質土器、口縁部の屈曲が甘い		口縁部ナデ、頸部ハケメ→ナデ	口縁部ゆるい面とり、口縁部ヨコナデ	にぶい黄橙色	密 良好	外面全面にスス付着
9	13	M42	鍋	14~ 15c	口径(24.2)	瓦質土器、口縁部の屈曲が甘い		口縁部ナデ、頸部タテハケ	口縁部ヨコナデ、頸部ヨコナデ、頸部ヨコハケ	外)にぶい黄橙色 内)淡黄色	密 良好	
10	13	M42	鍋	14~ 15c	口径(26.5)	瓦質土器、口縁部の屈曲が甘い		口縁部ナデ、頸部タテハケ後ヨコナデ	口縁部ヨコナデ、頸部ヨコハケ→ヨコナデ	浅黄橙色	密 良好	0.5mm内外の砂粒を含む
11	13	L40	鍋	14~ 15c	口径(30.0)	瓦質土器、口縁部の屈曲が甘い		口縁部端面とり、口縁以下ヨコナデ	ヨコナデ	外)にぶい黄橙色 内)灰白色	密 良好	外面部分的にスス付着
12	13	L40	鍋	14~ 15c	口径(25.0)	瓦質土器、口縁部の屈曲が甘い		口縁部端面とり、口縁以下ナデ	ナデ	にぶい黄橙色	密 良好	0.5~1mm内外の砂粒を含む
13	13	1区	甕	14~ 15c	口径(37.2)	瓦質土器、口縁端部に1条の凹線		格子目タタキ→ヨコナデ	ヘラケズリ→ヨコナデ	外)灰色 内)灰白色	密 良好	17と同一個体の可能性あり
14	13	M41	皿	9~ 10c?	口径(14.3)	外面部分的に赤色顔料		ヨコナデ	ヨコナデ	淡黄色	密 良好	
15	13	L42	坏	8c	口径(14.8)	須恵器、口縁部は内湾気味に立ち上がる		回転ヨコナデ、底部回転糸切り	体部回転ナデ、底部多方向ナデ	灰色	密 良好	
16	13	L41	壺	古墳 前期	口径(14.5)	複合口縁		口縁部ヨコナデ	口縁部ヨコナデ	外)にぶい黄橙色 内)浅黄橙色	密 良好	
17	14	L42	甕	14~ 15c	口径(39.6)	瓦質土器、口縁端部に1条の凹線		タタキ→ヨコナデ	ヨコナデ	灰色	密 良好	13と同一個体の可能性あり
18	14	1区	皿	18c	底径(9.2)	磁器・染付、蛇の目凹型高台、体部3条の圈線		施釉	施釉	-	緻密 良好	

表3 古市コガノ木遺跡土器観察表

## 第4章 古市流田遺跡の調査

### 第1節 歴史的環境からみた調査の課題

古市流田遺跡の調査を実施するにあたり、遺跡の位置および歴史的環境を考慮し、以下の点を明らかにすべく調査の課題を設定し、調査を行うことにした。

#### ① 水田遺構の確認

当遺跡は加茂川によって形成された小平野に位置し、さらに遺跡周辺におけるこれまでの調査では縄文～弥生への移行期の遺物が出土している。また、加茂川両岸で弥生時代以降、断続的に集落が営まれている。各時期の集落に伴う水田が、この小平野に営まれているものと推測され、加茂川右岸に立地する当遺跡の調査で水田跡が検出される可能性がある。

#### ② 古代山陰道の確認

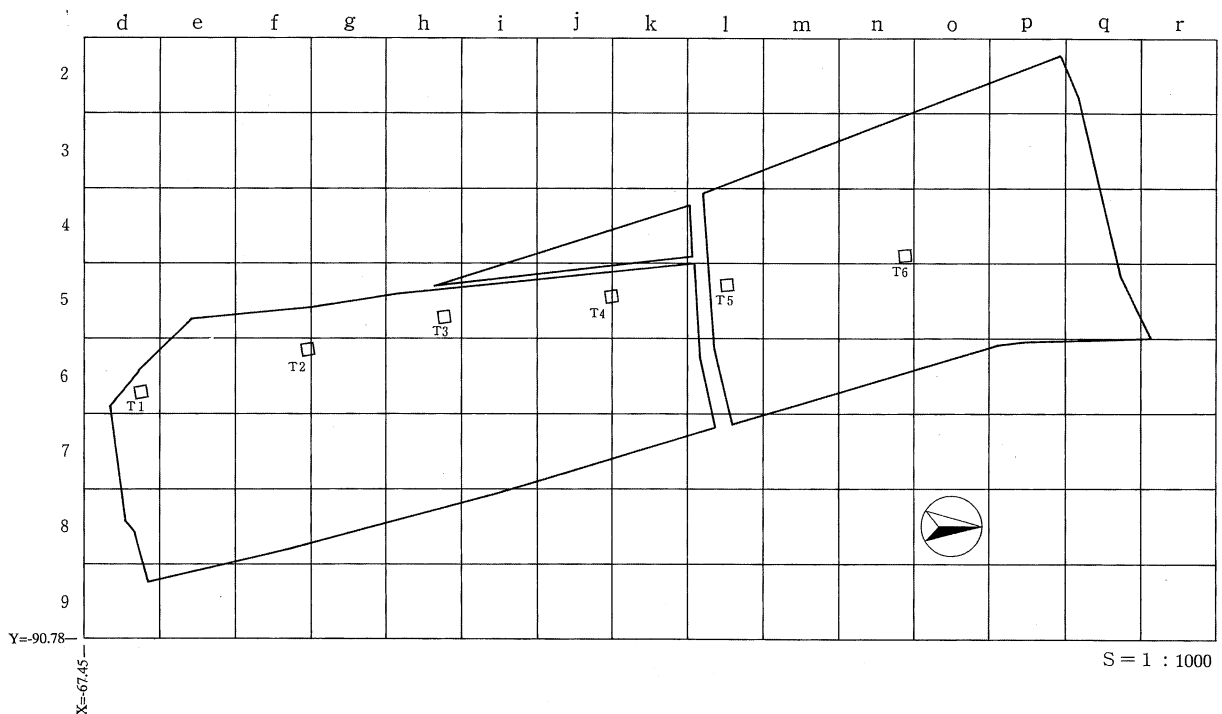
当遺跡の立地する小平野は、古代山陰道の通過推定地の一つである。今回の調査地点は加茂川右岸を南北に横断する形で調査区が設定されており、古代山陰道の有無を確認できる可能性がある。

#### ③ 弥生時代～古墳時代の集落の広がり

古市カハラケ田遺跡との連続性から、弥生時代後期～古墳時代後期段階の集落の広がりを確認する。また、古市河原田遺跡、古市カハラケ田遺跡で弥生時代前期の遺構が確認されていることから、弥生時代後期以前の遺構が検出される可能性がある。  
(濱田)

### 第2節 調査の経過と方法

現地調査は平成10年4月に着手し、10月に終了した。調査面積は8,514m<sup>2</sup>である。調査地は平成10年度に調査を実施した古市カハラケ田遺跡のすぐ北側に位置し(第3図)、標高は約19m～17mで南から北へ緩やかに傾斜



第15図 調査区グリッド配置図

している。調査地は米子市教育委員会により試掘調査が行われており、遺構、遺物の検出状況から調査範囲が決められた<sup>1)</sup>。

調査地には4面の田圃が造成されており、仮に南から1・2・3・4区とした。排土処理の関係から、最初に1・2区の調査を行い、終了後、3・4区の調査に着手した。試掘調査の結果を受け、重機で表土を除去した後、10m画の方眼測量を行い、南北軸は南から数字、東西軸を西からアルファベットを付け、北東隅の杭でグリッドを表記した(第15図)。

まず、表土および水田耕作土を重機で剥ぎ取り、試掘調査の結果を参考にしながら3層まで掘削した。その後、鍬、片手鍬、移植ごてを使用し、遺物の出土状況を確認しながら、遺構面を覆う堆積(4層)を掘り下げた。

調査の結果、1区の一部と2区では2面の遺構面が遺存していたが、1区の一部と3・4区は圃場整備による削平をかなり受けており、地山上での遺構検出となった。検出した遺構の実測、遺物の実測・取り上げには、グリッド・平板・トータル・ステーションを用いた。また、調査前、調査後にクレーン車による空中高所写真撮影を行った。(濱田)

註1) 下高瑞哉 1998 『米子市内遺跡発掘調査報告書』 米子市教育委員会

### 第3節 調査区内の堆積

調査区内を通して堆積状況が観察できなかったため、調査時には必要に応じてグリッドラインにそった土層観察用のベルトを残しながら掘り下げを進めていった。第17図は、第15図に位置を示した試掘調査時のトレンチで観察された堆積状況を柱状図で示したものである。各堆積の概要は以下のとおりである。

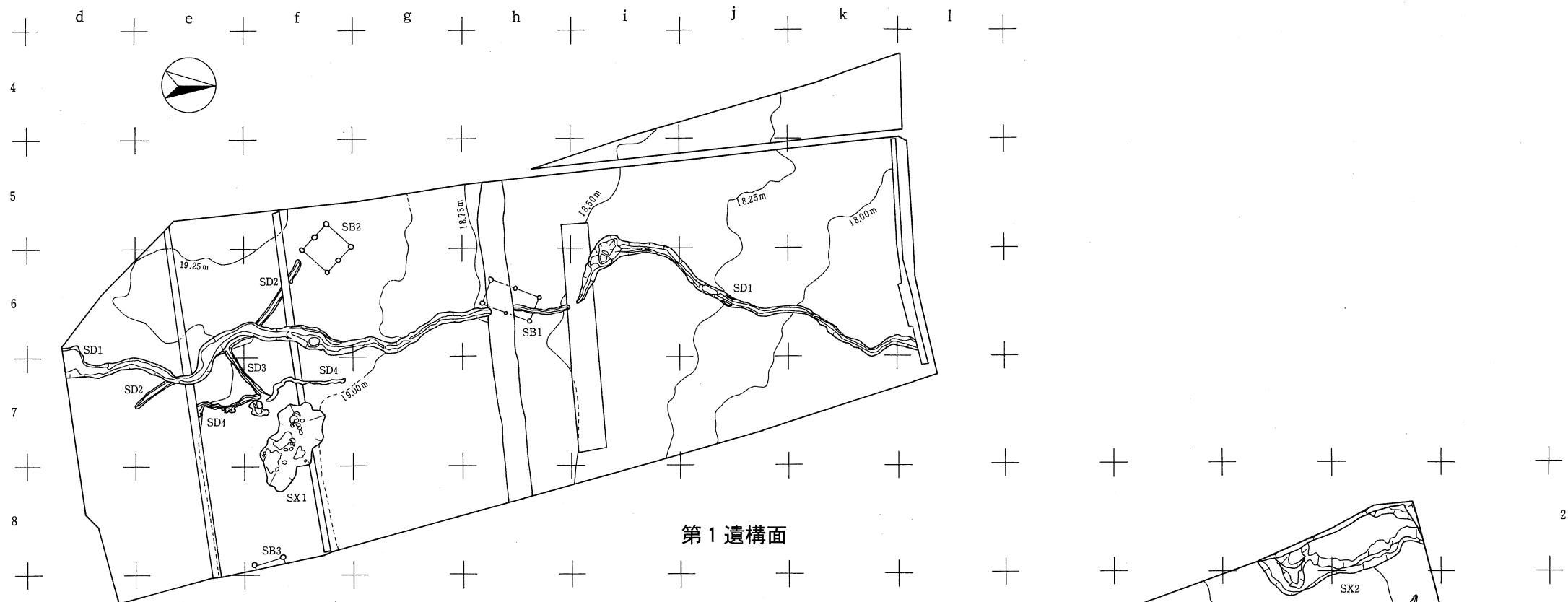
- 1層 表土
- 2層 水田床土
- 3層 圃場整備に伴う堆積(近現代の遺物を包含)
- 4層 灰色土(弥生土器、土師器、須恵器、陶磁器を包含)
- 5層 暗灰褐色土(弥生土器、土師器、須恵器を包含)
- 6層 暗褐色土(縄文土器、弥生土器、土師器を包含)
- 地山 黄白色土

調査地は、南から北へ緩やかに傾斜しており、圃場整備のさい、削平を受けていない箇所については、ほぼ同じような厚さで各層が堆積していた。4層は近世の堆積であるが、かなり削平されており、1～3区で部分的に確認できたにすぎない。5層からは弥生土器、土師器、須恵器が出土している。須恵器には9～10世紀に比定されるものが含まれている。5層除去後、6層上面で第1遺構面を検出した。6層からは弥生時代後期～古墳時代前期初頭を主体とする土器が出土している。6層除去後、地山面で第2遺構面を検出した。ここで地山としたものは基盤層とは異なる。しかし、重機で一部を深掘りした結果、これ以下で一部砂層が確認できたものの、いずれも無遺物包含層であり、地山として捉えることにした。(濱田)

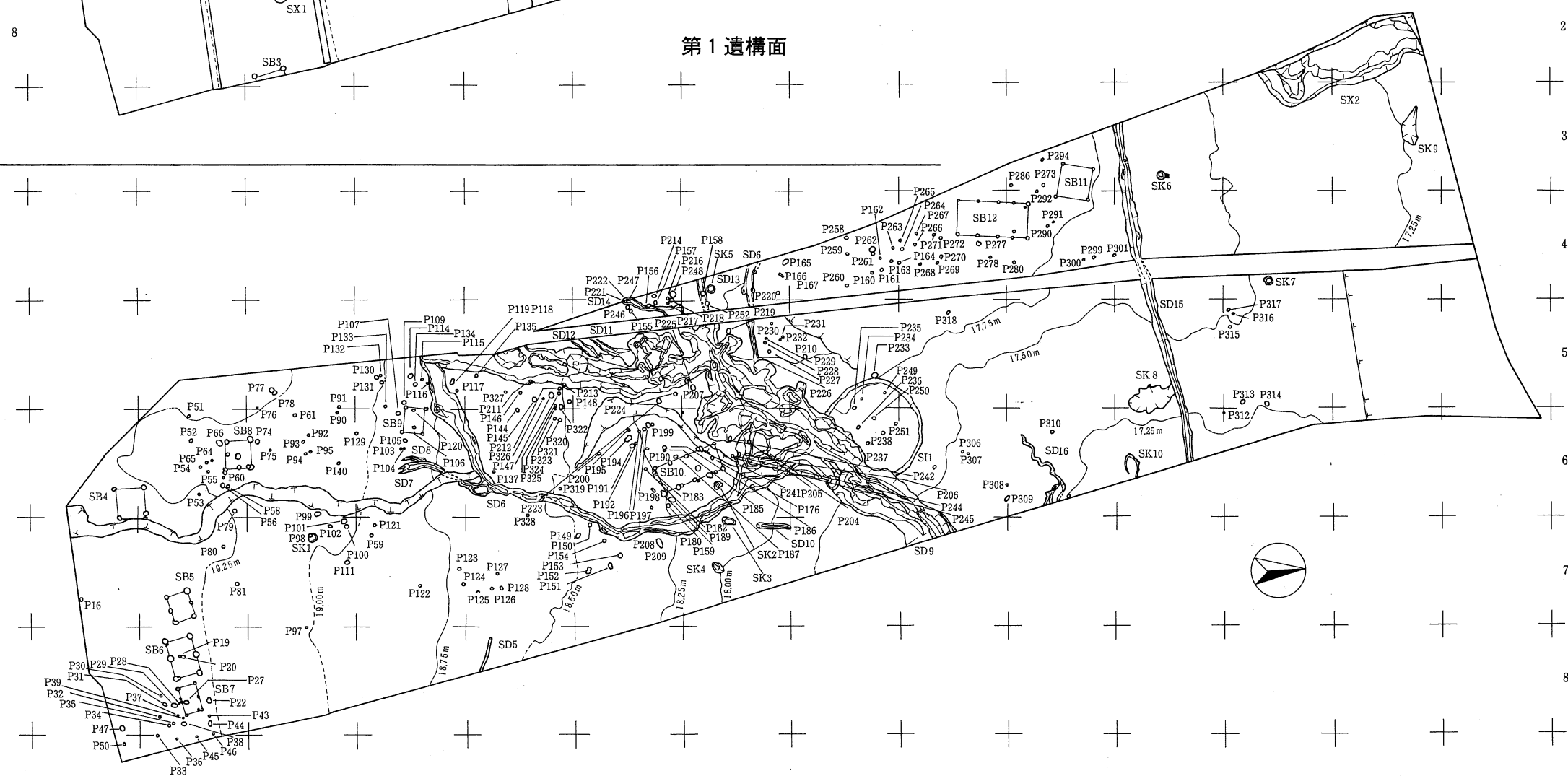
### 第4節 古墳時代前期以降(第1遺構面)の遺構と遺物

#### 1. 概要

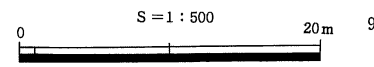
5層除去後、6層上面で検出したのが第1遺構面である(第16図)。掘立柱建物跡3棟、溝状遺構・自然流路4条、浅く不整形の落ち込みなどがある。これらは全て1・2区において検出したものである。3・4区は圃場整備に伴う削平を受けており、第1遺構面は遺存していなかった。(内田)



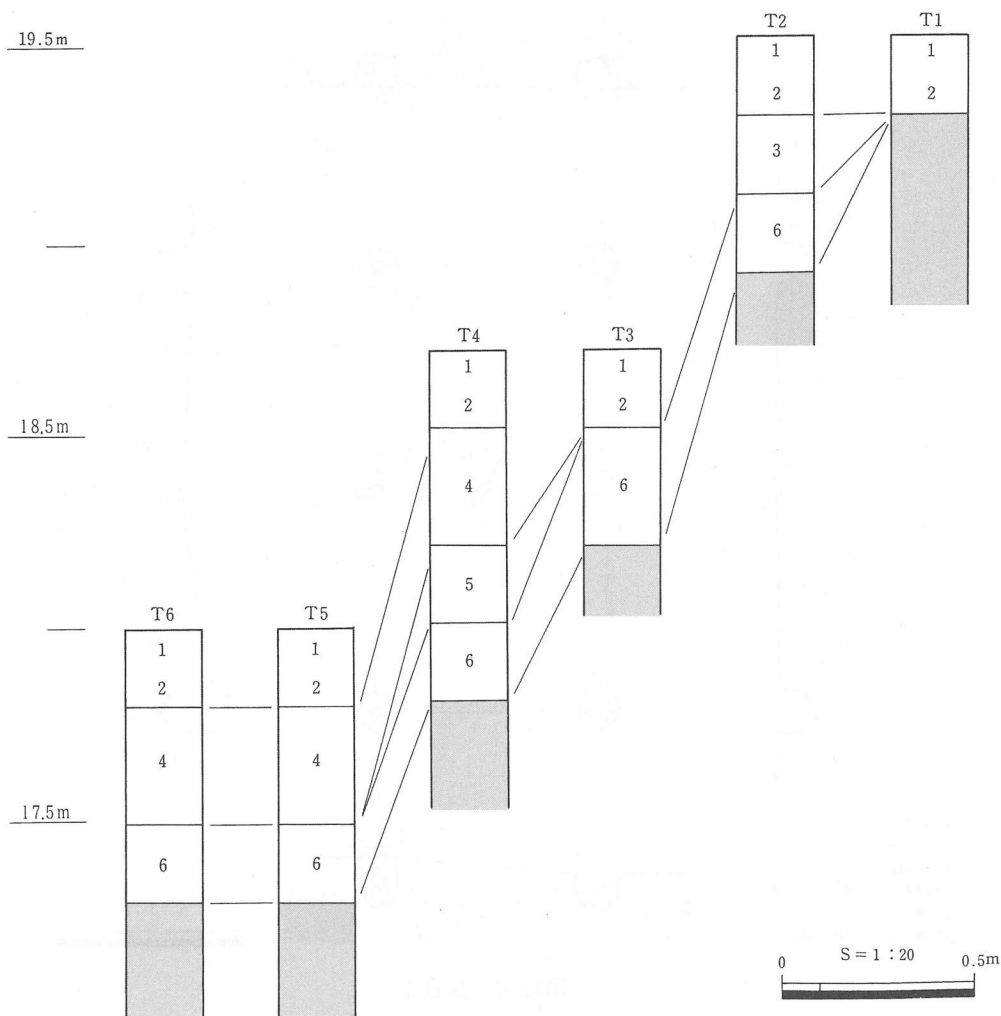
第1遺構面



第2遺構面



第16圖 第1遺構面・第2遺構面遺構配置図



第17図 調査区内の堆積

## 2. 遺構と遺物

### 掘立柱建物跡

#### S B 1（第18図・第19図W 1～4）

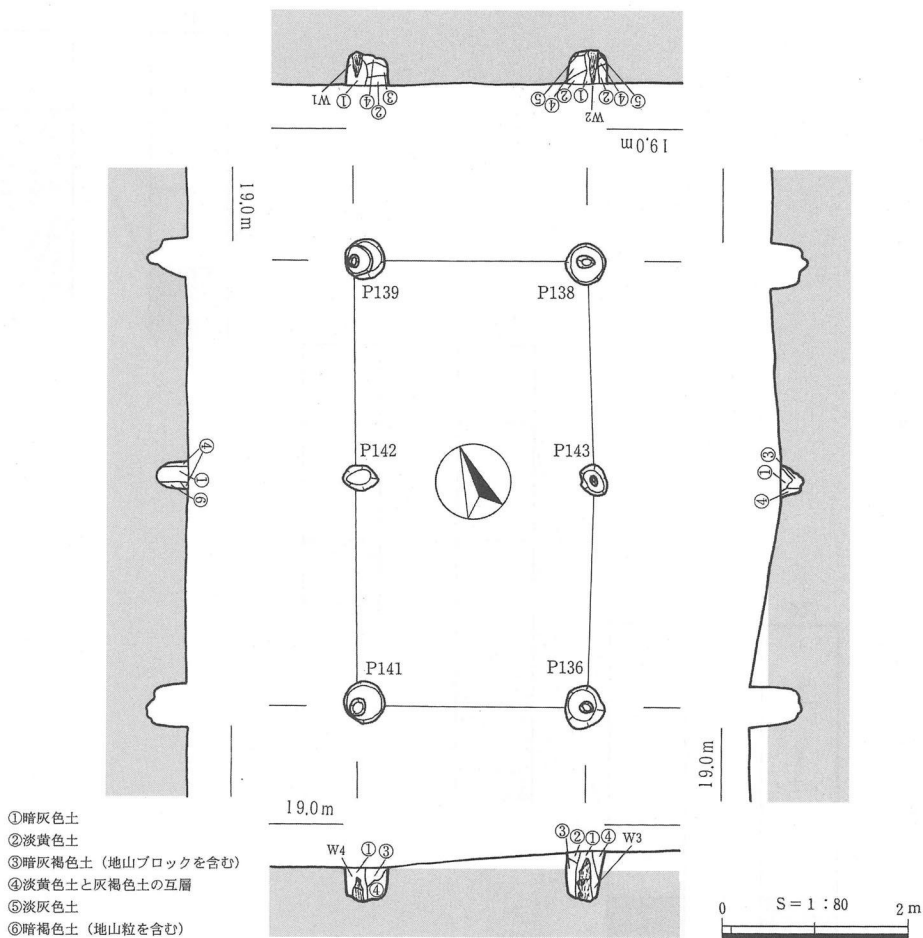
2区南側、h 6グリッドに位置する。6層上面で検出した。1間（2.5m）×2間（4.8m）の掘立柱建物跡である。各柱穴の埋土は3～4層に分かれP 136・P 138・P 139・P 141には腐食した柱の一部が残存していた（第19図）。樹種はイチイ（イチイ科）である。P 142・P 143には柱は遺存していなかったが、断面に柱痕が認められた。各柱穴内の埋土からは弥生土器小片が出土しているが、これは6層を掘り込んでいることによる。当遺構の時期は特定しがたいが、9～10世紀のSD 1に切られることから、古墳時代以降、9～10世紀以前のものと考えられる。（内田）

#### S B 2（第20図・第74図256・257）

1区北西、f 5～f 6グリッドに位置する。6層上面で検出した。1間（3.2m）×2間（3.2m）の掘立柱建物跡である。各柱穴の埋土は2～3層に分かれるが、いずれも柱痕は観察できなかった。P 83から弥生時代後期の胴部片（第74図256）が、P 86からは弥生時代後期の口縁部片（第74図257）が出土しているが、S B 1同様、6層を掘り込んでいることによる。時期は特定しがたいが、古墳時代以降のものである。（内田）

#### S B 3（第20図）

1区中央部東端、f 8グリッドに位置する。6層上面で検出した。調査区外にのびていると考えられ、形態、規模は不明である。検出した柱穴間の距離は2.7mである。削平を受けていると考えられるが、深さは0.4～0.45



第18図 SB1

mを呈す。遺物は出土していない。時期は特定しがたいが、古墳時代以降のものである。

(内田)

溝状遺構・自然流路

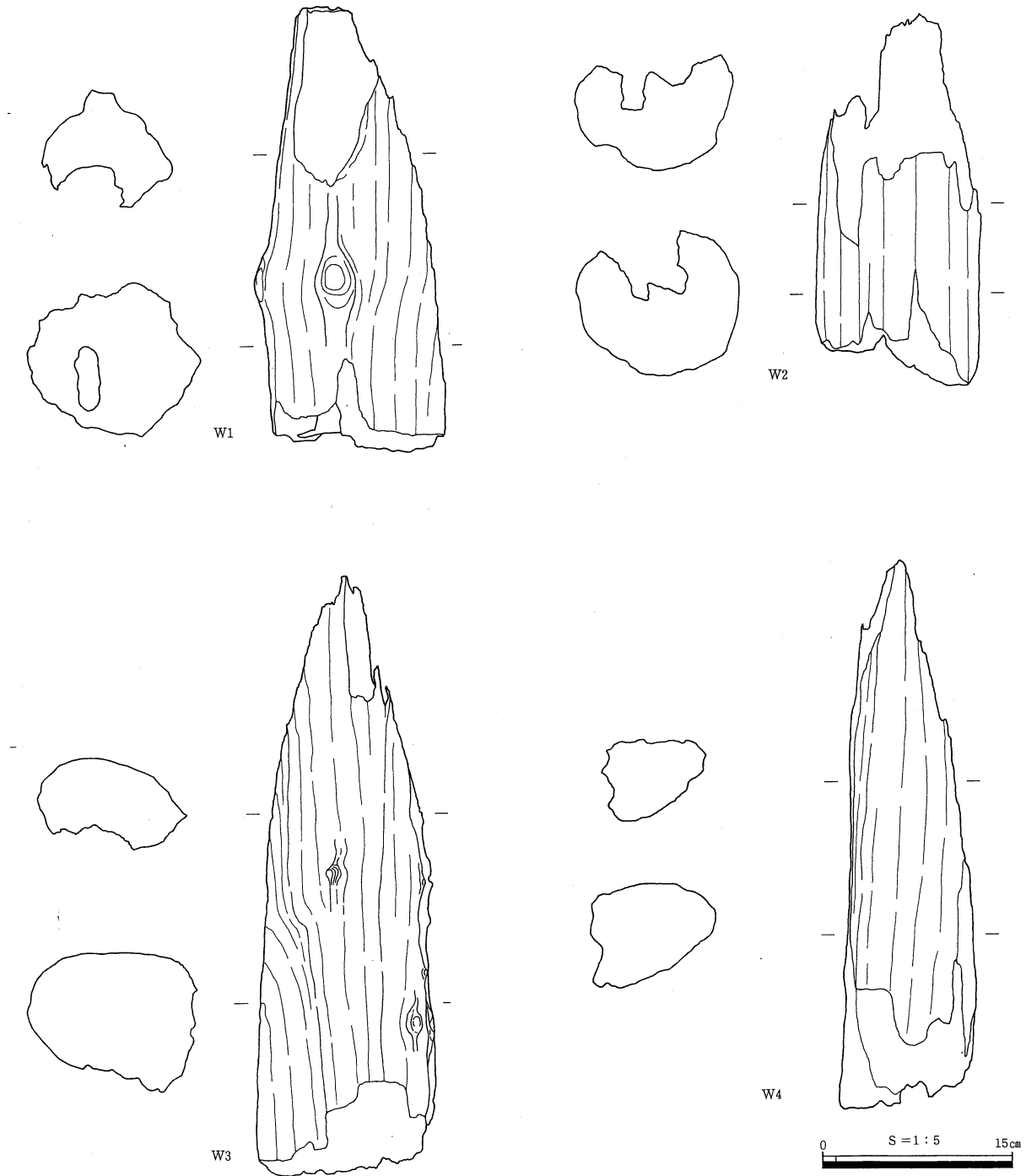
SD1 (第21図・第22図・第23図1~17)

1、2区のほぼ中央を南北に延びる溝状遺構ないし流路で、緩やかに蛇行している。5層上面および地山上で検出した。SD2、SB1を切っている。幅は最大で1.8m、深さ0.8mを測る。埋土は3層に分かれる。最下層には砂層が厚く堆積することや、緩やかに蛇行しながら等高線にほぼ直行することなどから、自然流路と推察される。遺構内からは弥生土器片から須恵器片まで、幅広い時代の遺物が出土している。第23図1は車輪状のタタキが施された須恵器の甕の底部片である。周辺では、平安時代に操業していたとされる会見町両部太郎窯跡でこの類の車輪状タタキをもつ須恵器が生産されていたようである。底面に近い埋土中から出土しており、このことから当遺構は9~10世紀のものと考えられる。この他に、須恵器、土師器、弥生土器が出土している。2は須恵器底部片。3は土師器の高坏。4は古墳時代中期の壺、5~7は古墳時代前期の甕、8・9は弥生時代後期末~古墳時代前期初頭の甕、10は弥生時代後期末~古墳時代前期初頭の壺、11・12は弥生時代後期の壺である。13は器台で、弥生時代後期末~古墳時代前期初頭に位置づけられる。14はケズリが頸部に達しており、弥生時代後期の無頸壺と思われる。15は口縁直下に横位置の把手がつく。16・17も把手、17は山陰形甌のものか。

(内田・濱田)

SD2 (第21図・第22図・第24図18・19)

1区中央やや西より、e7~f6グリッドに位置する。6層上面で検出した。幅0.45~0.5m、深さ0.08~0.1mを測る。幅がほぼ一定で直線的、断面形は逆台形状を呈す。底面のレベル差より、南東から北西に向けて延び

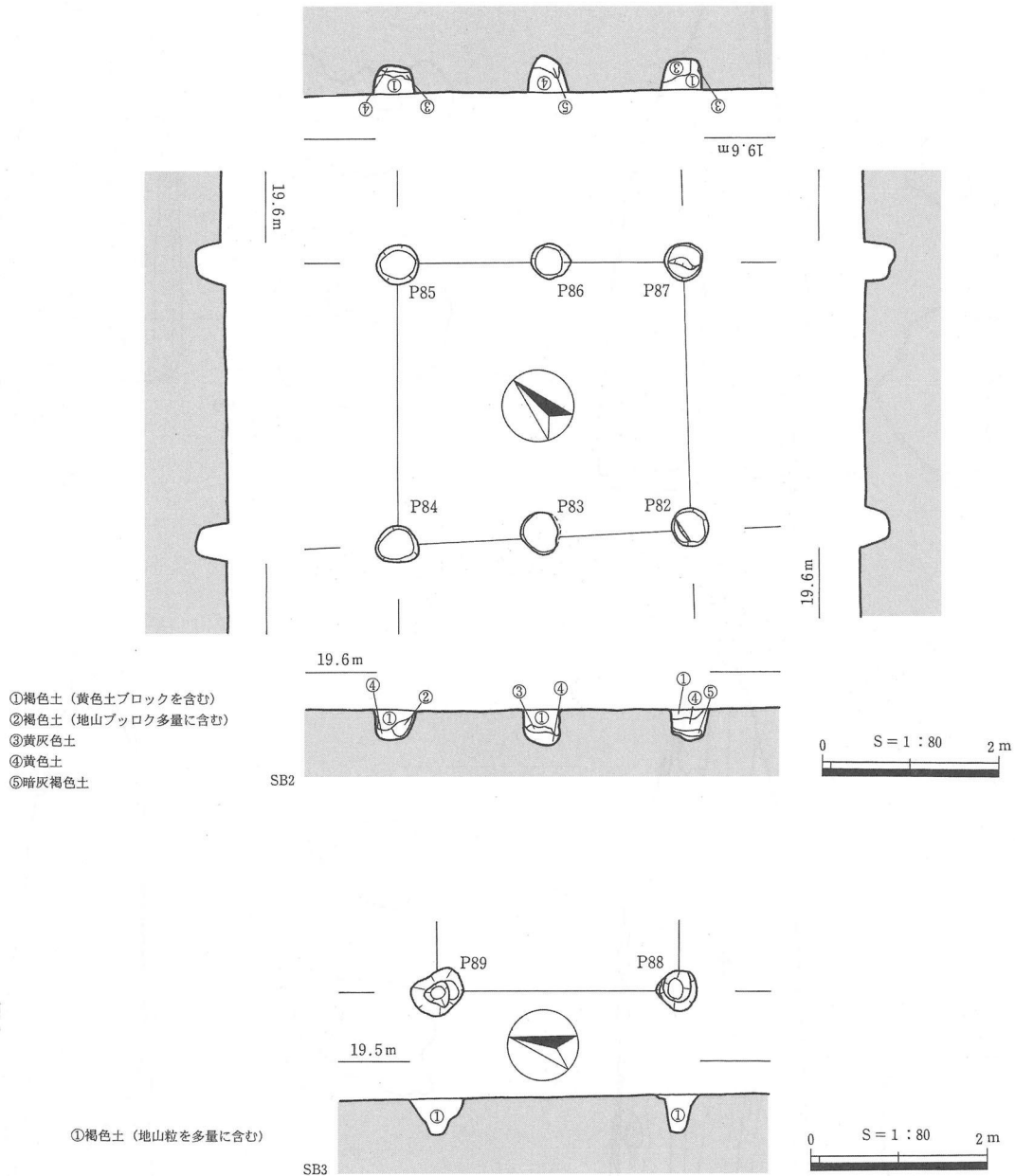


第19図 SB 1 P 136・P 137・P 138・P 141出土柱材

ていたものと推察されるが、両端が削平されているため全容は不明である。また、ほぼ中央部分をSD 1に切られている。埋土は単層である。遺構内からは須恵器が出土している。第24図18は坏の底部片、19は高坏の脚部である。いずれも7世紀代のもので、当遺構の埋没時期を示しているものと思われる。（内田）

SD 3（第21図・第22図）

1区中央、e 6・e 7～f 7グリッドに位置する。6層上面で検出した。SD 2に直交し、SX 1に向かって東側に延びる。SD 2を越えて西側へは続かない。SD 2との切り合い関係は不明である。幅0.3～0.4m、深さは0.05m程度で、底面は凹凸が激しい。土師器片、須恵器片が出土しているが、図化できなかった。SD 2とほぼ同時期のものと推察される。（内田）



SD4（第21図・第22図）

1区中央、e7～f7グリッドに位置する。SD1に並行し、小さく蛇行を繰り返している。底面のレベル差から南から北にかけて延びていたものと推測され、自然流路と思われる。遺物は出土していない。周辺の遺構との関係から、古墳時代後期以降のものと考えられる。（内田）

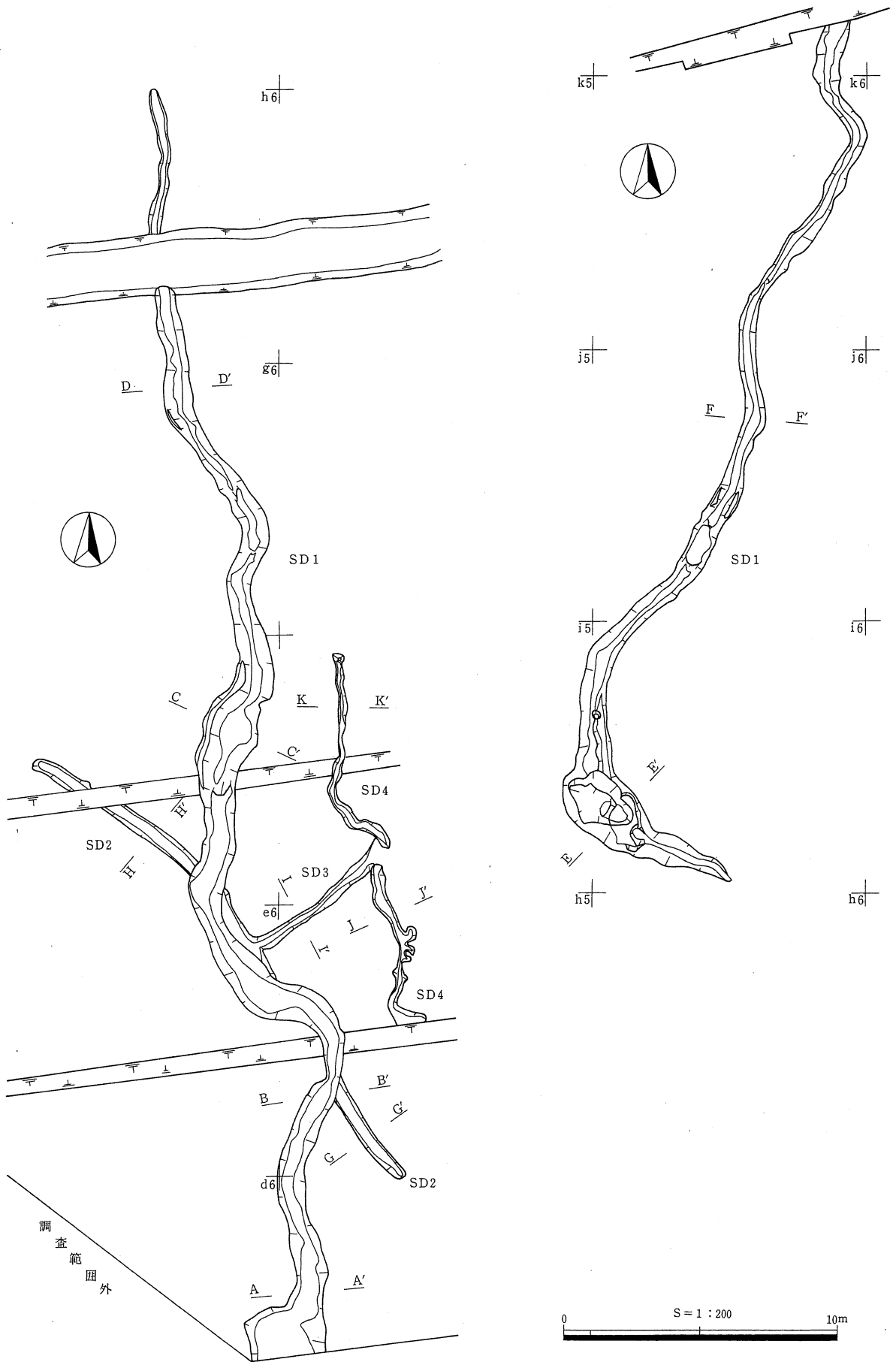
不明遺構

SX1（第25図・第25図20～22・S1）

1区中央やや西より、f7～f8グリッドに位置する。5層上面を掘り下げたところで検出した、浅く不整形な落ち込みである。弥生土器や須恵器の小片が出土した。埋土は5層と地山が互いに入り交じる状況であった。自然の落ち込みではないかと思われる。第25図20は7世紀代の須恵器坏蓋、22は8世紀代の坏身底部である。23は弥生土器の高坏脚部、S1はサヌカイト製で、微細剥離痕のある剥片石器である。出土遺物より、8世紀以降

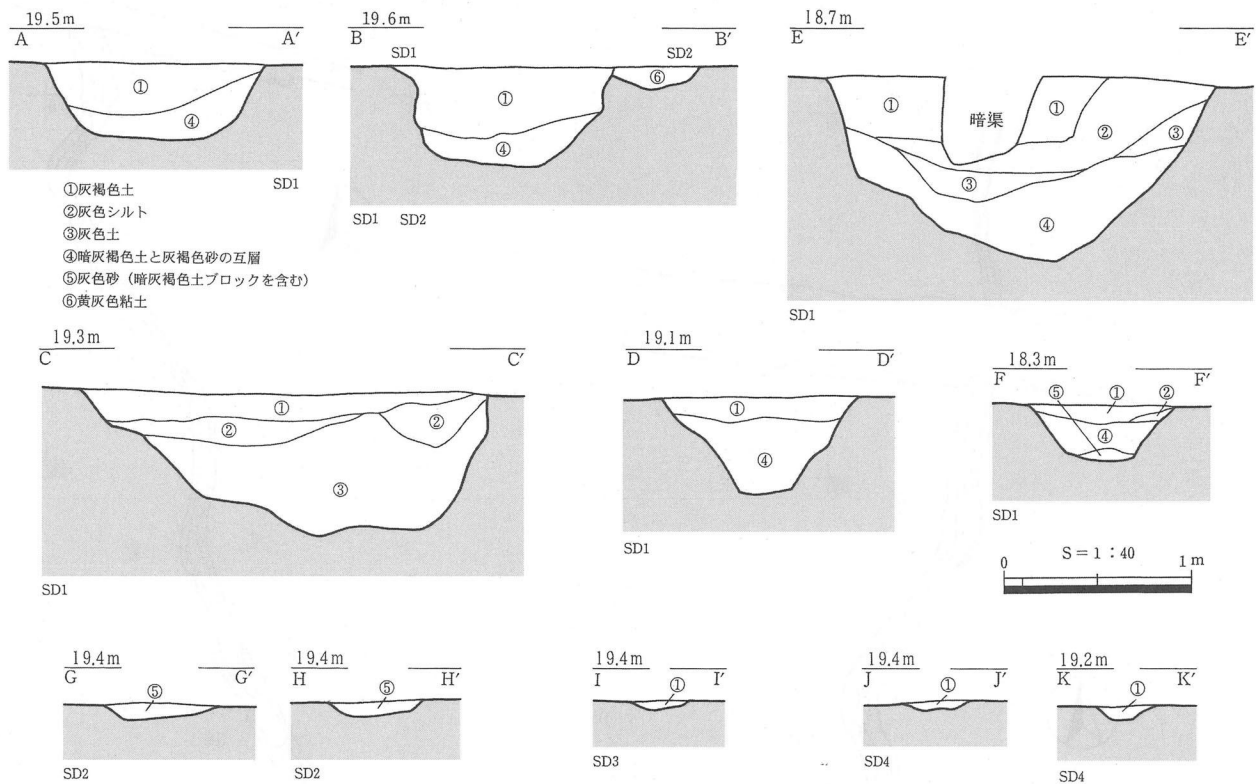


第4節 古墳時代前期以降（第1遺構面）の遺構と遺物



第21図 SD1・SD2・SD3・SD4平面図

第4章 古市流田遺跡の調査



第22図 SD1・SD2・SD3・SD4断面図

のものである。

(内田)

第5節 縄文時代～古墳時代前期初頭（第2遺構面）の遺構と遺物

1. 概要

1・2区では5・6層、3・4区では3・4層除去後、地山面（第2遺構）で縄文時代～古墳時代前期初頭の遺構を検出した（第16図）。大半は弥生時代のもので、なかでも弥生時代前期～中期前葉、弥生時代後期のものが多数を占める。また、当遺構面で検出した遺構のうち、遺物を伴うものはいずれも弥生時代までの範囲におさまるものであるが、6層中には弥生時代後期の土器を主体に、古墳時代前期初頭までの土器が含まれている。1・2区の一部では6層と地山の間に僅かな間層が認められたが、それ以外は6層直下が地山面の場合が多く、地山面で複数時期の遺構が検出されることからすると、各時期の堆積が自然作用または人為的に攪乱された結果、6層が形成されているか、本来、6層と地山の間にあるはずの堆積が何らかの理由で流出しているものと考えられる。

(濱田)

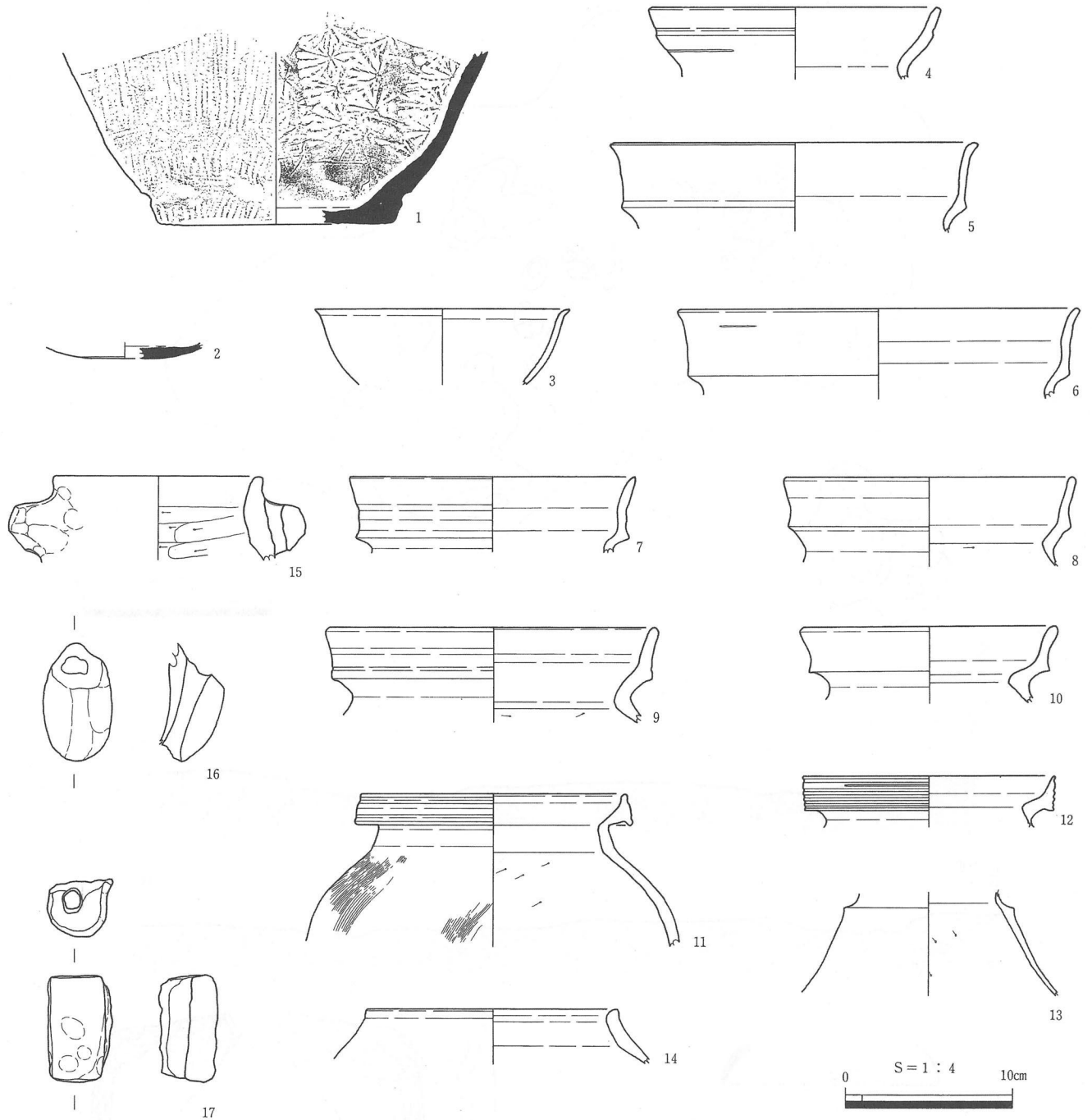
2. 縄文時代の遺構と遺物

縄文時代後期・晩期の土器・石器は、包含層および他の遺構から少量出土しているが、検出できた遺構は土坑1基である。

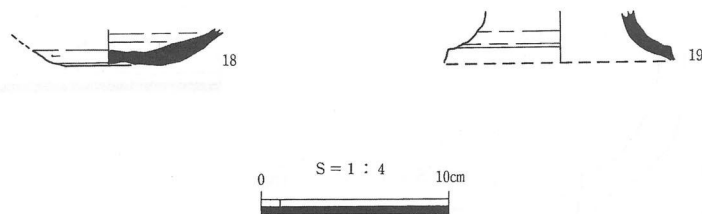
土坑

SK7（第26図・第27図23）

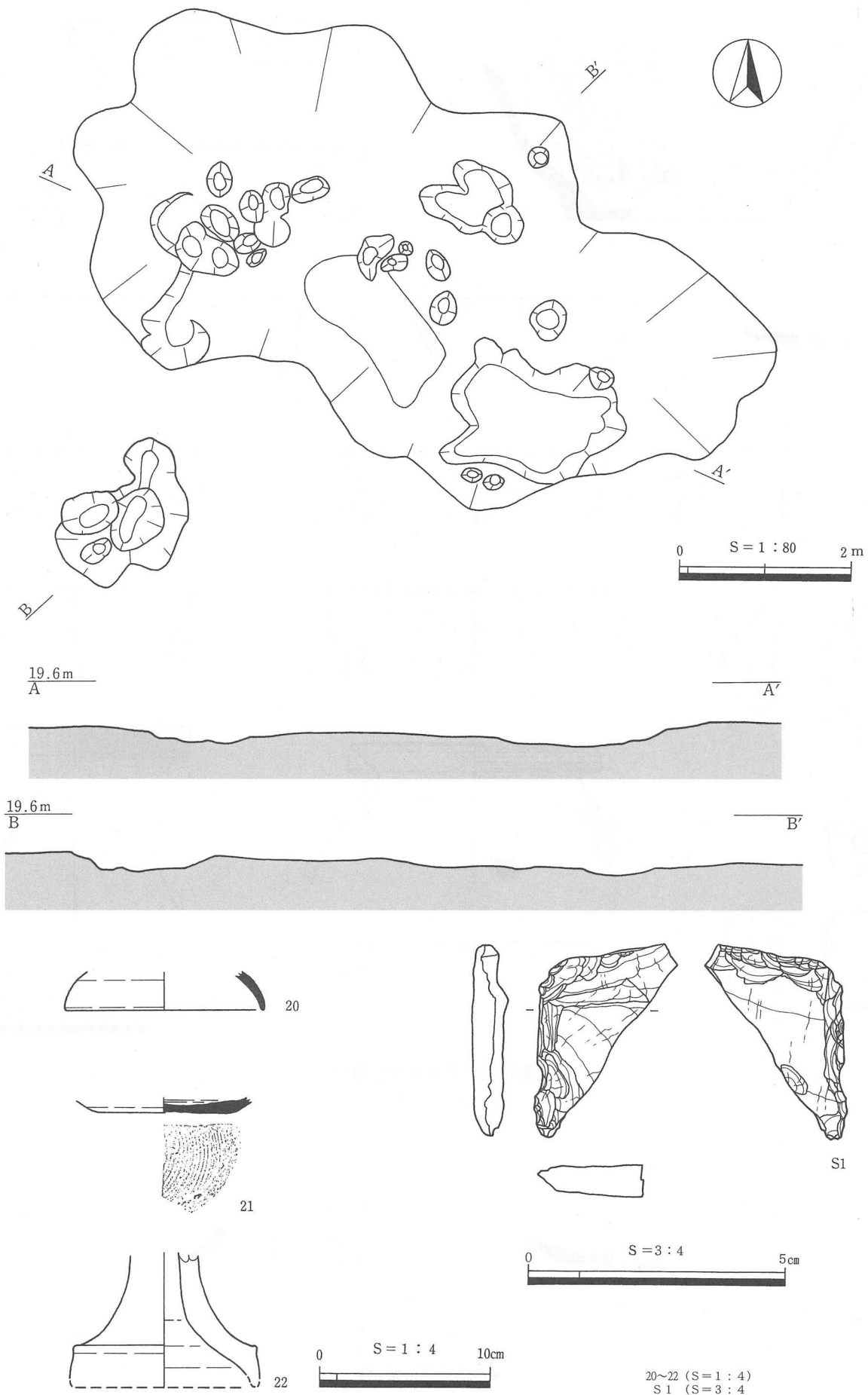
3区、07グリッドに位置する。4層除去後、地山面で検出した。圃場整備のさい削平されており、正確な掘込み面は不明である。不整な円形を呈し、規模は長軸0.85m、短軸0.75m、深さ0.1mである。遺構内には褐色土が堆積しており、屈曲し肩部を有す鉢（第27図23）が出土している。著しく摩滅しており時期を特定しがたい



第23図 SD 1 出土遺物



第24図 SD 2 出土遺物

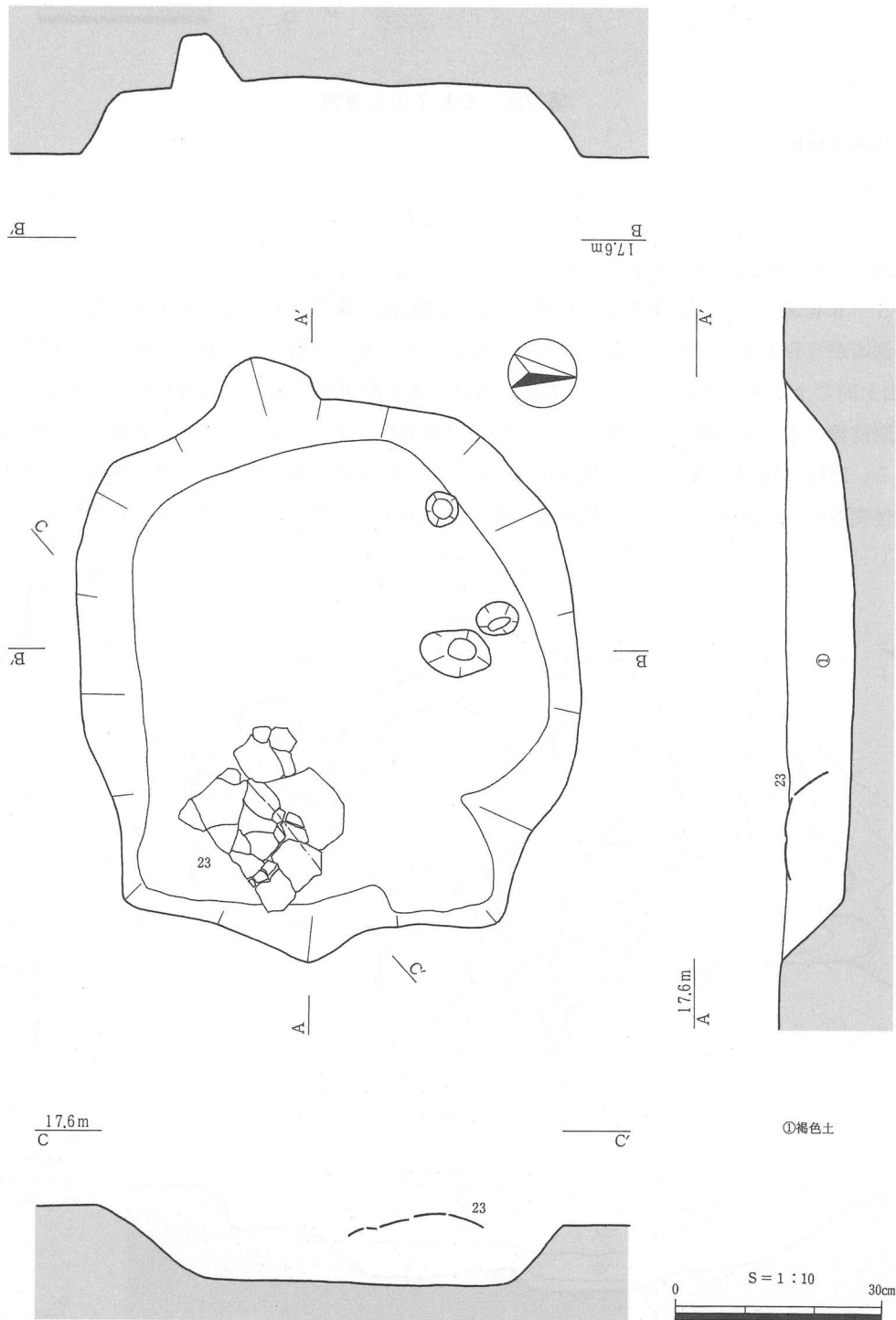


第25図 S X 1 及び出土遺物

が、縄文時代後期中葉～晩期中葉のものであろう。また、北側の壁面付近の底面で径0.05～0.1mの小ピットを検出した。深さは、深いもので0.1mほどである。形態的な特徴は古市カハラケ田遺跡・SK10によく似ている。当遺構では確認できなかったが、古市カハラケ田遺跡SK10からはコナラ属の炭化子葉と堅果片が出土しており、貯蔵穴の可能性が考えられる。  
(内田・濱田)

### 3. 弥生時代前期～中期前葉の遺構と遺物

2～4区で、弥生時代前期～中期前葉の土坑2基、溝状遺構・自然流路6条の他に、流路などに付随すると思



第26図 SK7



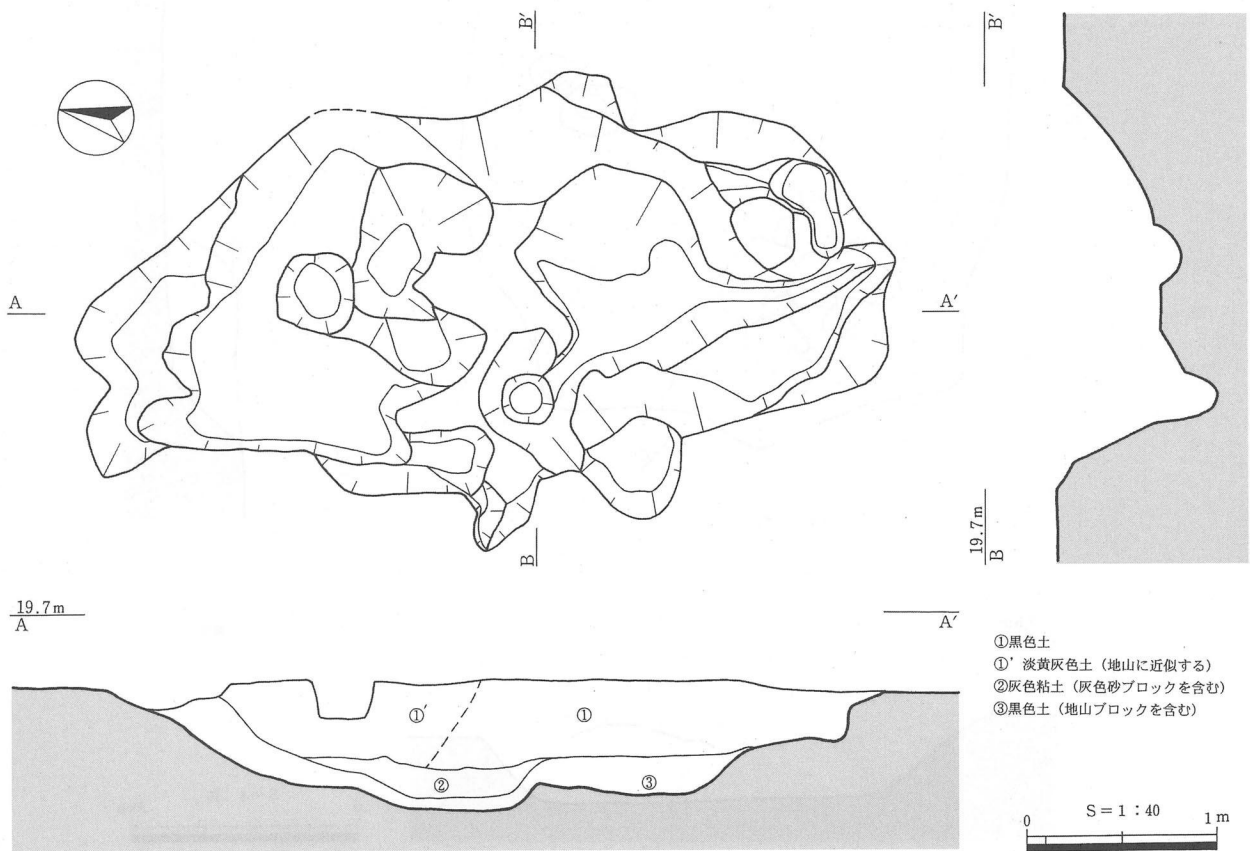
第27図 SK7出土遺物

われる落ち込みを検出した。

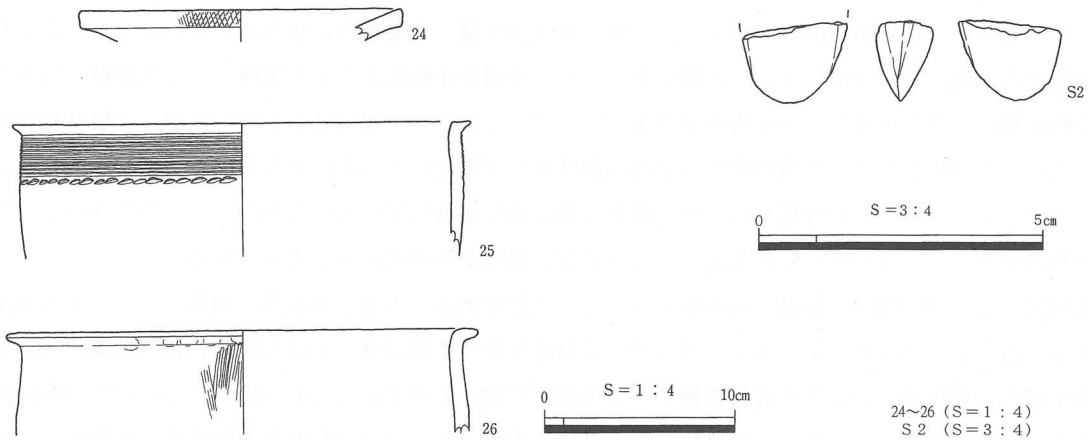
土坑

SK8 (第28図・第29図24~26・S2)

3区、n5~n6グリッドに位置する。長軸4.5m、短軸2m、深さは最大で0.85mを測る大型で不整形な土坑である。北側端がSD15に接している。埋土は3層に分かれる。①層は基本的に黒色土が主体であるが、北側1/3には地山と同じ土が入り込んでおり、人為的に投げ込まれた堆積である可能性も否定できない。埋土中から弥生時代中期前葉の壺(第29図24)・甕(25・26)の口縁部片が出土しており、この遺構の埋没時期を示すものと考えられる。24は口縁部に格子目文が施されている。25は口縁部が短く屈曲する甕である。接合痕は確認できないが、貼付突帯の可能性もある。クシ描多条沈線、その直下に工具による刺突が施されている。26は短く屈曲



第28図 SK8



第29図 SK 8 出土遺物

する口縁部をもつ無文の甕である。また、S 2は太型蛤刃石斧の刃部である。この他に黒曜石製の凹基式の石鏃基部片が出土している。  
(内田・濱田)

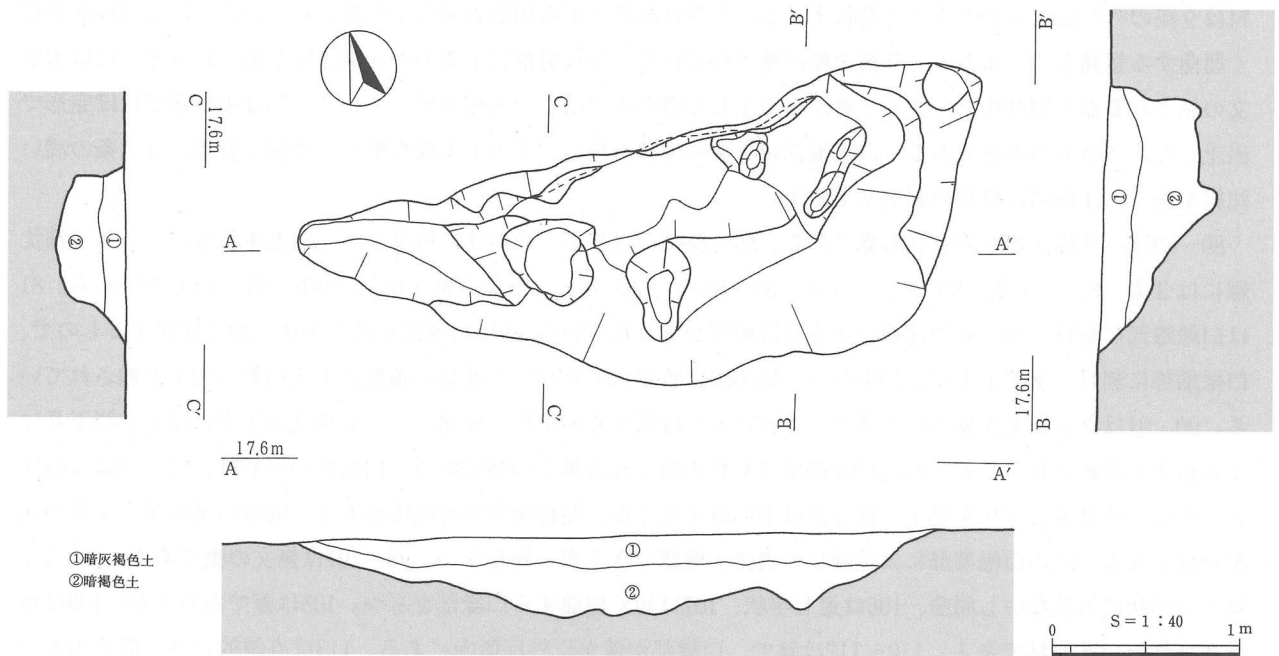
SK 9 (第30図)

4区、p 3グリッドに位置する。SK 6と同様に圃場整備により上部が削平されている。規模は長軸3.7m、短軸1.4m、深さは最大で0.6mを測る大型で不整形な土坑である。埋土は暗灰褐色土と黒色に近い暗灰色土の2層からなる。出土遺物はない。規模、形態がSK 8によく似ていること、SX 2と近い位置関係にあることから弥生時代中期前葉の遺構と考えられる。  
(内田)

溝状遺構・自然流路

SD 9 (第31図・第32～39図27～138・第40図S 3～S 11)

2区から3区にかけて南西から北西にのびる自然流路である。6層除去後に検出した。規模は幅2m～9m、深さ1.1mを測る。壁面、底面は水に浸食され凹凸がある。j 5・k 5グリッド付近には、楕円形の落ち込みが



第30図 SK 9

あり、これらは人為的な土坑の可能性がある。検出面および上層では弥生時代中期中葉～古墳時代初頭の土器が出土しているが、これは第32図にあるように①層（第17図6層）が遺構内に沈み込んでいることによるもので、遺構の最終的な埋没を示す堆積は②～⑤層である。②～⑤層は比較的安定した堆積で、2次堆積ではあるが弥生時代中期前葉の土器を主体とした遺物がまとまって出土している。⑥層は粘土と砂の互層、⑦層は粗砂の堆積である。これらの堆積からは、摩滅の著しい土器の胴部小片が出土しているにすぎない。各層で土壌のサンプルを採集し、プラント・オパール分析を行った。結果は第7節に掲載しているので参照していただきたい。②層からはイネ科のプラント・オパールが少量出土しているが、周辺からの流込みと考えられる。

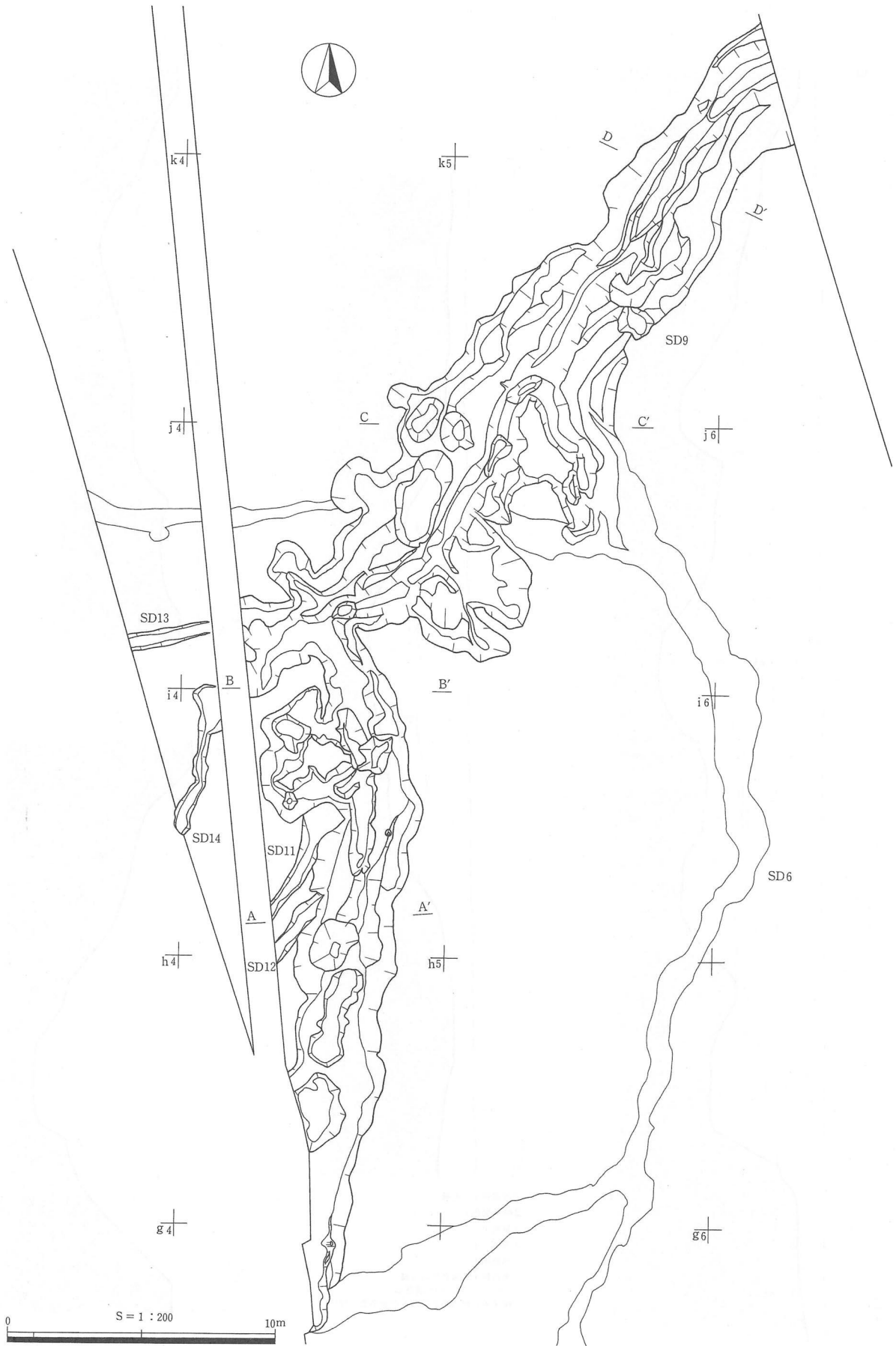
第33図27～57、第34図58・59は①層中から出土した土器である。本来、第6節に報告している第6層出土遺物に属する。27～33・39・40・52は壺で、27～29・31は弥生時代中期後葉、30は弥生時代後期前葉、32・33・39・40は弥生時代後期中葉、52は弥生時代後期末～古墳時代初頭のものである。34～38・41～51・53・54は甕である。35は弥生時代中期後葉、34・36～51は弥生時代後期前～中葉、53・54は弥生時代後期後葉に位置づけられる。55は胴部に二枚貝腹縁部を押し当てた文様が施されている。広口壺ないし鉢で、弥生時代後期中葉～後葉に位置づけられるだろう。56は口縁部に1条の沈線（凹線？）が施されている。内面調整のケズリが頸部の屈曲部に及んでいることから弥生時代後期のもと考えられる。57は弥生時代中期後葉の器台ないし高坏の脚部である。58は台形土器と思われる土器片で、弥生時代中期後葉のもと思われる。59も台形土器と思われる。竹管および半裁竹管状工具による文様が施されている。

第35図60～78、第36図79、第37図80～97、第38図98～115、第39図116～123は②～⑤層から出土した土器および土製品である。

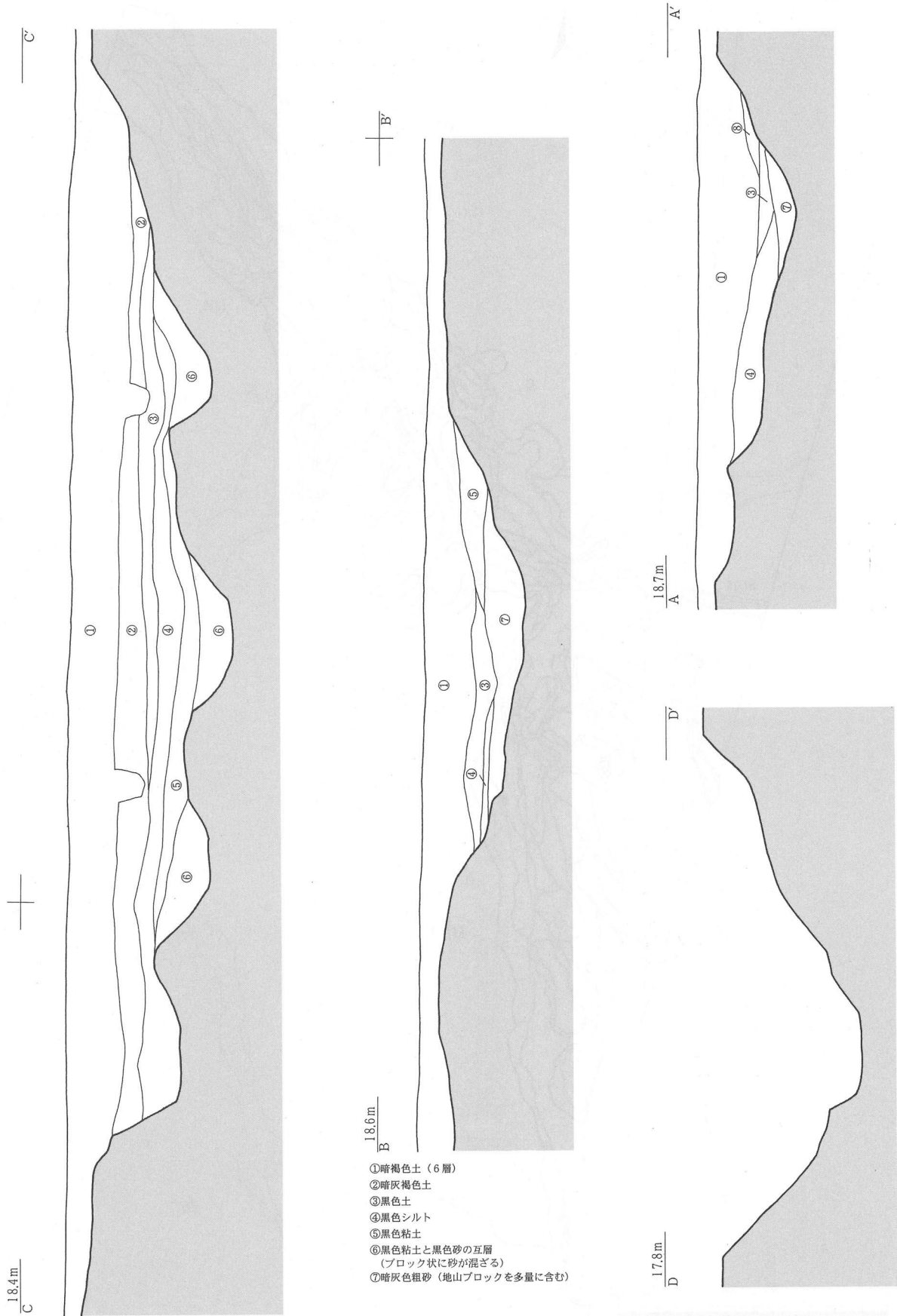
60～67は口縁部が広く開く壺の口縁部片である。60～62は口縁端部に1条の沈線、64・65には格子目文が施されている。63は口縁端部に1条の沈線が施されているように思われるが、幅が一定でなく途切れており、60～62にみられる口縁部の沈線とは異なる。また、頸部に5条のヘラ描沈線が施されている。66・67は口縁部が比較的短く外反する壺である。66の頸部には10条、67の頸部には3条のヘラ描沈線が施されている。68～74は壺の頸部～肩部片である。68～70は胴部が球形ないし横に張る形態のものである。68は2条のヘラ描沈線、69は2条のヘラ描沈線の下方に円形ないし扁平の小粘土粒を貼り付ける。70は3条のヘラ描沈線の上方に円形の刺突文が施される。工具は竹管状工具または巻貝の頂部によるものと思われる。71～74は長胴の壺である。71の頸部に2条以上、72の頸部には10条のヘラ描沈線が施されている。73は7条のヘラ描沈線の下方に三角形の刺突文が施されている。74は9条のヘラ描沈線の下方に竹管状工具ないし巻貝頂部による円形の刺突文が施されている。75は口縁部が短く屈曲する短頸壺で、4条のヘラ描沈線が施されている。76は肩部に1条のヘラ描沈線が施される壺、77は木葉文の施される壺の胴部片で、②～⑤層から出土した壺の中ではやや古相を呈している。78は小型壺でほぼ完形で出土した。79は大型の壺である。口縁端部に1条の沈線を施し、その上下端を刻む。頸部～肩部には2条の浅い沈線を施し、沈線間に横長の刺突文を施す。

80～89はヘラ描沈線が施される甕である。80～88は口縁部がくの字状に外反ないし屈曲するもので、ヘラ描沈線には3条（82）、4条（80・81）、6条（83・84）、7条（85）、9条（86・88）、10条（87）のものがある。81は口縁端部に刻目、84・88の沈線の下方には刺突が施されている。89は口縁部が逆L字状に短く屈曲するもので、口縁端部に刻目、胴部上半には10条のヘラ描沈線、竹管状工具ないし巻貝の頂部による円形の刺突が施されている。90・91はクシ描文が施される甕で、いずれも口縁部がくの字状に屈曲し、クシ描文の下方にはクシ状工具による刺突が認められる。92～95は口縁端部に刻目の施される無文の甕である。口縁部の形態は、92・93はくの字状に外反、95は逆L字状を呈す。接合痕は不明瞭であるが、貼付突帯の可能性もある。96は口縁端部に1条の沈線が施される。97の口縁端部には沈線状の痕跡が確認できるが一周しない。98～107は無文の甕である。98～105はくの字状に外反ないし屈曲、106は逆L字状、107は短く屈曲する口縁部をもつ。108は蓋であろうか。109は台付きの鉢ないし高坏である。110～112は鉢で、口縁部が僅かに外反傾向にある。113は直線的に外に開く小型の鉢である。114は内湾する小型の鉢で、口縁部に施されている2カ所の穿孔は焼成前に行われている。115は内湾

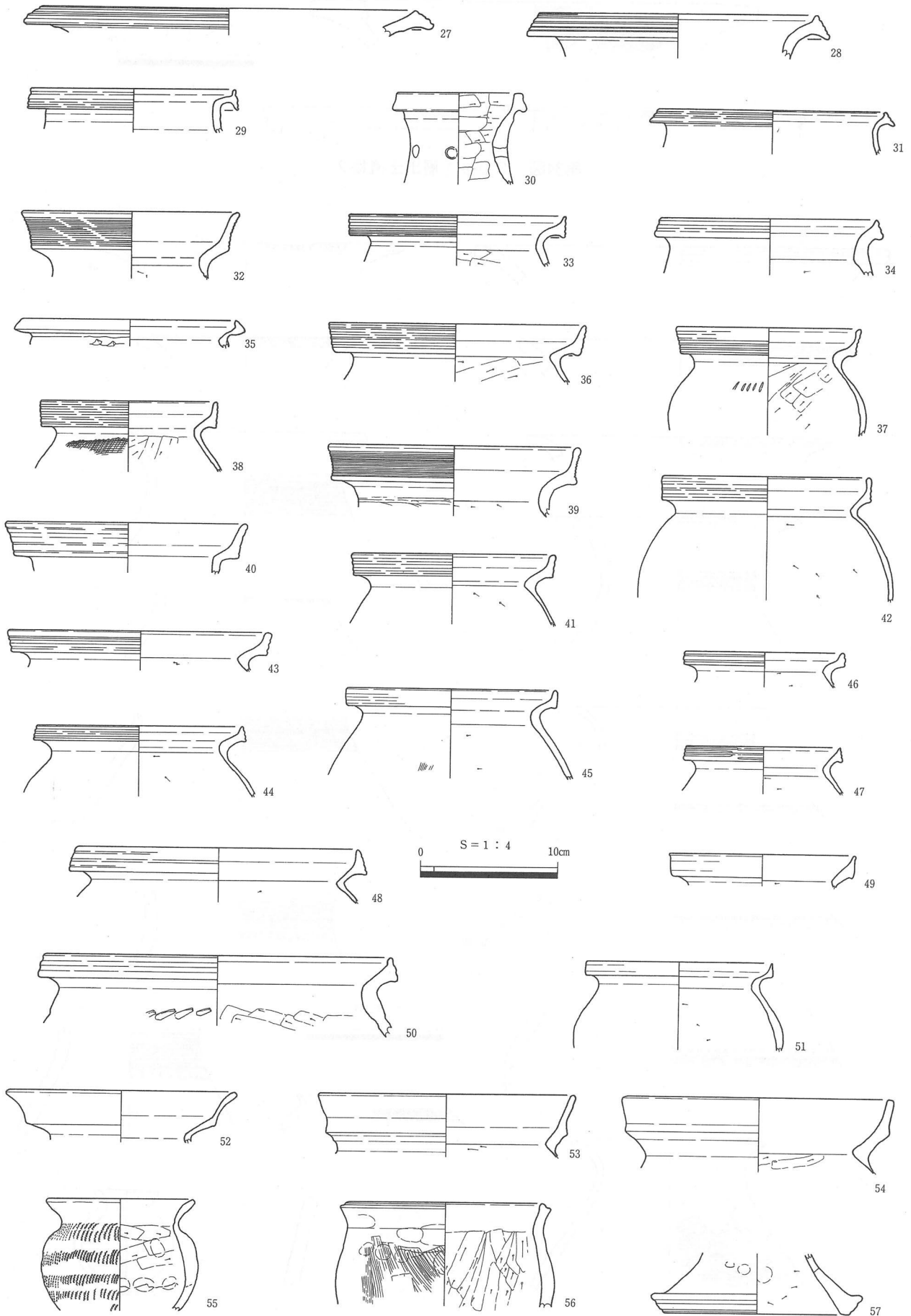




第31図 SD9・SD11・SD12・SD13・SD14平面図



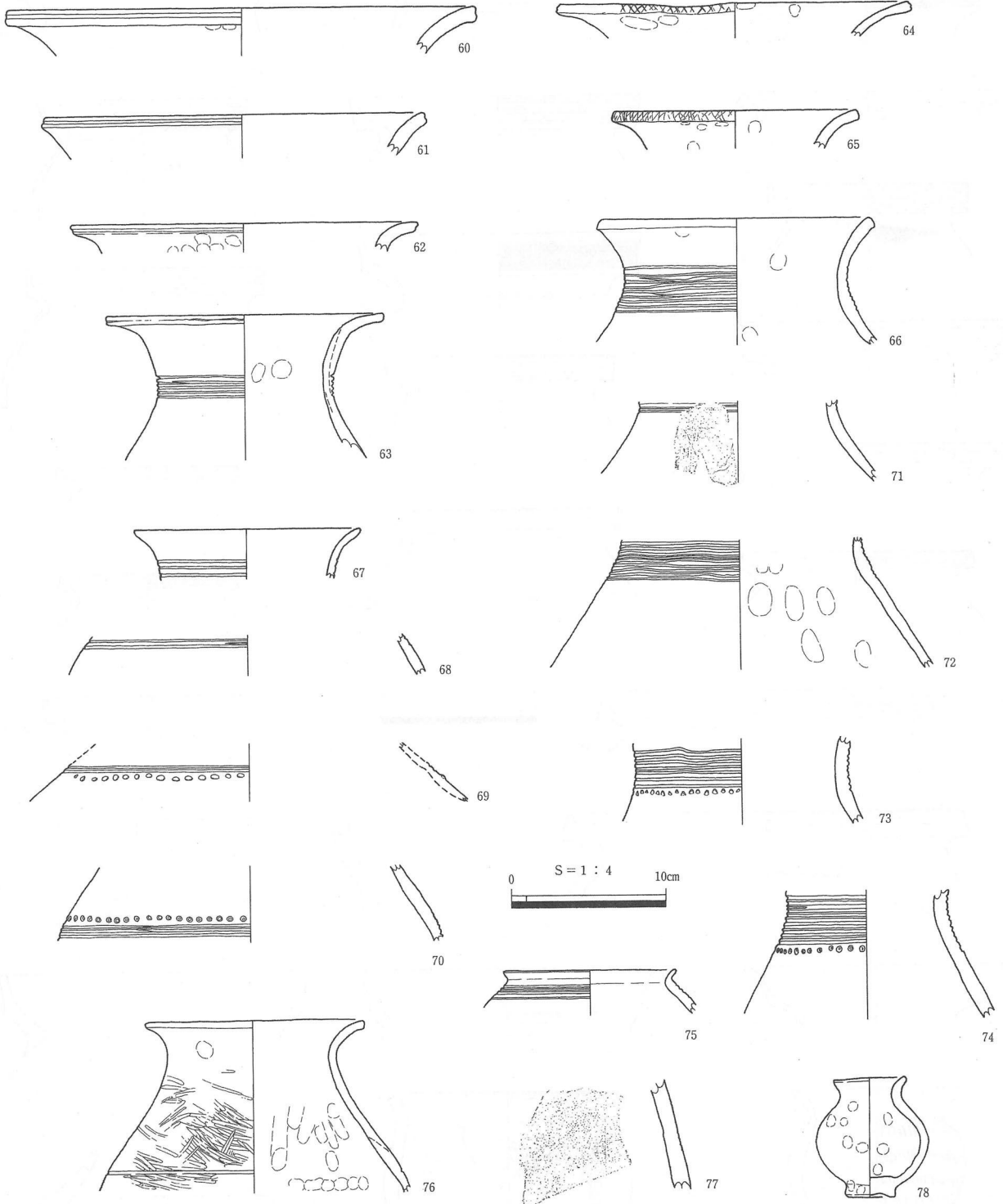
第32図 S D11断面図



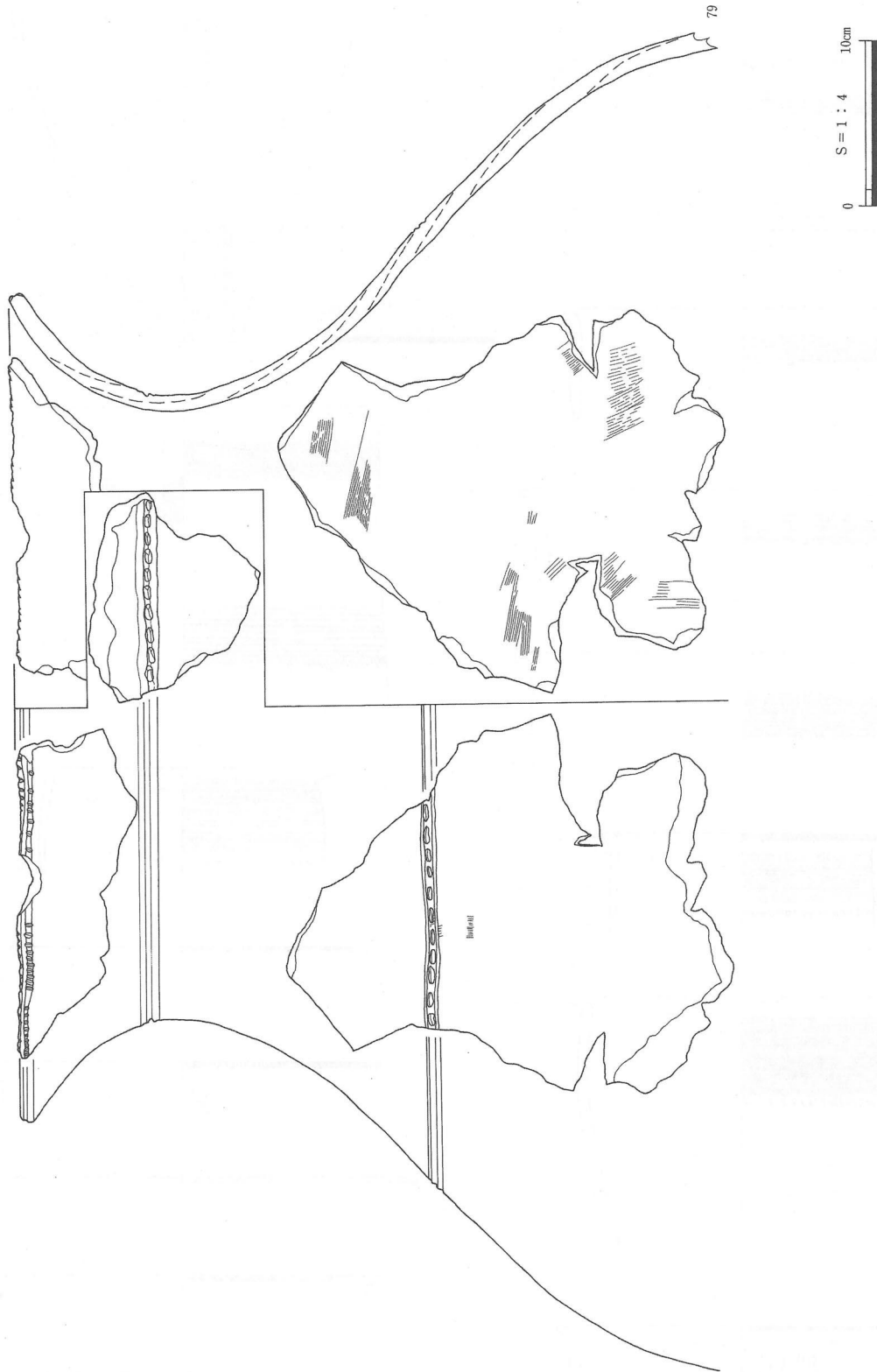
第33図 S D 9 ①層出土遺物 1



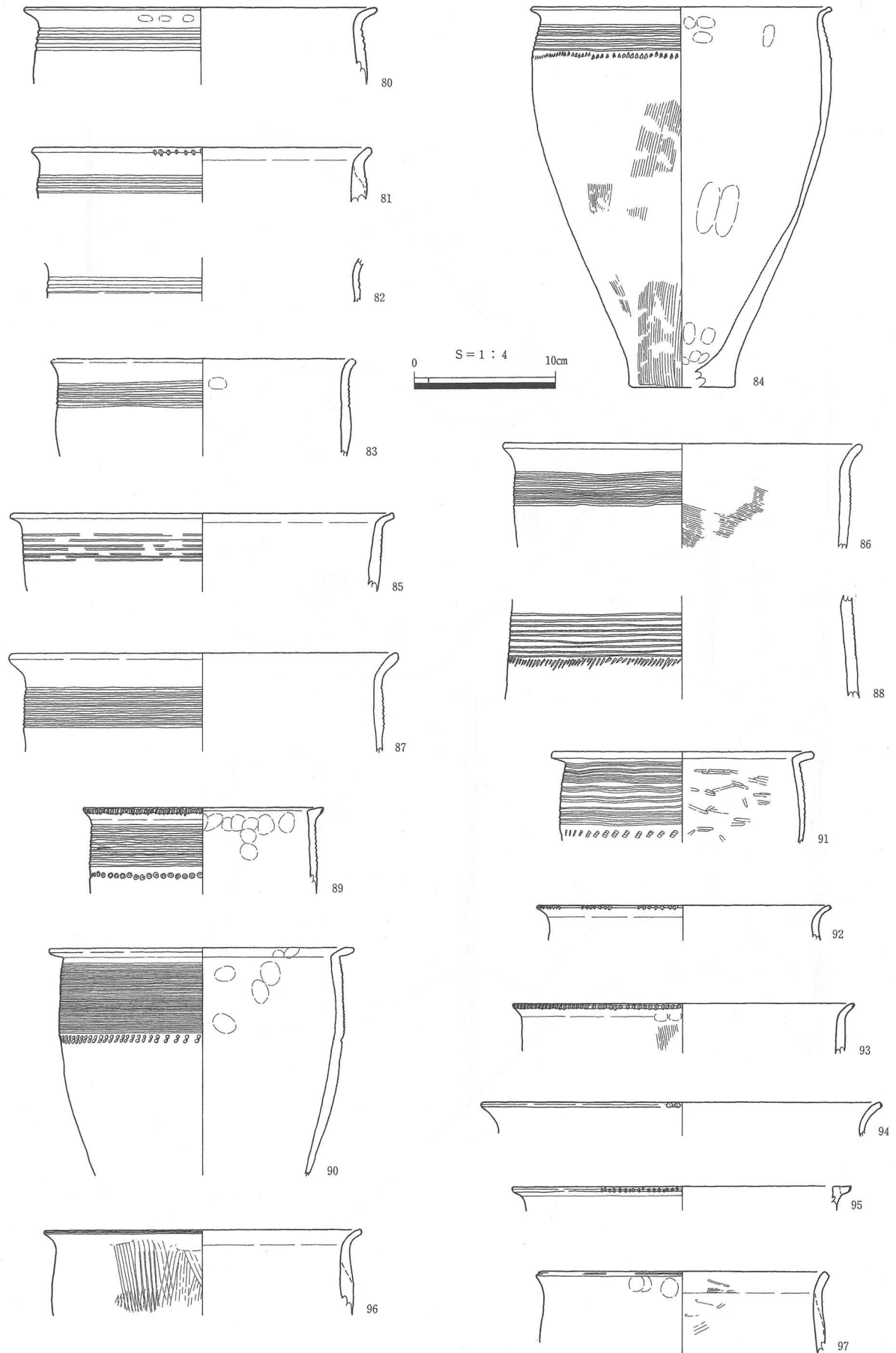
第34図 S D 9①層出土遺物 2



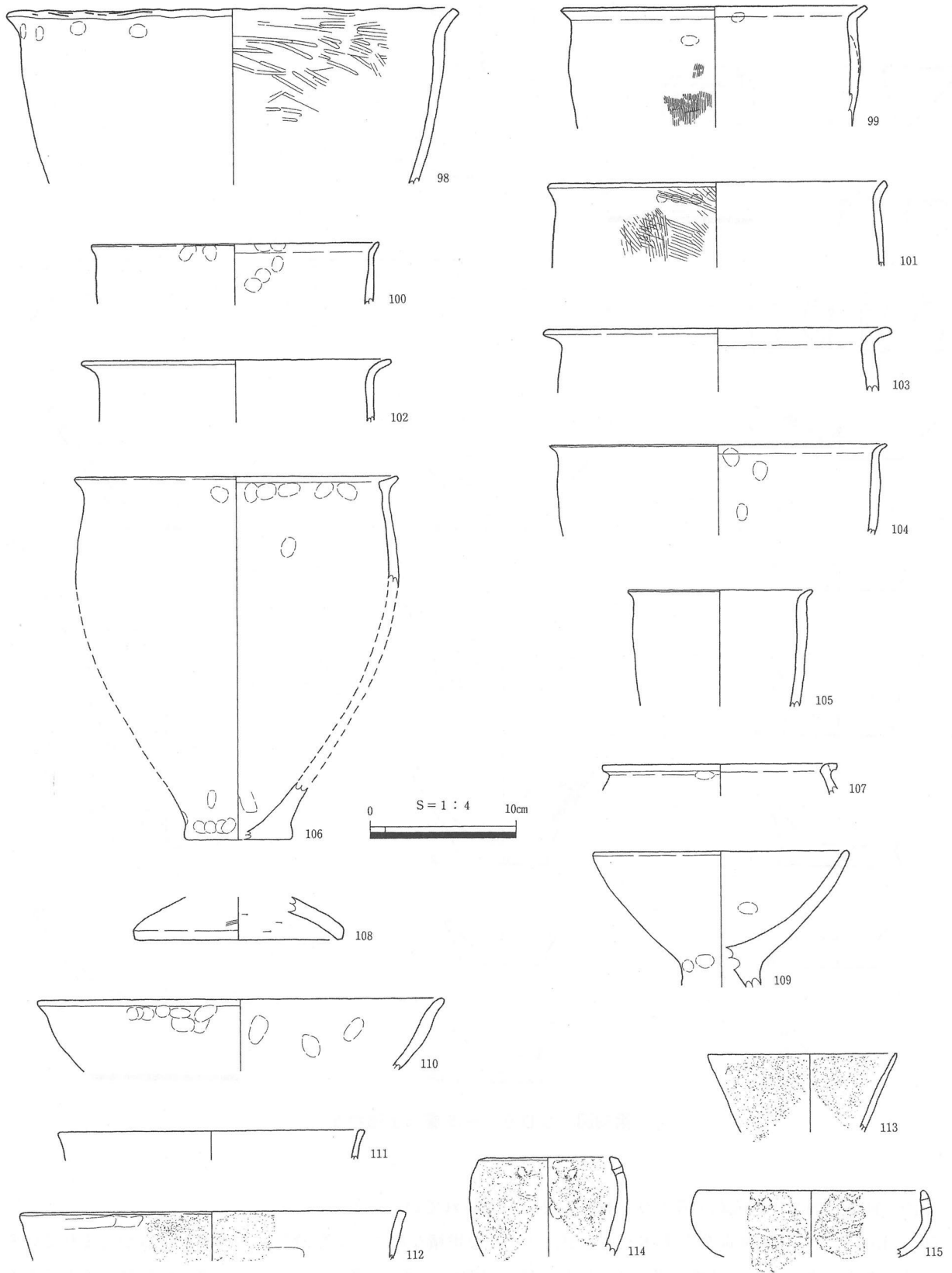
第35図 S D 9②~⑤層出土遺物 1



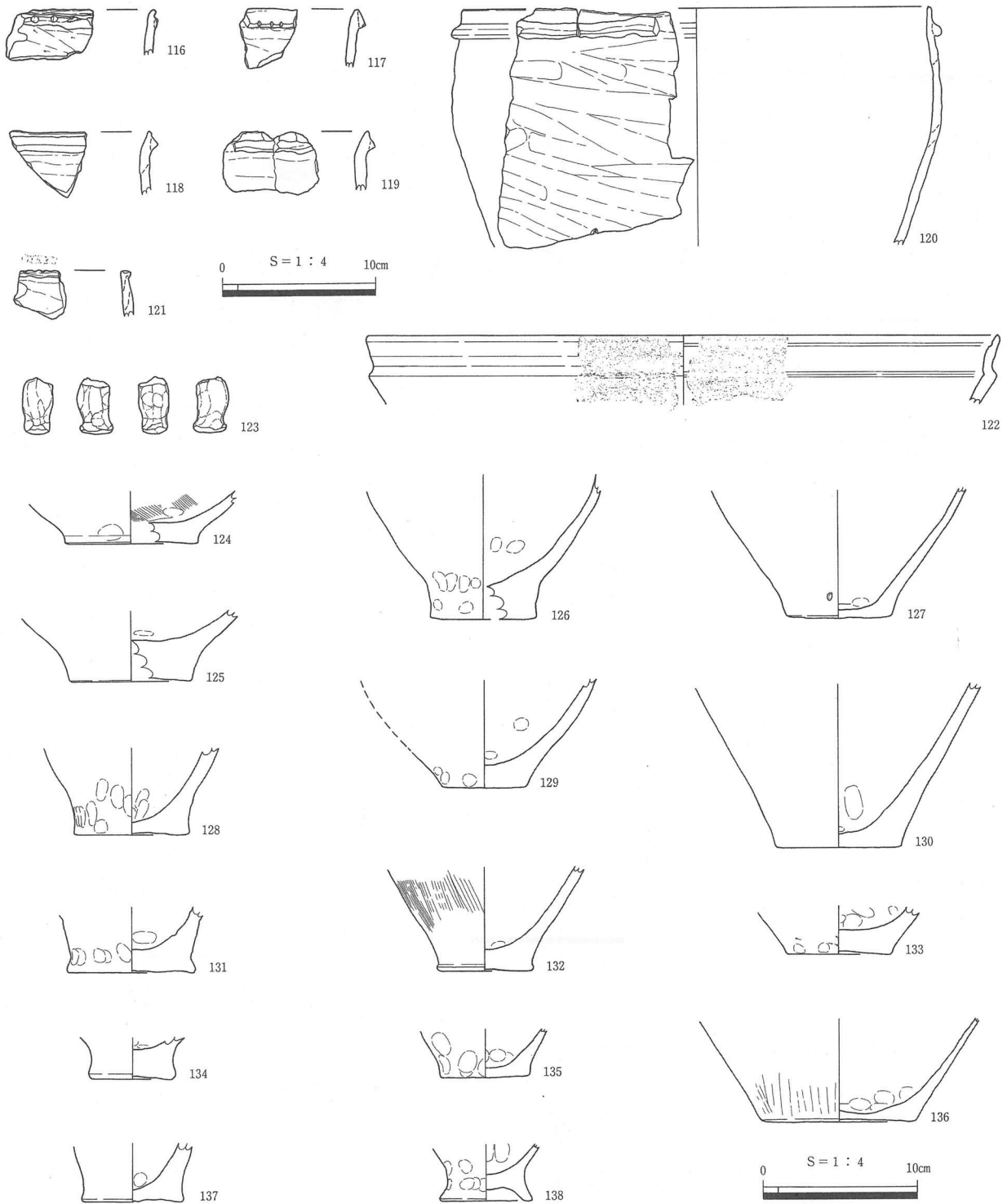
第36図 SD 9 ②～⑤層出土遺物 2



第37図 SD9②~⑤層出土遺物3



第38図 S D 9 ②～⑤層出土遺物 4



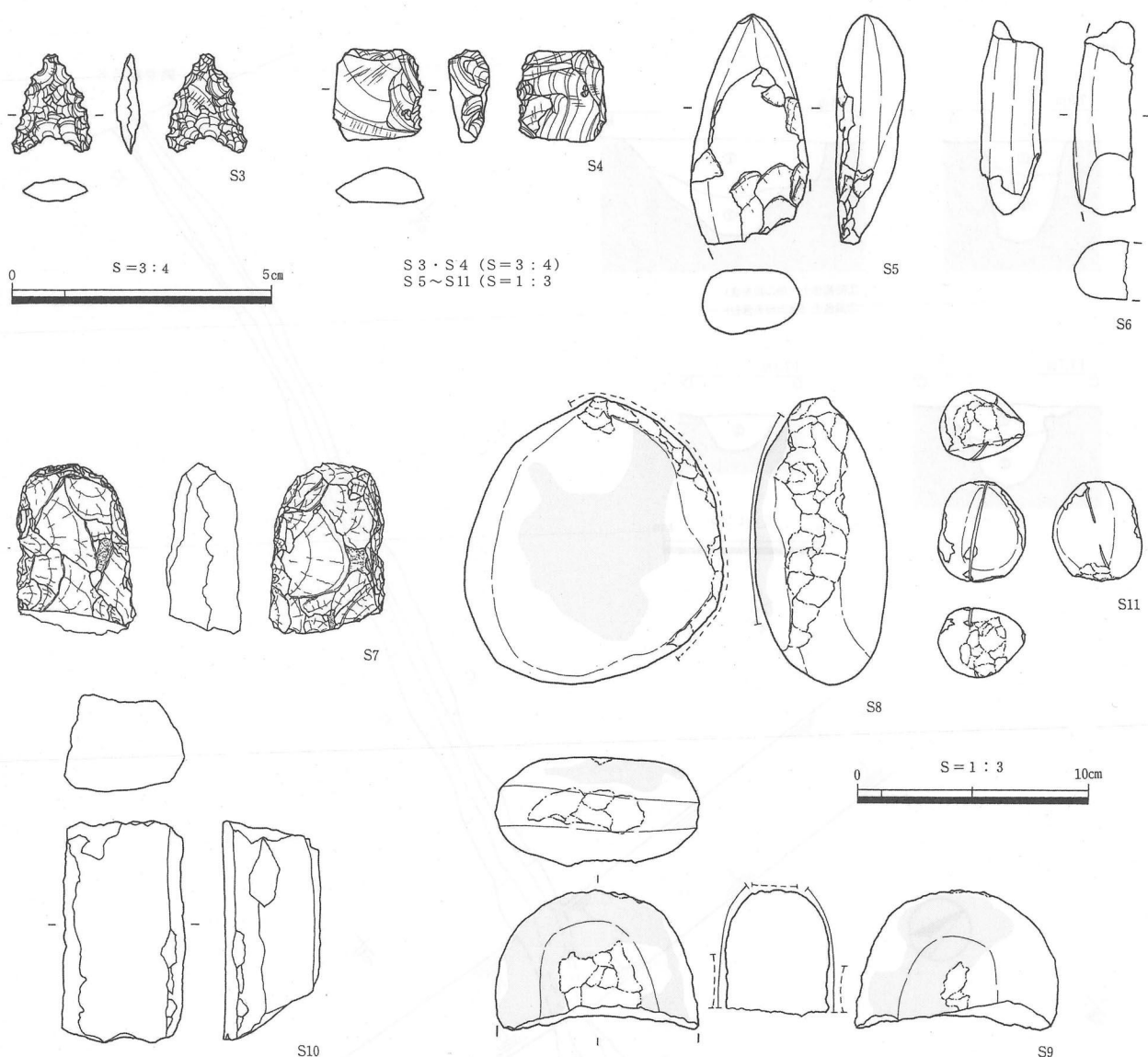
第39図 S D 9 ②~⑤層出土遺物 5

する浅い鉢で、同じく焼成前の穿孔が口縁部に2カ所施されている。

60~115は弥生時代中期前葉を主体とするが、2次的な堆積なので、弥生時代前期後葉の土器が含まれている可能性がある。また、114・115は黒褐色を呈し、焼成が他の土器とは多少異なるので、縄文時代に遡るものかもしれない。

116~119は縄文時代晩期後葉の土器で、116・117は刻目突帯文土器の深鉢、118・119は無刻目突帯文土器の深鉢である。116は古市河原田式、117は古海式である。118・119は古市河原田式であろう。120は弥生時代前期の





第40図 SD9出土遺物

突帯文系土器と考えられる。121は口縁端部上面に刺突が施される。内傾接合が確認できることから、突帯文土器の一種と考えておきたい。122は縄文時代晩期中葉～後葉の浅鉢である。123は土製品で足形を呈す。縄文時代の土偶右足部片であろう。

第39図124～138は弥生時代中期前葉のものと思われる底部片である。

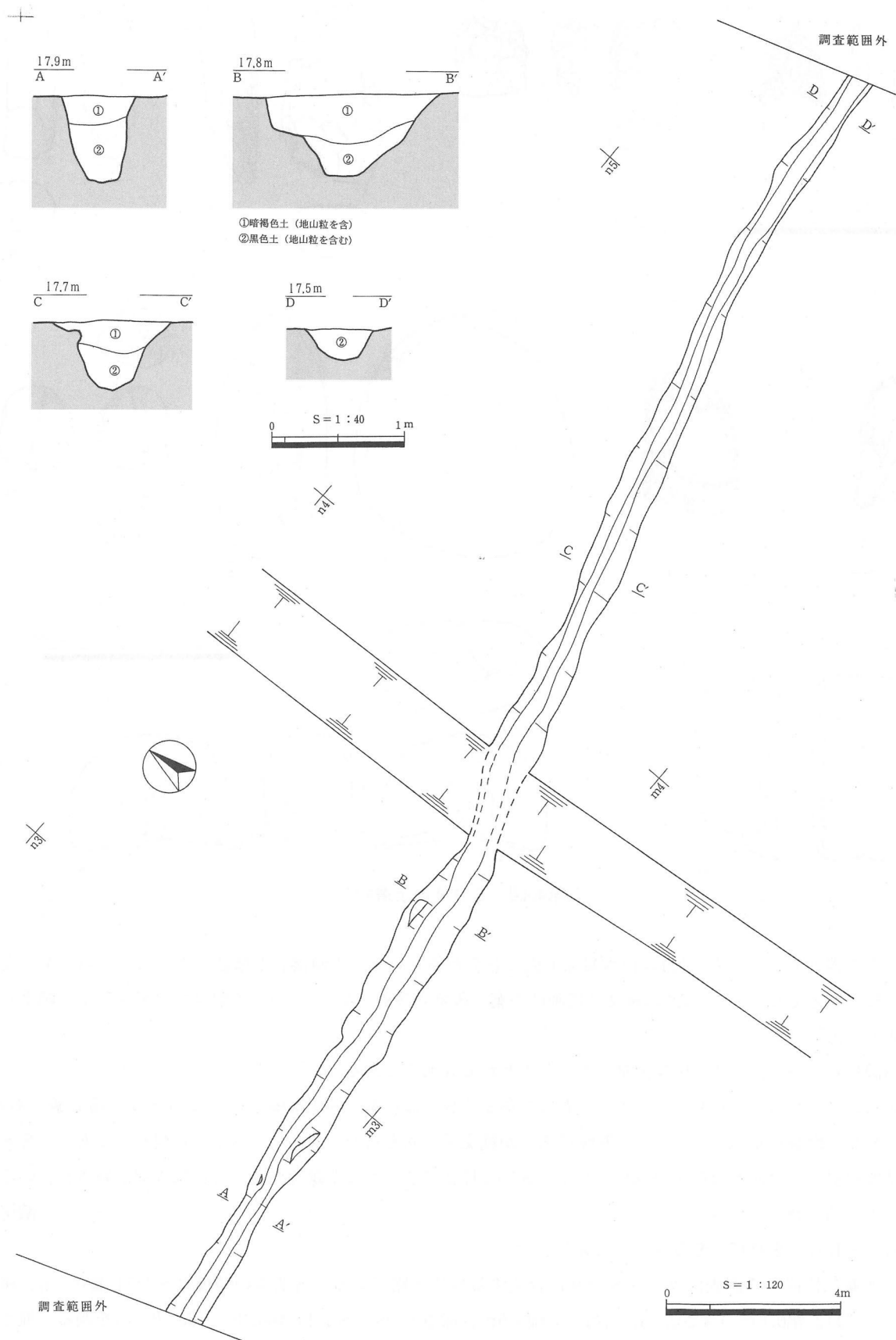
第40図S3～S11はSD9から出土した石器である。S3は石鏃、S4は楔形石器、いずれも黒曜石製である。S5・S6は磨製石斧である。S5は厚味はあるが縄文系の両刃石斧であろう。S7は打製石斧である。S8・S9は礫石器で、磨面と敲打痕が認められる。S10は柱状に加工された礫である。S11は線刻が施されている小礫で、上下端に敲打痕が残る。(濱田)

SD11・SD12・SD13・SD14 (第31図)

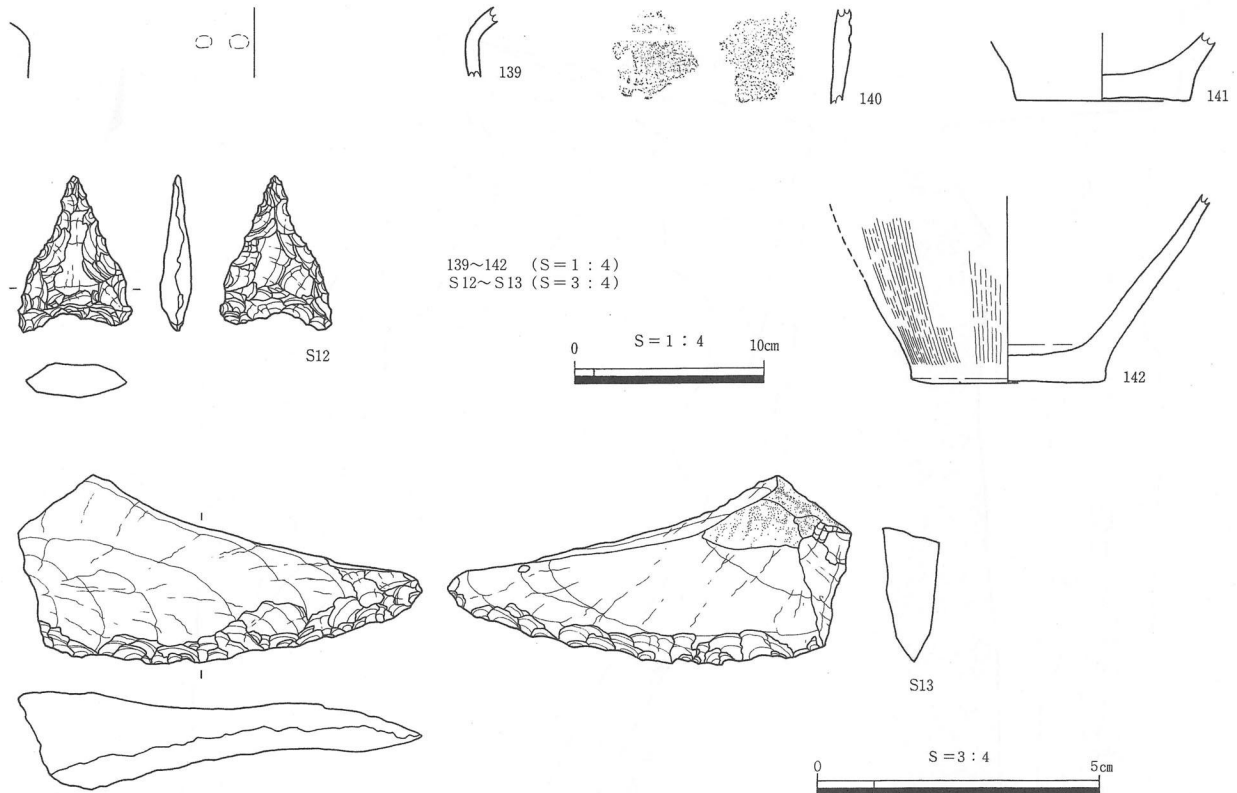
2区西側に位置する調査区外からSD9に合流する自然流路である。各遺構の規模はSD11 幅0.5m、深さ0.1m、SD12 幅0.6m、深さ0.1m、SD13 幅0.6m、深さ0.1m、SD14 幅0.3m、深さ0.1mを測る。埋土はいずれも単層で暗灰褐色土が堆積していた。遺物は出土していない。(濱田)

SD15 (第41図・第42図139～142・S12・S13)

3区に位置し、ほぼ南北に直線的に延びる溝状遺構である。調査区外の東西にさらに続いている。検出規模は



第41図 S D 15



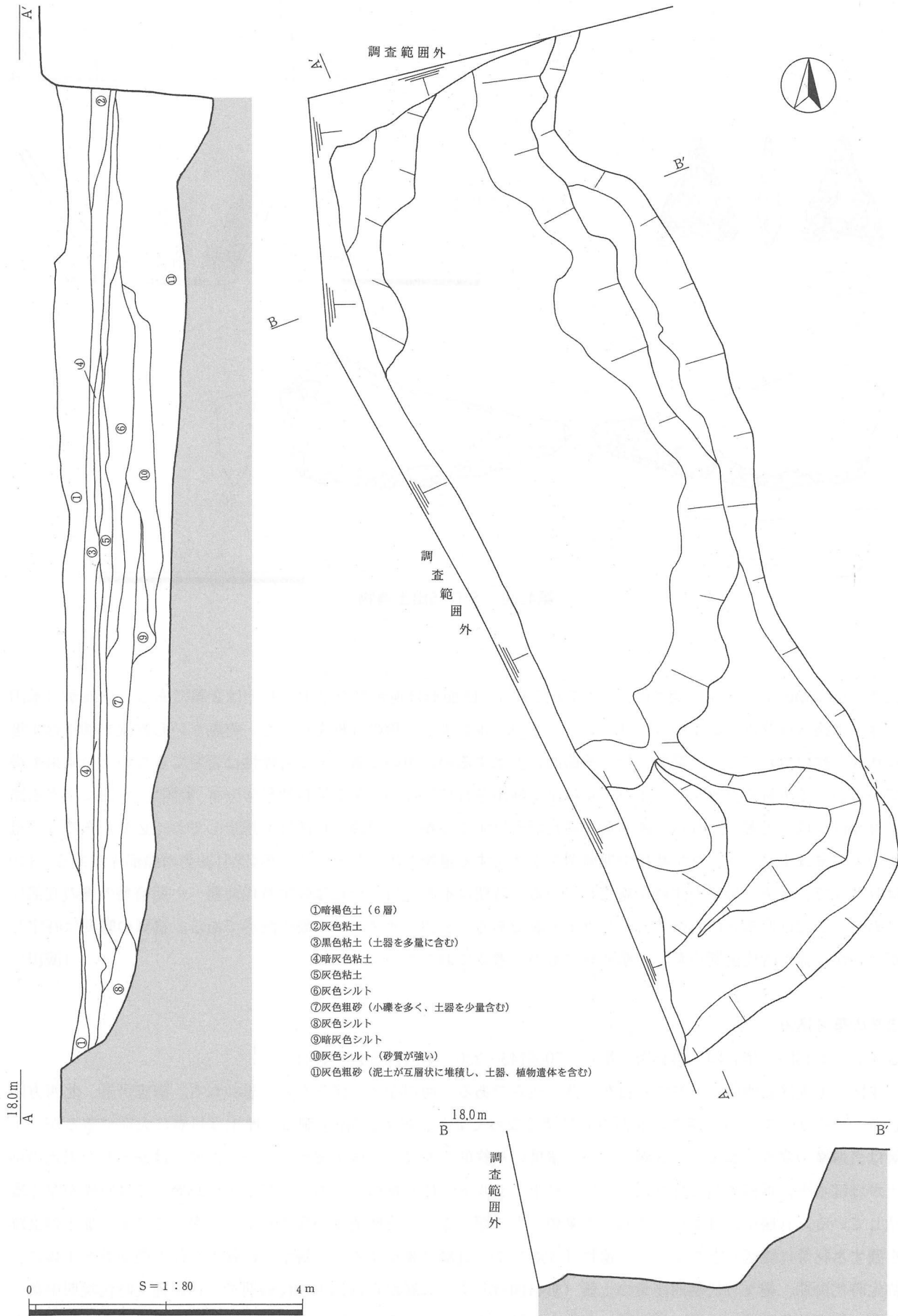
第42図 S D 15出土遺物

長さ32m、幅0.6～1.3m、深さ0.25～0.7mである。断面形は逆台形を呈す。埋土は2層である。立地から水田に伴う水路の可能性があるので、プラント・オパールおよび花粉の分析を行った。乾燥ないし乾湿を繰り返す堆積状況が想定されており、農耕に伴い季節的に引水するのに用いる溝である可能性は否定できないとの結果を得ているが、イネ科のプラント・オパールは全く検出されていない(第7節自然科学分析 参照)。水田に伴う水路の可能性は低いと考えられる。断面形が逆台形を呈すことから、環濠の可能性も想定しておく必要がある。遺物の出土量は少ないが、弥生時代中期前葉を主体とする遺物が出土している。第42図139甕の頸部片である。140は胴部片で、2条の幅広の沈線が施されている。時期は不明。141・142は弥生時代前期～中期前葉の甕の底部片である。S12は凹基式の石鏃で、サヌカイト製である。S13はサヌカイト製の削器である。遺構の時期は特定しがたいが、弥生時代前期中葉～中期前葉のものと考えておきたい。(濱田)

#### 自然の落ち込み

S X 2 (第43図・第44図・第45図・第46～50図143～230・第51図S14～S21)

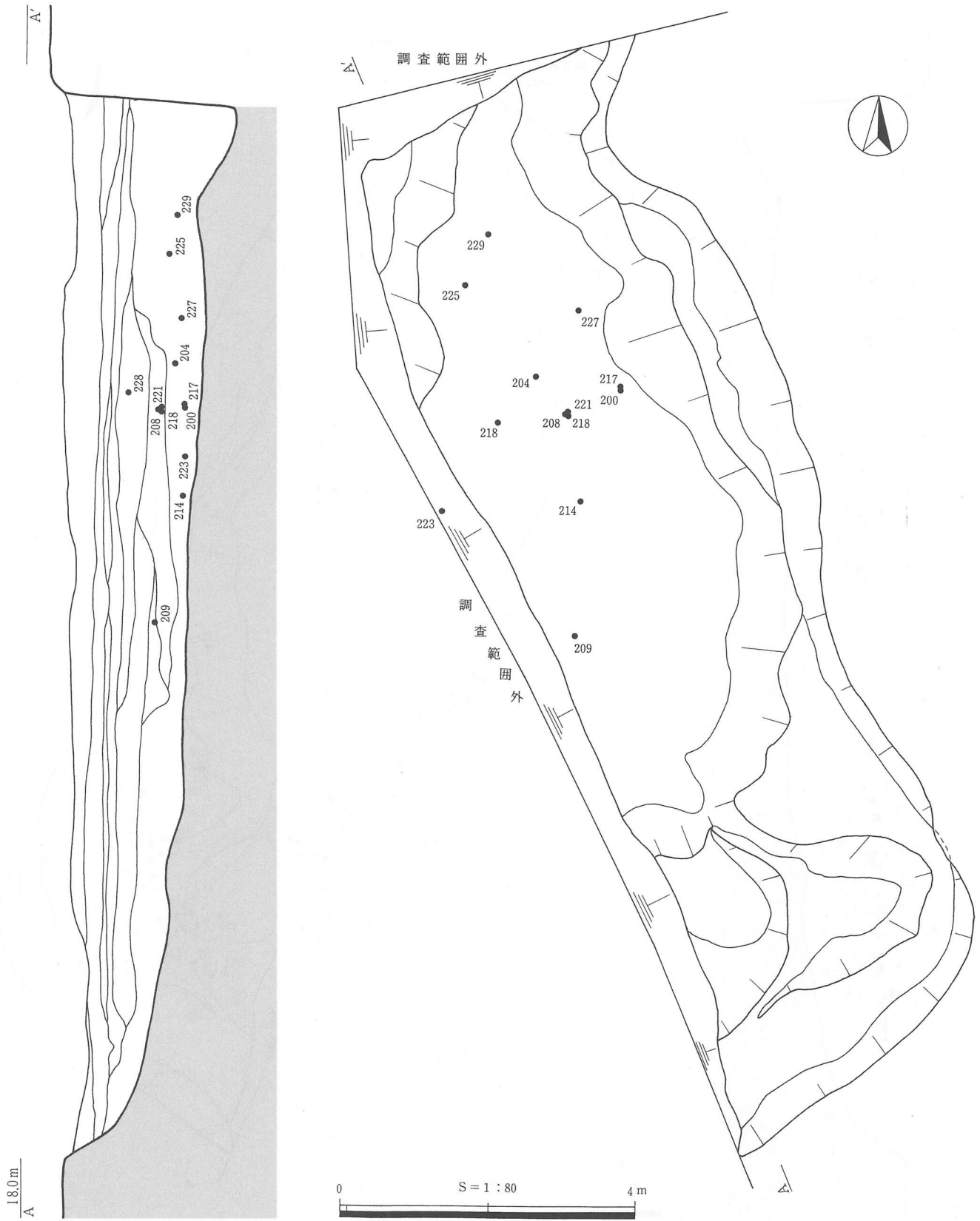
4区、調査区北西隅に位置する自然の落ち込みである。河川などに伴うものと思われる。調査区外、北西方向にさらに広がっている。深さは北西方向に深くなっており、最大2.5mを測る。埋土は11層に大別できるが、①層は当遺構の窪みに溜まった6層であり、遺構の最終的な埋没とは直接関係しない。③層には安定した黒色の粘土がほぼ水平に堆積する。それ以下では、粘土、シルト、砂が堆積しており、最下層(⑩層)では粗砂が厚く堆積している。⑩層中には木片、流木、堅果類(トチ類)などの自然遺物が含まれていたが、この中に加工の痕跡を残す木材等は確認できなかった。遺物は③層と⑦～⑩層に集中する。③層からは弥生時代中期前葉を主体に、弥生時代前期、縄文時代晩期後葉の土器(第44図)が、⑦～⑩層からは弥生時代前期を主体に縄文時代晩期中葉～後葉、縄文時代後期の土器(第45図)が出土している。このような遺物の出土傾向は、概ね、各層の堆積時期を示しているものと思われる。また、③層からはイネ科のプラント・オパールが少量検出されているが、周辺から



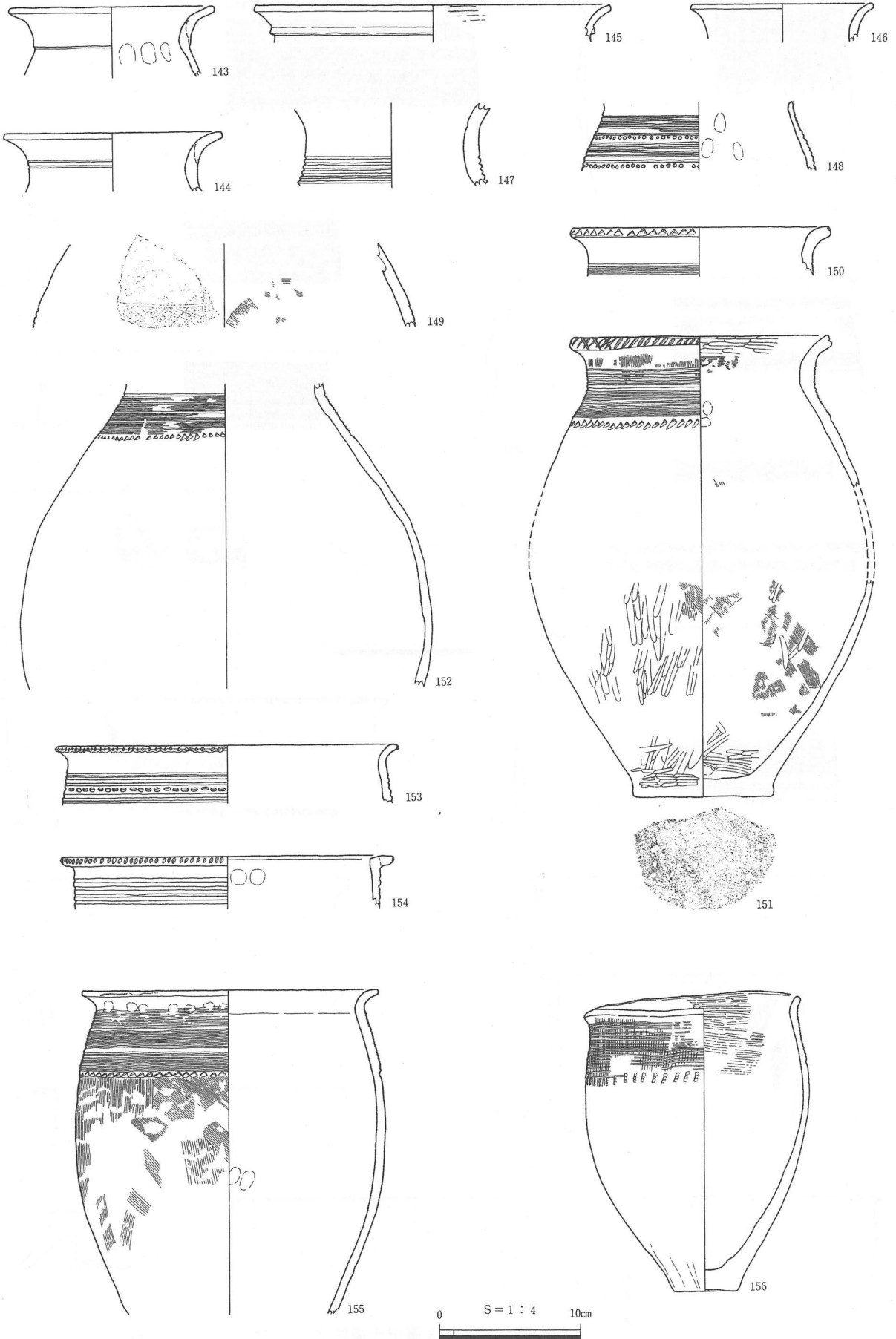
第43図 SX 2



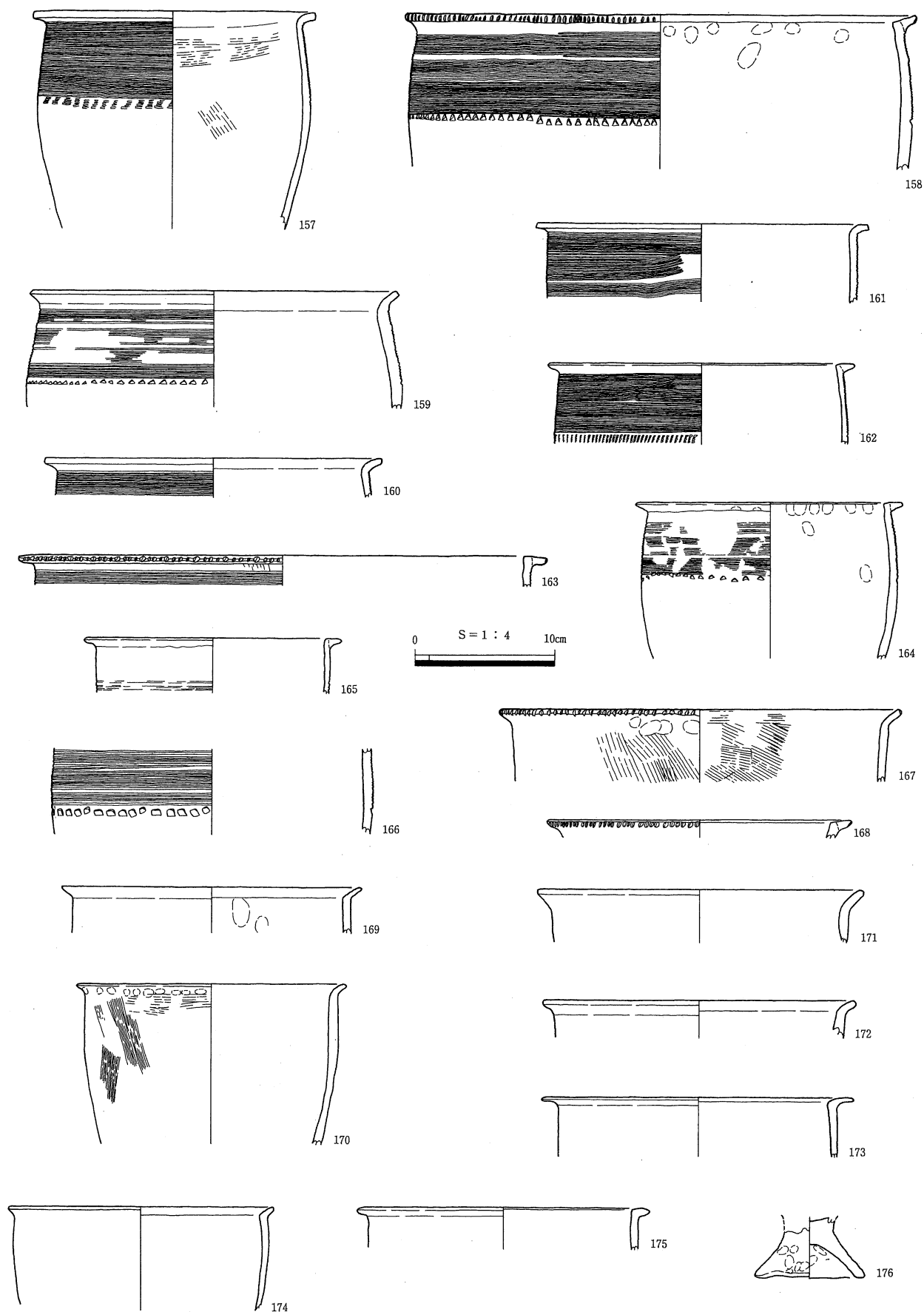
第44図 S X 2 ③層遺物出土状況



第45図 S X 2 ⑦～⑪層遺物出土状況

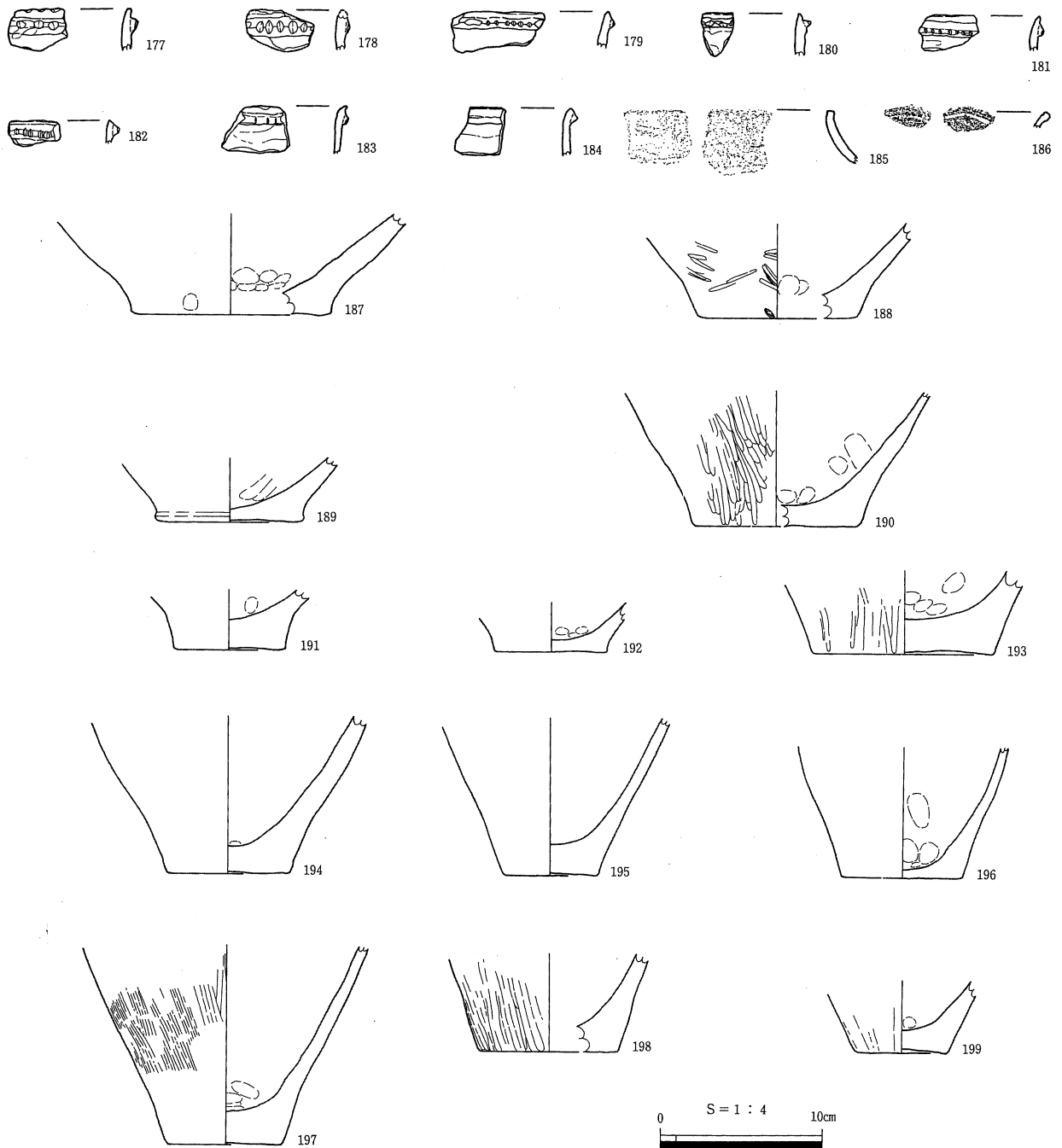


第46図 S X 2 ③層出土遺物 1



第47図 SX2③層出土遺物2



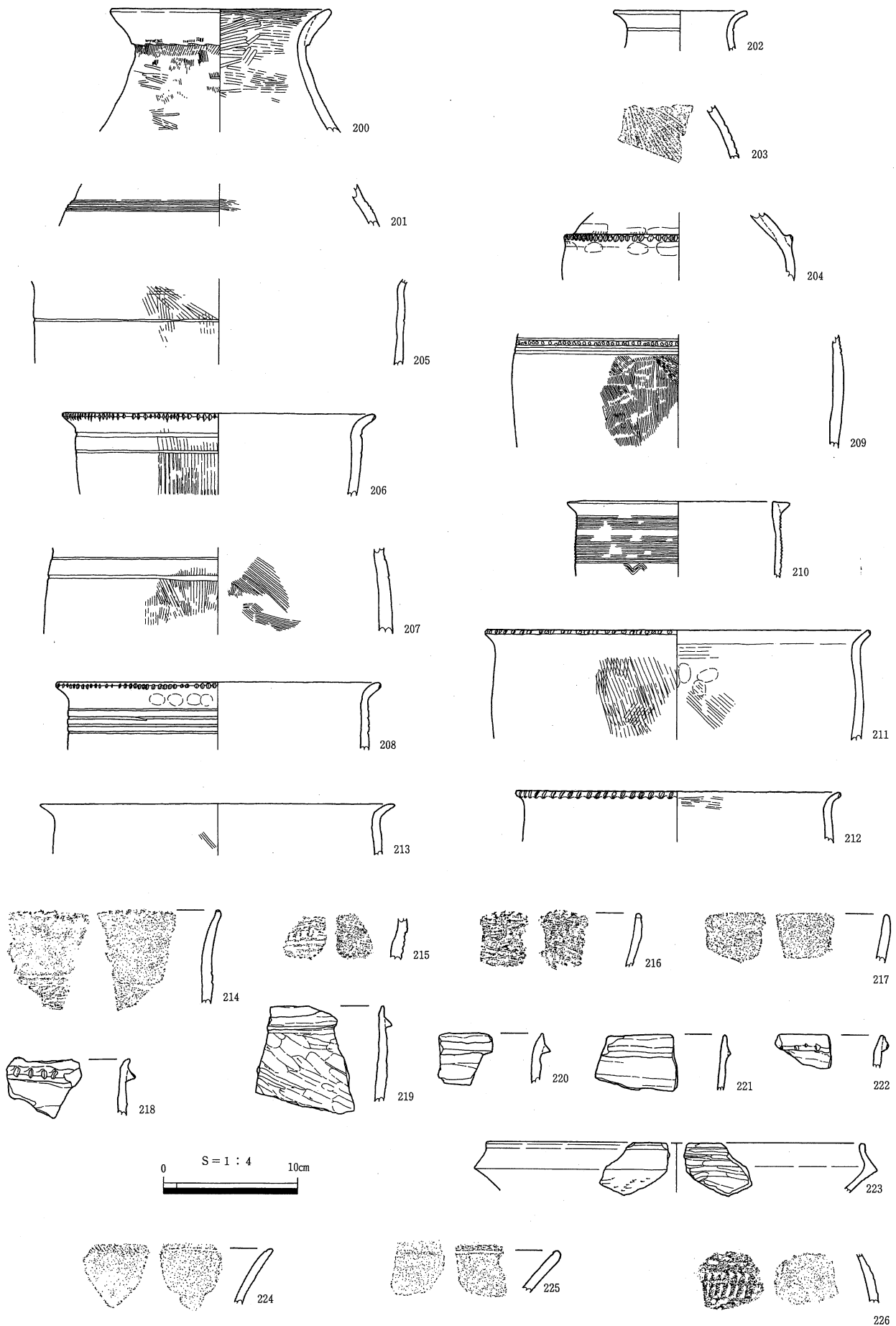


第48図 S X 2 ③層出土遺物 3

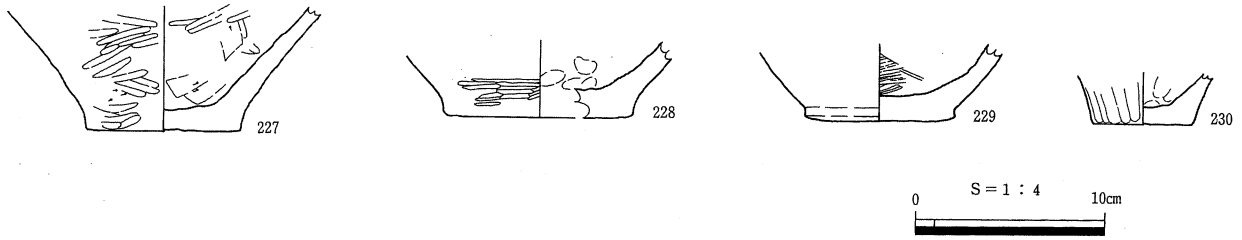
流入したものと思われ、当遺構に堆積する③層で水田耕作が行われていた可能性は低い。しかし、弥生時代中期前葉に当遺跡周辺に水田が存在していたことは間違いなからう。

第46図143～156、第47図157～176、第48図177～199は③層から出土した土器である(第44図)。

143～152は壺である。143・144・149は③層出土の壺の中では古相の一群で、143の口頸部界には段、144の口頸部界には2条の沈線が施される。149は胴部片で、ヘラ状工具で格子目文が施される。145の口頸部界には突帯が施される。146も壺の口縁部であろう。147は長胴で口縁が広く開く壺の頸部片で、6条以上のヘラ描沈線が施されている。148もヘラ描沈線が施される壺の頸部で、5～6条からなるヘラ描沈線と円形の刺突による文様帯が2段に構成されている。151は長胴形の壺である。口縁端部にはヘラ描文様が施されているが、斜行する沈線が途中で格子目文となる。頸部にはクシ描文、三角形の刺突が施される。底部は平底である。また、底面には粗



第49図 S X 2 ⑦~⑩層出土遺物 1



第50図 S X 2 ⑦～⑪層出土遺物 2

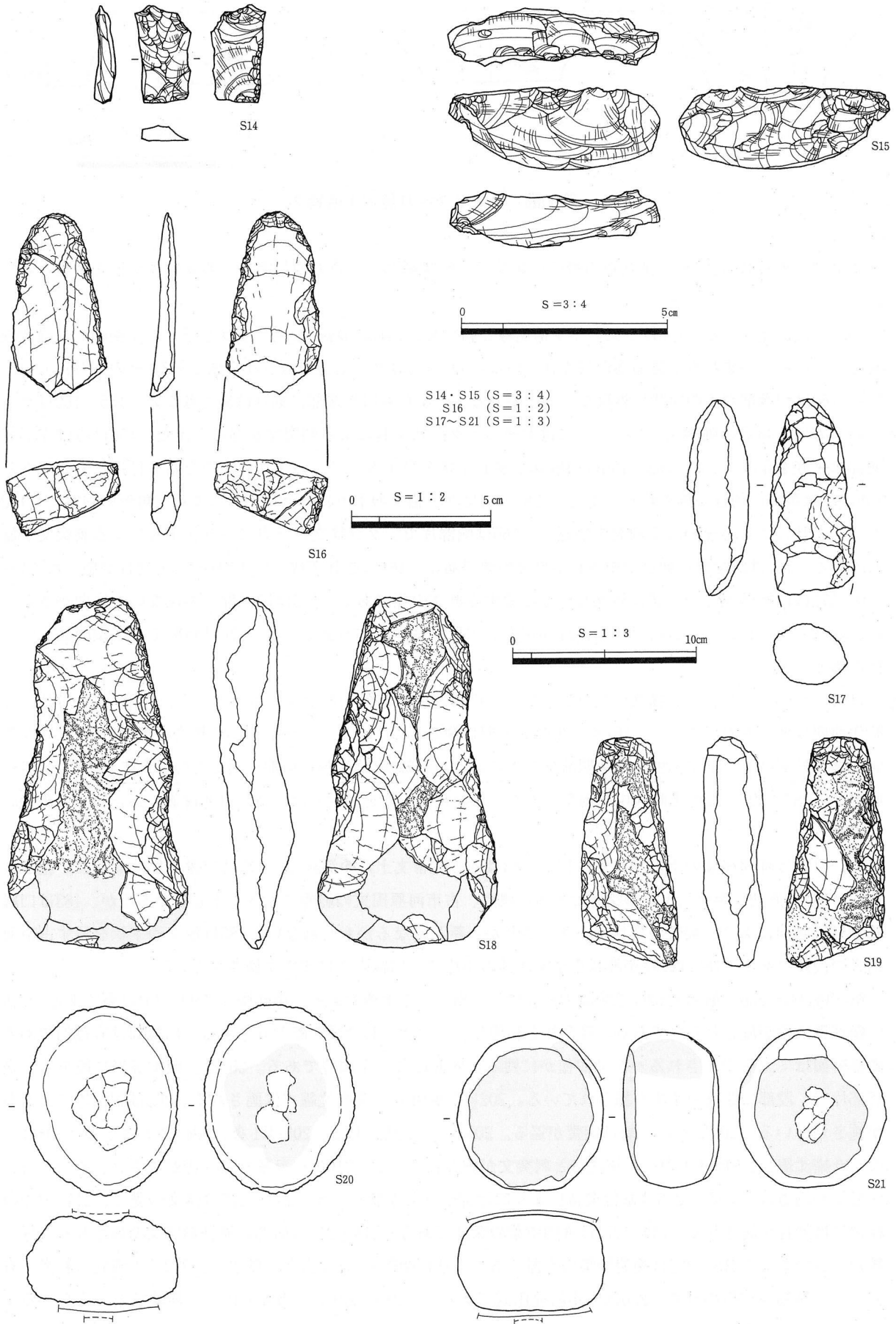
の圧痕が認められる。150も長胴形の壺の口縁部で、口縁端部に三角形の刺突文、頸部にクシ描文が施されている。

153～175は甕である。153は5条のヘラ描沈線と刺突文、154は口縁部が逆L字状を呈し、4条のヘラ描沈線が施されている。いずれも口縁端部が刻まれている。155～166はクシ描文が施される甕である。そのうち155～157・159・160は口縁部がくの字状に外反ないし屈曲する。いずれも口縁端部に刻目は施されない。155・159はクシ描文の下方に三角形の刺突文、156・157にはおそらくクシ状工具による刺突文が巡る。また、156はほぼ完形で、底部は平底を呈す。158・162～165は口縁部が逆L字状を呈すもので、いずれも突帯を貼り付けたものである。158は口縁端部に刻目が施される。また、158・164はクシ描文の下方にヘラ状工具による三角形の刺突文、162はクシ状工具によると思われる刺突文が巡る。166は胴部片で、クシ描文の下方にヘラ状工具による刺突文が施されている。167は口縁部に刻目の施される無文の甕である。168は逆L字状を呈す口縁部で、刻目が施されている。170～172は口縁部がくの字状に外反ないし屈曲する無文の甕である。173は口縁部の外反ないし屈曲がさらに進み、ほぼ直角に折れる。174、175は口縁部が逆L字状を呈す無文の甕である。176は粗製で、小型の蓋ないし高坏の脚部と思われる。

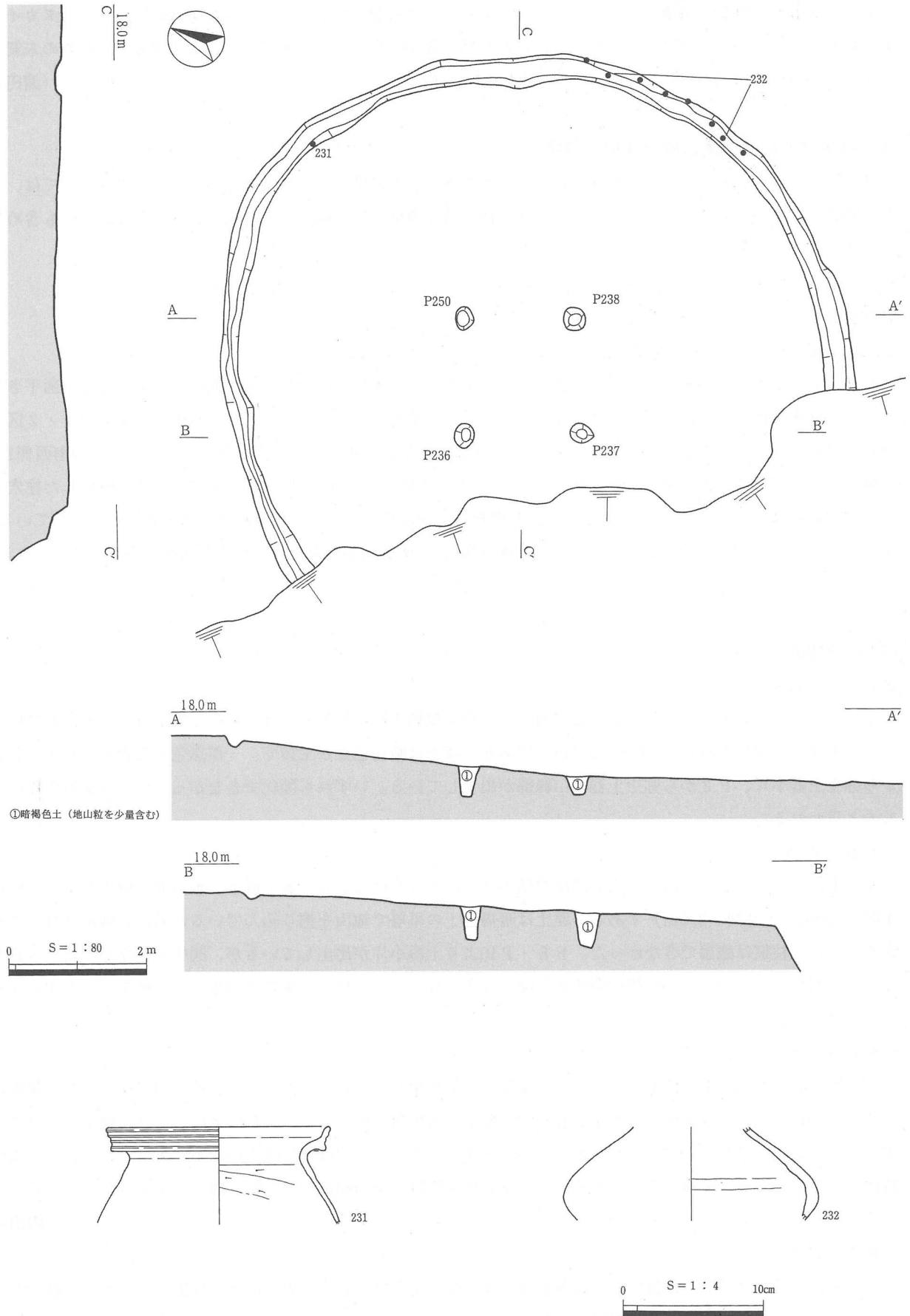
以上の土器のうち、クシ描文が施されているものは、弥生時代中期前葉のものである。143・144・149は弥生時代前期後葉のものであろう。167も弥生時代前期に遡るものであろう。168～175の無文の甕や176のような蓋ないし高坏脚部は、大半が弥生時代中期前葉のものと思われるが、弥生時代前期に遡るものも含まれているだろう。底部片(187～199)は弥生時代中期前葉のものと思われるものを図示した。187～190は壺、191～199は甕の底部片であらう。

177～186は晩期後葉の土器である。177～183は刻目突帯文土器の深鉢で、177は口縁端部にも刻目が施されている。184は無刻目突帯文土器の深鉢である。概ね、古市河原田式の範疇におさまるものであるが、183は口縁端部が外反傾向にあり、突帯の刻目が小さいことから新しくなるかもしれない。185は逆くの字状を呈す古市河原田式の浅鉢である。186は口縁が波状を呈す浅鉢の小片で、口縁内面に沈線が施されている。

第49図200～226、第50図227～230は⑦～⑪層から出土した土器である(第45図)。200～204は壺である。200は口頸部界に段が施される壺である。接合部を利用し、ハケ状工具で段の際どりをする。口縁部は直線的である。頸部外面はミガキが施されるハケメが僅かに残る。内面はミガキ調整である。201は、頸胴部界に段をもつ壺の肩部片で、段部に3条の沈線が施されている。202は口頸部が1条の沈線で区画される。203は胴部片で、木葉文が施されている。204は肩部に刻目突帯が巡る。205～213は甕である。205は1条、206・207は2条、208は4条のヘラ描沈線、209は3条のヘラ描沈線と刺突文が施されている。210はヘラ描多条沈線が施され、その下方には山形文が施されている。210は貼付突帯により口縁部が逆L字状を呈す。211～213は無文の甕で、211・212の口縁部には刻目が施される。214～217は晩期中葉の深鉢である。214・215は肩部に連続刺突文の施される谷尻式系統の土器である。218～223は晩期後葉の土器である。刻目突帯の218は古市河原田式、222は古海式の特徴を有している。無刻目突帯のうち、220は古市河原田式であらう。219・221も古市河原田式の範疇でとらえられるが、弥生時代前期中葉の突帯文系土器の可能性も否定できない。223は逆くの字状を呈す古市河原田式の浅鉢である。224・225は、口縁部内面には1条の沈線が施されており、縄文ないし擬縄文が確認できることから、崎ヶ鼻式～



第51図 S X 2 出土遺物



第52図 S11及び出土遺物

彦崎KⅡ式に位置づけられる。226は爪形文が施される胴部片で、縄文土器と思われるが、詳細はわからない。

第51図S14～S21は当遺構から出土した石器である。黒曜石製の楔形石器（S14）、石核（S15）、サヌカイト製の打製石剣（S16）、太型蛤刃石斧（S17）、礫石器（S20・S21）は③層出土である。両刃磨製石斧の未製品（S19）、分銅形の打製石斧（S18）は⑦～⑩層出土である。（濱田）

#### 4. 弥生時代中期中葉以降の遺構と遺物

3・4区では表土ないし5・6層除去後、地山面で検出した遺構のうち、遺物を伴わないものについては、時期を特定しがたいものが多数ある。ここでは地山面（第2遺構面）で検出した時期の特定できないものも含め報告する。

##### 竪穴住居跡

###### S11（第52図・第52図231・232）

k5・k6・l5・l6グリッドに位置する。円形を呈し、規模は直径約9mである。上面を著しく削平されており、壁溝と柱穴が検出できたにすぎない。2・3区にまたがっており、2区側で検出した壁溝を1・2区調査時には竪穴住居跡の壁溝と認識しておらず、SD9に連なる小溝と捉え調査を進めたため、遺構の南西側1/3は掘り飛ばしてしまった。壁溝の幅は0.2～0.4m、深さは最大で0.2mである。遺構の中央部で検出した柱穴の各柱穴間距離は約1.4mである。壁溝、柱穴とも暗褐色土が堆積していた。壁溝内からは土器片が出土している。第52図231は甕、232は壺の胴部片である。当遺構の時期は、壁溝内出土遺物より弥生時代後期中葉と考えられる。（濱田）

##### 掘立柱建物跡

###### SB4（第53図）

1区南、d6～e6グリッドにかけて位置する。圃場整備のさい削平を受けており、表土直下、地山面で検出した。規模は1間（2.8m）×1間（2.7m）である。埋土は暗褐色土が主体で、一部黒色土を含む。P1・P3から弥生土器小片、P2から弥生土器の口縁部が出土している。いずれも図化できなかったが、弥生時代後期のものと思われる。（内田）

###### SB5（第53図）

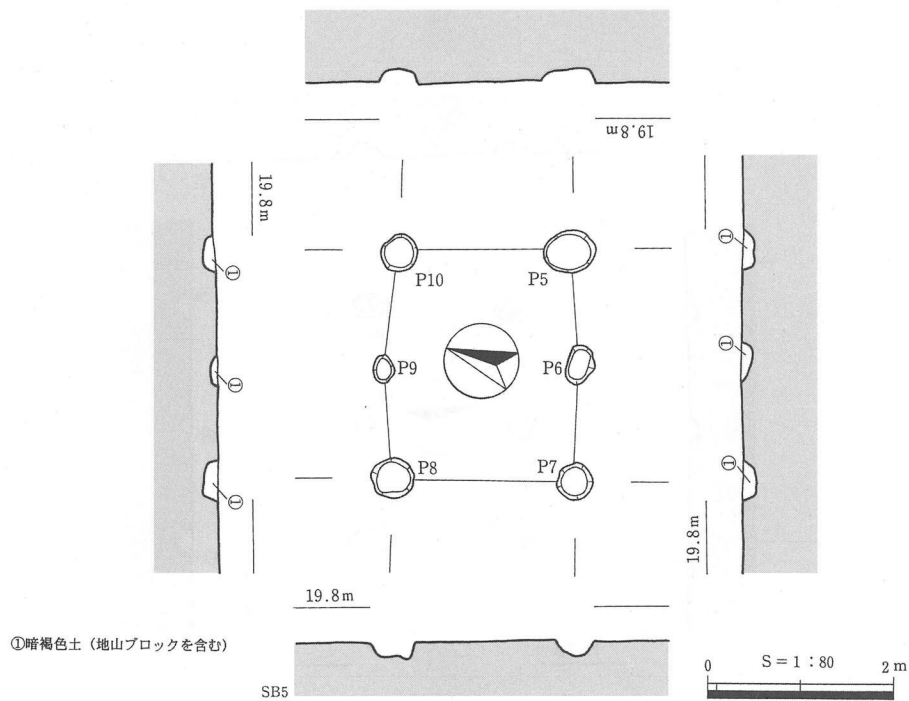
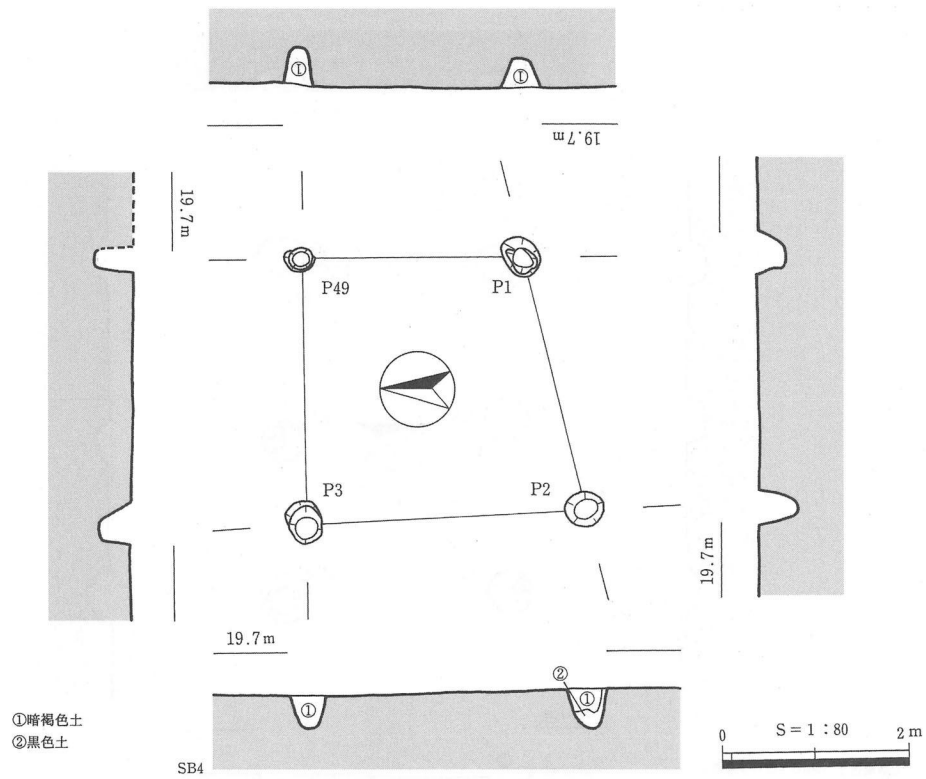
1区南、e7グリッドに位置する。圃場整備のさい削平を受けており、表土直下、地山面で検出した。規模は1間（1.9m）×2間（2.5m）である。埋土は暗褐色土の単層で地山を掘り込んでいるためか、地山ブロックを含んでいた。柱痕は観察できなかった。P8・P10より土器小片が出土しているが、図化できなかった。SB6などとの関係、埋土から弥生時代中期中葉以降と考えられる。この掘立柱建物跡の東には主軸を同じくするSB6・SB7がある。（内田）

###### SB6（第54図・第74図250）

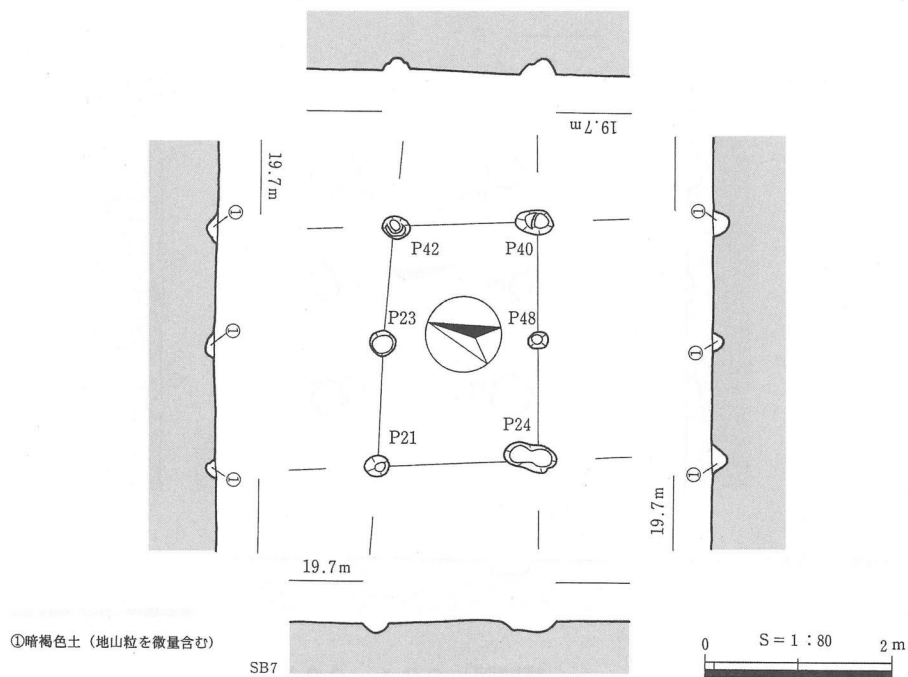
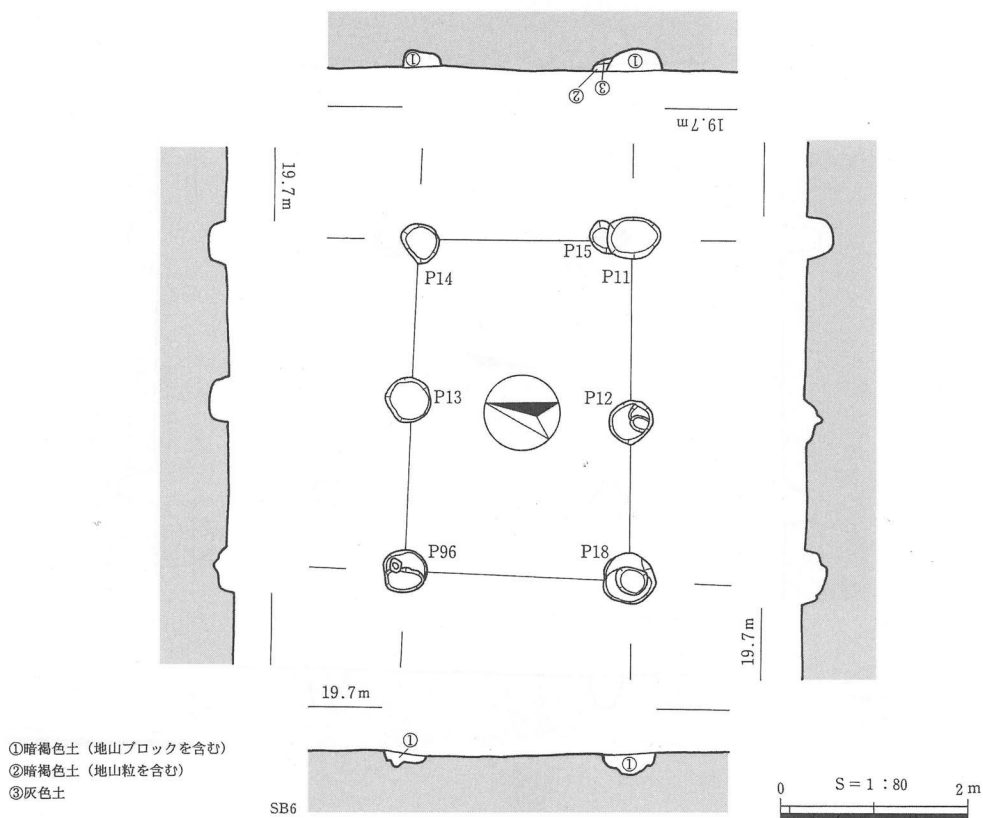
1区南、e8グリッドに位置する。圃場整備のさい削平を受けており、表土直下、地山面で検出した。規模は1間（2.4m）×2間（3.6m）である。各柱穴の埋土は暗褐色土の単層で、SB5と同じように地山ブロックを多く含んでいた。遺物はP14から弥生時代中期頃と考えられる土器の底部（第74図250）が出土しており、弥生時代の中期中葉以降の遺構と考えられる。この掘立柱建物跡の東西両側には主軸を同じくするSB5・SB7がある。（内田）

###### SB7（第54図）

I区南、e8グリッドに位置する。圃場整備のさい削平を受けており、表土直下で検出した。西に主軸をそろえるSB5・SB6が隣接する。規模は1間（1.6m）×2間（2.5m）である。埋土は暗褐色土の単層で、地山

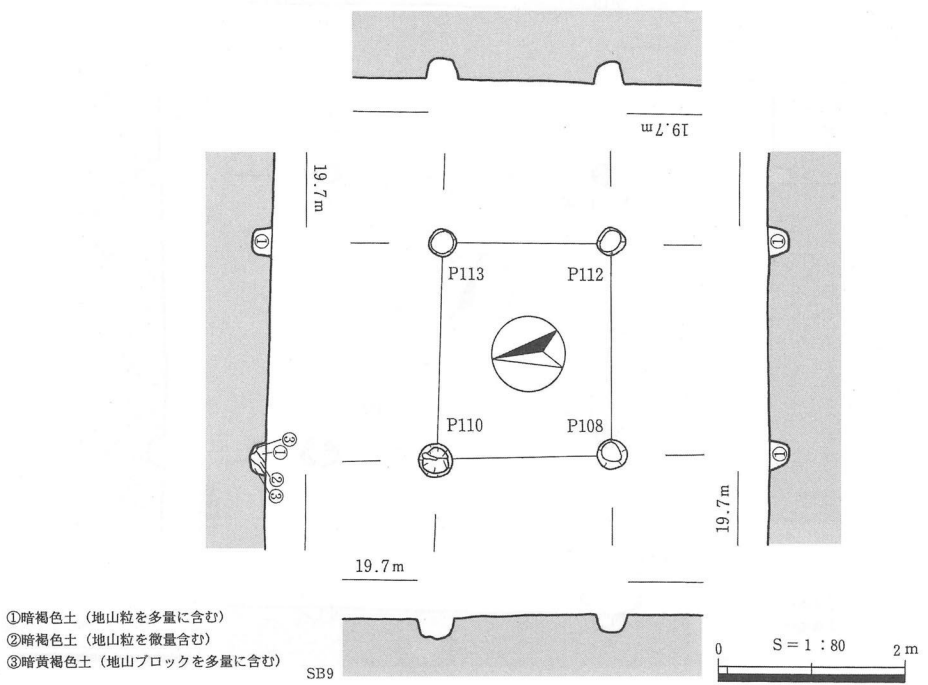
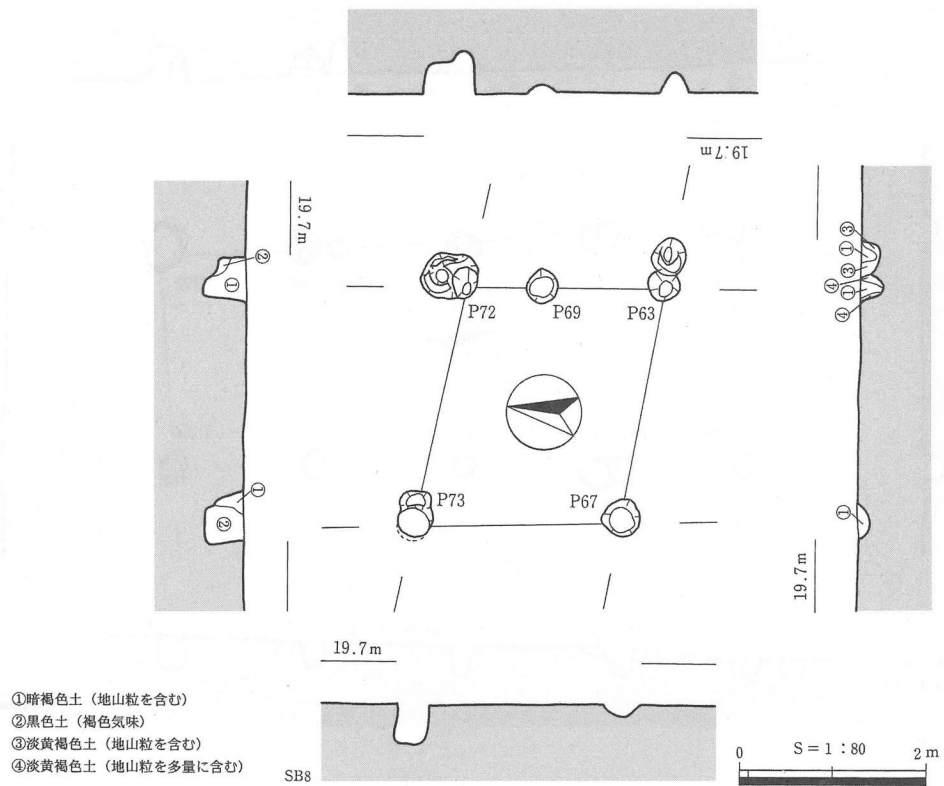


第53図 SB4・SB5

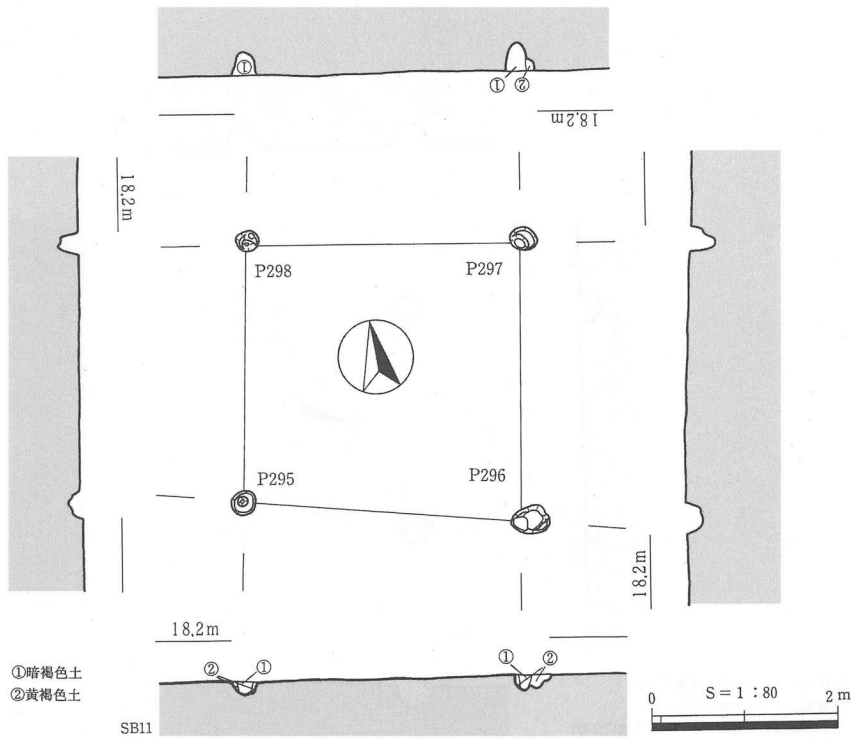
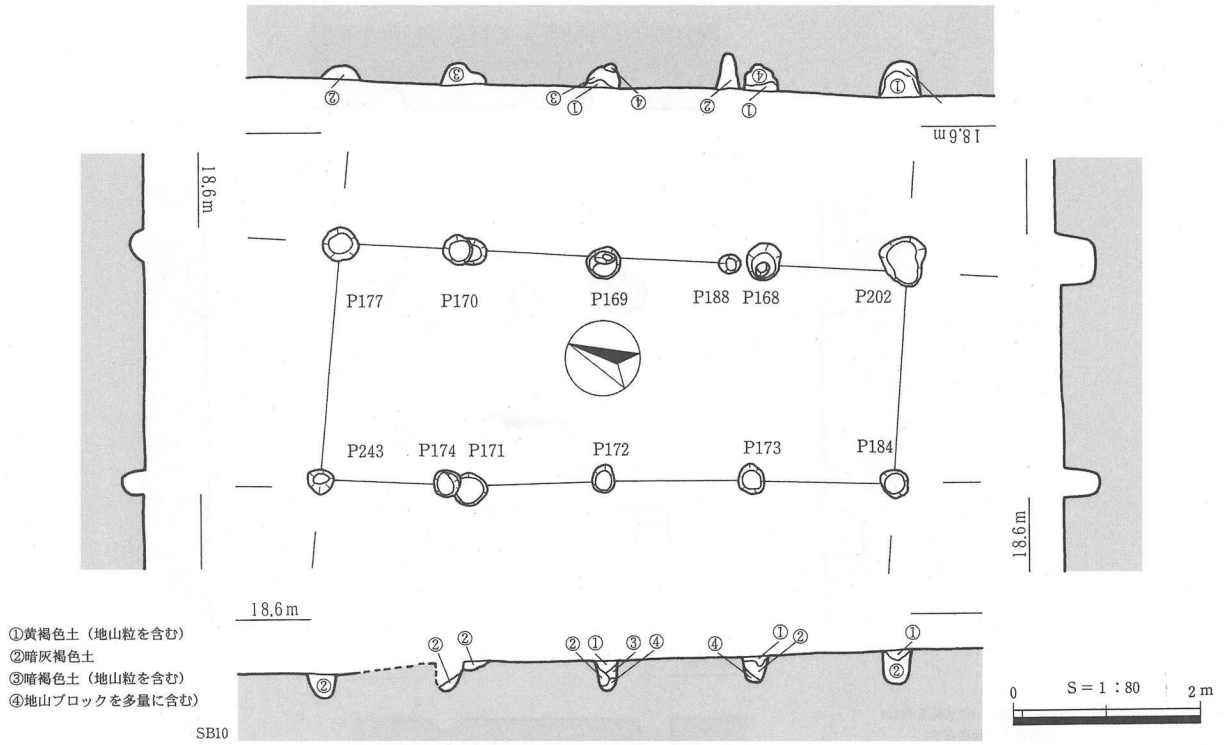


第54図 SB6・SB7

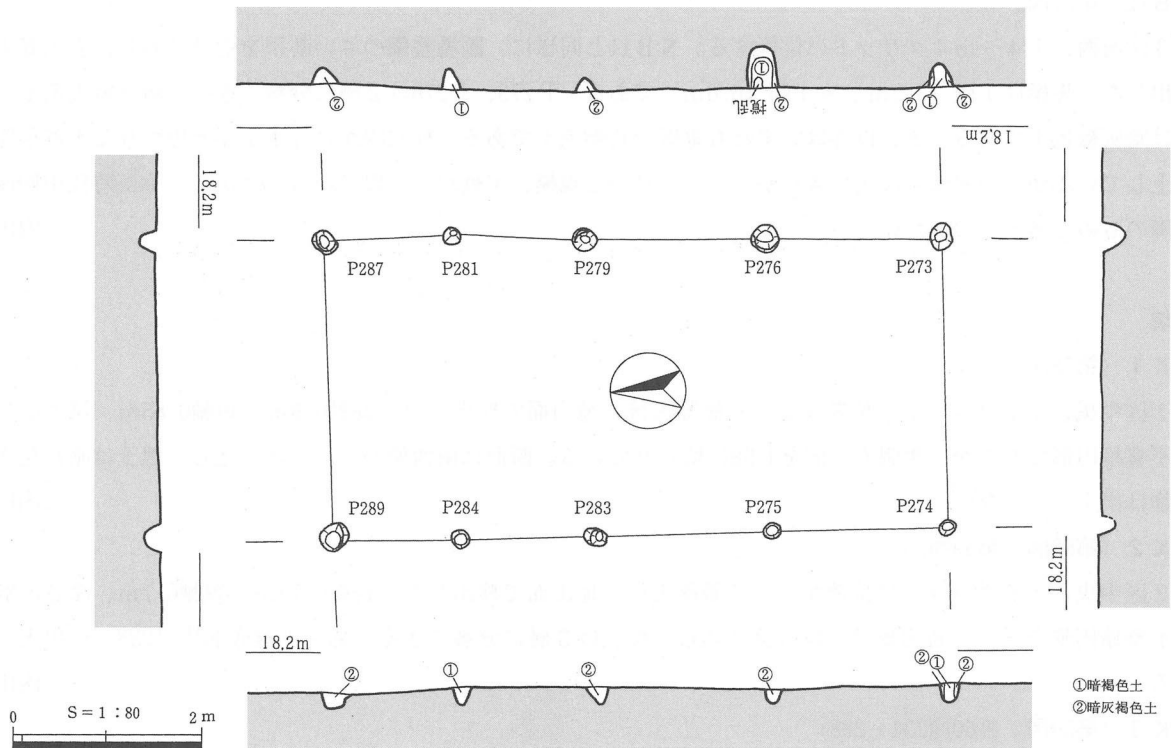




第55図 SB8・SB9



第56図 SB10・SB11



第57図 SB12

粒を少量含んでいた。遺物は出土していない。SB6との関係、柱穴埋土から弥生時代中期後葉以降のものと思われる。(内田)

SB8 (第55図)

1区東、e6～f6グリッドに位置する。圃場整備のさい削平を受けており、表土直下で検出した。規模は1間(2.2m)×1間(2.6m)である。埋土は2層で暗褐色土が主となり、黒色土や地山粒を含む。遺物は出土していない。SB5～SB7と主軸をそろえていることや、柱穴埋土から弥生時代中期後葉以降のものと思われる。(内田)

SB9 (第55図)

1区北西、g5～g6グリッドに位置する。6層除去後、地山面で検出した。規模は1間(1.8m)×1間(2.3m)である。P108・P112・P113は地山土粒を多量に含む暗褐色土の単層である。P110は地山粒の量で3層に分けられる。土器小片が1点出土しているが、図化できなかった。主軸の方向、柱穴埋土から弥生時代中期後葉以降のものと思われる。(内田)

SB10 (第56図・第74図267)

2区中央、i6～j6グリッドに位置する。6層除去後、地山面で検出した。規模は1間(2.3m)×4間(6.1m)である。調査区内を南西から北東へ蛇行するSD1にP174は切られている。遺物は土器小片が各柱穴から出土しており、P177からは弥生時代中期後葉と考えられる甕口縁部片(第74図267)を検出している。このことから、弥生時代中期後葉以降と考えられる。(内田)

SB11 (第56図)

3区西、m3～m4グリッドに位置する。すぐ南側にはSB12がある。圃場整備のさい削平を受けており、表土直下で検出した。規模は1間(2.9m)×1間(2.9m)である。P297・P298は暗褐色土の単層である。P295・P296は2層に分層でき、①層は暗褐色土、②層は黄褐色土である。遺物は出土しなかった。当遺構の時期は弥生時代中期後半以降と推測される。(内田)

S B 12 (第57図)

3区南西、14～m4グリッドに位置する。S B 11と同様に、圃場整備のさい削平を受けており、表土直下で検出した。規模は1間(3.2m)×4間(6.6m)である。P 273、P 276は2層に分層でき、①層は暗褐色土、②層は暗灰褐色土である。それ以外はいずれも単層で暗褐色土である。柱穴内から弥生土器と思われる土器小片が出土しているが、いずれも図化できなかった。S B 10と規模、主軸がよく似ていることから、弥生時代中期後葉以降のものと考えておきたい。(内田)

土坑

S K 1 (第58図)

1区中央、f7グリッドに位置する。6層除去後、地山面で検出した。長軸0.9m、短軸0.85m、深さ0.15mの不整楕円形であるが、西側の一部をP 98に切られている。断面は南西側が二段に落ち込む。埋土は暗褐色土、遺物は出土していない。(内田)

S K 2 (第59図・第59図233)

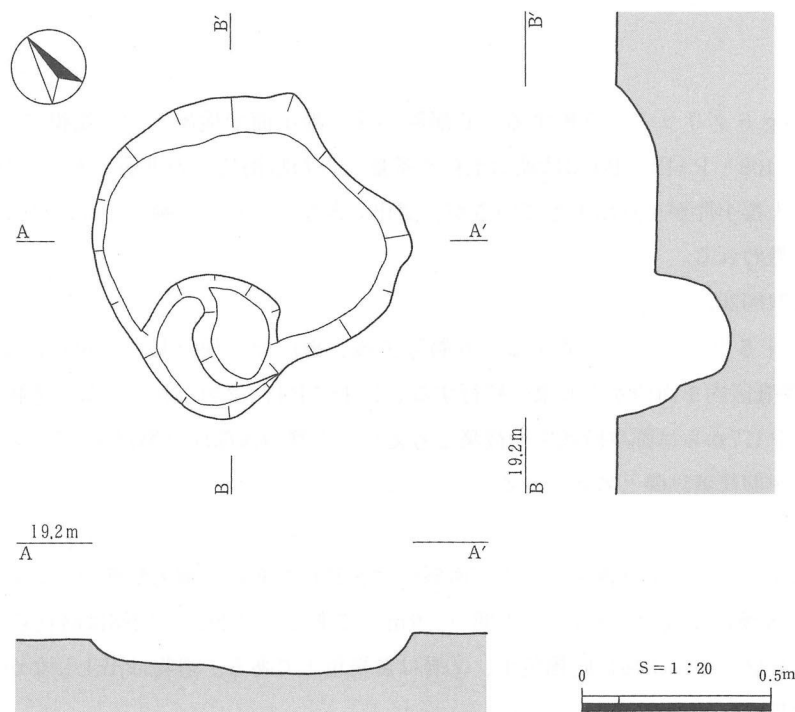
2区中央、j6グリッドに位置する。6層除去後、地山面で検出した。長軸0.75m、短軸0.7m、深さ0.35mの不整楕円形を呈す。断面形は二段に落ち込む。埋土は3層に分層できる。弥生土器底部片(233)が出土している。(内田)

S K 3 (第59図・第60図234～238)

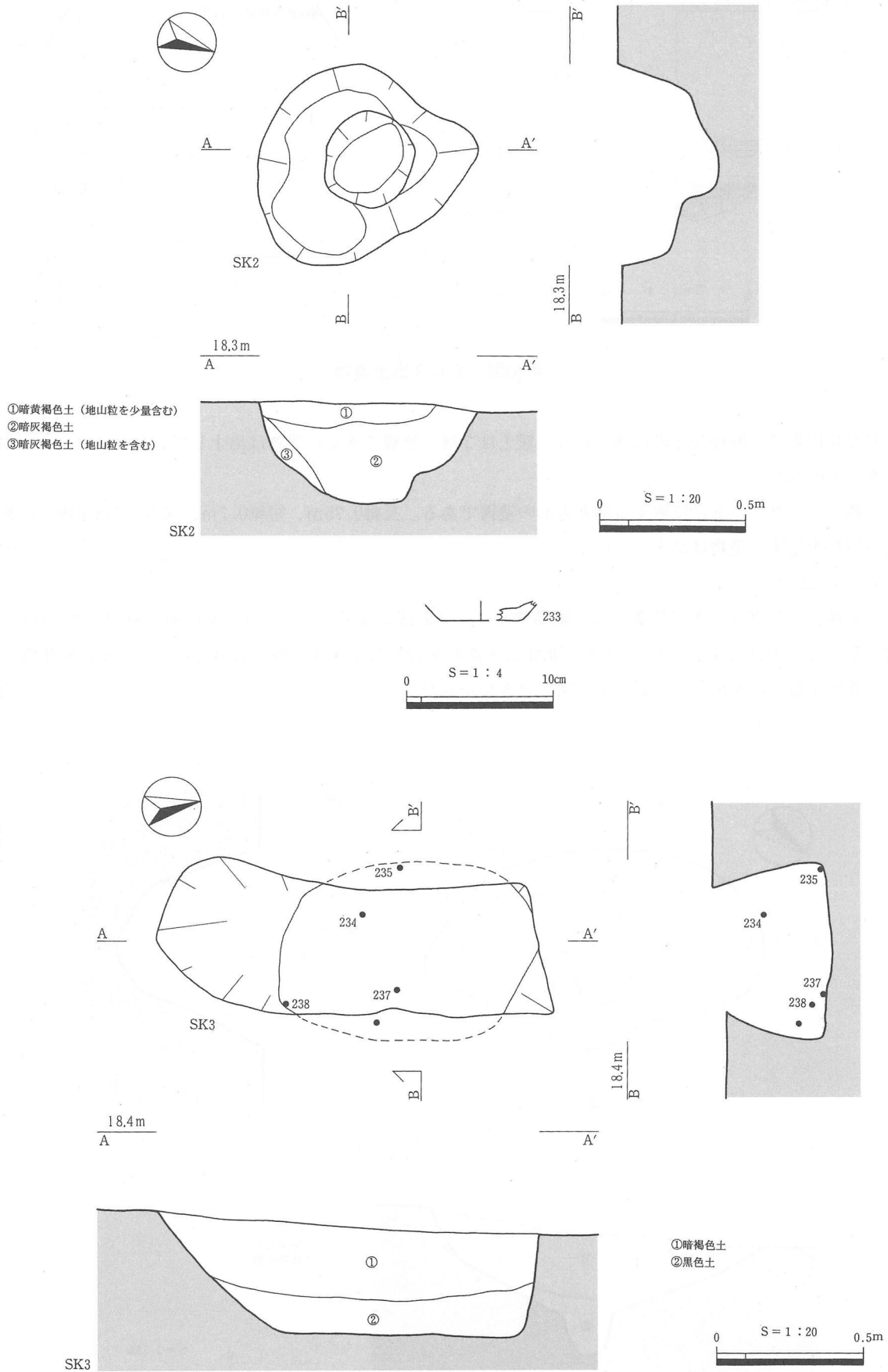
2区東、j7グリッドに位置する。6層除去後、地山面で検出した。平面形は南北に長い不整な隅丸長方形で、底面は楕円形を呈す。内部は一部が袋状に膨らむ。長軸1.35m、短軸0.45m、底面長軸0.9m、底面短軸は0.65m、深さ0.4mを測る。暗褐色土と黒色土が堆積している。埋土中から弥生時代後期後葉の土器が出土している。234は壺で、口縁部に擬凹線、瘤状の突起が施されている。236も壺の頸部片で、竹管文が巡る。235～238は甕で、235は頸部直下にハケ状工具による刺突が施されている。(内田)

S K 4 (第61図)

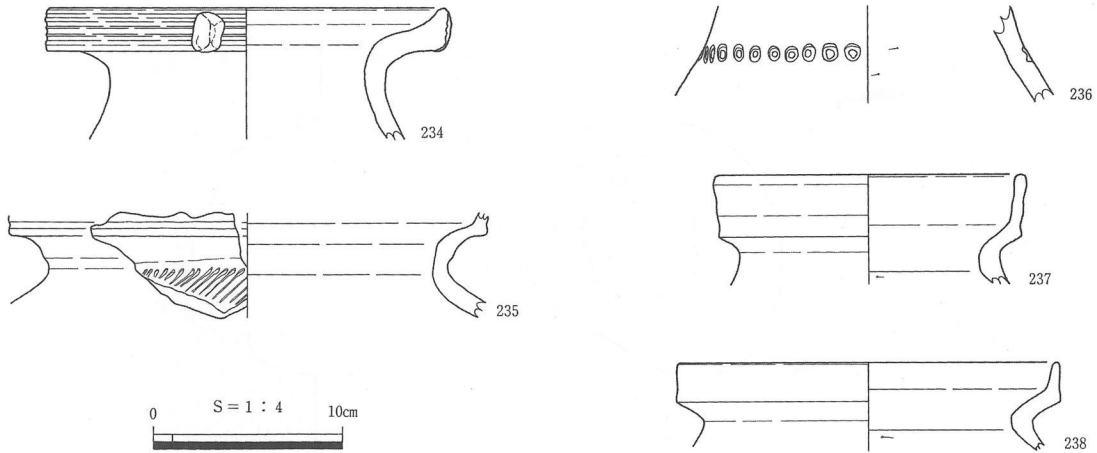
2区東、j7グリッドに位置する。6層除去後、地山面で検出した。長軸1.15m、短軸0.7m、深さ0.5mを測



第58図 S K 1



第59図 SK 2 及び出土遺物・SK 3



第60図 SK 3 出土遺物

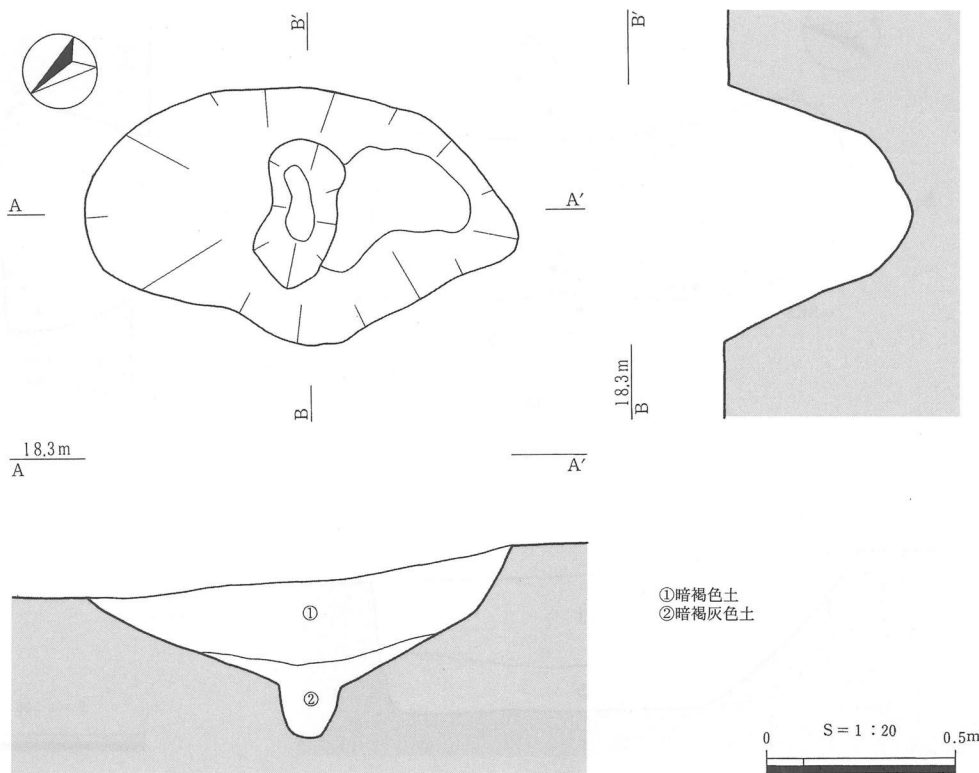
る不整な楕円形で、断面は2段に落ち込む。埋土は2層に分層できる。遺物は出土していない。(内田)

SK 5 (第62図)

2区西、j 4グリッドに位置する隅丸方形の遺構である。長軸0.75m、短軸0.7m、深さ0.2mを測る。断面形は浅い皿形を呈す。遺物は出土していない。(内田)

SK 6 (第62図)

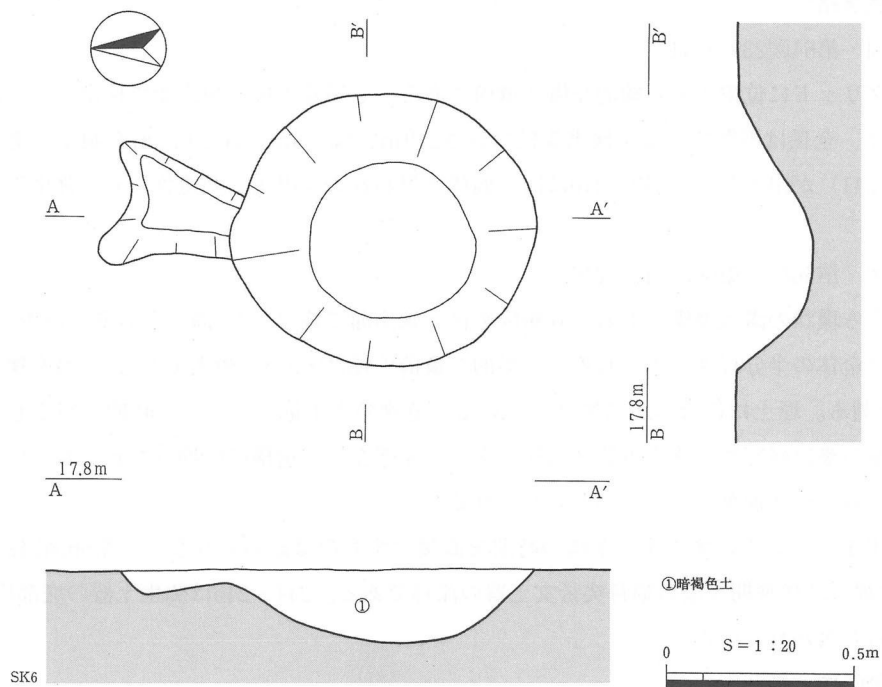
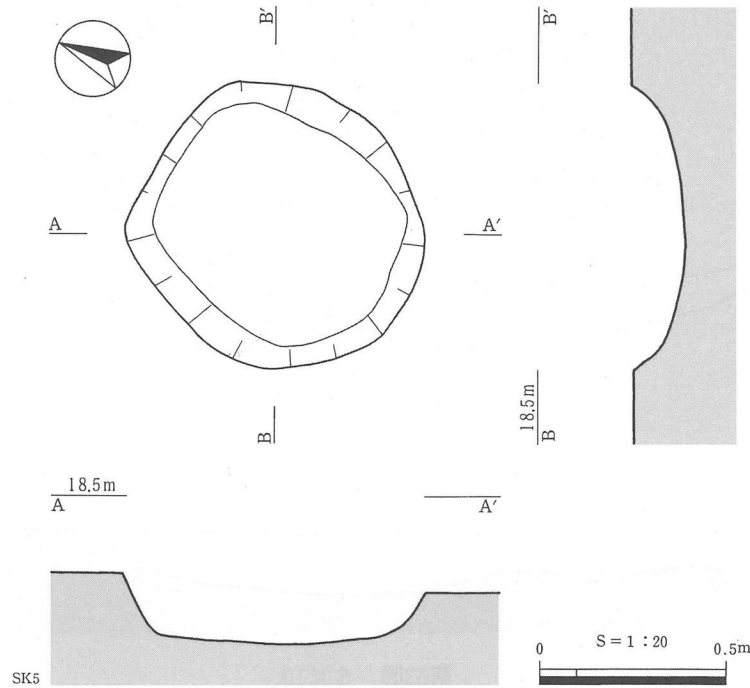
3区北西、n 3グリッドに位置する。圃場整備により上部は削平されており、地山面で確認した。径0.8mのほぼ円形をしており、深さ0.2mである。北側に平面形が台形を呈す浅い掘り込みが伴う。埋土は暗褐色土の単層で、弥生土器小片が出土しているが、図下できなかった。(内田)



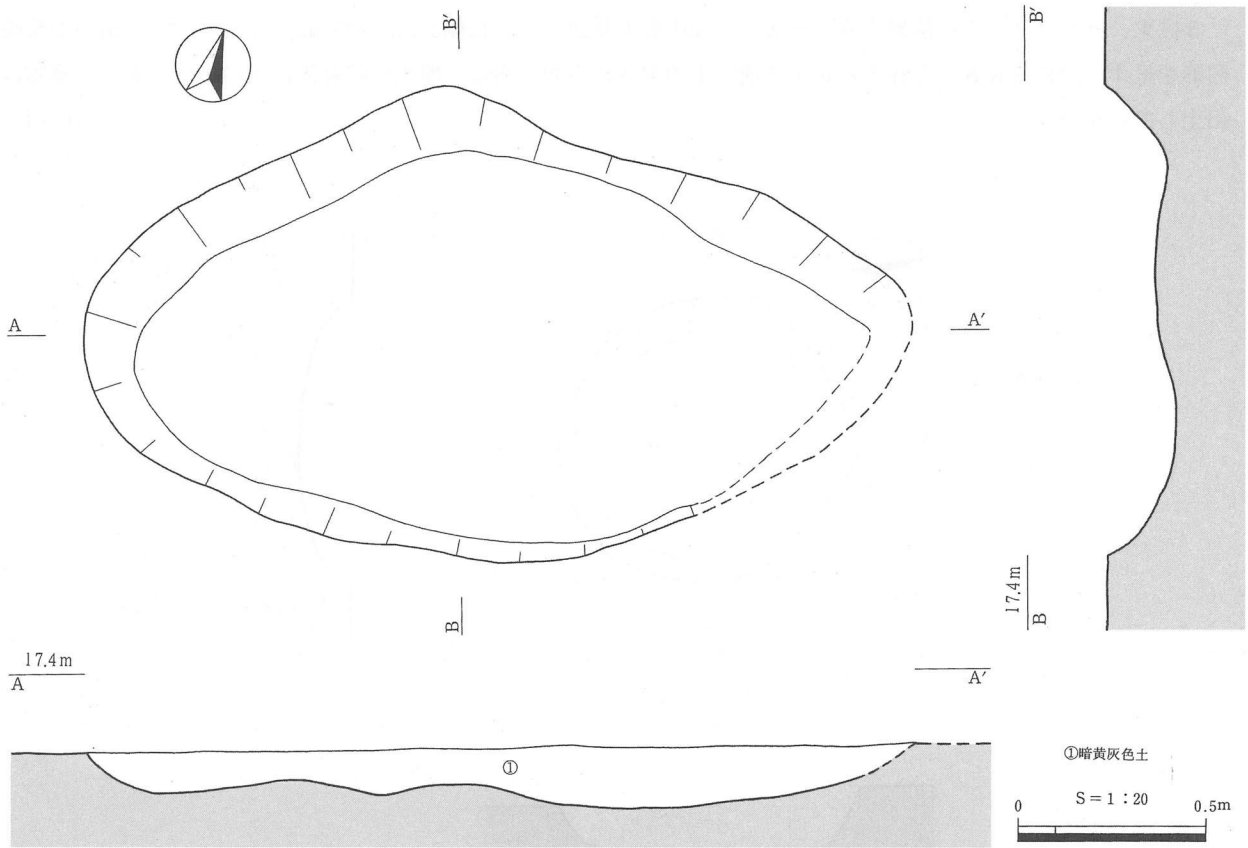
第61図 SK 4

SK10 (第63図)

3区東、n6グリッドに位置する。6層下、地山面で検出した。長軸2.2m、短軸1.25m、深さ0.2mの不整楕円形を呈す。西にSK8が存在するが、遺構同士の関連は不明である。埋土は暗黄褐色土の単層である。遺物は出土していない。  
(内田)



第62図 SK5・SK6



第63図 SK10

溝状遺構・自然流路

SD5 (第64図・第64図239～241)

2区、h 8グリッドに位置する直線的な溝状遺構である。6層除去後、地山面で検出した。調査区の東側にさらに続いており、全長は不明である。検出規模は長さ2.9m、幅3.5m、深さ0.1mを測る。遺構の西端部で2個体の甕(239～241)が出土した。239・240は同一個体と思われる。出土した遺物より、弥生時代後期後葉の遺構と考えられる。(濱田)

SD6 (第65図・第66図・第66図242～246)

2区に位置する環状の溝状遺構である。6層除去後、地山面で検出した。調査区西側の調査区外に続いており、検出できたのは全体の半分程度と思われる。平均的な遺構の幅は0.8m、最大で2.7m、最も狭いところで0.5m、深さは0.4mを測る。埋土はほぼ水平に堆積している。遺物の出土量は少なく、時期の判るものは弥生時代前期後葉～中期前葉の甕口縁部片、弥生土器底部片があるにすぎない。遺構の時期は特定しがたいが、SD9を切ることから、弥生時代中期前葉以降のものと考えられる。

遺物は少量出土しているにすぎず、遺構の時期を直接示すものは認められない。第66図242は弥生時代前期後葉の甕、243は縄文時代晩期後葉の刻目突帯文土器の深鉢である。244～246は弥生土器の底部片である。246は焼成後、底部が打ち欠かされている。(濱田)

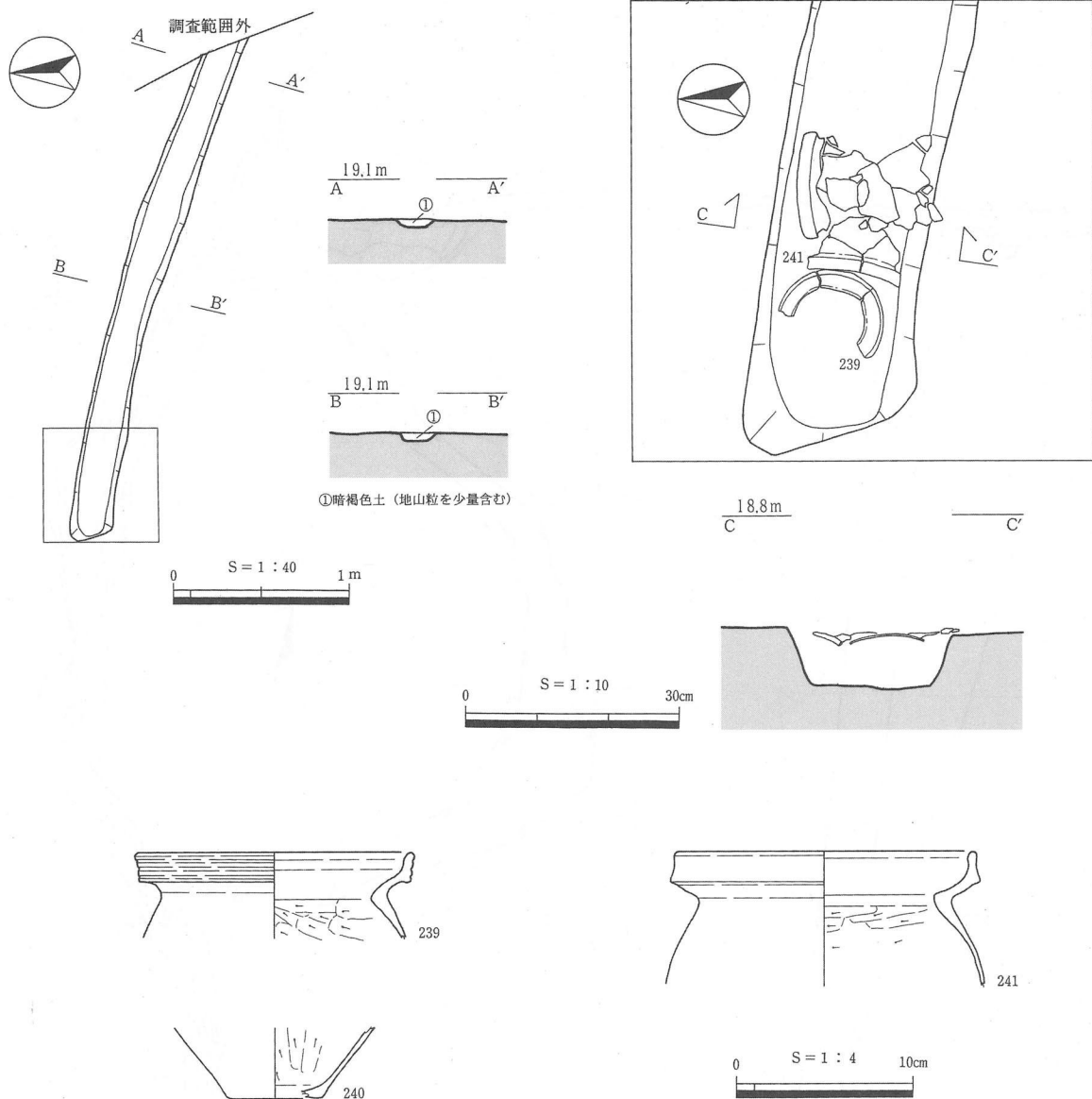
SD7・8 (第65図・第66図)

2区、g 6グリッドに位置する。SD6に合流するが、蛇行しており自然流路の可能性が高い。SD7は幅0.6m、深さ0.3m、SD8は幅0.3m、深さ0.05mである。遺物は出土していない。(濱田)

SD10 (第67図・第67図247・248)

2区、j 7グリッドに位置する。規模は長さ3.2m、幅0.25～0.4m、深さ0.2mを測る。南北方向に直線的に





第64図 SD5及び出土遺物

延びる溝状遺構である。暗褐色土が堆積しており、埋土中から弥生時代後期後葉の土器が出土している。247・248は壺で、248には竹管文が施されている。248はSK3の236と同一個体の可能性がある。また、SK3と近い位置にあることから、同時期の遺構と考えられる。(濱田)

SD16 (第68図)

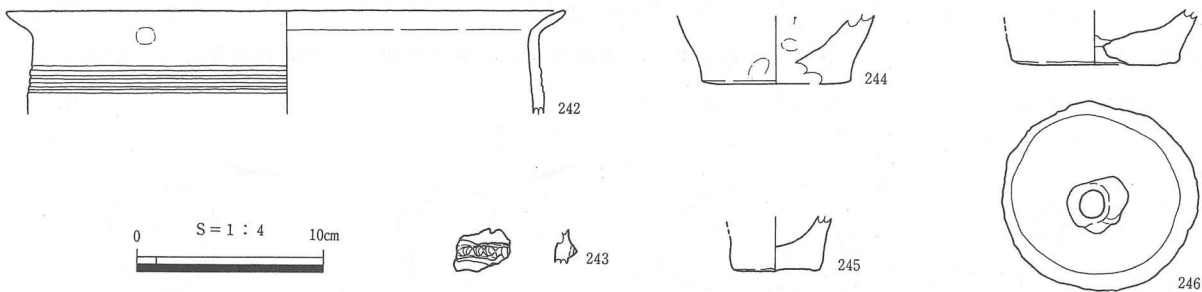
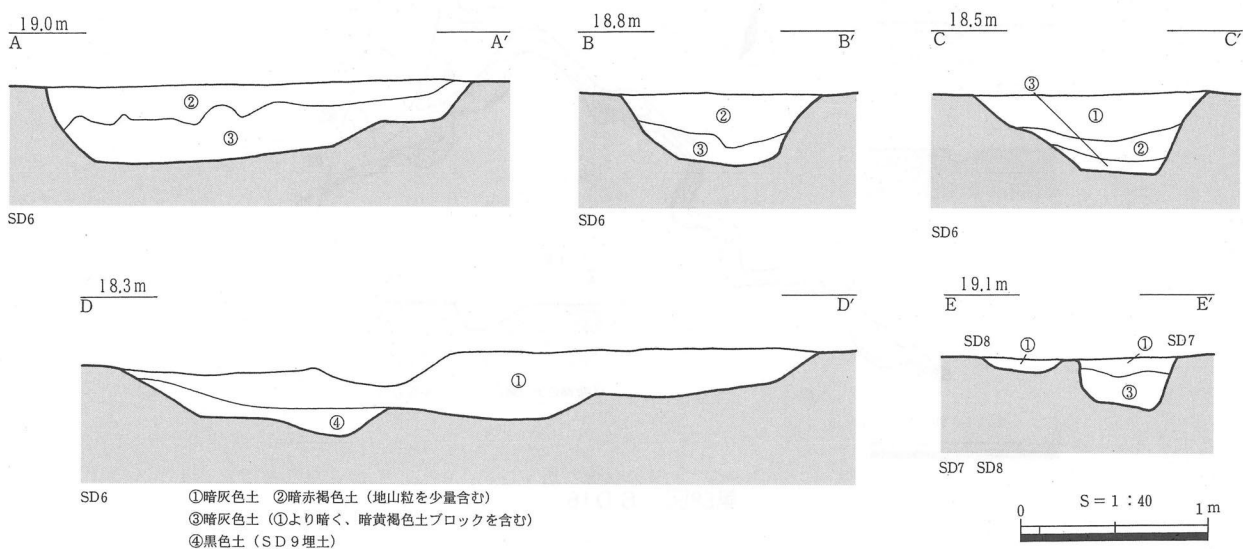
3区、m6グリッドに位置する自然流路である。蛇行しながら調査区外に延びる。埋土は暗褐色土で、遺物は出土していない。(濱田)

ピット群

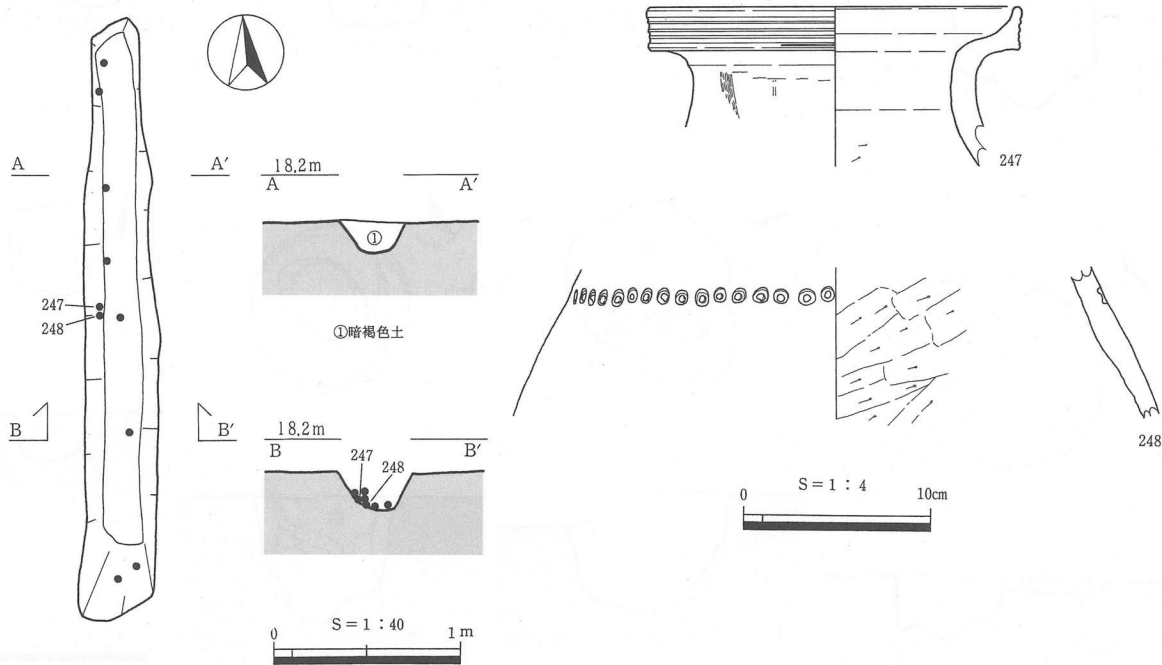
調査区の1～3区にかけてピットを多数検出した。竪穴住居跡、掘立柱建物跡を構成するものも含めると、総数328基である。各ピットの規模や埋土の特徴は表4～表10に記した。圃場整備による削平を受け、掘り込み面が確認できないものについては、本来、第1遺構面に伴うものもあるかもしれない。ピットの分布は、1区の南東部や西部、2区の中央部と3区の南西部に集中している。2・3区の東側や4区はピットの分布が希薄である。



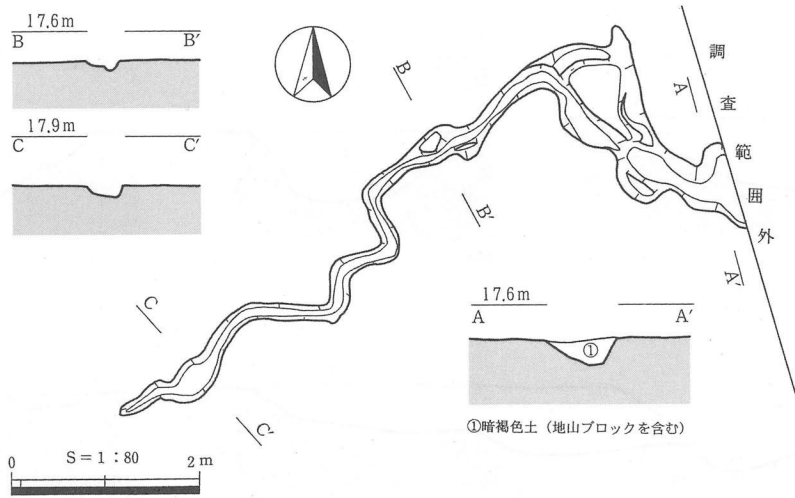
第65図 SD6・SD7・SD8平面図



第66図 SD6・SD7・SD8断面図およびSD6出土遺物

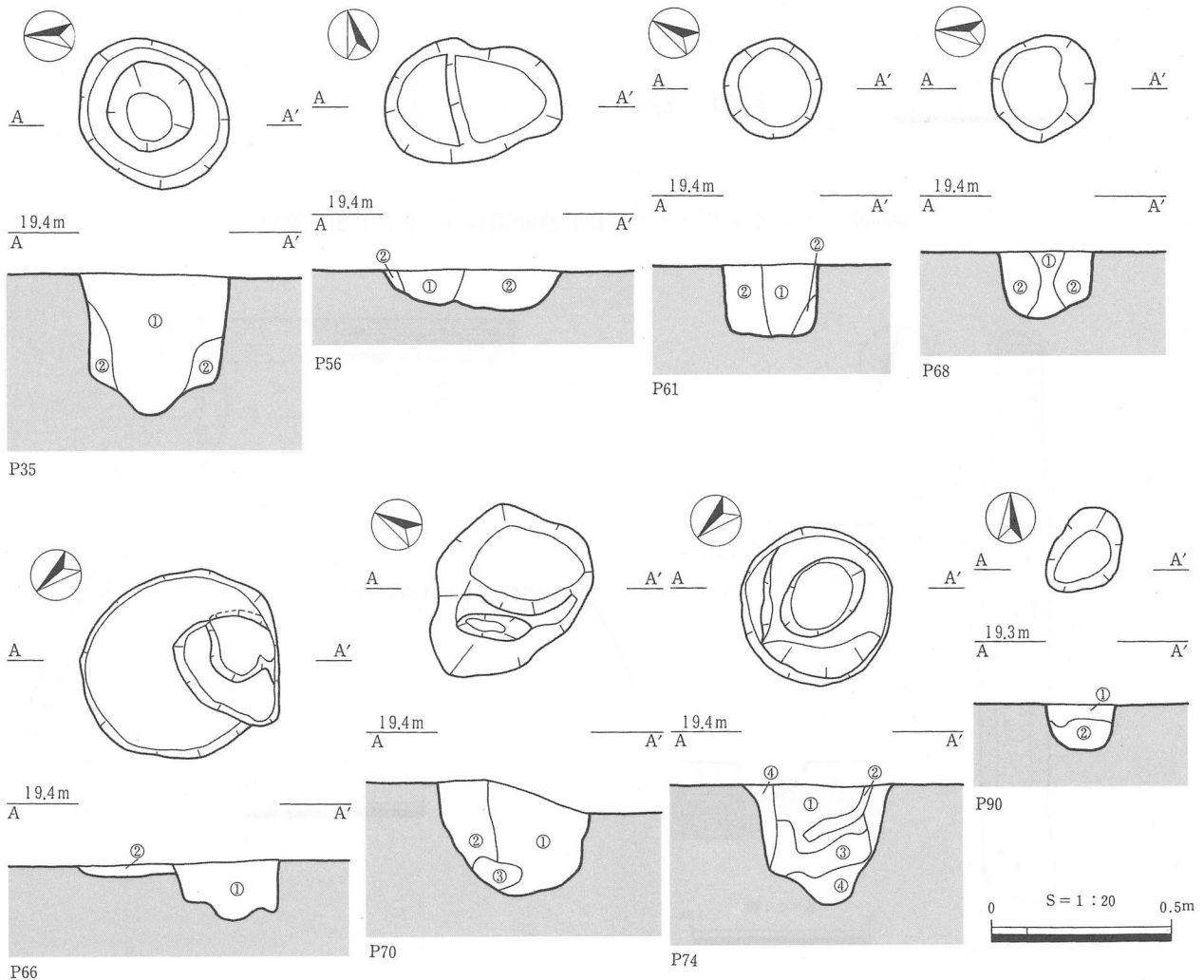


第67図 SD10及び出土遺物



第68図 S D 16

4区は削平が著しいためピットが残存していない可能性もある。切り合い関係のみられるもの、埋土が分層できるものについては第69～73図に遺構図を示した。第74図239～263はピット内出土の土器、S 22・S 23は石器である。S 22は砥石、S 23は石核である。土器には弥生時代中期後葉、弥生時代後期、古墳時代前期のものがある。このうち主体を占めるのは弥生時代後期のものである。(内田)

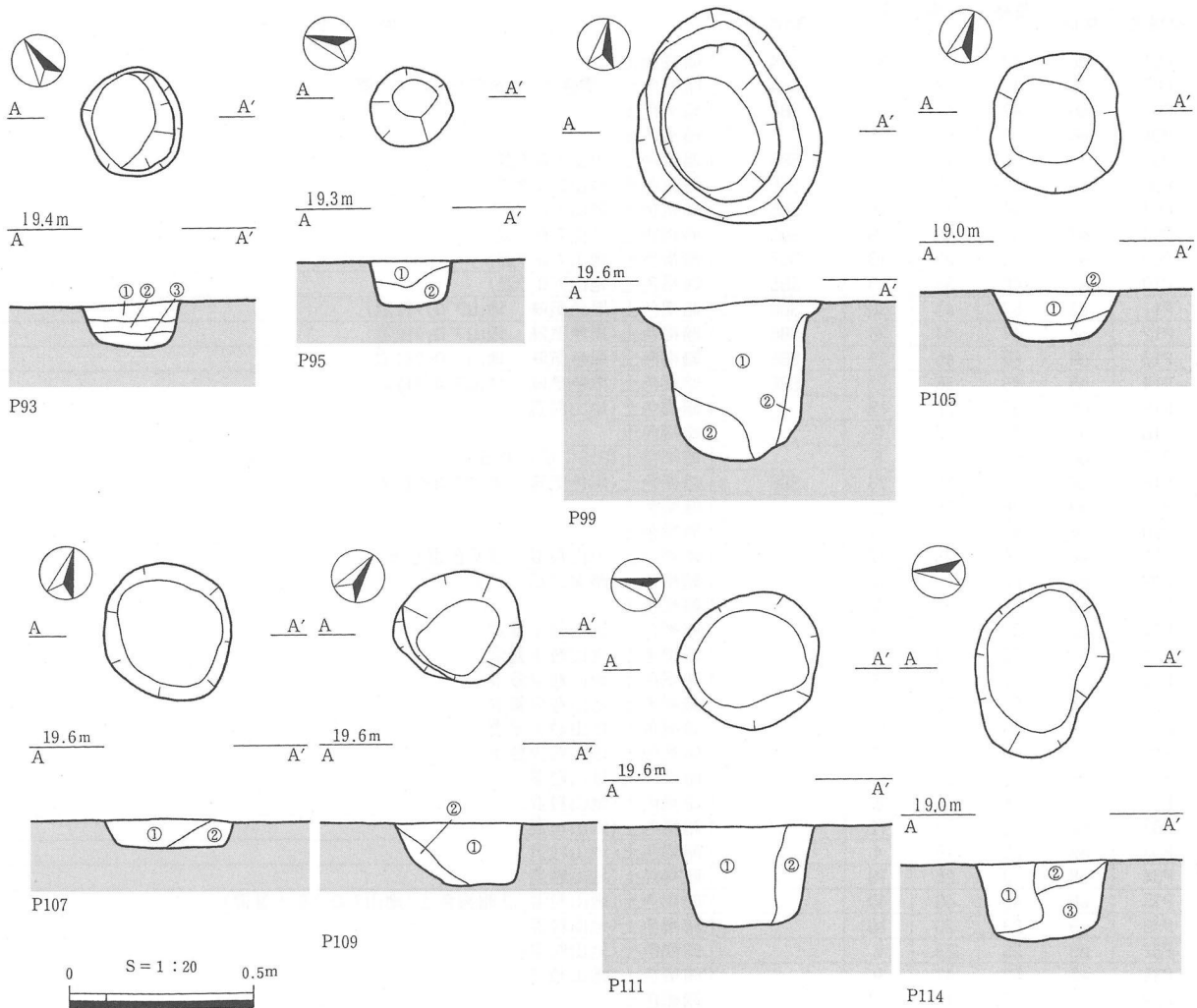


第69図 P 35・P 56・P 61・P 66・P 68・P 70・P 74・P 90

遺構名	地区	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	特記事項	備考
P01	d6	48	35	33	SB4	①暗褐色土
P02	d6	41	38	44	SB4	①暗褐色土②黒色土(淡黄色地山ﾌﾞｯｸﾞ混)
P03	e6	47	40	39	SB4	①暗褐色土
P04	e6	53	48	15		①暗褐色土
P05	e7	56	44	15	SB5	①暗褐色土(地山ﾌﾞｯｸﾞ混)
P06	e7	42	29	15	SB5	①暗褐色土(地山ﾌﾞｯｸﾞ混)
P07	e7	40	37	18	SB5	①暗褐色土(地山ﾌﾞｯｸﾞ混)
P08	e7	46	42	19	SB5	①暗褐色土(地山ﾌﾞｯｸﾞ混)
P09	e7	30	23	13	SB5	①暗褐色土(地山ﾌﾞｯｸﾞ混)
P10	e7	40	38	13	SB5	①暗褐色土(地山ﾌﾞｯｸﾞ混)
P11	e8	57	43	30	SB6	①暗褐色土(黒色気味、地山ﾌﾞｯｸﾞ粒混)
P12	e8	47	44	26	SB6	①暗褐色土(黒色気味、地山ﾌﾞｯｸﾞ粒混)
P13	e8	50	45	21	SB6	①暗褐色土(黒色気味、地山ﾌﾞｯｸﾞ粒混)
P14	e8	45	36	21	SB6	①暗褐色土(黒色気味、地山ﾌﾞｯｸﾞ粒混)
P15	e8	35	28	18		①暗褐色土(地山粒混)
P16	e8	40	30	9		①暗褐色土
P17	e8	52	-	6		①暗褐色土(P18に切られる)
P18	e8	60	50	23	SB6	①暗褐色土(黒色気味、地山ﾌﾞｯｸﾞ粒混)
P19	e8	26	16	12		①暗褐色土
P20	e8	45	27	11		①暗褐色土
P21	e8	26	25	12		①暗褐色土(地山粒混、淡灰色混じる)
P22	e8	62	-	16		①暗褐色土(暗渠に切られる)
P23	e8	25	25	9		①暗褐色土
P24	e8	52	35	11		①暗褐色土(地山粒少量混)
P25	e8	20	18	7		①暗褐色土(地山粒少量混)
P26	e8	22	16	3		①暗褐色土(地山粒少量混)
P27	e8	55	30	6		①暗褐色土(地山粒少量混)
P28	e8	19	18	10		①暗褐色土(地山粒少量混)
P29	e8	60	45	12		①暗褐色土(地山粒少量混)
P30	e8	25	20	10		①暗褐色土(地山粒混)
P31	e8	44	30	6		①暗褐色土(地山粒混)
P32	e8	30	28	12		①暗褐色土(地山粒混)
P33	e9	20	16	4		①暗褐色土(地山粒混)
P34	e8	30	25	10		①暗褐色土(地山粒混)
P35	e8	45	40	40		①暗褐色土(地山粒混)②暗褐色土(地山ﾌﾞｯｸﾞを大量混)
P36	e9	23	20	10		①暗褐色土(地山粒混)
P37	e8	25	23	6		①暗褐色土(地山粒混)
P38	e8	48	42	9		①暗褐色土(地山粒混)
P39	e8	19	18	10		①暗褐色土
P40	e8	43	25	18		①暗褐色土
P41	e8	19	18	8		①暗褐色土
P42	e8	25	23	15		①暗褐色土
P43	e8	14	12	8		①暗褐色土
P44	e8	52	40	40		①暗褐色土
P45	e9	28	20	7		①暗褐色土
P46	e8	20	16	8		①暗褐色土
P47	d8	49	45	6		①暗褐色土
P48	e8	25	21	9		①暗褐色土
P49	e5	32	24	44	SB4	①暗褐色土(黒色気味)
P50	d8	32	25	7		①暗褐色土
P51	e6	38	36	10		①暗褐色土(地山粒混)
P52	e6	45	35	22		①暗褐色土(黒色気味、地山粒混)
P53	e6	18	13	5		①暗褐色土(地山粒混)
P54	e6	26	20	13		①暗褐色土(地山粒混)
P55	e6	21	19	5		①暗褐色土(地山粒混)
P56	e6	50	36	13		①暗褐色土(地山粒混、柱痕部あり)②黄褐色土
P57	l6	28	25	30		①暗褐色土(地山粒混)
P58	e6	32	24	5		①暗褐色土(地山粒混)
P59	g7	33	20	10		①暗褐色土(地山粒混)
P60	e6	30	25	30		①暗褐色土(地山ﾌﾞｯｸﾞ混)
P61	f6	28	27	21		①暗褐色土(地山粒混)②黄色土
P62	e6	35	29	21		①暗褐色土(地山粒混)(P63を切る)
P63	e6	30	28	24	SB8	①暗褐色土(地山ﾌﾞｯｸﾞ混、P62に切られる)
P64	e6	23	18	12		①暗褐色土(黒色気味、地山ﾌﾞｯｸﾞ混)
P65	e6	31	29	7		①暗褐色土(黒色気味)
P66	e6	58	52	17		①暗褐色土(灰色気味)②黄褐色土
P67	e6	38	35	15	SB8	①暗褐色土(地山土粒混)
P68	e6	31	29	20		①灰褐色土②黄褐色土(地山粒と褐色土混)
P69	e6	34	32	12	SB8	①暗褐色土
P70	e6	53	41	33		①暗褐色土(黒色気味、炭多量混)②暗褐色土③地山ﾌﾞｯｸﾞ
P71	f6	27	20	43		①暗褐色土(地山土混)

表4 古市流田遺跡ピット一覧表1

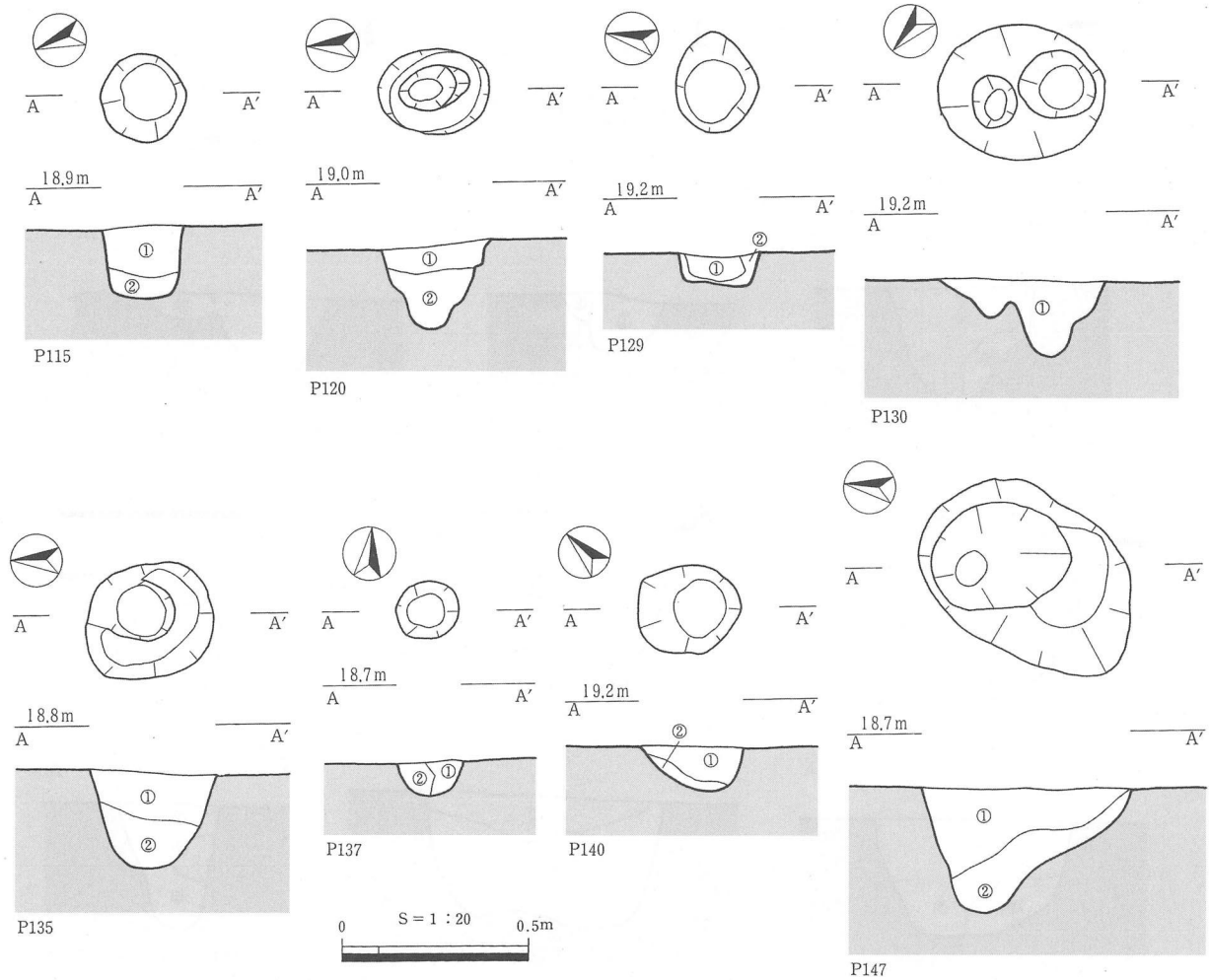
第4章 古市流田遺跡の調査



第70図 P93・P95・P99・P105・P107・P109・P111・P114

遺構名	地区	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	特記事項	備考
P72	f6	58	53	49	SB8	①暗褐色土(黒色気味、地山ﾌﾞｯｸ混)
P73	f6	50	33	43	SB8	①暗褐色土(地山ﾌﾞｯｸ混)
P74	f6	45	43	35		①、③暗褐色土②、④灰褐色土
P75	f6	22	18	12		①暗褐色土(灰色土混)
P76	f5	16	15	11		①暗褐色土
P77	f5	40	38	26		①暗褐色土(地山ﾌﾞｯｸ多量混)
P78	f5	42	38	33		①暗褐色土(ほとんど地山土を含まない)
P79	e6	28	27	10		①暗褐色土(黒色気味)
P80	e7	30	21	13		①暗褐色土(地山土・灰色土混)
P81	e7	38	33	8		①暗褐色土(灰色土混)
P82	f5	46	42	36	SB2	①褐色土②黄色土③暗灰褐色土
P83	f5	48	41	40	SB2	①褐色土②黄灰色土③黄色土
P84	f5	48	42	36	SB2	①褐色土②褐色土(地山ﾌﾞｯｸ大量混)③黄色土
P85	f5	48	46	33	SB2	①褐色土②黄灰色土③黄色土
P86	f6	45	40	45	SB2	①黄色土②暗灰褐色土
P87	f6	44	43	36	SB2	①褐色土②黄灰色土
P88	f8	46	44	44	SB3	①褐色土
P89	f8	60	45	40	SB3	①褐色土
P90	f6	27	19	13		①灰褐色土②暗褐色土
P91	f6	28	24	21		①暗褐色土
P92	f6	20	18	7		①暗褐色土
P93	f6	30	26	13		①暗褐色土(黒色気味)②灰色土③黄色土
P94	f6	30	25	17		①暗褐色土(地山土粒混)
P95	f6	22	21	13		①暗褐色土(地山粒混)②淡黄色土
P96	e8	50	48	22	SB6	①暗褐色土(黒色気味、地山粒混)
P97	f8	25	23	17		①暗褐色土
P98	f7	39	38	29		①暗褐色土(地山粒混)

表5 古市流田遺跡ピット一覧表2

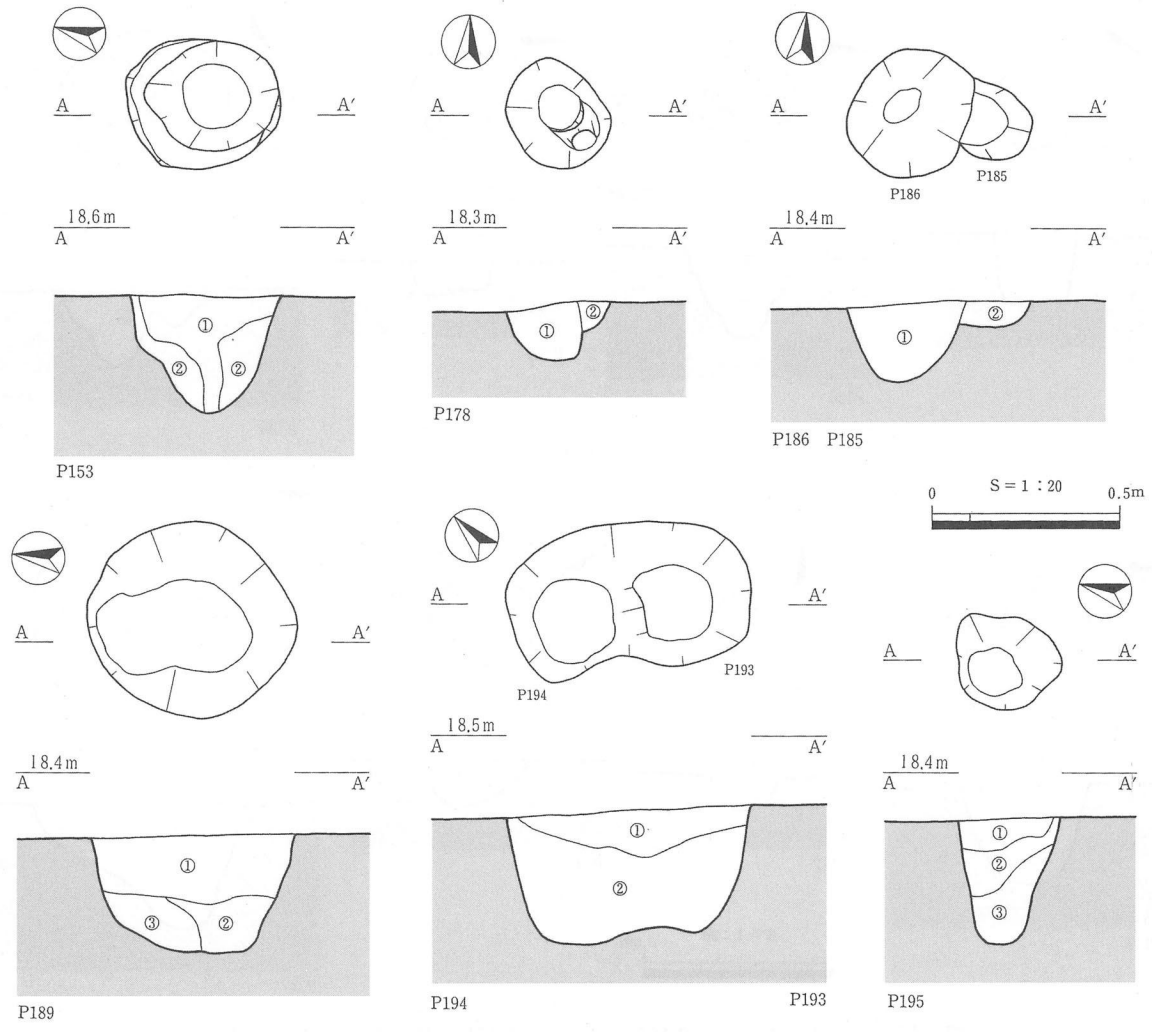


第71図 P115・P120・P129・P130・P135・P137・P140・P147

遺構名	地区	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	特記事項	備考
P99	f6	60	49	44		①暗褐色土(地山粒混)
P100	f7	44	40	34		①暗褐色土(地山粒混)
P101	f7	50	47	6		①暗褐色土(灰色気味)
P102	f7	44	40	4		①暗褐色土(灰色気味)
P103	g6	20	18	21		①暗褐色土(少し灰色気味、地山粒混)
P104	g6	25	21	15		①暗褐色土
P105	g6	39	38	15		①暗褐色土(地山粒微量混)②黄褐色土(地山ﾌﾞｯｸﾞ混)
P106	g6	30	27	8		①暗褐色土
P107	g6	40	37	9		①暗褐色土(灰色気味、地山粒混)
P108	g6	32	30	21	SB9	①暗褐色土(黒色気味、地山粒を微量混)
P109	g5	35	31	18		①暗褐色土(地山粒、地山ﾌﾞｯｸﾞ混)
P110	g6	38	36	20	SB9	①暗褐色土(地山粒、地山ﾌﾞｯｸﾞ混)
P111	f7	39	36	28		①暗褐色土(地山粒、地山ﾌﾞｯｸﾞ混)
P112	g6	31	28	25	SB9	①暗褐色土(地山粒混)
P113	g6	30	29	24	SB9	①暗褐色土(地山粒混)
P114	g5	49	35	22		①暗褐色土(地山粒混)②暗褐色土③暗黄褐色土(地山ﾌﾞｯｸﾞ混)
P115	g5	24	23	20		①暗褐色土(地山粒混)②暗黄褐色土(地山ﾌﾞｯｸﾞ混)
P116	g5	25	23	14		①暗褐色土(地山粒混)
P117	g5	33	27	19		①暗褐色土
P118	g5	-	30	14		①暗褐色土(P119と切り合うが前後関係不明)
P119	g5	28	24	10		①暗褐色土(P118と切り合うが前後関係不明)
P120	g6	30	24	25		①黄褐色土(地山ﾌﾞｯｸﾞ混)②暗褐色土(地山粒混)
P121	g7	25	22	26		①暗褐色土(地山土粒混)
P122	g7	23	20	10		①暗褐色土
P123	g7	29	26	8		①暗褐色土
P124	g7	30	29	11		①暗褐色土
P125	g8	26	25	8		①暗褐色土

表6 古市流田遺跡ピット一覧表3

第4章 古市流田遺跡の調査

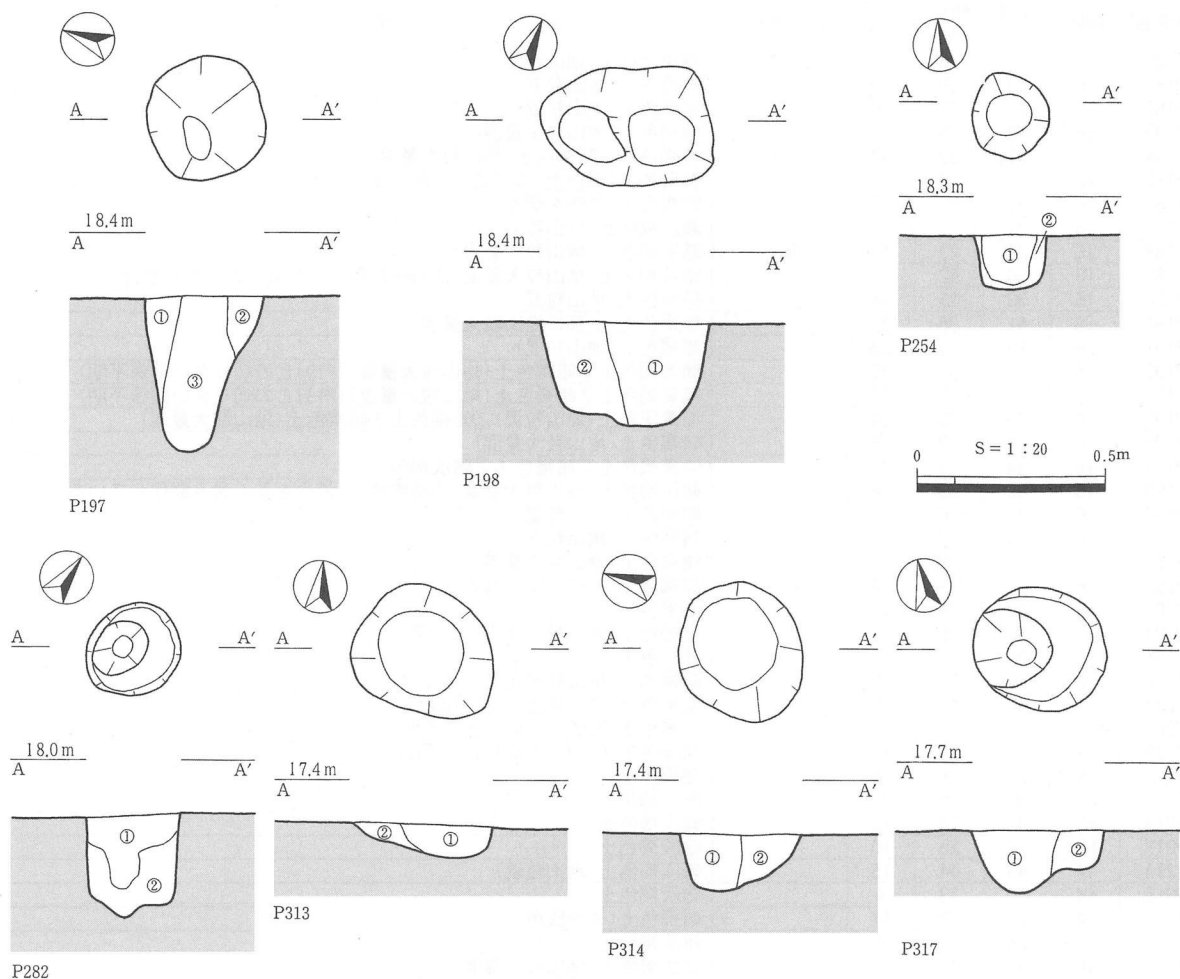


第72図 P 153・P 178・P 186・P 189・P 193・P 194・P 195

遺構名	地区	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	特記事項	備考
P126	g8	28	20	15		①暗褐色土
P127	g8	27	24	8		①暗褐色土
P128	g8	35	20	10		①暗褐色土(黒色気味、やや灰色混じり)
P129	g6	28	22	10		①暗褐色土(地山粒混)②淡黄灰色土
P130	g5	45	37	22		①暗褐色土②淡黄色土
P131	g5	33	32	25		①暗褐色土(地山土粒混)
P132	g5	24	21	19		①暗褐色土(地山土粒混、灰色混じる)
P133	g5	30	22	22		①暗褐色土(地山土粒混)
P134	g5	40	35	16		①暗褐色土(地山土粒混、灰色混じる)
P135	h5	37	34	28		①暗褐色土(地山粒大量混)②暗褐色土(地山粒少量混)
P136	h6	56	43	56	SB1	①暗灰色土②淡黄色土③暗灰褐色土④淡黄色土と灰褐色土の混合層
P137	h6	18	17	10		①暗灰褐色土②暗褐色土(地山粒混)
P138	h6	46	44	37	SB1	①暗灰色土②淡黄色土③暗灰褐色土④淡黄色土と灰褐色土の混合層⑤淡灰色土
P139	h6	44	43	37	SB1	①暗灰色土②淡黄色土③暗灰褐色土④淡黄色土と灰褐色土の混合層
P140	f6	28	25	13		①暗褐色土(地山粒混)②淡黄灰色土
P141	h6	45	43	40	SB1	①暗灰色土②暗灰褐色土③淡黄色土と灰褐色土の混合層
P142	h6	39	27	35	SB1	①暗灰色土②淡黄色土と灰褐色土の混合層③暗褐色土
P143	h6	36	27	27	SB1	①暗灰色土②暗灰褐色土③淡黄色土と灰褐色土の混合層
P144	h6	34	30	7		①暗褐色土(地山粒微量混)
P145	h5	50	38	33		①黒色土
P146	h5	30	25	8		①黒色土(7層埋土)
P147	h5	64	46	34		①暗灰褐色土(地山粒大量混)②暗褐色土(黒色気味、地山粒少量混)
P148	h5	40	35	33	米子市試掘	①暗褐色土(7層に類似の埋土)
P149	i7	35	28	11	米子市試掘	①暗褐色土
P150	i7	30	25	25	米子市試掘	①暗褐色土
P151	i7	61	38	12	米子市試掘	①暗褐色土
P152	i7	45	27	13		①暗褐色土(地山粒大量混)

表7 古市流田遺跡ピット一覧表4





第73図 P 197・P 198・P 254・P 282・P 313・P 314・P 317

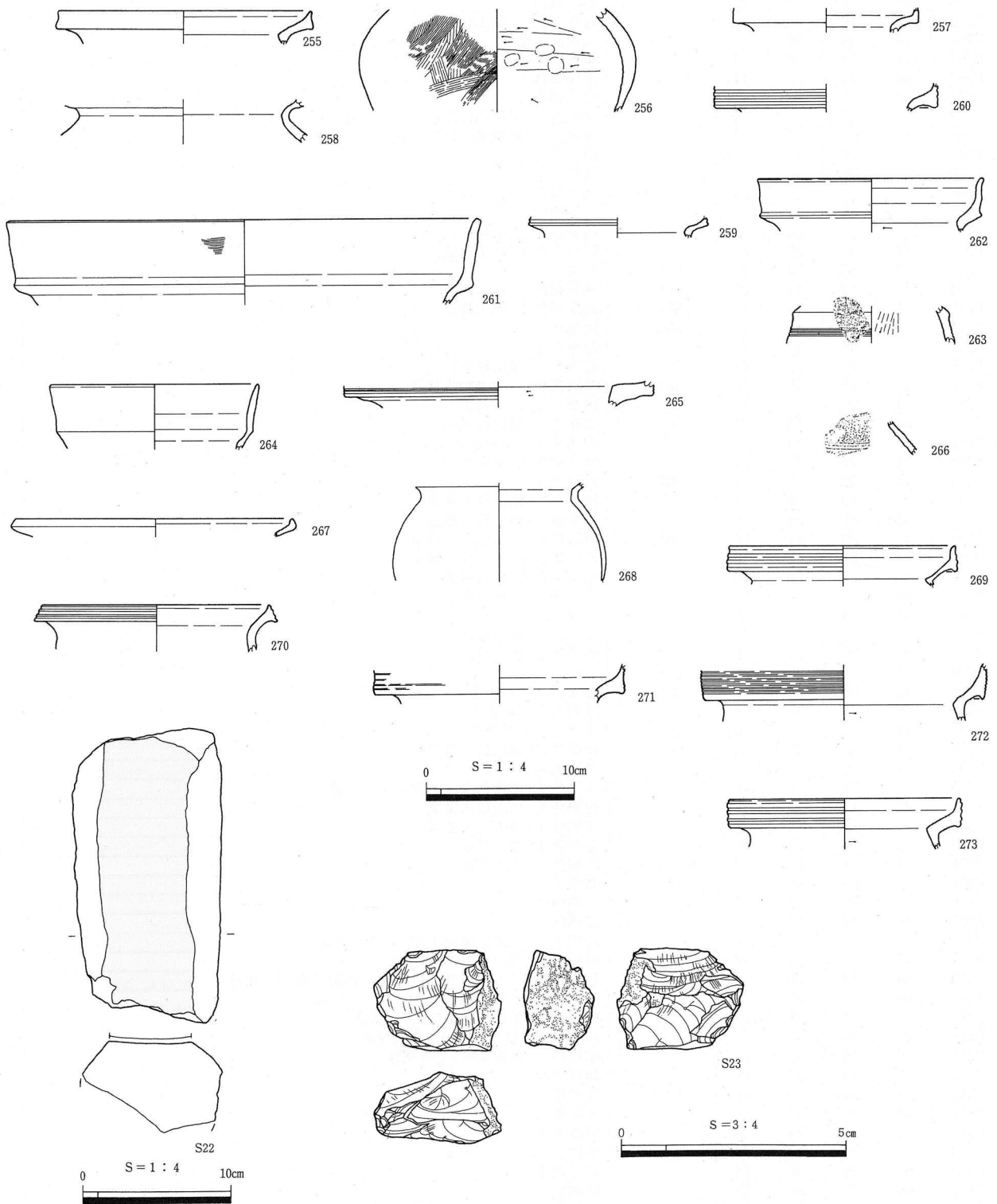
遺構名	地区	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	特記事項	備考
P153	i7	42	39	32		①黄褐色土(地山粒混)②褐色土(地山ﾌﾞｯｸ大量混)
P154	i7	31	28	8		①暗褐色土(地山粒混)
P155	i5	31	25	17		①暗褐色土
P156	i5	33	32	27		①暗褐色土
P157	i5	45	34	19		①暗褐色土
P158	j4	45	44	19		①暗褐色土
P159	i6	48	-	42		①黄褐色土(地山粒大量混)②暗褐色土(地山粒混)(P202を切る)
P160	k4	25	23	28		①暗褐色土(地山粒混)
P161	k4	37	28	28		①暗褐色土(地山粒混)
P162	k4	25	20	19		①暗褐色土(地山粒混)
P163	k4	20	17	8		①暗褐色土
P164	k4	28	25	14		①暗褐色土
P165	j4	63	45	53		①暗褐色土
P166	j4	25	24	19		①暗褐色土(地山粒混)(P167に切られる)
P167	j4	30	15	24		①黄灰色土(P166を切る)
P168	i6	41	35	30	SB10	①黄褐色土②暗褐色土(地山ﾌﾞｯｸ大量混)
P169	j6	36	35	28	SB10	①黄褐色土②暗褐色土③暗褐色土(地山ﾌﾞｯｸ大量混)
P170	j6	47	30	25	SB10	①暗褐色土
P171	j6	35	35	10	SB10(?)	①暗灰褐色土
P172	j6	31	25	35	SB10	①黄褐色土②暗灰褐色土③暗褐色土④暗褐色土(地山ﾌﾞｯｸ大量混)
P173	i6	34	29	30	SB10	①黄褐色土②暗灰褐色土③暗褐色土(地山ﾌﾞｯｸ大量混)
P174	j6	31	30	25	SB10	①暗灰褐色土
P175	j6	51	45	28		①暗灰褐色土
P176	j6	35	25	9		①暗灰褐色土
P177	j6	39	37	18	SB10	①暗灰褐色土
P178	j6	30	24	16		①暗褐色土②淡灰褐色土
P179	j6	30	24	9		①暗褐色土

表8 古市流田遺跡ピット一覧表5

第4章 古市流田遺跡の調査

遺構名	地区	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	特記事項	備 考
P180	i6	37	36	25		①暗灰褐色土(地山粒混)
P181	i6	23	20	7		①暗褐色土(地山粒混)
P182	i6	27	25	10		①暗褐色土(地山粒混)
P183	i6	30	28	31		①暗褐色土(地山粒少量混)
P184	i6	31	29	40	SB10	①黄褐色土②暗褐色土(地山粒大量混)
P185	i6	-	20	7		①黄灰色土(褐色土ブロック混)(P186に切られる)
P186	i6	36	31	22		①暗褐色土(P185を切る)
P187	j6	31	23	13		①暗灰褐色土(地山粒混)
P188	j6	24	23	40	SB10	①暗灰褐色土(地山粒大量混)
P189	i6	56	52	32		①暗黄褐色土(地山粒大量混)②暗灰褐色土(地山粒混)③暗灰色土
P190	i6	30	25	14		①暗褐色土(地山粒混)
P191	i6	41	38	31		①暗褐色土(上部に地山粒大量混)
P192	i6	28	20	23		①暗褐色土(地山粒混)
P193	i6	42	39	35		①暗黄褐色土②暗褐色土(地山粒大量混)(P194との切り合い関係不明)
P194	i6	43	35	37		①暗黄褐色土②暗褐色土(地山粒大量混)(P193との切り合い関係不明)
P195	i6	30	25	34		①暗黄灰色土(地山粒混)②暗褐色土③暗褐色土(地山粒大量混)
P196	i6	23	22	26		①暗褐色土(地山粒大量混)
P197	i6	34	33	42		①暗黄褐色土②暗褐色土③暗灰褐色土
P198	i6	48	35	28		①暗灰褐色土(地山粒大量混)②暗褐色土(鉄分を多く含み酸化している)
P199	i6	29	26	20		①暗褐色土(地山粒混)
P200	i6	30	27	31		①暗褐色土(地山粒混)
P201	i6	45	19	19		①暗褐色土(地山粒少量混)
P202	i6	-	32	38	SB10	①暗褐色土(P159に切られる)
P203	j6	40	28	25		①暗褐色土
P204	j6	50	45	37		①暗褐色土(地山粒と地山ブロック混)
P205	j6	34	25	15		①暗褐色土
P206	j6	46	34	32		①暗褐色土(地山粒が上部に多く混じる)
P207	j5	50	40	29		①暗褐色土(ほぼ黒色、地山粒混)
P208	i7	-	45	12		①暗褐色土(P209との切り合い不明)
P209	i7	-	38	17		①暗褐色土(P208との切り合い不明)
P210	k5	33	28	25		①暗褐色土
P211	h5	30	29	22		①暗灰褐色土
P212	h5	32	23	12		①暗灰褐色土
P213	h5	28	25	10		①暗灰褐色土
P214	i4	49	44	15		①暗灰褐色土(地山粒混)
P215	i4	30	23	4		①暗灰褐色土
P216	i4	27	23	11		①暗褐色土(やや灰色)
P217	i5	24	23	8		①暗灰褐色土
P218	i4	42	40	15		①暗灰褐色土(地山粒大量混)
P219	j5	45	40	13		①暗褐色土(地山粒大量混)
P220	j4	40	34	20		①暗灰褐色土(地山粒大量混)
P221	i4	17	14	12		①暗褐色土(地山粒混)
P222	i4	29	25	13		①暗褐色土(地山粒混)
P223	i5	50	40	14		①暗褐色土
P224	i5	40	40	21		①暗褐色土
P225	j5	50	45	8		①暗褐色土
P226	j5	35	32	11		①暗褐色土
P227	j5	34	27	16		①暗灰褐色土
P228	j5	30	25	12		①暗褐色土(灰色混じり・地山粒混)
P229	j5	25	24	20		①暗褐色土
P230	j5	20	15	16		①暗褐色土
P231	j5	25	23	16		①暗褐色土(地山粒大量混)
P232	j5	26	23	10		①暗褐色土(地山粒大量混)
P233	k5	54	50	9		①暗褐色土
P234	k5	22	20	10		①暗褐色土
P235	k6	38	32	8		①暗褐色土
P236	k6	36	26	21	SI 1	①暗褐色土
P237	k6	35	30	28	SI 1	①暗褐色土
P238	k6	34	32	17	SI 1	①暗褐色土
P239	j6	17	14	12		①暗褐色土
P240	j6	25	23	46		①暗褐色土
P241	j6	30	25	13		①暗褐色土
P242	j6	40	25	20		①暗褐色土
P243	j6	30	25	29	SB10	①暗灰褐色土(単層、下部黒色に近い・一部柱材遺存)
P244	j6	29	25	26		①暗灰褐色土
P245	j6	25	23	5		①暗灰褐色土
P246	i5	48	39	37		①暗褐色土
P247	i5	43	35	28		①暗褐色土
P248	i4	62	60	28		①暗灰褐色土(地山粒少量混)
P249	k5	18	15	6		①暗褐色土
P250	k6	33	29	24	S 11	①暗褐色土
P251	k6	28	20	19		①暗褐色土
P252	j5	35	34	33		①暗褐色土(地山粒ブロック混)
P253	j4	23	18	5		①暗灰褐色土
P254	j4	24	21	10		①暗褐色土(黒色に近い、地山粒少量混)②暗灰褐色土

表9 古市流田遺跡ピット一覧表6



第74図 ピット出土遺物

第4章 古市流田遺跡の調査

遺構名	地区	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	特記事項	備考
P255	j4	23	20	13		①暗灰褐色土
P256	k4	29	25	8		①淡黄灰色土
P257	k4	30	24	31		①暗褐色土
P258	k4	35	29	13		①暗褐色土(地山粒混)
P259	k4	28	22	8		①暗灰褐色土
P260	k4	40	28	11		①暗灰褐色土(地山粒混)
P261	k4	39	35	9		①淡黄灰色土
P262	k4	54	48	17		①淡黄灰色土
P263	k4	26	20	11		①暗灰褐色土
P264	l4	25	24	17		①暗灰褐色土
P265	l4	21	16	10		①暗褐色土(黒褐色に近い)
P266	l4	28	23	13		①暗褐色土(黒褐色に近い・地山粒混)
P267	l4	20	18	11		①暗灰褐色土
P268	l4	25	18	15		①暗灰褐色土
P269	l4	25	22	25		①暗灰褐色土(地山粒混)
P270	l4	30	27	16		①暗灰褐色土(地山粒混)
P271	l4	24	20	8		①暗褐色土(黒褐色に近い)
P272	l4	35	25	10		①暗灰褐色土(地山粒混)
P273	l4	30	24	26	SB12	①暗褐色土
P274	l4	19	15	21	SB12	①暗灰褐色土(地山粒混)
P275	l4	20	16	18	SB12	①暗灰褐色土(地山粒混)
P276	l4	30	29	46	SB12	①暗褐色土
P277	l4	45	42	15		①暗褐色土
P278	l4	25	22	11		①暗褐色土(地山粒混)
P279	l4	25	25	16	SB12	①暗灰褐色土(地山粒大量混)
P280	m4	25	20	18		①暗褐色土(地山粒混)
P281	m4	19	18	24	SB12	①暗褐色土(地山粒混)
P282	m4	27	23	29		①暗褐色土②淡黄灰色土
P283	l4	26	20	21	SB12	①暗灰褐色土(地山粒混)
P284	m4	20	20	21	SB12	①暗褐色土
P285	m4	19	18	11		①暗褐色土(地山粒大量混)
P286	m3	28	25	15		①暗褐色土(地山粒大量混)
P287	m4	29	22	20	SB12	①暗灰褐色土(地山粒少量混)
P288	m4	21	15	10		①暗灰褐色土(地山粒大量混)
P289	m4	31	29	20	SB12	①暗灰褐色土(地山粒混)
P290	m4	23	20	26		①暗灰褐色土(地山粒混)
P291	m4	14	13	7		①暗褐色土(地山粒混)
P292	m4	30	28	16		①暗褐色土(地山粒混)
P293	m3	26	24	19		①暗褐色土(地山粒混)
P294	m3	26	25	15		①暗褐色土(地山粒混)
P295	m3	28	25	17	SB11	①暗褐色土②黄褐色土
P296	m4	40	30	18	SB11	①暗褐色土②黄褐色土
P297	m4	30	24	30	SB11	①暗褐色土②黄褐色土
P298	m3	24	21	24	SB11	①暗褐色土(地山粒少量混)
P299	m4	30	27	38		①暗灰褐色土
P300	m4	25	25	46		①暗褐色土(濃褐色土・上部地山粒大量混)
P301	m4	17	13	15		①暗褐色土(地山粒大量混)
P302	i5	16	15	9		①暗褐色土(地山粒少量混)
P303	i5	25	23	30		①明褐色土(地山粒混)
P304	i4	30	29	17		①灰褐色土(地山粒混)
P305	j4	68	55	32		①暗褐色土
P306	l6	20	19	14		①暗褐色土
P307	l6	18	16	16		①暗褐色土
P308	l6	17	15	14		①暗褐色土(下部に地山土細ブロック大量混)
P309	l6	68	28	27		①暗褐色土(地山ブロック大量混)
P310	m6	39	34	13		①暗赤褐色土(下部やや黒色気味、中層に地山土粒混)
P311	m6	28	24	19		①暗褐色土(下部に地山土細ブロック大量混)
P312	n5	27	25	12		①暗褐色土(下部に地山ブロック大量混)
P313	o5	40	35	9		①暗褐色土②淡灰褐色土(地山粒混)
P314	o5	38	34	16		①暗褐色土(黒色気味)②黄褐色土
P315	o5	34	30	12		①暗褐色土
P316	o5	28	24	16		①暗褐色土
P317	o5	36	33	18		①暗褐色土
P318	l5	34	29	23		①暗褐色土
P319	h6	20	16	9		①暗褐色土
P320	h6	35	30	14		①暗褐色土
P321	h6	30	24	28		①暗褐色土
P322	h5	44	35	18		①暗褐色土
P323	h5	15	14	4		①暗褐色土
P324	h5	29	27	11		①暗褐色土
P325	h5	29	25	10		①暗褐色土
P326	h5	23	22	11		①暗褐色土
P327	h5	25	20	7		①暗褐色土
P328	h6	19	18	7		①暗褐色土

表10 古市流田遺跡ピット一覧表7

## 第6節 包含層出土の遺物

### 1. 概要

各包含層から縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、陶磁器、石器、金属器（銅銭）が出土している。ここでは各遺物を出土層位別に報告する。（濱田）

### 2. 土器・土製品

#### 3・4・5層（第75～第77図274～358）

第75図～第79図は5層および3・4層から出土した土器である。

第75図274～299は須恵器である。274～278は坏蓋、279～292は坏身である。278は擬宝珠状の摘みをもつ。277は天井部中央が摘み状に低い段をなしている。289～291は高台を有する。286・292・293は底部に糸切り痕が残る。294は甗、295は壺、296・297は高坏、298は甕、299は盤の底部と思われる。274・279は6世紀前半、275・276は6世紀後半、280～284は6世紀末～7世紀前葉、278は7世紀後葉、277は7世紀以降であろうか。285～293は8・9世紀代のものである。

300～308は弥生時代後期末～古墳時代前期の土器で、302は壺、それ以外は甕である。309～324は弥生時代後期の甕、326～328は弥生時代後期の壺である。329は無頸壺、332・333は単純口縁の壺で、いずれも弥生時代後期のものである。330は弥生時代中期後葉の大型壺、331は弥生時代中期中葉～後葉の口縁部が短く外反する壺で、2個一対の孔が施されている。334～339は高坏で、いずれも弥生時代後期のものと思われる。340は鉢である。341～343は古墳時代前期の低脚坏の脚部である。344は器台または台形土器の脚部片、346は胴部片で、いずれも竹管文が施されている。第35図59も含め、同一個体の可能性がある。345は爪形文が施されている弥生時代後期の壺の胴部片である。347は把手で、山陰型甗の一部と思われる。348は把手付きの甕ないし甗の口縁部片である。349は古墳時代後期の甗の把手である。350～352は弥生時代後期の注口土器の注口部である。353～358は土玉で、355～358は孔をもたない。

この他に3・4層からは近世の陶磁器類が少量出土している。（濱田）

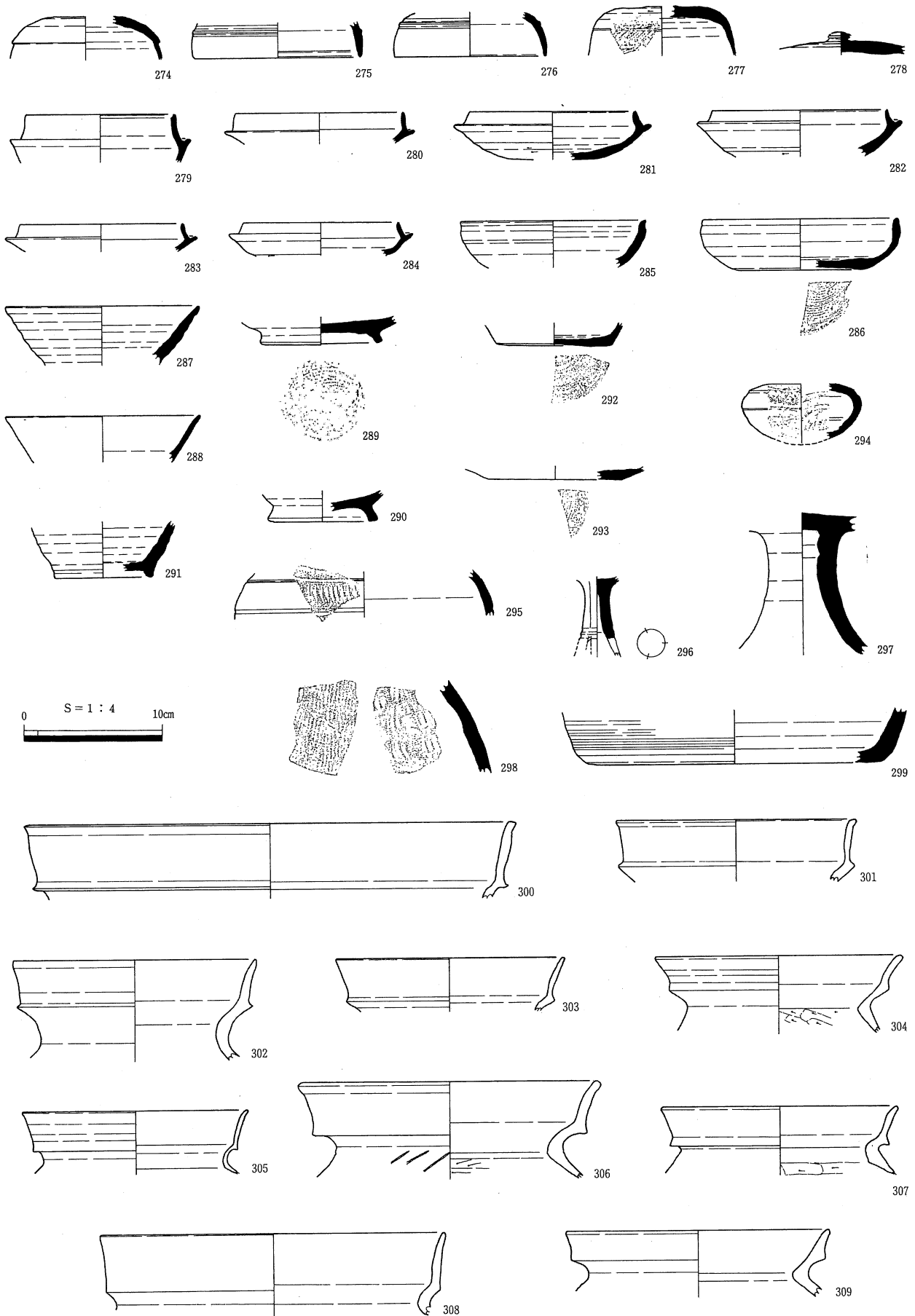
#### 6層（第80・81図359～409）

第80・81図は6層から出土した土器である。

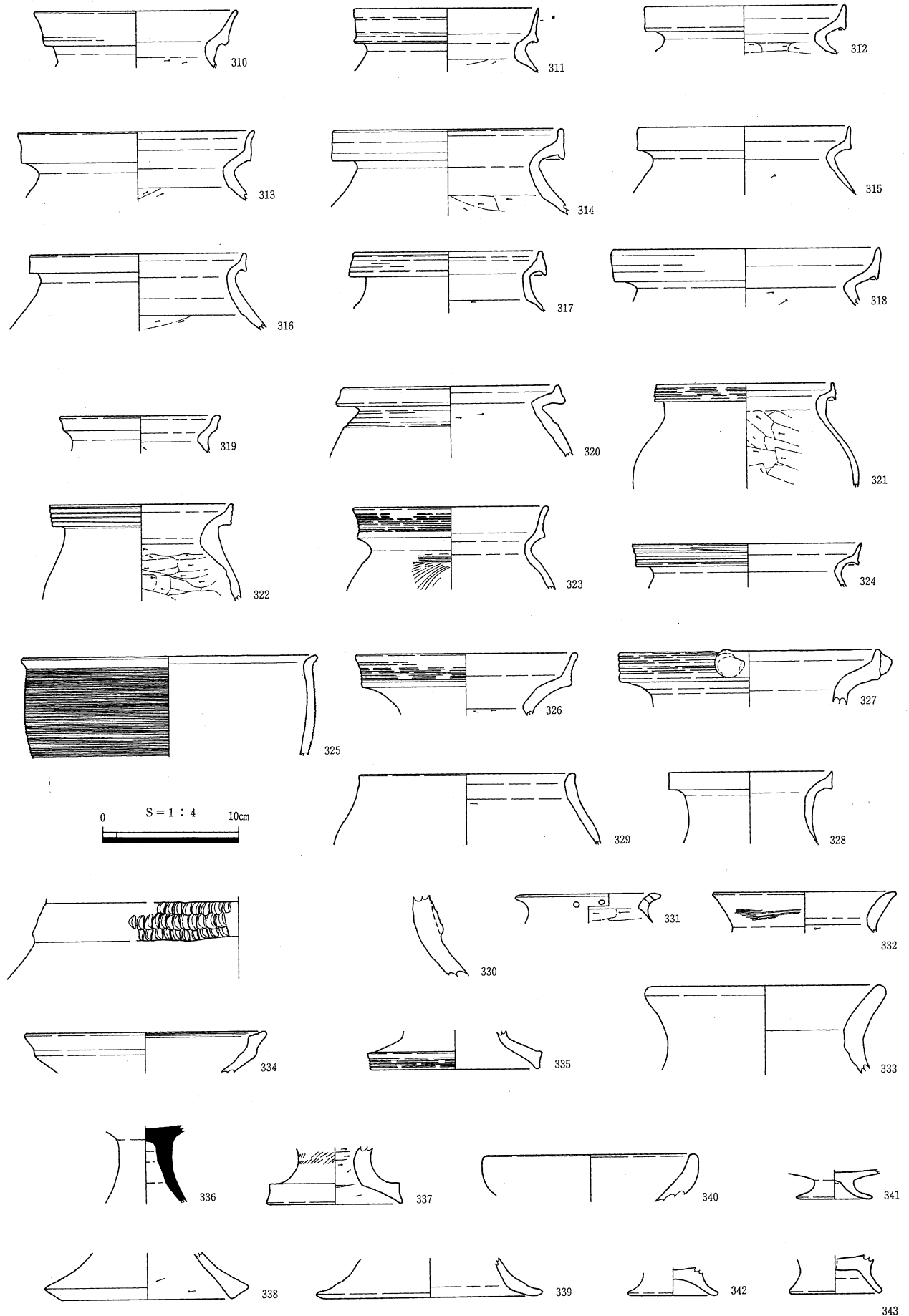
359～367・388は弥生時代後期末～古墳時代前期の土器で、359～367は甕、388は器台脚部である。368～379・385～387・402は弥生時代後期の土器である。368～379は甕、385は単純口縁の壺、386は無頸壺、387は器台の脚部、403は注口土器の注口部である。384も弥生時代後期の甕であろう。米子周辺地域では一般的でない口縁部形態をしており、他地域系（西部瀬戸内系）の可能性が考えられる。380～383は弥生時代中期後葉の土器である。380は甕、381～383は壺である。395はクシ描文、393・394はヘラ描沈線が施されている甕、397・398は無文の甕で弥生時代前期後葉～中期前葉のものである。396は弥生時代前期中葉～後葉の甕で口縁端部に刻目の施されている。390・391はヘラ描沈線文が施されている壺で、弥生時代前期後葉～中期前葉、392は木葉文の施されている壺の胴部片で、弥生時代前期中葉～後葉のものである。399は縄文時代晩期中葉の粗製深鉢の口縁部片、400は縄文時代晩期の突帯文土器の深鉢である。401・402は時期不明の土器で、401はツメ形文、402はクシ描による渦文が施されている。406～408は弥生土器の底部片である。406は焼成後、底部を打ち欠き、孔を穿つ。404・405は中空の土製品である。404の底面には孔が穿たれている。形態から鳥形土製品の可能性も考えられる。405は粗製で筒状を呈す。409は孔の施されない土玉である。（濱田）

### 3. 石器

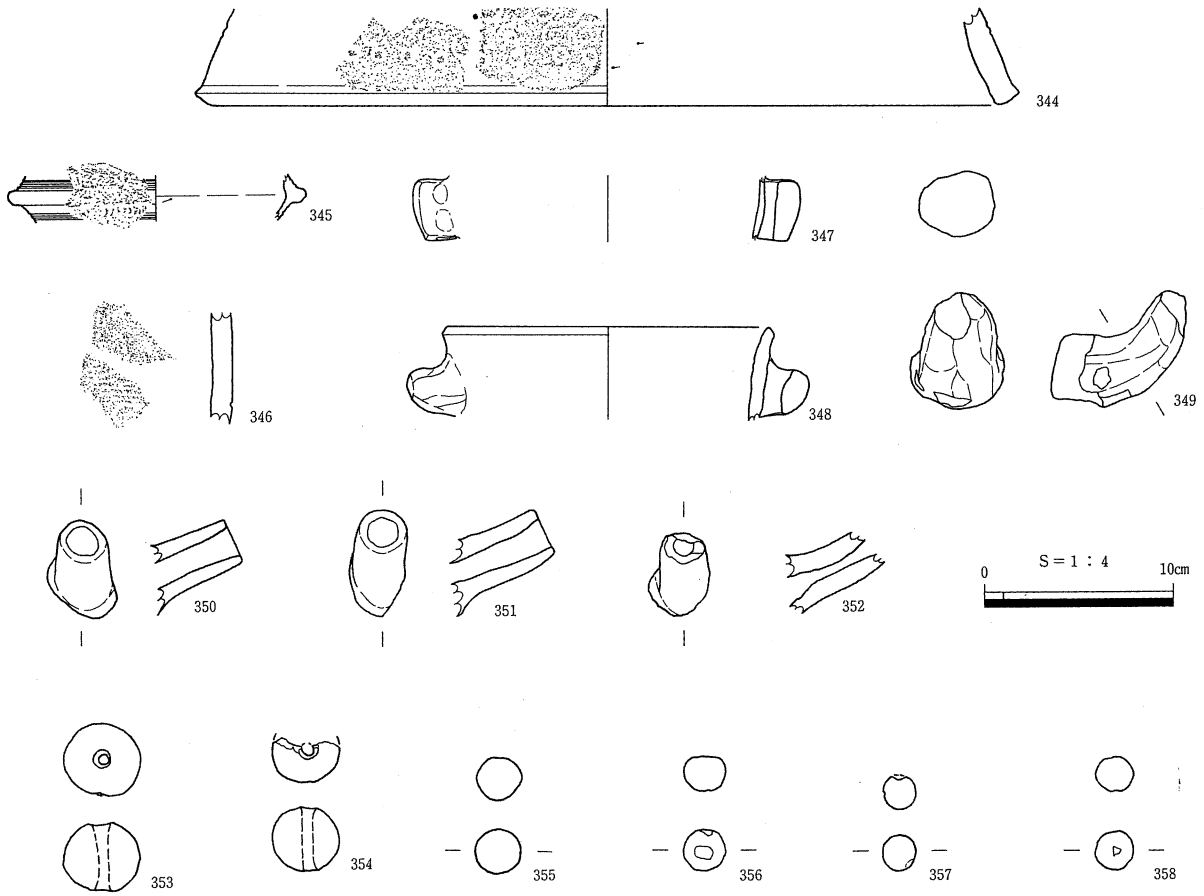
当遺跡からは総数201点の石器が出土した。表11は石器の内訳を包含層、遺構別にまとめたものである。第78



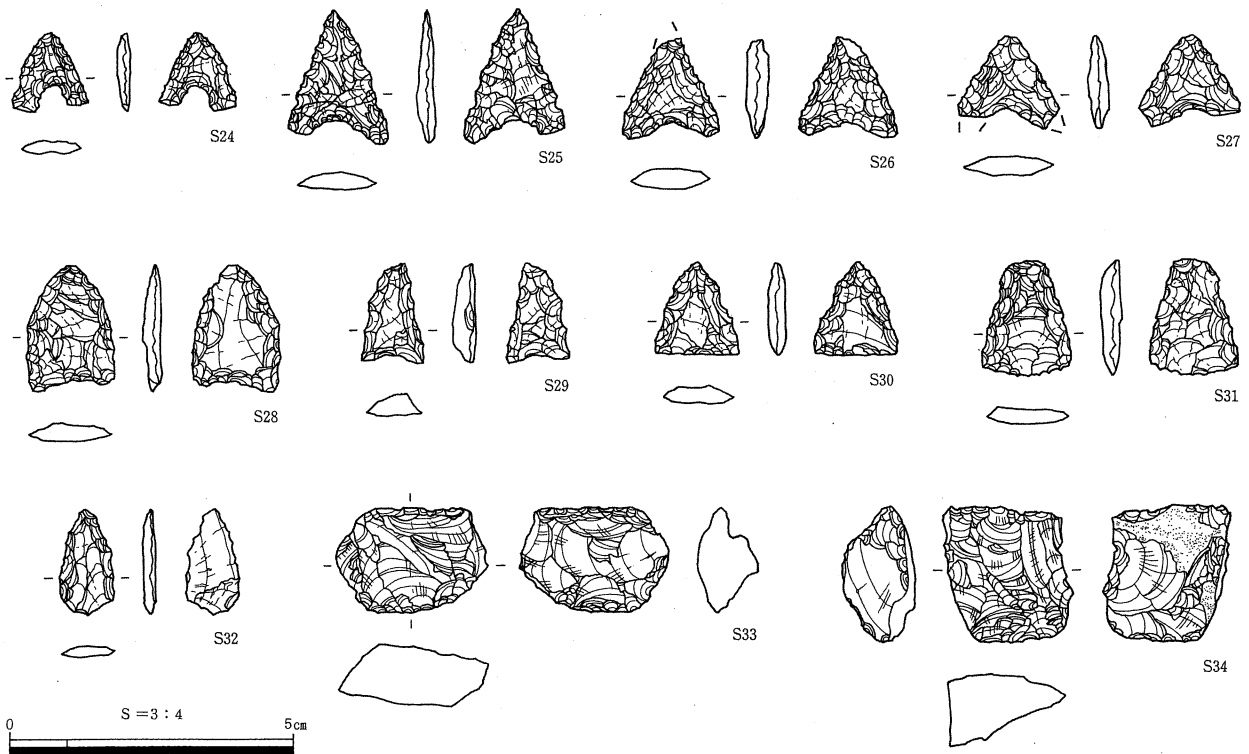
第75図 5層出土遺物1



第76図 5層出土遺物2

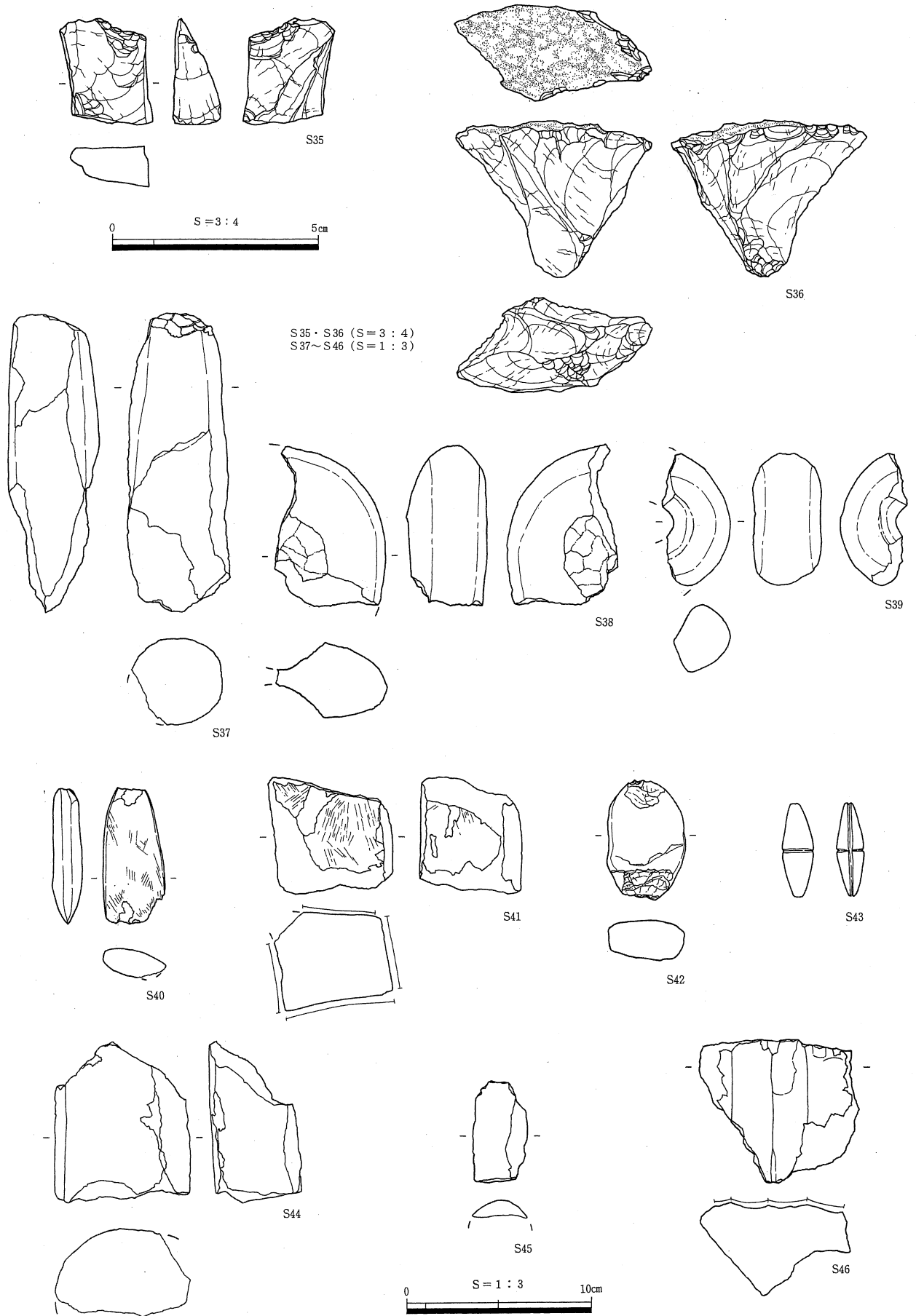


第77図 5層出土遺物 3

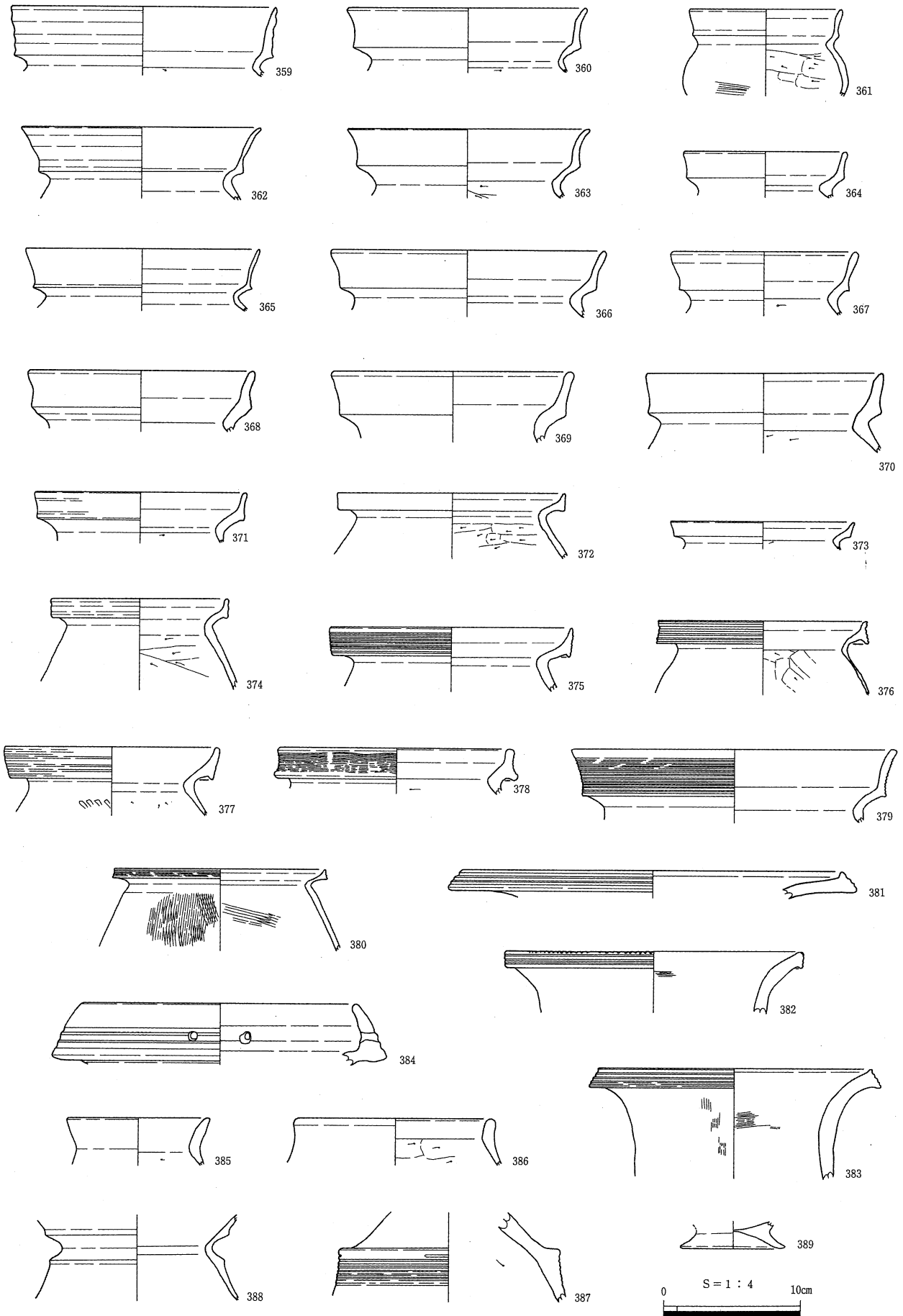


第78図 5層出土遺物 4

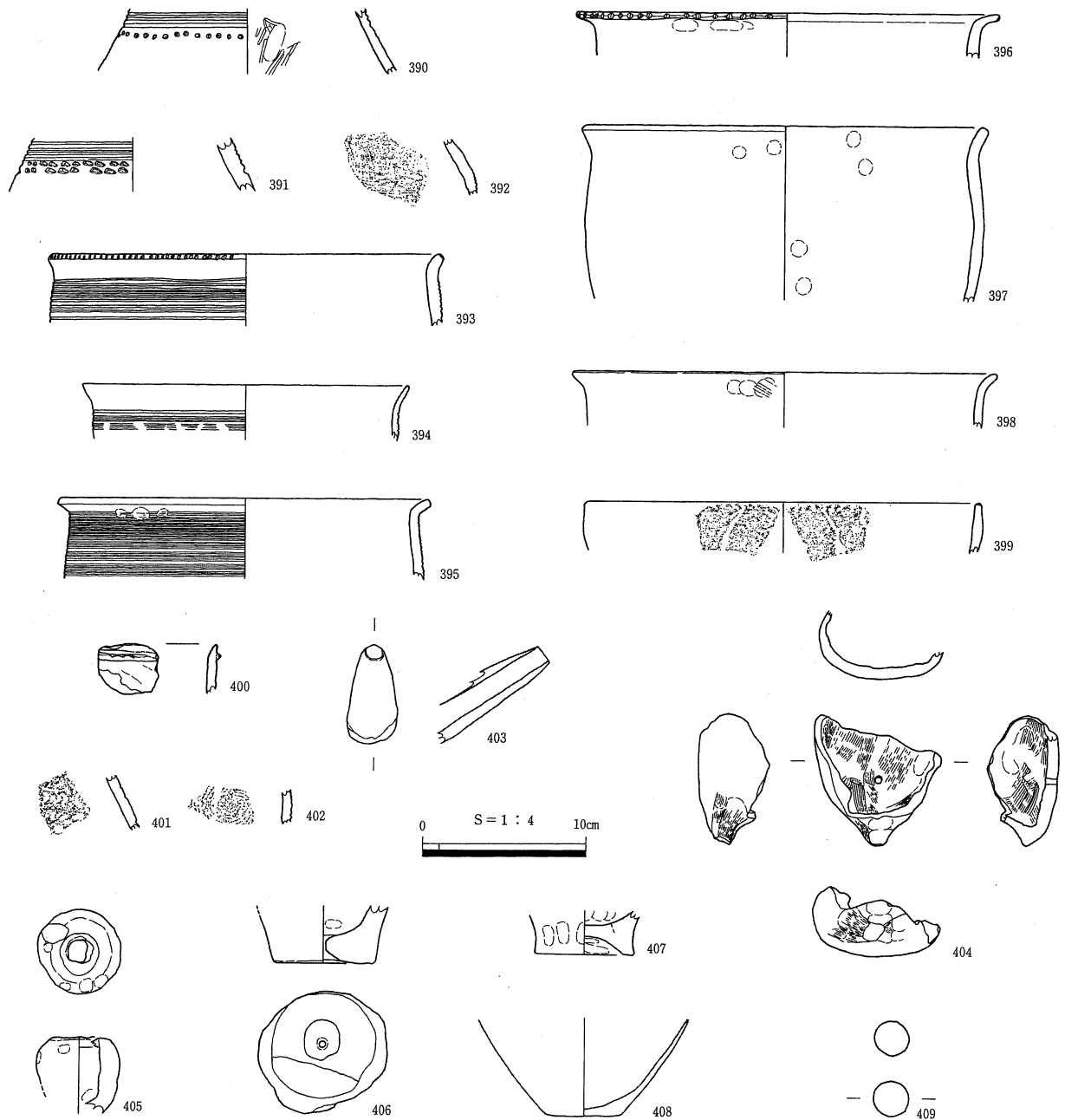




第79図 5層出土遺物5



第80図 6層出土遺物 1



第81図 6層出土遺物2

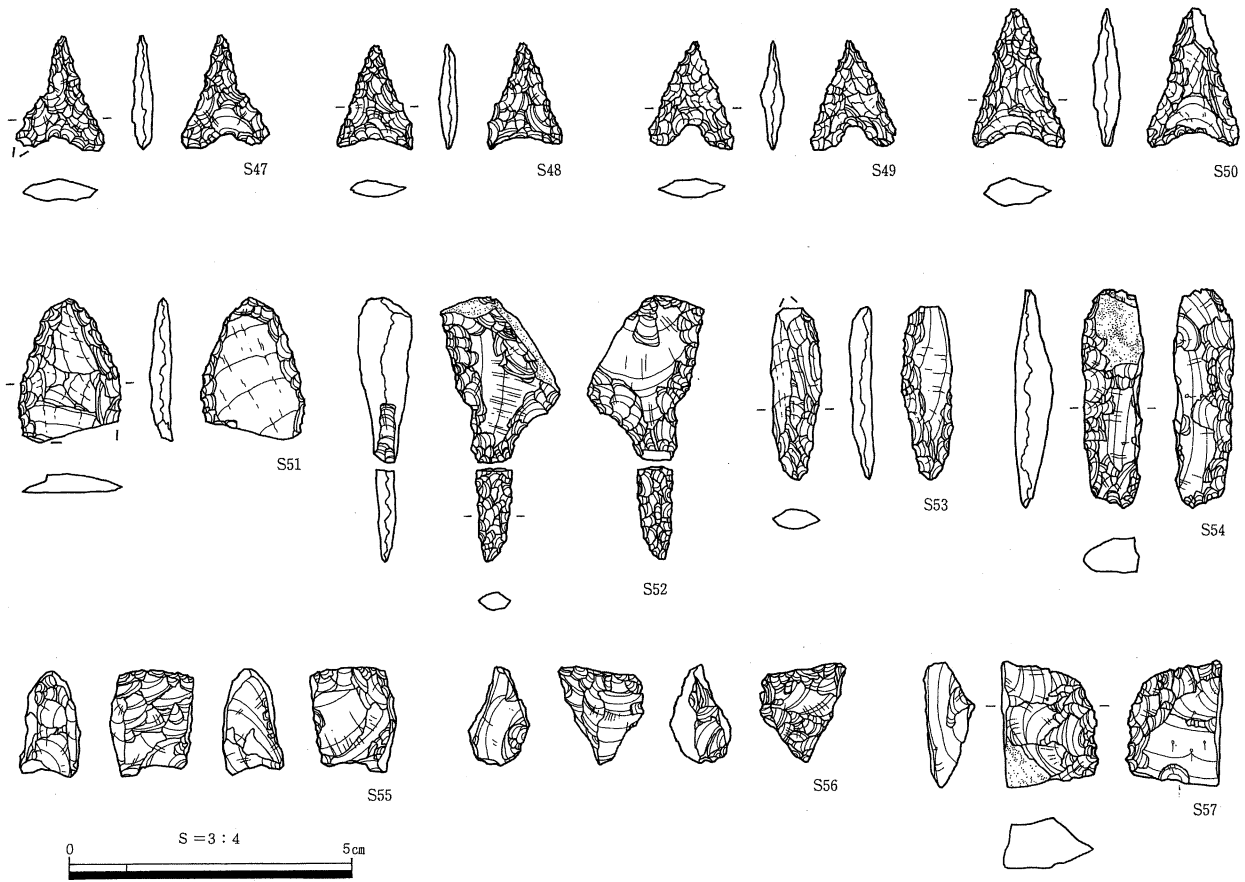
図・第79図・第82図・第83図は、包含層から出土した代表的な石器である。

5層 (第78・79図 S24~S46)

S24~S46は4・5層出土の石器である。S24~S32は石鏃で、S24~S29は凹基式、S30・S31は平基式、S32は円基式である。S33~S35は楔形石器、S36は石核である。このうち、S25・S31・S33・S34は黒曜石製、S24・S26~S32・S35・S36はサヌカイト製である。S37は柱状片刃石斧、S40は縄文系の両刃石斧である。S38・S39は環石で、S38は孔が未完通、S39は貫通している。S41は砥石である。S42・S43は石錘で、S42は礫の両端を打ち欠く。S43は紡錘形の有溝石錘である。S44・S45の全形は不明であるが、柱状を呈す石製品の破片と思われる。S46は玉砥石であろうか。  
(濱田)

6層 (第82・83図 S47~S64)

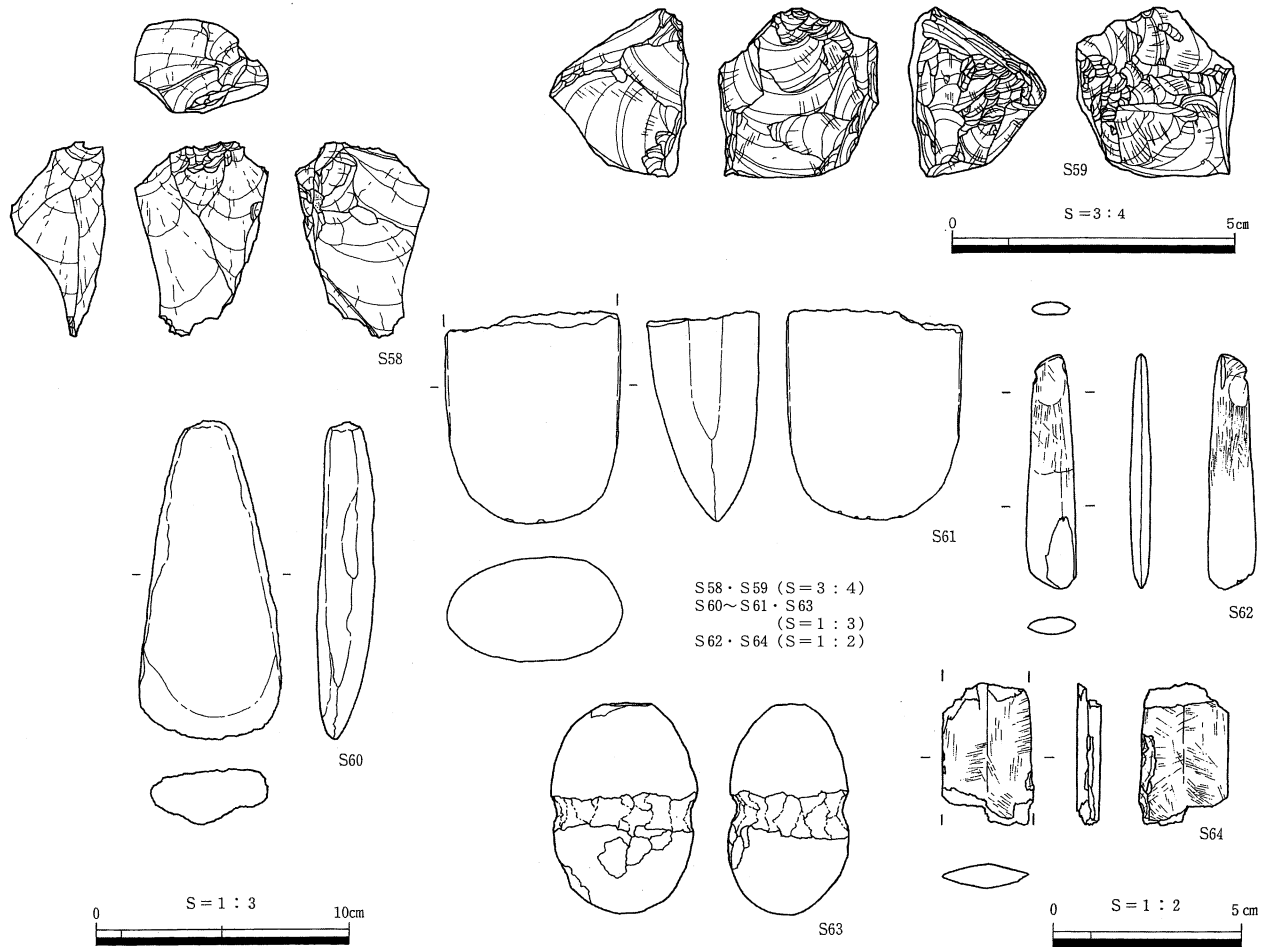
S47~S64は6層出土の石器である。S47~S51は石鏃で、S47~50は凹基式、S51は平基式である。S52~



第82図 6層出土遺物3

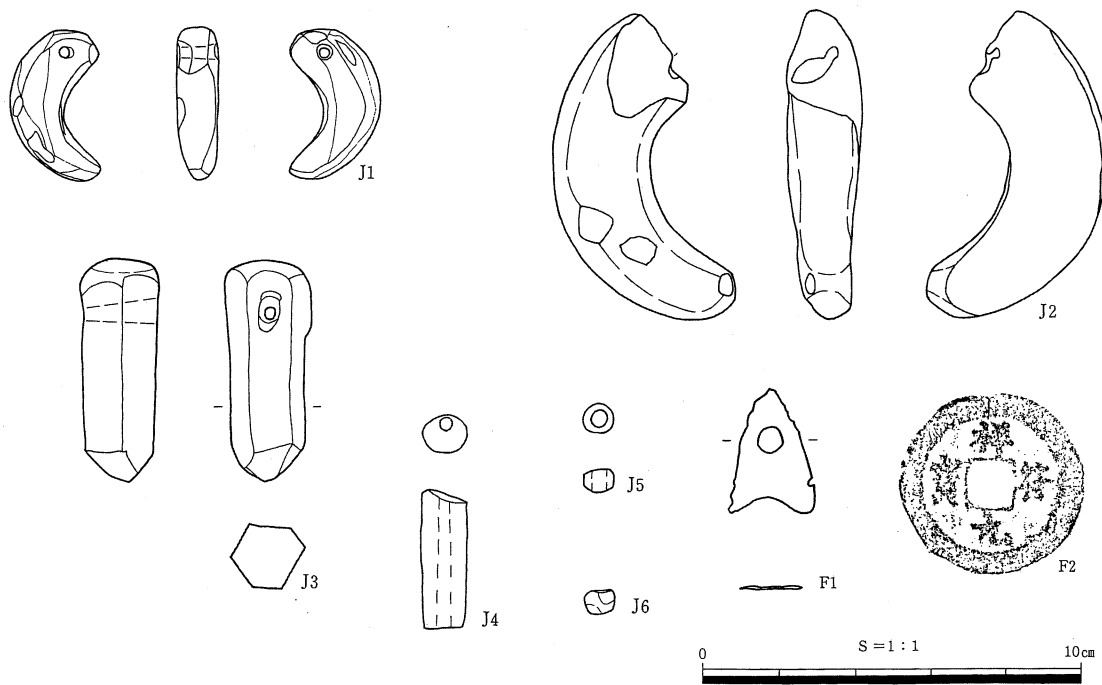
石器類	狩猟具・武器					漁労具				土掘具				収穫具					
	石鏃					石鏃				打製石斧				石包丁		石鎌			
	打製石鏃					磨製石鏃	打製石鏃	磨製石鏃	打欠目	切溝	有	短冊形	撥形	分銅形	不明	打製石包丁	磨製石包丁	打製石鎌	磨製石鎌
	凹基	平基	円基	突基・有基	不明														
出土層位・遺構																			
5層ほか	9	3	2		1				1		1			1					
6層	11	2					1				1	1	2	2					
第1遺構面	SD1																		
	SX1										2								
第2遺構面	SK8	1																	
	SD9	1									2								
	SX2						1						1						
	SD15	1																	
	P86																		
	P244																		
合計	23	5	2		1	1	1	1		2	5	4	2						

表11 古市流田遺跡出土状況別石器組成一覽表



第83図 6層出土遺物4

調理具・他		伐採・加工具						加工具						紡績具		その他					総計					
磨・凹・敲石	使用痕のある不定形な礫	石皿	両刃磨製	太型蛤刃	扁平両刃	扁平片刃	小型その他	柱状石斧			石錐	石匙	削器	微細剥離痕のある剥片	楔形石器	砥石			紡錘車	環石		柱状石製品	線刻礫	剥片石器		
								扶入	扶無	小型方形						砥石	玉砥石	擦切用砥石						石核	未製品	不明
38	4		2	1								7	12	10				1	2			3	2	1	102	
6	1		1	5		1			3			6	3	3	1			1				1			52	
2				1												1									4	
4				1												1									8	
				1																					2	
6	2		1				1							1							1	1			16	
7	1			1										1									1		13	
											1														2	
															1										1	
63	8		4	10			2		3		1	13	18	16	1			2	3	1	5	2	1		201	



第84図 5・6層出土石製品・ガラス製品・金属製品

S54は石錐で、S54は未製品と思われる。S55～S57は楔形石器、S58・S59は石核である。このうち、S47・S48・S52・S54・S55～S57・S59は黒曜石製、S49～S51・S53・S58はサヌカイト製である。S60は縄文系の両刃石斧、S61は太型蛤刃石斧である。S62は磨製石器で、小型の石斧の類であろうか。S63は有溝石錘である。S64は磨製石剣の破片である。  
(濱田)

#### 4. 石製・ガラス製玉類 (第84図J1～J6)

J1・J2は勾玉である。J1は水晶製、J2は滑石製である。J3は水晶製で、断面形が六角形を呈す垂飾である。J4～J6はガラス製品で、J4は管玉、J5は小玉、J6は小玉の未製品である。J1・J3～J5は5層出土、J2・J6は6層出土である。  
(濱田)

#### 5. 金属製品 (第84図F1・2)

F1は凹基状を呈す銅鏃である。孔が施されており、装飾品とも考えられる。5層から出土した。F2は1009年初鑄の北宋銭で「祥符元寶」である。  
(濱田)

## 土器・土製品観察表

1. 法量については、反転復元による推定値は ( ) で示した。
2. 土器・土製品の色調については、『新版 標準土色帖』を参考にした。

遺物 番号	挿図	地区 遺構	器種	時期	法量 cm	特徴	調整		色調	胎土 焼成	備考
							外面	内面			
1	23	SD1	甕 底部	平安 (9~ 10c)	底径(13.8)	須恵器、胴部は外 に開きながら立ち 上がる	胴部に格子目状タ タキ	胴部に車輪状の当 具痕、底部~底面 静止ナデ	灰色	密 良好	
2	23	SD1	坏身 底部	古墳 後期 7c	底径( 3.9)	須恵器底部片	底部横方向ナデ、 底面ヘラ切り	横方向ナデ	灰色	密 良好	
3	23	SD1	高坏? 口縁部	—	口径(15.2)	口縁端部が軽く外 屈	横方向ナデ	横方向ナデ	外)にぶい黄橙色 内)淡黄色	密 良好	
4	23	SD1	壺 口縁部	古墳 中期	口径(17.4) 頸径(13.4)	退化傾向を示す複 合口縁	横方向ナデ	横方向ナデ	にぶい黄橙色	やや粗 良好	
5	23	SD1	甕 口縁部	古墳 前期	口径(21.2) 頸径(18.5)	複合口縁	横方向ナデ	横方向ナデ	淡黄橙色	やや粗 良好	
6	23	SD1	甕 口縁部	古墳 前期	口径(23.6) 頸径(21.0)	複合口縁	横方向ナデ	横方向ナデ	にぶい黄橙色	やや粗 良好	内面一部黒班
7	23	SD1	甕 口縁部	古墳 前期	口径(17.0) 頸径(14.5)	複合口縁	横方向ナデ	横方向ナデ	にぶい黄橙色	密 良好	
8	23	SD1	甕 口縁部	弥生 後期	口径(17.0) 頸径(14.7)	複合口縁	横方向ナデ	口縁部横ナデ、頸 部ヘラケズリ	外)灰褐色 内)にぶい黄橙色	密 良好	外面部分的に スス付着
9	23	SD1	甕 口縁部	弥生 後期	口径(19.4) 頸径(16.6)	複合口縁	横方向ナデ	口縁部横方向ナ デ、頸部以下ヘラ ケズリ	外)にぶい黄橙色 内)淡黄色	密 良好	
10	23	SD1	壺 口縁部	弥生 後期	口径(26.5) 頸径(11.9)	複合口縁	横方向ナデ	口縁部横方向ナ デ、頸部以下ヘラ ケズリ	明黄橙色	やや粗 良好	
11	23	SD1	壺 口縁部	弥生 後期	口径(15.6) 頸径(13.8) 胴径(22.3)	口縁部に凹線文、 口縁部は内傾上下 に拡張される	口縁部~頸部横方 向ナデ、胴部ハケ ケズリ	口縁部~頸部横方 向ナデ、胴部ヘラ ケズリ	外)橙色 内)灰白色	密 良好	外面胴部部分 的にスス付着
12	23	SD1	壺 口縁部	弥生 後期	口径(15.0) 頸径(12.2)	口縁部に擬凹線 文、複合口縁	横方向ナデ	口縁部横方向ナ デ、頸部以下ヘラ ケズリ	にぶい黄橙色	密 良好	
13	23	SD1	器台 脚部	弥生 後期	—	鼓形を呈す	横方向ナデ	ヘラケズリ	灰白色	やや粗 良好	
14	23	SD1	無頸壺 口縁部	弥生 後期	口径(14.8)	口縁端部やや外反 する	横方向ナデ	口縁部横方向ナ デ、胴部ヘラケス リ	外)暗灰色 内)灰白色	密 良好	外面全体に黒 班
15	23	SD1	把手付 壺? 甕?	—	口径(12.1)	口縁直下に横位の 把手が付く	口縁部横方向ナ デ、把手指オサ エ→ナデ	口縁部横方向ナ デ、胴部ヘラケス リ	外)明黄褐色 内)にぶい黄橙色	密 良好	
16	23	SD1	把手	—	—	横位で縦長の把手	ナデ	ナデ	灰白色	密 良好	
17	23	SD1	把手	—	—	横位で筒状の把手	指オサエ→ナデ	—	にぶい黄橙色	密 良好	外面一部黒班
18	24	SD2	坏身 底部	古墳 後期 (7c)	底径( 5.4)	須恵器底部片	体部回転ナデ、底 部回転ヘラケス リ→静止ナデ	体部~底部回転ナ デ→静止ナデ	灰白色	密 良好	
19	24	SD2	高坏 脚部	古墳 後期 (7c)	脚径(12.2)	須恵器脚部片	回転ナデ	回転ナデ	灰色	密 良好	
20	25	SX1	蓋 口縁部	古墳 後期 (7c)	口径(11.5)	須恵器坏蓋口縁部 片	回転ナデ	回転ナデ	灰白色	密 良好	
21	25	SX1	坏身 底部	奈良 (8c)	底径( 7.7)	須恵器底部片、平 底を呈す	体部ナデ、底面糸 切り	静止ナデ	灰色	密 良好	
22	25	SX1	高坏 脚部	弥生 後期	脚径(10.8)	脚部は筒状、裾部 は複合口縁状	調整不明	脚柱部ヘラケス リ→ナデ、裾部ヘ ラケズリ	浅黄橙色	密 良好	
23	27	SK7	鉢	縄文 後期 ~ 晩期	口径(35.6) 胴径(36.4)	口縁部内面に沈線 文、胴部で屈曲し、 口縁部は外反気味 に立ち上がる	ナデ	横方向ナデ?	にぶい黄橙色	やや粗 良好	
24	29	SK8	壺 口縁部	弥生 中期 前葉	口径(17.0)	口縁端部ヘラ状工 具による斜格子目 文	ナデ	ナデ	にぶい黄橙色	密 良好	

表12 古市流田遺跡土器・土製品観察表1

第4章 古市流田遺跡の調査

遺物番号	挿図	地区遺構	器種	時期	法量 cm	特徴	調整		色調	胎土 焼成	備考
							外面	内面			
25	29	SK8	甕 口縁部	弥生 中期 前葉	口径(24.0) 頸径(23.2) 胴径(23.5)	口縁部は短く逆L 字状に屈曲、肩部 にクシ描文、その 直下にヘラ状工具 による刺突文	ナデ	指オサエ→ナデ	外)にぶい黄橙色 内)橙色	密 良好	
26	29	SK8	甕	弥生 中期 前葉	口径(25.0) 頸径(23.4)	口縁部短く逆L字 状に屈曲する	口縁～頸部指オサ エ→ナデ、肩部縦 方向ハケメ	指オサエ→ナデ	にぶい黄橙色	密 良好	
27	33	SD9	壺 口縁部	弥生 中期 後葉	口径(27.3)	口縁部は下方に拡 張、口縁部凹線文	横方向ナデ	横方向ナデ	にぶい黄橙色	密 良好	
28	33	SD9	壺 口縁部	弥生 中期 後葉	口径(20.4) 頸径(16.6)	口縁部は上下に拡 張、口縁部凹線文	横方向ナデ	横方向ナデ	明黄褐色	密 良好	
29	33	SD9	壺 口縁部	弥生 中期 後葉	口径(15.0) 頸径(12.9)	口縁部は上下に拡 張、口縁部凹線文	横方向ナデ	横方向ナデ	淡黄色	密 良好	
30	33	SD9	壺 口縁部	弥生 後期	口径(9.2) 頸径(7.2)	口縁部は下方に拡 張、口縁直下強い ヨコナデ、頸部焼 成前に内側より横 列2個の穿孔あり	口縁部横方向ナ デ、頸部ナデ→ミ ガキ	ケズリ→ナデ	にぶい黄橙色	密 良好	
31	33	SD9	壺 口縁部	弥生 中期 後葉	口径(16.6) 頸径(15.5)	口縁部は上下に拡 張、口縁部凹線文	横方向ナデ	口縁部横方向ナ デ、頸部以下ケズ リ	淡黄色	やや粗 良好	
32	33	SD9	壺 口縁部	弥生 後期	口径(15.7) 頸径(11.3)	複合口縁、口縁部 擬凹線文	横方向ナデ	口縁部横方向ナ デ、頸部以下ケズ リ	にぶい黄橙色	やや粗 良好	
33	33	SD9	壺 口縁部	弥生 後期	口径(15.8) 頸径(12.7)	複合口縁、口縁部 擬凹線文	横方向ナデ	口縁部横方向ナ デ、頸部以下ケズ リ	浅黄色	密 良好	外面口縁部一 部スス付着
34	33	SD9	壺 口縁部	弥生 後期	口径(15.8) 頸径(14.6)	口縁部は短く上下 に拡張、口縁部凹 線文?	横方向ナデ	口縁部横方向ナ デ、頸部以下ケズ リ	にぶい黄橙色	密 良好	
35	33	SD9	甕 口縁部	弥生 中期 後葉	口径(15.7) 頸径(14.4)	口縁部は上方に短 く拡張、頸部に指 頭圧痕貼付突帯文	横方向ナデ	口縁部横方向ナ デ、頸部以下ケズ リ→ナデ	淡黄色	密 良好	
36	33	SD9	甕 口縁部	弥生 後期	口径(18.8) 頸径(15.2)	複合口縁、口縁部 擬凹線文	横方向ナデ	口縁部横方向ナ デ、頸部以下ケズ リ	外)にぶい黄橙色 内)淡黄色	密 良好	外面口縁部一 部スス付着
37	33	SD9	甕 口縁部 ～胴部	弥生 後期	口径(13.4) 頸径(10.8) 胴径(14.6)	複合口縁、口縁部 擬凹線文(5条の 内、上2条ナデ消 し)、肩部に板状 工具による刺突文	頸部横方向ナデ	口縁部横方向ナ デ、頸部以下ケズ リ	外)褐色 内)にぶい橙色	やや粗 良好	外面一部スス 付着
38	33	SD9	甕 口縁部	弥生 後期	口径(14.8) 頸径(10.6)	複合口縁、口縁部 擬凹線文、肩部板 状工具による刺突 文	頸部横方向ナデ、 胴部ハケメ	口縁部横方向ナ デ、頸部以下ケズ リ	外)にぶい橙色 内)灰黄褐色	密 良好	外面スス付着
39	33	SD9	壺 口縁部	弥生 後期	口径(18.1) 頸径(14.0)	複合口縁、口縁部 擬凹線文	頸部ナデ→ハケメ	口縁部横方向ナ デ、頸部以下ケズ リ	にぶい黄橙色	密 良好	
40	33	SD9	壺 口縁部	弥生 後期	口径(17.5) 頸径(13.7)	複合口縁、口縁部 擬凹線文→ナデ消 し	頸部横方向ナデ	横方向ナデ	外)淡黄色 内)橙色	密 良好	
41	33	SD9	甕 口縁部	弥生 後期	口径(14.8) 頸径(12.2)	複合口縁、口縁部 擬凹線文	頸部横方向ナデ	口縁部横方向ナ デ、頸部以下ケズ リ	外)浅黄褐色 内)にぶい黄褐色	密 良好	
42	33	SD9	甕 口縁部 ～胴部	弥生 後期	口径(15.0) 頸径(13.4) 胴径(18.8)	複合口縁、口縁部 擬凹線文	頸部横方向ナデ	口縁部横方向ナ デ、頸部以下ケズ リ	淡黄色	やや粗 やや軟	
43	33	SD9	甕 口縁部	弥生 後期	口径(19.4) 頸径(16.1)	複合口縁、口縁部 擬凹線文	頸部横方向ナデ	口縁部横方向ナ デ、頸部以下ケズ リ	にぶい黄褐色	密 良好	
44	33	SD9	甕 口縁部	弥生 後期	口径(15.0) 頸径(12.9)	短い複合口縁、口 縁部擬凹線文	頸部横方向ナデ	口縁部横方向ナ デ、頸部以下ケズ リ	外)黄灰色 内)浅黄褐色	やや粗 やや軟	
45	33	SD9	甕 口縁部 ～胴部	弥生 後期	口径(15.2) 頸径(13.0)	短い複合口縁、口 縁部擬凹線文	頸部横方向ナデ、 胴部ハケメ	口縁部横方向ナ デ、頸部以下ケズ リ	外)橙色 内)淡黄色	やや粗 良好	外面胴部一 部スス付着
46	33	SD9	甕 口縁部	弥生 後期	口径(11.6) 頸径(9.9)	短い複合口縁、口 縁部擬凹線文	頸部横方向ナデ	口縁部横方向ナ デ、頸部以下ケズ リ	にぶい黄褐色	密 良好	外面スス付着
47	33	SD9	甕 口縁部	弥生 後期	口径(11.3) 頸径(9.9)	短い複合口縁、口 縁部擬凹線文	頸部横方向ナデ	口縁部横方向ナ デ、頸部以下ケズ リ	橙色	密 良好	
48	33	SD9	甕 口縁部	弥生 後期	口径(20.6) 頸径(18.7)	複合口縁、口縁部 擬凹線文	頸部横方向ナデ	口縁部横方向ナ デ、頸部以下ケズ リ	にぶい黄褐色	やや粗 良好	

表13 古市流田遺跡土器・土製品観察表2



遺物 番号	挿図	地区 遺構	器種	時期	法量 cm	特徴	調整		色調	胎土 焼成	備考
							外面	内面			
49	33	SD9	甕 口縁部 ~胴部	弥生 後期	口径(13.7) 頸径(10.9)	複合口縁、口縁部 擬凹線文	頸部横方向ナデ	口縁部横方向ナ デ、頸部以下ケズ リ	外)にぶい黄褐色 内)淡黄色	やや粗 良好	
50	33	SD9	甕 口縁部	弥生 後期	口径(25.2) 頸径(23.4)	口縁部は短く上下 に拡張、口縁部擬 凹線文?、肩部板 状工具による刺突 文	頸部横方向ナデ	口縁部横方向ナ デ、頸部以下ケズ リ	にぶい黄橙色	やや粗 良好	
51	33	SD9	甕 口縁部	弥生 後期	口径(13.6) 頸径(11.8) 胴径(15.5)	短い複合口縁、肩 部に刺突文	頸部横方向ナデ	口縁部横方向ナ デ、頸部以下ケズ リ	外)明黄褐色 内)明褐色	密 良好	
52	33	SD9	壺 口縁部	弥生 後期	口径(16.7) 頸径(10.4)	複合口縁	横方向ナデ	口縁部横方向ナ デ、頸部以下ケズ リ	外)にぶい黄褐色 内)にぶい褐色	密 良好	
53	33	SD9	甕 口縁部	弥生 後期	口径(18.1) 頸径(14.0)	複合口縁	口縁部横方向ナ デ、頸部強い横方 向ナデ	口縁部横方向ナ デ、頸部以下ケズ リ	外)黒色 内)にぶい黄褐色	密 良好	外面スス付着
54	33	SD9	甕 口縁部	弥生 後期	口径(19.9) 頸径(16.3)	複合口縁	横方向ナデ	口縁部横方向ナ デ、頸部以下ケズ リ	淡黄色	やや粗 良好	
55	33	SD9	広口壺 または 鉢	弥生 後期	口径(10.6) 頸径(8.6) 胴径(11.6)	口縁部L字状に屈 曲、外面胴部二枚貝 腹縁による刺突文	口縁部横方向ナデ	口縁部横方向ナ デ、胴部ケズリ	にぶい橙色	やや粗 良好	外面スス付着
56	33	SD9	鉢 口縁部 ~胴部	弥生 後期	口径(15.5) 頸径(14.5) 胴径(16.1)	口縁部沈線(凹 線?)	口縁部指オサエ→ 横方向ナデ、頸部 指オサエ→ハケメ	口縁部強い横方 向ナデ、頸部下縦方 向ケズリ	外)にぶい黄褐色 内)にぶい黄褐色	密 良好	
57	33	SD9	高坏 脚部	弥生 中期 後葉	脚径(13.5)	端部凹線文、脚部 に1個の穿孔あり	指オサエ→横方向 ナデ	脚部ケズリ	にぶい黄褐色	密 良好	
58	34	SD9	台形 土器	弥生 中期 後葉	口径(32.8)	脚部は強く外反す る	上面ハケメ→ナ デ、口縁部横方向 ハケメ、頸部縦 方向ハケメ	指オサエ→横方向 ナデ	にぶい黄褐色	密 良好	
59	34	SD9	台形 土器	弥生 中期 後葉	口径(39.8)	側面半裁竹管文	横方向ナデ	横方向ナデ	浅黄色	密 やや軟	第77図344・ 346と同一個 体の可能性あり
60	35	SD9	壺 口縁部	弥生 中期 前葉	口径(30.2)	口縁部1条のヘラ 描沈線文	指オサエ→横方向 ナデ	横方向ナデ	橙色	やや粗 良好	
61	35	SD9	壺 口縁部	弥生 中期 前葉	口径(25.6)	口縁部1条のヘラ 描沈線文	指オサエ→横方向 ナデ	指オサエ→横方向 ナデ	橙色	やや粗 良好	
62	35	SD9	壺 口縁部	弥生 中期 前葉	口径(22.3)	口縁部1条のヘラ 描沈線文	指オサエ→横方向 ナデ	横方向ナデ	にぶい黄褐色	密 良好	
63	35	SD9	壺 口縁部	弥生 中期 前葉	口径(18.0) 頸径(11.3)	頸部5条のヘラ描 沈線文	口縁部横方向ナ デ、頸部指オサ エ→横方向ナデ	指オサエ→横方向 ナデ・ミガキ	灰黄褐色	密 良好	
64	35	SD9	壺 口縁部	弥生 中期 前葉	口径(22.3)	口縁部ヘラ状工 具による斜格子目 文	指オサエ→横方向 ナデ	指オサエ→横方向 ナデ	にぶい黄褐色	密 やや軟	
65	35	SD9	壺 口縁部	弥生 中期 前葉	口径(15.6)	口縁部ヘラ状工 具による斜格子目 文	指オサエ→横方向 ナデ	指オサエ→横方向 ナデ	にぶい黄褐色	密 やや軟	
66	35	SD9	壺 口縁部	弥生 中期 前葉	口径(17.1) 頸径(14.5)	頸部9条のヘラ描 沈線文	指オサエ→横方向 ナデ	指オサエ→横方向 ナデ	にぶい黄褐色	密 良好	
67	35	SD9	壺 口縁部	弥生 中期 前葉?	口径(14.5) 頸径(11.3)	頸部3条のヘラ描 沈線文	横方向ナデ	横方向ナデ	外)にぶい黄褐色 内)淡黄色	密 良好	
68	35	SD9	壺 肩部	弥生 中期 前葉?	—	2条のヘラ描沈線 文	横方向ナデ	横方向ナデ	浅黄褐色	密 良好	
69	35	SD9	壺 肩部	弥生 中期 前葉	—	ヘラ描沈線文、そ の直下に粘土粒貼 り付け	摩滅により調整不 明	摩滅により調整不 明	外)浅黄色 内)淡黄色	やや粗 良好	
70	35	SD9	壺 肩部	弥生 中期 前葉	—	ヘラ描沈線文、そ の直上に竹管ない し巻貝頂部による 刺突文	ナデ→横方向ミガ キ	縦方向ハケ→ナデ	外)灰黄褐色 内)にぶい黄褐色	やや粗 良好	5mm程度の砂 粒を含む

表14 古市流田遺跡土器・土製品観察表3

第4章 古市流田遺跡の調査

遺物番号	挿図	地区遺構	器種	時期	法量 cm	特徴	調整		色調	胎土 焼成	備考
							外面	内面			
71	35	SD9	壺 頸部	弥生 中期 前葉	頸径(16.0)	横方向と縦方向の ヘラ描沈線文	ナデ→ミガキ	ナデ	外)赤褐色 内)にぶい橙色	密 良好	
72	35	SD9	壺 頸部	弥生 中期 前葉	頸径(14.0)	頸部に9条以上の ヘラ描沈線文	横方向ナデ→横方 向ミガキ	ケズリ→指オサ エ→横方向ナデ	外)褐灰色 内)淡黄色	密 良好	
73	35	SD9	壺 頸部	弥生 中期 前葉	頸径(13.8)	頸部に7条のヘラ 描沈線文、その直 下にヘラ状工具に よる三角形の刺突 文	指オサエ→横方向 ナデ	指オサエ→横方向 ナデ	外)にぶい橙色 内)灰黄褐色	密 良好	
74	35	SD9	壺 頸部	弥生 中期 前葉	頸径(10.3)	頸部10条以上のヘ ラ描沈線文、その 直下に竹管ないし 巻貝頂部による刺 突文	ナデ	ナデ	外)浅黄褐色 内)黄灰色	密 良好	
75	35	SD9	短頸壺 口縁部	弥生 中期 前葉	口径(11.0) 頸径(10.6)	頸部直下に4~5条 のヘラ描沈線文	指オサエ→横方向 ナデ	横方向ナデ	暗褐色	密 良好	
76	35	SD9	壺 口縁部 ~胴部	弥生 中期 前葉	口径(13.2) 頸径(11.1)	肩部1条のヘラ描 沈線文	横方向ミガキ	口縁~頸部ナデ、 肩部→ハケメ→ナ デ	にぶい黄褐色	密 良好	
77	35	SD9	壺 胴部	弥生 中期 前葉	—	ヘラ状工具による 木葉文	ミガキ	ハケメ→ナデ	にぶい黄褐色	密 良好	
78	35	SD9	小型壺	弥生 中期 前葉	口径(4.4) 胴径(7.2) 底径(3.3)	底部はやや凹底	指オサエ→ナデ	指オサエ→ナデ	淡黄色	密 良好	
79	36	SD9	大型壺	弥生 中期 前葉	口径(48.4) 頸径(36.8)	口縁部に沈線・刻 目、口頸部界・頸 胴部界に2条の沈 線と横長の刺突を 施す	ハケメ?→ナデ ミガキ	ハケメ→ナデ	外)淡黄色 内)にぶい黄褐色	やや粗 良好	
80	37	SD9	甕 口縁部	弥生 中期 前葉	口径(24.5) 頸径(22.9) 胴径(23.7)	口縁部は短く外 反、頸部4条のヘ ラ描沈線文	指オサエ→横方向 ナデ	横方向ナデ	淡黄色	密 良好	
81	37	SD9	甕 口縁部	弥生 中期 前葉	口径(23.8) 頸径(23.0) 胴径(23.4)	口縁部は短く外 反、端部ヘラ状工 具による刻み、頸 部4条以上のヘラ 描沈線文	指オサエ→横方向 ナデ	横方向ナデ	にぶい褐色	密 良好	
82	37	SD9	甕 頸部	弥生 中期 前葉	頸径(22.2)	口縁部は短く外 反、頸部3条のヘ ラ描沈線文	横方向ナデ	横方向ナデ	外)褐色 内)にぶい褐色	やや粗 良好	
83	37	SD9	甕 頸部	弥生 中期 前葉	口径(21.5) 頸径(20.6) 胴径(21.0)	口縁部は短く外 反、頸部6条のヘ ラ描沈線文	横方向ナデ	指オサエ→斜方向 ナデ	外)黒褐色 内)浅黄色	密 良好	
84	37	SD9	甕	弥生 中期 前葉	口径(21.0) 頸径(20.0) 胴径(21.2) 底径(7.0)	口縁部は短く屈 曲、頸部6条のヘ ラ描沈線文、その 直下にヘラ状工具 による三角形の刺 突文	縦方向ハケメ→ナ デ	指オサエ→ナデ	浅黄色	密 良好	
85	37	SD9	甕 口縁部	弥生 中期 前葉	口径(26.8) 頸径(25.6)	口縁部は短く外 反、頸部数条のヘ ラ描沈線文	横方向ナデ	ナデ	淡黄色	やや粗 良好	
86	37	SD9	甕 口縁部	弥生 中期 前葉	口径(25.0) 頸径(23.8) 胴径(24.0)	口縁部は短く外 反、頸部9条のヘ ラ描沈線文	横方向ナデ	口縁部ナデ、頸部 以下横方向ハケ メ→ナデ	外)淡黄色 内)にぶい黄褐色	密 良好	
87	37	SD9	甕 口縁部	弥生 中期 前葉	口径(27.5) 頸径(25.2) 胴径(25.6)	口縁部は短く外 反、頸部10条のヘ ラ描沈線文	横方向ナデ	横方向ナデ	淡黄色	密 良好	
88	37	SD9	甕 胴部	弥生 中期 前葉	頸径(24.3)	頸部8条のヘラ描 沈線文、その直下 にヘラ状工具によ る刺突文	縦方向ハケメ	ナデ	外)褐灰色 内)にぶい黄褐色	密 良好	
89	37	SD9	甕 口縁部	弥生 中期 前葉	口径(17.0) 頸径(15.8) 胴径(16.1)	口縁部は短く屈 曲、端部ヘラ状工 具による刻み、胴 部上半10条のヘラ 描沈線文、その直 下に竹管ないし巻 貝頂部による刺突 文	ナデ	指オサエ	にぶい黄褐色	やや粗 良好	

表15 古市流田遺跡土器・土製品観察表4

遺物 番号	挿図	地区 遺構	器種	時期	法量 cm	特徴	調整		色調	胎土 焼成	備考
							外面	内面			
90	37	SD9	甕 口縁部 ~胴部	弥生 中期 前葉	口径(21.5) 頸径(19.6) 胴径(20.2)	口縁部は短く屈 曲、胴部上半クシ 描文、その直下に 不明工具による刺 突文	ナデ	指オサエ→ナデ	にぶい黄橙色	密 良好	
91	37	SD9	甕 口縁部	弥生 中期 前葉	口径(18.5) 頸径(16.6) 胴径(17.5)	口縁部は短く屈 曲、胴部上半クシ 描文、クシ状工 具による刺突文	横方向ナデ	横方向ハケ→横方 向ナデ→横方向ミ ガキ	灰黄褐色	密 良好	外面一部スス 付着
92	37	SD9	甕 口縁部	弥生 中期 前葉	口径(20.9) 頸径(19.2)	口縁部は短く外 反、端部へラ状工 具による刻み	横方向ナデ	ナデ	外)明褐色 内)にぶい橙色	密 良好	
93	37	SD9	甕 口縁部	弥生 中期 前葉	口径(24.0) 頸径(23.0)	口縁部は短く外反 ないし屈曲、端部 へラ状工具による 刻み	縦方向ハケメ	横方向ナデ	にぶい黄橙色	やや粗 良好	
94	37	SD9	甕 口縁部	弥生 中期 前葉	口径(28.0) 頸径(24.0)	口縁部は短く外 反、端部へラ状工 具による刻み	横方向ナデ	横方向ナデ	にぶい黄褐色	やや粗 良好	
95	37	SD9	甕 口縁部	弥生 中期 前葉	口径(23.9) 頸径(25.1)	口縁部は逆L字状 に屈曲、端部へラ 状工具による刻み	横方向ナデ	横方向ナデ	淡黄色	やや粗 良好	
96	37	SD9	甕 口縁部	弥生 中期 前葉	口径(22.4) 頸径(20.8) 胴径(21.4)	口縁部は短く外 反、端部1条のへ ラ描沈線文	口縁部横方向ナ デ、胴部縦方向ハ ケメ	横方向ナデ	外)橙色 内)灰黄色	密 良好	
97	37	SD9	甕 口縁部	弥生 中期 前葉	口径(20.0) 頸径(19.8)	口縁部は短く外 反、口縁端部部分 的に沈線文?	指オサエ→横方向 ナデ	指オサエ→横方向 ナデ・横方向ミガ キ	外)黄灰色 内)にぶい黄橙色	密 良好	
98	38	SD9	甕 口縁部 ~胴部	弥生 中期 前葉	口径(30.1) 頸径(29.1)	口縁部が短く外反 する	ナデ、頸部指オサ エ	口縁~胴部上半ナ デ→ミガキ、胴部 下半ナデ	外)浅黄色 内)にぶい黄褐色	密 良好	
99	38	SD9	甕 口縁部 ~胴部	弥生 中期 前葉	口径(20.5) 頸径(19.6) 胴径(20.0)	口縁部が短く外反 する	口縁部ナデ、頸部 指オサエ→ナデ、 胴部縦方向ハケメ	指オサエ→横方向 ナデ	外)褐色 内)にぶい黄褐色	密 良好	
100	38	SD9	甕 口縁部	弥生 中期 前葉	口径(19.8) 頸径(19.0)	口縁部が短く外反 する	指オサエ→ナデ	指オサエ→ナデ	にぶい黄褐色	やや粗 良好	
101	38	SD9	甕 口縁部	弥生 中期 前葉	口径(22.8) 頸径(22.2)	口縁部が短く外反 する	口縁部指オサエ→ ハケメ、胴部ハケ メ	横方向ナデ	外)黄灰色 内)にぶい黄褐色	密 良好	
102	38	SD9	甕 口縁部	弥生 中期 前葉	口径(20.5) 頸径(18.8)	口縁部が外反する	ナデ	ナデ	にぶい黄褐色	やや粗 良好	
103	38	SD9	甕 口縁部	弥生 中期 前葉	口径(23.0) 頸径(21.4)	口縁部が外屈する	指オサエ→横方向 ナデ	指オサエ→横方向 ナデ	にぶい黄褐色	やや粗 良好	
104	38	SD9	甕 口縁部	弥生 中期 前葉	口径(22.9) 頸径(22.0) 胴径(22.1)	口縁部が短く外反 する	指オサエ→横方向 ナデ	指オサエ→横方向 ナデ	淡黄色	やや粗 良好	
105	38	SD9	甕 口縁部 ~胴部	弥生 中期 前葉	口径(12.7) 頸径(11.9) 胴径(12.0)	口縁部が短く外屈 する	ナデ	ナデ	外)褐色 内)褐灰色	密 良好	
106	38	SD9	甕 口縁部 ・底部	弥生 中期 前葉	口径(22.1) 頸径(20.9) 胴径(22.1) 底径(7.0)	口縁部が短く逆L 字状に屈曲する	指オサエ→ナデ	指オサエ→ナデ	淡黄色	密 良好	
107	38	SD9	甕 口縁部	弥生 中期 前葉	口径(16.1) 頸径(15.2)	口縁部は内傾し端 部が屈曲する	横方向ナデ	横方向ナデ	にぶい黄褐色	密 良好	
108	38	SD9	蓋	弥生 中期 前葉	口径(14.2)	口縁端部は面取り	ハケメ→ナデ	天井部ケズリ、口 縁端部ナデ	にぶい黄褐色	密 良好	
109	38	SD9	高坏	弥生 中期 前葉	口径(17.2)	碗形の器部に低い 脚が付くと思われ る	指オサエ→ナデ	指オサエ→ナデ	外)にぶい黄褐色 内)にぶい黄褐色	密 良好	
110	38	SD9	鉢 口縁部	弥生 中期 前葉	口径(27.4)	口縁部は外反気味	指オサエ→横方向 ナデ	ケズリ→指オサ エ→横方向ナデ	橙色	密 良好	
111	38	SD9	鉢 口縁部	弥生 中期 前葉	口径(21.0)	口縁部は短く外反 気味	ナデ	ナデ	淡黄色	やや粗 良好	

表16 古市流田遺跡土器・土製品観察表5

第4章 古市流田遺跡の調査

遺物番号	挿図	地区遺構	器種	時期	法量 cm	特徴	調整		色調	胎土 焼成	備考
							外面	内面			
112	38	SD9	鉢 口縁部	弥生 中期 前葉	口径(26.4)	口縁部は短く外反 気味	横方向ナデ、口縁 部強い横方向ナデ	横方向ナデ	外) 浅黄色 内) にぶい黄橙色	やや粗 良好	
113	38	SD9	鉢 口縁部	弥生 中期 前葉	口径(12.9)	碗形を呈す鉢	指オサエ→横方向 ナデ	口縁部指オサエ→ 横方向ナデ、胴部 オサエ→縦方向ナ デ	にぶい黄橙色	密 良好	
114	38	SD9	鉢 口縁部 ~胴部	弥生 中期 前葉	口径(8.5) 胴径(10.9)	内湾する鉢、頸部 焼成前に2個1対の 穿孔	オサエ→ナデ	口縁部オサエ→横 方向ナデ、胴部縦 方向ナデ	外) 黒色 内) 黒褐色	密 良好	
115	38	SD9	鉢 口縁部 ~胴部	弥生 中期 前葉	口径(15.1) 胴径(16.4)	内湾する鉢、頸部 焼成前に2個1対の 穿孔	ナデ	ナデ	外) 黒色 内) 暗褐色	やや粗 良好	
116	39	SD9	深鉢 口縁部	縄文 晩期 後葉	—	口縁端部より少し 下がったところに 浅いD字状の刻目 が施される突帯が 付く	横方向ナデ	横方向ナデ	外) にぶい黄橙色 内) 橙色	やや粗 良好	
117	39	SD9	深鉢 口縁部	縄文 晩期 後葉	—	口縁端部に接して 断面V字状の刻目 が施される突帯が 付く	横方向ナデ	横方向ナデ	外) にぶい橙色 内) 淡黄色	やや粗 良好	
118	39	SD9	深鉢 口縁部	縄文 晩期 後葉	—	口縁端部に接して 無刻目突帯が付く	横方向ナデ	横方向ナデ	外) 褐灰色 内) にぶい黄橙色	やや粗 良好	
119	39	SD9	深鉢 口縁部	縄文 晩期 後葉	—	口縁端部から少し 下がったところに 無刻目突帯が付く	横方向ナデ	横方向ナデ	にぶい黄橙色	密 良好	
120	39	SD9	深鉢 口縁部	弥生 前期	口径(30.1) 頸径(31.8)	内湾する深鉢、口 縁端部から少し下 がったところに無 刻目突帯が付く	横方向ナデ	横方向ナデ	にぶい黄橙色	密 良好	
121	39	SD9	深鉢 口縁部	縄文 晩期 後葉	—	口縁部は玉縁状を 呈し、口縁端部に 棒状工具による刺 突あり	横方向ナデ	横方向ナデ	にぶい黄橙色	やや粗 良好	
122	39	SD9	浅鉢 口縁部	縄文 晩期 中~ 後葉	口径(40.8)	口縁部が屈曲する 浅鉢、口縁部内面 及び胴屈曲部に沈 線を施す	口縁部横方向ナ デ、胴部横方向ケ ズリ	横方向ナデ	にぶい黄色	密 良好	
123	39	SD9	土偶 足部	縄文 晩期?	残存高 3.8 幅 2.0 厚さ 2.1	土偶足部片、丸み のある短めの足で やや膝を曲げたよ うな形を呈す	オサエ→ナデ	—	にぶい黄橙色	やや粗 良好	
124	39	SD9	底部	弥生 中期 前葉?	底径(6.7)	平底	指オサエ→ナデ	オサエ→ハケメ→ ナデ	外) 橙色 内) 黒褐色	密 良好	
125	39	SD9	底部	弥生 中期 前葉?	底径(8.0)	平底	指オサエ→ナデ	指オサエ→ナデ	外) 浅黄橙色 内) 淡黄色	密 良好	
126	39	SD9	底部	弥生 中期 前葉?	底径(7.0)	平底	指オサエ→ナデ	指オサエ→ナデ	外) 浅黄橙色 内) 淡黄色	密 良好	
127	39	SD9	底部	弥生 中期 前葉?	底径(6.9)	平底	指オサエ→ナデ	指オサエ→ナデ	淡黄色	密 良好	外面モミ痕有
128	39	SD9	底部	弥生 中期 前葉?	底径(7.4)	平底	指オサエ→ナデ	指オサエ→ナデ	にぶい黄橙色	密 良好	底面モミ痕有
129	39	SD9	底部	弥生 中期 前葉?	底径(5.4)	平底	指オサエ→ナデ	指オサエ→ナデ	にぶい黄橙色	密 良好	外面一部スス 付着
130	39	SD9	底部	弥生 中期 前葉?	底径(8.2)	平底	指オサエ→ナデ	指オサエ→ナデ	淡黄色	密 良好	
131	39	SD9	底部	弥生 中期 前葉?	底径(8.4)	平底	指オサエ→ナデ	指オサエ→ナデ	にぶい黄橙色	やや粗 良好	
132	39	SD9	底部	弥生 中期 前葉?	底径(6.3)	平底	胴部縦方向ハケ メ→ナデ	指オサエ→ナデ	外) にぶい黄橙色 内) 浅黄色	密 良好	

表17 古市流田遺跡土器・土製品観察表6

遺物 番号	挿図	地区 遺構	器種	時期	法量 cm	特徴	調整		色調	胎土 焼成	備考
							外面	内面			
133	39	SD9	底部	弥生 中期 前葉?	底径(6.8)	平底	ケズリ→オサエ→ ナデ	指オサエ→ナデ	外)灰黄色 内)淡黄色	やや粗 良好	
134	39	SD9	底部	弥生 中期 前葉?	底径(5.7)	平底	指オサエ→横方向 ナデ	指オサエ→ナデ	外)明褐色 内)黄褐色	密 良好	
135	39	SD9	底部	弥生 中期 前葉?	底径(5.8)	平底	指オサエ→ナデ	指オサエ→ナデ	外)黄灰色 内)浅黄色	密 良好	
136	39	SD9	底部	弥生 中期 前葉?	底径(10.1)	平底	指オサエ→ミガキ	指オサエ→ナデ	にぶい黄橙色	密 良好	
137	39	SD9	底部	弥生 中期 前葉?	底径(6.6)	平底	指オサエ→ナデ	指オサエ→ナデ	外)にぶい黄橙色 内)浅黄色	やや粗 良好	
138	39	SD9	底部	弥生 中期 前葉?	底径(6.0)	低脚状を呈す	指オサエ→横方向 ナデ	指オサエ→ナデ	外)にぶい黄褐色 内)黒褐色	密 良好	
139	42	SD15	甕 頸部	弥生 前期 後葉 ~中期 前葉	頸径(23.8)	口縁部が外反する	ナデ	ナデ	外)にぶい橙色 内)にぶい黄褐色	密 良好	
140	42	SD15	甕 胴部	—	—	幅広の沈線を2条 施す	ナデ	ナデ	外)にぶい黄褐色 内)浅黄色	密 良好	
141	42	SD15	甕 底部	弥生 前期 後葉 ~中期 前葉	底径(9.1)	平底	風化により調整不 明	風化により調整不 明	外)浅黄色 内)にぶい黄褐色	やや粗 良好	
142	42	SD15	甕 底部	弥生 前期 後葉 ~中期 前葉	底径(10.2)	平底	胴部オサエ→ハケ メ→ナデ	オサエ→ナデ	外)橙色 内)にぶい黄褐色	密 良好	
143	46	SX2	壺 口縁部	弥生 前期 中~ 後葉	口径(14.8) 頸径(11.2)	口縁部は強く外反 し、口頸部界に接 合面を利用した段 をもつ	オサエ→横方向ナ デ	オサエ→横方向ナ デ	外)淡黄色 内)浅黄褐色	密 良好	
144	46	SX2	壺 口縁部	弥生 前期 後葉	口径(15.5) 頸径(11.9)	口頸部界に2条の ヘラ描沈線文	オサエ→横方向ナ デ	オサエ→横方向ナ デ	外)黄褐色 内)にぶい黄褐色	密 良好	
145	46	SX2	壺 口縁部	弥生 前期 中~ 後葉	口径(25.4) 頸径(22.6)	口頸部界に貼付突 帯文	オサエ→ナデ	オサエ→ミガキ	外)にぶい黄褐色 内)灰黄褐色	密 良好	
146	46	SX2	壺 口縁部	弥生 前期 後葉 ~中期 前葉	口径(12.8)	口縁部が緩やかに 外反する	横方向ナデ	横方向ナデ	にぶい黄褐色	密 良好	
147	46	SX2	壺 頸部	弥生 中期 前葉	頸径(12.4)	頸部に6条以上の ヘラ描沈線文	横方向ナデ	ナデ	外)淡黄色 内)浅黄色	密 良好	
148	46	SX2	壺 肩部	弥生 中期 前葉	頸径(13.5)	5条のヘラ描沈線 文と棒状工具によ る刺突が2段に施 される	ナデ	指オサエ→横方向 ナデ	外)褐色 内)暗灰黄色	密 良好	
149	46	SX2	壺 肩部	弥生 前期 後葉 ~中期 前葉	—	胴部にヘラ状工具 による斜格子文	ナデ→ミガキ	ハケメ→ナデ	にぶい黄褐色	密 良好	

表18 古市流田遺跡土器・土製品観察表7

第4章 古市流田遺跡の調査

遺物番号	挿図	地区遺構	器種	時期	法量 cm	特徴	調整		色調	胎土 焼成	備考
							外面	内面			
150	46	SX2	壺 口縁部	弥生 中期 前葉	口径(18.2) 頸径(16.0)	口縁端部三角形の 刺突文、頸部にク シ描平行沈線文	指オサエ→ナデ	指オサエ→ナデ	外)にぶい黄橙色 内)橙色	密 良好	
151	46	SX2	壺	弥生 中期 前葉	口径(17.7) 頸径(16.4) 底径(9.6)	口縁端部にヘラ状 工具による斜線な いし斜格子文、頸 部はクシ描文、そ の直下に三角形の 刺突を施す	口縁部縦方向ハ ケ→横方向ナデ、 頸部縦方向ハケ、 胴部縦方向ハケ→ タテミガキ、底部 横方向ミガキ	口縁部横方向ハ ケ→ナデ→横方向 ミガキ、胴部上半 ナデ、胴部下半ハ ケ→ミガキ	外)灰黄色 内)にぶい黄橙色	密 良好	底面モミ痕有
152	46	SX2	壺 頸部～ 胴部	弥生 中期 前葉	胴径(29.5)	頸部クシ描文、そ の直下に三角形の 刺突文	ナデか?	ナデか?	外)橙色 内)にぶい橙色	密 良好	
153	46	SX2	甕 口縁部	弥生 中期 前葉	口径(24.6) 頸径(22.8)	口縁部は短く外 反、端部に刻み、 頸部にはヘラ描沈 線文と沈線文間に 刺突を施す	ナデ	指オサエ→ナデ	浅黄橙色	やや粗 良好	
154	46	SX2	甕 口縁部	弥生 中期 前葉	口径(24.0) 頸径(22.0)	口縁部は短く屈 曲、端部に刻み、 頸部はヘラ描沈線 文	ナデ	指オサエ→ナデ	にぶい黄橙色	密 良好	
155	46	SX2	甕 口縁部 ～胴部	弥生 中期 前葉	口径(21.3) 頸径(19.2) 胴径(22.2)	口縁部は短く外 反、胴部上半クシ 描文その直下に三 角形の刺突文	縦方向ハケ→ナ メ横方向ナデ	口縁部横方向ナ デ、胴部ナメハ ケ→ナデ	外)にぶい黄褐色 内)にぶい黄色	密 良好	
156	46	SX2	甕	弥生 中期 前葉	口径(15.5) 頸径(15.1) 胴径(16.1) 底径(4.4)	口縁部は短く外 反、胴部上半クシ 描文その直下に刺 突文	縦方向ハケ→櫛描 き、胴部ナデ	口頸部横方向ハ ケ→横方向ミガ キ、胴部ナデ	にぶい黄橙色	密 良好	
157	47	SX2	甕 口縁部 ～胴部	弥生 中期 前葉	口径(20.2) 頸径(18.4) 胴径(19.6)	口縁部は短く屈 曲、胴部上半クシ 描文、その直下に 刺突文	口縁部端面取り、 胴部ていねいなナ デ	口頸部横方向ハ ケ→ナデ、胴部ナ デ	にぶい黄橙色	密 良好	
158	47	SX2	甕 口縁部	弥生 中期 前葉	口径(36.6) 頸径(35.0) 胴径(36.2)	口縁部は貼り付 け、端部刻み、胴 部上半クシ描文、 その直下に三角形 の刺突文	ナデ	口頸部指オサエ→ ナデ、胴部ナデ	外)黄橙色 内)灰黄色	密 良好	
159	47	SX2	甕 口縁部	弥生 中期 前葉	口径(26.5) 頸径(25.1) 胴径(27.0)	口縁部は短く外 反、胴部上半クシ 描文、その直下に 三角形の刺突文	指オサエ→ナデ	指オサエ→ナデ	にぶい黄橙色	密 良好	
160	47	SX2	甕 口縁部	弥生 中期 前葉	口径(24.1) 頸径(22.4)	口縁部は短く外 反ないし屈曲、頸 部クシ描文	指オサエ→ナデ	ナデ	淡黄色	密 良好	
161	47	SX2	甕 口縁部	弥生 中期 前葉	口径(23.7) 頸径(22.3)	口縁部は短く屈 曲ないし外反、胴 部上半クシ描文	ナデ	ナデ	にぶい黄橙色	密 良好	外面スス付着
162	47	SX2	甕 口縁部	弥生 中期 前葉	口径(22.0) 頸径(20.4) 胴径(21.1)	口縁部は貼り付 け、胴部上半クシ 描文、その直下に 刺突文	ナデ	ナデ	外)黒色 内)にぶい黄橙色	密 良好	外面スス付着
163	47	SX2	甕 口縁部	弥生 中期 前葉	口径(37.9) 頸径(35.6)	口縁部は貼り付 け、端部刻み、頸 部クシ描文	ハケメ→ナデ	指オサエ→ナデ	にぶい黄橙色	密 良好	
164	47	SX2	甕 口縁部 ～胴部	弥生 中期 前葉	口径(19.1) 頸径(17.4) 胴径(18.4)	口縁部は貼り付 け、胴部上半クシ 描文、その直下に 三角形の刺突文	ていねいなナデ、 一部ミガキ状	指オサエ→ナデ	外)にぶい黄橙色 内)淡黄色	密 良好	
165	47	SX2	甕 口縁部	弥生 中期 前葉	口径(18.6) 頸径(16.9)	口縁部は貼り付 け、胴部上半クシ 描沈線文?	摩滅により調整不 明	ナデ	外)灰黄色 内)灰黄褐色	密 良好	
166	47	SX2	甕 胴部	弥生 中期 前葉	胴径(23.1)	クシ描平行沈線文 その直下に刺突文	縦方向ハケメ	指オサエ→ナデ	外)にぶい黄橙色 内)灰黄褐色	密 やや軟	
167	47	SX2	甕 口縁部	弥生 後葉 ～中 期前 葉	口径(28.2) 頸径(26.9)	口縁部は短く外 反、端部刻み	指オサエ→縦方向 ハケ	横・斜め方向ハケ メ	にぶい黄橙色	やや粗 良好	

表19 古市流田遺跡土器・土製品観察表8

遺物 番号	挿図	地区 遺構	器種	時期	法量 cm	特徴	調整		色調	胎土 焼成	備考
							外面	内面			
168	47	SX2	甕 口縁部	弥生 中期 前葉	口径(21.9)	口縁部は逆L字状 に屈曲、端部刻み	指オサエ→ナデ	指オサエ→ナデ	明黄褐色	密 良好	
169	47	SX2	甕 口縁部	弥生 中期 前葉	口径(21.5) 頸径(20.0)	口縁部が短く外反	指オサエ→ていね いな・ナデ	指オサエ→ナデ	外)褐色 内)にぶい黄橙色	密 良好	外面スス付着
170	47	SX2	甕 口縁部 ~胴部	弥生 中期 前葉	口径(19.4) 頸径(18.2)	口縁部が短く外反	口縁部横方向ハ ケ→横方向ナデ、 胴部縦方向ハケ→ ナデ	横方向ナデ	外)にぶい黄橙色 内)浅黄色	密 良好	
171	47	SX2	甕 口縁部	弥生 中期 前葉	口径(23.3) 頸径(21.3)	口縁部が短く外反	ナデ	ナデ	にぶい黄橙色	密 やや軟	
172	47	SX2	甕 口縁部	弥生 中期 前葉	口径(22.1) 頸径(20.9)	口縁部が短く外反	ナデ	ナデ	にぶい黄橙色	密 やや軟	
173	47	SX2	甕 口縁部	弥生 中期 前葉	口径(22.4) 頸径(20.0)	口縁部が短く屈曲	ナデ	ナデ	にぶい黄橙色	密 良好	
174	47	SX2	甕 口縁部 ~胴部	弥生 中期 前葉	口径(19.0) 頸径(18.2) 胴径(18.4)	口縁部が短く屈曲	摩滅により調整不 明	摩滅により調整不 明	浅黄褐色	やや粗 良好	
175	47	SX2	甕 口縁部	弥生 中期 前葉	口径(21.0) 頸径(19.3)	口縁部が短く屈曲	指オサエ→ナデ	指オサエ→ナデ	淡黄色	密 良好	
176	47	SX2	蓋また は高坏 脚部	弥生 中期 前葉	口径( 8.0)	上部に摘みまたは 坏部の剥離した痕 跡が残る	ケズリ→指オサエ	ケズリ→指オサエ	淡黄色	密 良好	
177	48	SX2	甕 口縁部	縄文 晩期 後葉	—	口縁端部、突帯に 浅いO字状の刻目 を施す	ナデ	ナデ	浅黄色	やや粗 良好	
178	48	SX2	甕 口縁部	縄文 晩期 後葉	—	口縁端部から少し 下がった位置に、 浅いD字状の刻目 の施される突帯が つく	ナデ	ナデ	浅黄色	やや粗 良好	
179	48	SX2	甕 口縁部	縄文 晩期 後葉	—	口縁端部にほぼ接 して浅いO字状の 刻目の施される突 帯がつく	横方向ナデ	ナデ	淡黄色	やや粗 良好	
180	48	SX2	甕 口縁部	縄文 晩期 後葉	—	口縁端部から少し 下がった位置にD 字状の刻目が施さ れる刻帯がつく	ナデ	ナデ	暗灰黄色	密 良好	
181	48	SX2	甕 口縁部	縄文 晩期 後葉	—	口縁端部から少し 下がった位置にV 字状の刻目が施さ れる突帯がつく	横方向ナデ	ナデ	淡黄色	やや粗 良好	
182	48	SX2	甕 口縁部	縄文 晩期 後葉	—	口縁端部にほぼ接 して無刻目?突帯 がつく	横方向ナデ	ナデ	にぶい黄橙色	やや粗 良好	
183	48	SX2	甕 口縁部	縄文 晩期 後葉	—	口縁端部から少し 下がった位置にV 字状の刻目が施さ れる突帯がつく	横方向ナデ	ナデ	外)明黄褐色 内)淡黄色	やや粗 良好	
184	48	SX2	甕 口縁部	縄文 晩期 後葉	—	口縁端部にほぼ接 してV字状の刻目 の施される突帯が つく	ナデ	ナデ	にぶい黄橙色	やや粗 良好	
185	48	SX2	浅鉢 口縁部	縄文 晩期 後葉	—	逆くの字状を呈す 浅鉢	ナデ	ナデ	灰黄褐色	やや粗 良好	
186	48	SX2	浅鉢 口縁部	縄文 晩期 後葉	—	波状を呈す浅鉢、 口縁内面に1条の 沈線	ナデ	ナデ	にぶい黄橙色	やや粗 良好	
187	48	SX2	底部	弥生 中期 中葉	底径(12.6)	平底、壺の底部か	指オサエ→ナデ	指オサエ→ナデ	外)橙色 内)浅黄褐色	やや粗 良好	
188	48	SX2	底部	弥生 中期 中葉	底径( 9.9)	平底、壺の底部か、 外面1個のモミ痕 あり	指オサエ→ヘラミ ガキ	指オサエ→ナデ	にぶい黄褐色	やや粗 良好	

表20 古市流田遺跡土器・土製品観察表 9

第4章 古市流田遺跡の調査

遺物番号	挿図	地区遺構	器種	時期	法量 cm	特徴	調整		色調	胎土 焼成	備考
							外面	内面			
189	48	SX2	底部	弥生 中期 中葉	底径(9.2)	平底、壺の底部が	指オサエ→ナデ	ナデ	外)淡黄色 内)明黄褐色	やや粗 良好	
190	48	SX2	底部	弥生 中期 中葉	底径(10.0)	平底	ヘラミガキ	指オサエ	にぶい黄橙色	やや粗 良好	
191	48	SX2	底部	弥生 中期 中葉	底径(6.9)	平底	指オサエ→ナデ	指オサエ→ナデ	浅黄橙色	密 良好	
192	48	SX2	底部	弥生 中期 中葉	底径(7.0)	平底	底部ナデ→ミガキ、底面指オサエ→ナデ	指オサエ→ていねいなナデ	明赤褐色	密 良好	
193	48	SX2	底部	弥生 中期 中葉	底径(11.1)	平底	底部ナデ→ヘラミガキ、底面指オサエ→ナデ	指オサエ→ていねいなナデ	外)にぶい黄褐色 内)黄褐色	やや粗 良好	
194	48	SX2	底部	弥生 中期 中葉	底径(7.5)	平底	底部指オサエ→ミガキ、底面ナデ	指オサエ→ていねいなナデ	外)明赤褐色 内)灰黄褐色	密 良好	
195	48	SX2	底部	弥生 中期 中葉	底径(6.0)	平底	ていねいなナデ	指オサエ→ていねいなナデ	浅黄橙色	密 良好	
196	48	SX2	底部	弥生 中期 中葉	底径(7.5)	平底	ていねいなナデ	指オサエ→ていねいなナデ	にぶい黄褐色	密 良好	
197	48	SX2	底部	弥生 中期 中葉	底径(7.1)	平底	底部縦方向ハケ→ていねいなナデ、底面ていねいなナデ	指オサエ→ていねいなナデ	外)橙色 内)灰黄褐色	密 良好	
198	48	SX2	底部	弥生 中期 中葉	底径(8.9)	平底	底部縦方向ミガキ、底面ナデ	指オサエ→ナデ	にぶい黄褐色	密 良好	
199	48	SX2	底部	弥生 中期 中葉	底径(5.7)	やや凹底	底部ミガキ状のナデ、底面ナデ	指オサエ→ナデ	にぶい黄褐色	密 良好	
200	49	SX2	壺 口縁部	弥生 前期 前・中葉	口径(15.9) 頸径(12.7)	接合面を利用した段を、ハケ状工具で際どりする	口縁部横方向ナデ、頸部ハケメ、頸部ハケ→ナデ→ヘラミガキ	ヘラミガキ	浅黄色	密 良好	
201	49	SX2	壺 肩部	弥生 前期 前葉	—	頸胴部の段に3条のヘラ描沈線文	ミガキ状のナデ	横方向ナデ	浅黄色	密 良好	
202	49	SX2	壺 口縁部	弥生 前期 後葉	口径(10.0) 頸径(7.9)	頸部1条ヘラ描沈線文	横方向ナデ	ミガキ→ナデ	外)浅黄色 内)灰色	密 良好	
203	49	SX2	壺 胴部	弥生 前期 前葉	—	ヘラ状工具による木葉文	ナデ	指オサエ→ナデ	淡黄色	密 良好	
204	49	SX2	壺 胴部	弥生 前期 前葉	胴径(17.2)	刻目突帯が肩部に施される	指オサエ→ナデ	指オサエ→ナデ	外)にぶい黄褐色 内)淡黄色	密 良好	
205	49	SX2	甕 胴部	弥生 前期 中葉	胴径(27.3)	胴部上半1条ヘラ描沈線文	ハケメ→ナデ	ナデ	にぶい黄褐色	密 良好	外面スス付着
206	49	SX2	甕 口縁部	弥生 前期 中～後葉	口径(23.0) 頸径(21.2)	口縁部は短く外反、端部下半に刻目、胴部上半2条のヘラ描沈線文	頸部横方向ナデ、胴部縦方向ハケ	口縁部指オサエ→横方向ナデ、胴部ナデ	外)明赤褐色 内)にぶい橙色	密 良好	外面スス付着
207	49	SX2	甕	弥生 前期 中葉	胴径(26.0)	胴部上半2条のヘラ描沈線文	頸部横方向ナデ、胴部縦方向ハケ	斜方向のハケメ	外)にぶい橙色 内)黒色	密 やや軟	外面スス付着
208	49	SX2	甕	弥生 前期 後葉	口径(23.5) 頸径(22.1)	口縁部は短く外反、端部に刻目、胴部上半4条のヘラ描沈線文	指オサエ→ナデ	指オサエ→ナデ	にぶい黄褐色	密 良好	外面スス付着
209	49	SX2	甕 胴部	弥生 前期 後葉	胴径(24.4)	3条のヘラ描沈線文、上2条の間に半截竹管状工具による刺突文	縦方向ハケ	指オサエ→ナデ	外)浅黄褐色 内)にぶい黄褐色	密 良好	

表21 古市流田遺跡土器・土製品観察表10



遺物番号	挿図	地区遺構	器種	時期	法量 cm	特徴	調整		色調	胎土 焼成	備考
							外面	内面			
210	49	SX2	甕	弥生前期後葉	口径(15.5) 頸径(15.1) 胴径(15.2)	口縁部は貼り付け、胴部上半に多条のヘラ描沈線文	指オサエ→ナデ	ナデ	にぶい黄橙色	やや粗良好	
211	49	SX2	甕	弥生前期中後葉	口径(28.5) 頸径(27.0) 胴径(27.5)	口縁部は短く外反、口縁端部に刻み	口縁部横方向ナデ、胴部縦方向ハケ	ハケ→ナデ	にぶい黄橙色	密良好	外面スス付着
212	49	SX2	甕	弥生前期中後葉	口径(24.0) 頸径(22.7)	口縁部は短く外反、口縁端部に刻み	口縁部横方向ナデ、胴部指オサエ→ナデ	横方向ハケ→ナデ	外)灰黄褐色 内)にぶい黄橙色	密良好	内・外面スス付着
213	49	SX2	甕	弥生中期前葉	口径(26.1) 頸径(24.0)	口縁部がきつく外反する	口頸部指オサエ→横方向ナデ、胴部縦方向ハケ→ナデ	ナデ	外)にぶい黄褐色 内)にぶい黄橙色	密良好	外面スス付着
214	49	SX2	深鉢 口縁部	縄文晩期中葉	—	口縁端部に刻み、肩部に半截竹管状工具による刺突文	口縁部ナデ、胴部ケズリ	ナデ	にぶい黄橙色	密良好	
215	49	SX2	深鉢 胴部片	縄文晩期中葉	—	肩部に半截竹管状工具?による刺突文	口縁部二枚貝条痕、胴部ケズリ	ナデ	にぶい黄褐色	密良好	
216	49	SX2	深鉢 口縁部	縄文晩期中葉	—	口縁部に刻み	ケズリ→ナデ	ケズリ→ナデ	外)にぶい黄色 内)黒褐色	やや粗良好	
217	49	SX2	深鉢 口縁部	縄文晩期中葉	—	口縁端部を丸くおさめる	ナデ	ナデ	外)灰黄褐色 内)淡黄色	やや粗良好	
218	49	SX2	深鉢 口縁部	縄文晩期後葉	—	口縁端部から下がった位置にV字状?の刻目が施される突帯がつく	ナデ	ナデ	浅黄橙色	密良好	
219	49	SX2	深鉢 口縁部	縄文晩期後葉	—	口縁端部から下がった位置に無刻目突帯がつく	粗い擦痕の残るナデ	ナデ	灰黄色	密良好	外面スス付着
220	49	SX2	深鉢 口縁部	縄文晩期後葉	—	口縁端部から少し下がった位置に無刻目突帯がつく	ナデ	ナデ	浅黄橙色	密良好	
221	49	SX2	深鉢 口縁部	縄文晩期後葉	—	口縁端部から少し下がった位置に無刻目突帯がつく	横方向ナデ	ナデ	にぶい黄橙色	密良好	
222	49	SX2	深鉢 口縁部	縄文晩期後葉	—	口縁部に接して小D字条の刻目の施される突帯がつく	ナデ	ナデ	外)にぶい黄褐色 内)浅黄色	やや粗良好	
223	49	SX2	浅鉢 口縁部	縄文晩期後葉	口径(27.3)	逆く字状を呈す浅鉢、口縁端部は玉縁状を呈す	口縁端面取り、口縁部ナデ、頸部ケズリ	ミガキ	灰黄色	密良好	
224	49	SX2	鉢 口縁部	縄文後期中葉	—	外面口縁端部内外面に縄文ないし擬縄文、口縁部内面は沈線で区画	ナデ	ナデ	外)にぶい黄褐色 内)灰黄色	密良好	
225	49	SX2	鉢 口縁部	縄文晩期	—	口縁部内面沈線で区画し、縄文ないし擬縄文を施す	ナデ	ナデ	黄灰色	密良好	
226	49	SX2	胴部	縄文	—	ツメ形の刺突文を施す	摩滅により不明	ナデ	外)暗黄灰色 内)にぶい黄色	密良好	
227	50	SX2	深鉢 底部	縄文晩期	底径(8.1)	平底、壺の底部か、	ヘラミガキ	ヘラケズリ→ミガキ	外)にぶい橙色 内)淡黄色	やや粗良好	
228	50	SX2	深鉢 底部	縄文晩期	底径(10.0)	平底、底面にモミ痕	底部ヘラミガキ、底面ナデ	ケズリ→指オサエ	外)明赤褐色 内)浅黄色	やや粗良好	
229	50	SX2	深鉢 底部	縄文晩期	底径(6.0)	平底	ナデ	ハケメ	外)浅黄色 内)黄灰色	密良好	
230	50	SX2	深鉢 底部	縄文晩期	底径(5.2)	平底	底部縦方向ミガキ、底面ナデ	指オサエ→ナデ	外)にぶい黄褐色 内)明黄褐色	密良好	
231	52	S11	甕	弥生後期	口径(15.9) 頸径(12.8)	外面口縁部4条の擬凹線文	摩滅により不明、ナデか?	口縁部横方向ナデ、頸部ヘラケズリ	外)橙色 内)淡黄色	密良好	
232	52	S11	壺 胴部	弥生後期	胴径(18.4)	胴部たまねぎ形を呈す	横方向ナデ	ケズリ→ナデ	外)にぶい橙色 内)黄灰色	密良好	
233	59	SK2	甕 底部	弥生	底径(5.3)	平底	ナデ	摩滅により調整不明	外)にぶい橙色 内)橙色	密良好	

表22 古市流田遺跡土器・土製品観察表11

第4章 古市流田遺跡の調査

遺物番号	挿図	地区遺構	器種	時期	法量 cm	特徴	調整		色調	胎土 焼成	備考
							外面	内面			
234	60	SK3	壺 口縁部	弥生 後期	口径(20.8) 頸径(14.7)	口縁部は上方に拡張、口縁部に凹線文?、瘤状の突起	横方向ナデ	口縁部ナデ、頸部横方向ハケ、胴部ケズリ	外)にぶい橙色 内)にぶい黄橙色	やや粗 良好	
235	60	SK3	甕	弥生 後期	頸径(21.1)	口縁部に凹線文?、胴部上半に羽状文?	横方向ナデ	ナデ	橙色	やや粗 良好	
236	60	SK3	壺 胴部	弥生 後期	頸径(10.5)	胴部上半の竹管文	ナデ	ヘラケズリ	浅黄橙色	やや粗 良好	第67図248と同一個体の可能性あり
237	60	SK3	甕 口縁部	弥生 後期	口径(15.9) 頸径(13.8)	複合口縁	横方向ナデ	口縁部横方向ナデ、胴部ケズリ	外)にぶい黄橙色 内)淡黄色	やや粗 良好	
238	60	SK3	甕 口縁部	弥生 後期	口径(19.9) 頸径(17.4)	複合口縁	横方向ナデ	口縁部横方向ナデ、胴部ケズリ	浅黄橙色	やや粗 良好	
239	64	SD5	甕 口縁部	弥生 後期中葉	口径(15.3) 頸径(12.8)	複合口縁、擬凹線文	ナデ	口縁部ナデ、胴部以下ケズリ	浅黄色	密 良好	
240	64	SD5	甕 底部	弥生 後期中葉	底径(5.4)	平底	底部縦方向ナデ、底面ナデ	ケズリ	にぶい黄橙色	密 良好	
241	64	SD5	甕 口縁部	弥生 後期中葉	口径(16.6) 頸径(14.2)	複合口縁、擬凹線文→ナデ消し	ナデ	口縁部ナデ、胴部以下ケズリ		密 良好	
242	66	SD6	甕 口縁部	弥生 前期後葉~中期前葉	口径(29.8) 頸径(27.0)	口縁部は短く外反、胴部上半4条の沈線	指オサエ→ナデ	ナデ	外)にぶい黄橙色 内)浅黄橙色	やや粗 良好	
243	66	SD6	深鉢 口縁部	縄文 晩期後葉	—	口縁端部から下がった位置に刻目突帯がつく	摩滅により不明	摩滅により調整不明	浅黄色	密 良好	
244	66	SD6	底部	弥生 前期後葉~中期前葉	底径(7.9)	平底	指オサエ→ナデ	ケズリ→指オサエ	外)橙色 内)浅黄色	密 良好	
245	66	SD6	底部	弥生 前期後葉~中期前葉	底径(4.7)	平底	指オサエ→ナデ?	指オサエ→ナデ?	淡黄色	密 良好	
246	66	SD6	底部	弥生 前期後葉~中期前葉	底径(8.9)	底面焼成後に穿孔	横方向ナデ	指オサエ→ナデ	外)にぶい黄橙色 内)淡黄色	やや粗 良好	
247	67	SD10	甕	弥生 後期中葉	口径(19.5) 頸径(15.0)	複合口縁、擬凹線文	頸部横方向ナデ、胴部縦方向ハケ	口縁~頸部横方向ナデ、胴部以下ケズリ	外)にぶい黄橙色 内)にぶい橙色	やや粗 良好	
248	67	SD10	壺 胴部	弥生 後期中葉	—	胴部上半の竹管文	縦方向ハケ	ケズリ	外)にぶい橙色 内)浅黄色	やや粗 良好	第60図236と同一個体の可能性あり
249	74	P2	甕 口縁部	弥生 後期	口径(15.8) 頸径(14.2)	口縁部は上方に拡張、口縁部に擬凹線文?	横方向ナデ	口縁部横方向ナデ、頸部以下ケズリ	にぶい黄橙色	やや粗 良好	
250	74	P14	甕 底部	弥生	底径(6.1)	平底	ナデ	ケズリ	外)にぶい褐色 内)橙色	密 良好	
251	74	P44	甕 口縁部	弥生 中期	口径(18.3) 頸径(18.0)	口縁部2条の凹線文、頸部に刻目の施された貼付突帯	横方向ナデ	横方向ナデ	明黄褐色	密 良好	
252	74	P60	甕 底部	弥生 後期	底径(8.3)	平底	ナデ	ケズリ→ナデ	浅黄色	密 良好	
253	74	P70	甕 口縁部	弥生 後期	口径(15.0)	複合口縁	横方向ナデ	横方向ナデ	外)明赤褐色 内)にぶい黄色	密 良好	
254	74	P75	甕 口縁部	弥生 後期	口径(16.4) 頸径(13.1)	複合口縁	横方向ナデ	横方向ナデ	外)橙色 内)淡黄色	密 良好	

表23 古市流田遺跡土器・土製品観察表12

遺物 番号	挿図	地区 遺構	器種	時期	法量 cm	特徴	調整		色調	胎土 焼成	備考
							外面	内面			
255	74	P78	甕 口縁部	弥生 後期	口径(15.8)	口縁部が短く上下 に拡張される	ナデ	ナデ	外) 橙色 内) 灰黄色	密 良好	
256	74	P83	胴部	弥生 後期	胴径(18.5)	球胴形を呈す	ハケメ	ケズリ→指オサ エ→ナデ	にぶい黄橙色	密 良好	外面スス付着
257	74	P86	甕 口縁部	弥生 後期	口径(7.5)	複合口縁	ナデ	ナデ	淡黄色	やや粗 良好	
258	74	P98	甕 頸部	弥生 後期	頸径(14.0)	複合口縁?	横方向ナデ	横方向ナデ	外) にぶい黄橙色 内) 淡黄色	やや粗 良好	
259	74	P160	甕 口縁部	弥生 中期	頸径(9.9)	口縁部は上方に短 く拡張?、1条の 凹線文	ナデ	ナデ	淡黄色	やや粗 良好	
260	74	P109	甕 口縁部	弥生 後期	口径(15.0)	外面口縁部3条の 擬凹線文	横方向ナデ	横方向ナデ	外) 黄灰色 内) にぶい黄橙色	やや粗 良好	
261	74	P129	甕 口縁部	古墳 前期	口径(31.0)	複合口縁	ナデ	ナデ	黄橙色	やや粗 やや軟	
262	74	P131	甕 口縁部	弥生 後期 ~古墳 前期	口径(15.0)	複合口縁	横方向ナデ	口縁部横方向ナ デ、頸部以下ケズ リ	淡黄色	密 良好	
263	74	P131	器台 脚部	弥生 後期	—	脚部に同心円文、 その直下3条の擬 凹線文	横方向ナデ	ケズリ	淡黄色	密 良好	
264	74	P147	甕 口縁部	古墳 前期	口径(13.8)	複合口縁	横方向ナデ	横方向ナデ	淡黄色	密 やや軟	
265	74	P155	壺 口縁部	弥生 後期	—	口縁部に擬凹線文	横方向ナデ	口縁部横方向ナ デ、頸部以下ケズ リ	外) にぶい黄褐色 内) 灰黄色	密 良好	
266	74	P175	壺 胴部	弥生 後期	—	肩部に波状文	縦方向ハケ	横方向ハケ	外) 黄灰色 内) にぶい黄橙色	密 良好	
267	74	P177	甕 口縁部	弥生 中期	口径(18.4)	口縁部は上方に短 く拡張	横方向ナデ	横方向ナデ	淡黄色	密 良好	
268	74	P179	甕 胴部	弥生 後期	頸径(10.5) 胴径(14.3)	球胴形を呈す	横方向ナデ	口縁部横方向ナ デ、頸部以下ケズ リ	淡黄色	やや粗 やや軟	
269	74	P186	甕 口縁部	弥生 後期	口径(15.0) 頸径(12.0)	複合口縁、3条の 擬凹線文	横方向ナデ	口縁部横方向ナ デ、頸部以下ケズ リ	にぶい黄橙色	密 良好	外面スス付着
270	74	P189	甕 口縁部	弥生 中期	口径(15.0) 頸径(13.2)	口縁部が上下方に 短く拡張、凹線文	横方向ナデ	ナデ	淡黄色	密 良好	
271	74	P196	甕 口縁部	弥生 後期	—	複合口縁、擬凹線 文	ナデ	ナデ	橙色	やや粗 やや軟	
272	74	P204	甕 口縁部	弥生 後期	頸径(16.1)	複合口縁、擬凹線 文	横方向ナデ	口縁部横方向ナ デ、頸部以下ケズ リ	外) 浅黄橙色 内) 淡黄色	密 良好	
273	74	P244	甕 口縁部	弥生 後期	口径(15.3) 頸径(12.6)	複合口縁、擬凹線 文	横方向ナデ	口縁部横方向ナ デ、頸部以下ケズ リ	にぶい橙色	やや粗 良好	
274	75	g6	蓋坏	古墳 後期 6c	—	須恵器、天井部と体 部の境に稜、外面一 部自然釉かかる	横方向ナデ	横方向ナデ	外) 灰色 内) 灰白色	密 良好	
275	75	i6	坏蓋 口縁部	古墳 後期 6c	口径(12.0)	須恵器、天井部と 体部の境に沈線、 口縁部内面に段	横方向ナデ	横方向ナデ	外) 灰色 内) 灰白色	密 良好	
276	75	g6	坏蓋 口縁部	古墳 後期 6c	口径(11.2)	須恵器、天井部と 体部の境に沈線	横方向ナデ	横方向ナデ	外) 青灰色 内) 灰色	密 良好	
277	75	16	蓋	古墳 後期 7c?	—	須恵器、天井部と 体部の境に沈線	天井部横方向ヘラ ケズリ→ナデ、口 縁部横方向ナデ	横方向ナデ	外) 青灰色 内) 灰白色	密 良好	
278	75	h5	蓋	古墳 後期 7c	—	須恵器、擬宝珠摘 み	摘み部ナデ、天井 部横方向ナデ	天井中心部静止ナ デ、天井部横方向 ナデ	外) 緑灰色 内) 灰色	密 良好	
279	75	16	坏身 口縁部	古墳 後期 6c	口径(10.7)	須恵器、口縁部内 面に段	横方向ナデ	横方向ナデ	灰白色	密 良好	
280	75	g6	坏身 口縁部	古墳 後期 6c末 ~7c	口径(12.1)	須恵器、口縁部 を丸くおさめる	横方向ナデ	横方向ナデ	外) 青灰色 内) 灰色	密 良好	
281	75	16	坏身 口縁部	古墳 後期 6c末 ~7c	口径(12.1)	須恵器、口縁部 を丸くおさめる	口縁部~体部横方 向ナデ、底部ヘラ ケズリ	口縁部~体部横方 向ナデ、底部静止 ナデ	灰白色	密 良好	

表24 古市流田遺跡土器・土製品観察表13

第4章 古市流田遺跡の調査

遺物番号	挿図	地区遺構	器種	時期	法量 cm	特徴	調整		色調	胎土 焼成	備考
							外面	内面			
282	75	16	坏身 口縁部	古墳 後期 6c末 ~7c	口径(12.7)	須恵器、口縁端部 を丸くおさめる	口縁部~体部横方 向ナデ、底部横方 向ヘラケズリ	横方向ナデ	明青灰色	密 良好	
283	75	g6	坏身 口縁部	古墳 後期 6c末 ~7c	口径(11.8)	須恵器、口縁端部 を丸くおさめる	横方向ナデ	横方向ナデ	明青灰色	密 良好	
284	75	g6	坏身 口縁部	古墳 後期 6c末 ~7c	口径(11.2)	須恵器、口縁端部 を丸くおさめる	口縁部横方向ナ デ、体部ヘラケズ リ	横方向ナデ	外)青灰色 内)明青灰色	密 良好	
285	75	f8	坏 口縁部	奈良 8c	口径(13.5)	須恵器、口縁部が 僅かに外反する	横方向ナデ	横方向ナデ	灰色	密 良好	
286	75	f7	坏 口縁部	奈良 8c	口径(14.1) 底径(9.0)	須恵器、口縁部が 僅かに外反する	横方向ナデ、底部 糸切り	横方向ナデ	外)青灰色 内)褐灰色	密 良好	
287	75	e5~ f5	坏 口縁部	奈良・ 平安 8・ 9c	口径(14.0)	須恵器、直線的に 外に開く	横方向ナデ	横方向ナデ	灰色	密 良好	
288	75	j6	坏 口縁部	奈良・ 平安 8・ 9c	口径(14.1)	須恵器、直線的に 外に開く	横方向ナデ	横方向ナデ	青灰色	密 良好	
289	75	f7	坏 底部	奈良 8c	底径(9.0)	須恵器、高台がつ く	体部横方向ナデ、 底部糸切り→横方 向ナデ	体部横方向ナデ、 底面静止ナデ	外)明緑灰色 内)褐灰色	密 やや軟	
290	75	j6	坏 底部	奈良 8c	底径(8.0)	須恵器、高台がつ く	横方向ナデ	静止ナデ	外)灰白色 内)褐灰色	密 やや軟	
291	75	g5	坏 底部	奈良・ 平安 8・ 9c	底径(7.1)	須恵器、高台がつ く	体部横方向ナデ、 底部糸切り、高台 部ナデ	横方向ナデ	外)青灰色 内)明青灰色	密 良好	
292	75	k5	坏 底部	奈良・ 平安 8・ 9c	底径(8.4)	須恵器、平底	体部横方向ナデ、 底部ヘラケズリー ナデ	横方向ナデ	灰白色	密 やや軟	
293	75	f7	坏 底部	奈良・ 平安 8・ 9c	底径(9.8)	須恵器、平底	体部横方向ナデ、 底部糸切り	横方向ナデ	外)褐灰色 内)灰色	密 良好	
294	75	f6	甕	古墳 後期 7c?	胴径(8.7)	須恵器、外面頸部 沈線、波状文	体部~底部タタキ	頸部~体部横方 向ナデ、体部下当 具痕	灰色	密 良好	
295	75	f7~ g7	壺 体部	古墳 後期 7c	胴径(19.0)	須恵器、板状工具 により刺突文、沈 線	横方向ナデ	横方向ナデ	灰白色	密 良好	
296	75	g6	高坏 脚部	古墳 後期 7c	—	須恵器、沈線、三 方向透かし	横方向ナデ	横方向ナデ	青灰色	密 良好	
297	75	g6	高坏 脚部	古墳 後期 7c	—	須恵器、脚部広 く外に開く	横方向ナデ	横方向ナデ	灰色	密 良好	
298	75	3区	甕 体部	古墳 後期 ~奈良	—	須恵器	タタキ	当具痕	青灰色	密 良好	
299	75	j5	盤? 底部	古墳 後期 ~奈良	底径(23.8)	須恵器、平底	体部タタキ、底部 カキメ、底部横方 向ヘラケズリ	体部横方向ナデ、 底部タタキ	外)明青灰色 内)青灰色	密 良好	
300	75	i6	甕 口縁部	古墳 前期	口径(34.8)	退化傾向を示す複 合口縁	横方向ナデ	横方向ナデ	外)浅黄橙色 内)灰白色	密 良好	
301	75	i6	甕 口縁部	古墳 前期	口径(17.4)	退化傾向を示す複 合口縁	横方向ナデ	横方向ナデ	外)淡黄色 内)灰黄色	密 やや軟	
302	75	f7	甕 口縁部	古墳 前期	口径(17.6) 頸径(13.7)	複合口縁	横方向ナデ	横方向ナデ	淡黄色	密 良好	
303	75	i6	甕 口縁部	古墳 前期	口径(16.6)	複合口縁	横方向ナデ	横方向ナデ	淡黄色	密 良好	
304	75	i6	甕 口縁部	弥生 後期 末~ 古墳 前期	口径(18.0) 頸径(13.3)	複合口縁	横方向ナデ	口縁部横方向ナ デ、頸部ケズリ	外)褐灰色 内)灰黄色	密 良好	

表25 古市流田遺跡土器・土製品観察表14

遺物 番号	挿図	地区 遺構	器種	時期	法量 cm	特徴	調整		色調	胎土 焼成	備考
							外面	内面			
305	75	i6	甕 口縁部	古墳 前期	口径(16.3) 頸径(13.3)	複合口縁	横方向ナデ	口縁部横方向ナ デ、頸部ヘラケス リ	外)にぶい黄橙色 内)淡黄色	密 良好	
306	75	f7	甕 口縁部	古墳 前期	口径(21.3) 頸径(16.5)	複合口縁、頸部ハ ケ状工具による刺 突文	横方向ナデ	口縁部横方向ナ デ、頸部左方向の ヘラケズリ	浅黄橙色	やや粗 良好	
307	75	i6	甕 口縁部	古墳 前期	口径(17.0) 頸径(14.4)	複合口縁	横方向ナデ	口縁部横方向ナ デ、頸部左方向の ケズリ	淡黄色	やや粗 良好	
308	75	i6	甕 口縁部	古墳 前期	口径(25.0) 頸径(22.8)	複合口縁	横方向ナデ	口縁部横方向ナ デ、頸部ヘラケス リ	外) 橙色 内) 浅黄橙色	やや粗 やや軟	
309	75	f7	甕 口縁部	弥生 後期	口径(19.0) 頸径(16.0)	複合口縁	横方向ナデ	口縁部横方向ナ デ、頸部ヘラケス リ	外)にぶい黄橙色 内)淡黄色	密 やや軟	
310	76	i6	甕 口縁部	弥生 後期	口径(15.2) 頸径(11.6)	複合口縁	横方向ナデ	口縁部ていねいな 横方向ナデ、頸部 ケズリ	外) 明赤褐色 内) 浅黄橙色	やや粗 良好	
311	76	g6	甕 口縁部	弥生 後期	口径(13.6) 頸径(11.7)	複合口縁、擬凹線 文→ナデ消し	頸部横方向ナデ	口縁部横方向ナ デ、頸部ケズリ	外) 橙色 内) 浅黄色	やや粗 良好	
312	76	i6	甕 口縁部	弥生 後期	口径(14.7) 頸径(12.0)	複合口縁	横方向ナデ	口縁部横方向ナ デ、頸部ケズリ	外)にぶい橙色 内)灰白色	密 良好	
313	76	h5	甕 口縁部	弥生 後期	口径(17.4) 頸径(14.5)	複合口縁	口縁部横方向ナ デ、頸部調整不明	口縁部ナデ、頸部 ヘラケズリ	外)にぶい黄橙色 内)淡黄色	やや粗 良好	
314	76	i5	甕 口縁部	弥生 後期	口径(16.8) 頸径(13.4)	複合口縁	口縁部調整不明、 頸部横方向ナデ	口縁部横方向ナ デ、頸部ケズリ	外)にぶい黄橙色 内)浅黄色	やや粗 良好	
315	76	i5	甕 口縁部	弥生 後期	口径(15.6) 頸径(13.5)	複合口縁	横方向ナデ	口縁部横方向ナ デ、頸部ケズリ	淡黄色	やや粗 良好	
316	76	i5	甕 口縁部	弥生 後期	口径(15.7) 頸径(14.4)	複合口縁	横方向ナデ	口縁部横方向ナ デ、頸部ケズリ	外) 灰黄褐色 内) 褐色	密 良好	
317	76	i6	甕 口縁部	弥生 後期	口径(13.8) 頸径(12.1)	複合口縁、擬凹線 文	横方向ナデ	口縁部横方向ナ デ、頸部ケズリ	外) 橙色 内) 淡黄色	やや粗 良好	
318	76	h5	甕 口縁部	弥生 後期	口径(19.6) 頸径(16.2)	複合口縁、擬凹線 文	横方向ナデ	口縁部横方向ナ デ、頸部ヘラケス リ	外) 灰白色 内) 淡黄色	密 やや軟	
319	76	i5	甕 口縁部	弥生 後期	口径(11.6) 頸径(10.0)	複合口縁	横方向ナデ	口縁部横方向ナ デ、頸部ケズリ	外) 浅黄色 内) 淡黄色	やや粗 良好	
320	76	i5	甕 口縁部	弥生 後期	口径(15.7) 頸径(13.6)	口縁部は上方に短 く拡張	横方向ナデ	口縁部横方向ナ デ、頸部ケズリ	外) 灰褐色 内) 灰黄色	やや粗 やや軟	
321	76	i5	甕 口縁部	弥生 後期	口径(13.0) 頸径(11.9) 胴径(16.7)	複合口縁、擬凹線 文	横方向ナデ	口縁部横方向ナ デ、頸部ケズリ	外) 浅黄色 内) 灰褐色	やや粗 良好	
322	76	i5	甕 口縁部	弥生 後期	口径(13.5) 頸径(11.4)	複合口縁、擬凹線 文	頸部横方向ナデ、 胴部ナデ	口縁部横方向ナ デ、頸部以下ケズ リ	赤橙色	密 良好	
323	76	k5	甕 口縁部	弥生 後期	口径(14.2) 頸径(11.8)	複合口縁、擬凹線 文、肩部に板状工 具または二枚貝に よる文様	頸部横方向ナデ	口縁部横方向ナ デ、頸部以下ヘラ ケズリ	外) 淡黄色 内) 橙色	密 良好	
324	76	k5	甕 口縁部	弥生 後期	口径(16.9) 頸径(13.9)	複合口縁、擬凹線 文	横方向ナデ	口縁部横方向ナ デ、頸部ケズリ	外) 淡黄色 内) 灰白色	密 やや軟	
325	76	o2	甕	弥生 後期	口径(21.6) 頸径(21.3) 胴径(21.6)	口縁部は短く屈 曲、胴部上半にク シ描文	口縁部ナデ	ナデ	外) 橙色 内) にぶい橙色	密 良好	
326	76	i6	壺 口縁部	弥生 後期	口径(16.0)	複合口縁、擬凹線 文	横方向ナデ	口縁部横方向ナ デ、頸部ケズリ	にぶい黄橙色	密 良好	
327	76	j6	壺 口縁部	弥生 後期	口径(18.9) 頸径(14.4)	複合口縁、擬凹線 文、瘤状の突起	横方向ナデ	横方向ナデ	にぶい黄橙色	やや粗 良好	
328	76	j6	壺 口縁部	弥生 後期	口径(12.0) 頸径( 9.2)	複合口縁	横方向ナデ	横方向ナデ	にぶい黄橙色	やや粗 良好	
329	76	k6	無頸壺 口縁部	弥生 後期	口径(15.6)	口縁端部を丸くお さめる	横方向ナデ	口縁部横方向ナ デ、胴部上半ケス リ	外) 淡黄色 内) 灰白色	密 やや軟	
330	76	f6	壺 頸部	弥生 中期 後葉	頸径(30.0)	頸部に幅広の指頭 圧痕貼付突帯	横方向ナデ	横方向ナデ	外) 黄橙色 内) 淡黄色	やや粗 良好	
331	76	i6	壺 口縁部	弥生 後期	口径(10.8) 頸径( 8.9)	口縁部はくの字状 に屈曲、2個1対の 穿孔	横方向ナデ	頸部ケズリ	灰白色	密 良好	
332	76	i6	壺 口縁部	弥生 後期	口径(13.4) 頸径(10.6)	口縁部はくの字状 に屈曲、擬凹線	横方向ナデ	口縁部横方向ナ デ、頸部ケズリ	外)にぶい黄橙色 内)淡黄色	密 良好	
333	76	i6	壺 口縁部	弥生 後期	口径(16.7) 頸径(14.5)	口縁部はくの字状 に屈曲	横方向ナデ	口縁部横方向ナ デ、頸部ケズリ	外) 黄褐色 内) 淡黄色	密 良好	
334	76	j5	高坏 口縁部	弥生 後期	口径(17.6)	口縁上面に擬凹線	横方向ナデ	調整不明	外) 淡黄色 内) 橙色	やや粗 良好	

表26 古市流田遺跡土器・土製品観察表15

第4章 古市流田遺跡の調査

遺物番号	挿図	地区遺構	器種	時期	法量 cm	特徴	調整		色調	胎土 焼成	備考
							外面	内面			
335	76	i5	高坏 脚部	弥生 後期	脚径(12.4)	脚端部に擬凹線	横方向ナデ	横方向ナデ	外)淡黄色 内)褐灰色	密 良好	
336	76	e6~ f6	高坏 脚部	弥生 後期	—	脚部は広く外に開く	ナデ	ナデ	橙色	密 良好	
337	76	l6	高坏 脚部	弥生 後期	脚径(9.8)	脚部に刺突文	横方向ナデ	ケズリ	淡黄色	密 良好	
338	76	i6	高坏 脚部	弥生 後期	脚径(12.7)	脚部は広く外に開く	横方向ナデ	ケズリ→横方向ナデ	外)黄橙色 内)淡黄色	密 良好	
339	76	i6	高坏 脚部	弥生 後期	脚径(12.8)	脚部は広く外に開く	ナデ	ケズリ→ナデ	橙色	やや粗 やや軟	
340	76	h5	鉢または高坏の坏部	弥生 後期	口径(15.4)	腕形を呈す	横方向ナデ	横方向ナデ	外)淡黄色 内)橙色	やや粗 軟	
341	76	h6	低坏脚部	古墳 前期	脚径(5.6)	脚部が外に開く	横方向ナデ	横方向ナデ	淡黄色	やや粗 やや軟	
342	76	i6	低坏脚部	古墳 前期	脚径(6.8)	脚部が外に開く	脚部横方向ナデ、 脚端部ナデ	ケズリ→ナデ	淡黄色	密 良好	
343	76	h6	低坏脚部	古墳 前期	脚径(6.5)	脚部が外に開く	横方向ナデ	横方向ナデ	外)にぶい黄橙色 内)橙色	やや粗 良好	
344	77	l6	器台 脚部	弥生 後期	脚径(43.6)	竹管文、半裁竹管文	脚部横方向ナデ、 脚端部ナデ	ケズリ→ナデ	淡黄色	密 やや軟	第34図59、第77図346と同一個体の可能性あり
345	77	l6	壺 胴部	弥生 後期	胴径(16.0)	突帯上部に沈線とツメ形の刺突文、 突帯下部にもツメ形の刺突文	ナデ	ケズリ	にぶい黄橙色	密 良好	
346	77	m6	器台 脚部?	弥生 後期	—	半裁竹管文	ナデ	調整不明	外)浅黄色 内)淡黄色	密 やや軟	第34図59、第77図344と同一個体の可能性あり
347	77	i6	甌? 把手	弥生 後期	—	横位置の把手	指オサエ→ナデ	ナデ	外)にぶい黄橙色 内)淡黄色	密 良好	
348	77	j6	甌か壺	弥生 後期	口径(17.0)	把手が横位置につく	口縁部横方向ナデ、 把手指オサエ→ナデ	ナデ	外)淡黄色 内)黄橙色	密 良好	
349	77	g7	甌? 把手	古墳	—	上向きの把手	指オサエ→ナデ	ケズリ	淡黄色	密 良好	
350	77	g6	注口 土器	弥生 後期	—	直線的	ナデ	ナデ	淡黄色	やや粗 良好	
351	77	l6	注口 土器	弥生 後期	—	直線的	ナデ	ナデ	にぶい黄橙色	やや粗 良好	
352	77	h6	注口 土器	弥生 後期 ~ 古墳 前期	—	やや上にそる	ナデ	ナデ	橙色	やや粗 良好	
353	77	i6	土玉	弥生 中期後葉 ~ 古墳 前期	直径 4.1	穿孔あり	手握ね→ナデ	—	灰白色	密 良好	外面一部黒班
354	77	j5	土玉	弥生 中期後葉 ~ 古墳 前期	直径 3.6	穿孔あり	手握ね→ナデ	—	浅黄色	密 良好	
355	77	k5	土玉	弥生 中期後葉 ~ 古墳 前期	直径 2.4	穿孔なし	手握ね→ナデ	—	にぶい黄色	密 やや軟	
356	77	f7	土玉	弥生 中期後葉 ~ 古墳 前期	直径 2.2	穿孔なし	手握ね→ナデ	—	にぶい黄橙色	密 良好	外面一部黒班

表27 古市流田遺跡土器・土製品観察表16

遺物番号	挿図	地区遺構	器種	時期	法量 cm	特徴	調整		色調	胎土 焼成	備考
							外面	内面			
357	77	k5	土玉	弥生 中期 後葉 ～ 古墳 前期	直径 1.9	穿孔なし	手捏ね→ナデ	—	にぶい黄色	密 やや軟	外面黒班
358	77	j6	土玉	弥生 中期 後葉 ～ 古墳 前期	直径 2.1	穿孔なし	手捏ね→ナデ	—	淡黄色	密 良好	
359	80	j5	甕 口縁部	古墳 前期	口径(19.4) 頸径(17.2)	複合口縁	横方向ナデ	口縁部横方向ナ デ、頸部ケズリ	外)にぶい黄橙色 内)灰白色	やや粗 良好	
360	80	g6	甕 口縁部	古墳 前期	口径(17.4) 頸径(14.2)	複合口縁	横方向ナデ	口縁部横方向ナ デ、頸部ケズリ	外)にぶい黄橙色 内)浅黄橙色	密 良好	
361	80	j5	甕	古墳 前期	口径(11.2) 頸径(10.0) 胴径(12.2)	複合口縁	口縁～肩部横方向 ナデ、胴部ハケメ	口縁部横方向ナ デ、胴部ケズリ	外)にぶい黄橙色 内)淡黄色	密 やや軟	外面一部炭化 物付着
362	80	j5	甕 口縁部	古墳 前期	口径(17.5) 頸径(13.4)	複合口縁	横方向ナデ	口縁部横方向ナ デ、頸部ケズリ	淡黄色	やや粗 良好	
363	80	g6	甕 口縁部	古墳 前期	口径(17.8) 頸径(13.7)	複合口縁	横方向ナデ	口縁部横方向ナ デ、頸部ケズリ	にぶい黄橙色	密 良好	
364	80	h6	甕 口縁部	弥生 後期	口径(11.9) 頸径(9.8)	複合口縁	横方向ナデ	口縁部横方向ナ デ、頸部ケズリ	外)淡黄色 内)明黄褐色	密 良好	
365	80	j5	甕 口縁部	古墳 前期	口径(17.2) 頸径(14.3)	複合口縁	横方向ナデ	口縁部横方向ナ デ、頸部ケズリ	外)淡黄色 内)浅黄褐色	密 良好	
366	80	g6	甕 口縁部	弥生 後期	口径(20.0) 頸径(16.8)	複合口縁	横方向ナデ	口縁部横方向ナ デ、頸部ケズリ	外)橙色 内)淡黄色	密 良好	
367	80	h6	甕 口縁部	弥生 後期	口径(13.5) 頸径(10.9)	複合口縁	横方向ナデ	口縁部横方向ナ デ、頸部ケズリ	外)明黄褐色 内)灰白色	やや粗 良好	
368	80	h6	甕 口縁部	弥生 後期	口径(13.6)	複合口縁、擬凹線 文?	横方向ナデ	口縁部横方向ナ デ、頸部ケズリ	外)にぶい黄橙色 内)暗褐色	やや粗 良好	
369	80	h6	甕 口縁部	弥生 後期	口径(17.4)	複合口縁	横方向ナデ	横方向ナデ	外)淡黄色 内)黄褐色	密 良好	
370	80	g6	甕 口縁部	弥生 後期	口径(16.3) 頸径(15.3)	複合口縁	横方向ナデ	横方向ナデ	外)淡黄色 内)黄褐色	密 良好	
371	80	j5	甕 口縁部	弥生 後期	口径(15.5) 頸径(12.3)	複合口縁、擬凹線 文?	横方向ナデ	口縁部横方向ナ デ、頸部ケズリ	外)橙色 内)浅黄褐色	やや粗 良好	
372	80	j5	甕 口縁部	弥生 後期	口径(16.7) 頸径(14.0)	複合口縁、擬凹線 文?	横方向ナデ	口縁部横方向ナ デ、頸部ケズリ	外)にぶい黄橙色 内)橙色	やや粗 良好	
373	80	h6	甕 口縁部	弥生 中期	口径(13.5) 頸径(11.4)	複合口縁	横方向ナデ	横方向ナデ	外)にぶい黄橙色 内)明黄褐色	密 良好	
374	80	j5	甕	弥生 後期	口径(12.9) 頸径(10.8)	複合口縁、擬凹線 文	横方向ナデ	口縁部横方向ナ デ、胴部ケズリ	外)橙色 内)淡黄色	やや粗 良好	
375	80	i5	甕 口縁部	弥生 中期	口径(17.8) 頸径(14.4)	複合口縁、擬凹線 文	横方向ナデ	横方向ナデ	橙色	やや粗 良好	
376	80	j5	甕 口縁部	弥生 後期	口径(15.3) 頸径(12.5)	複合口縁、擬凹線 文	横方向ナデ	口縁部横方向ナ デ、頸部ケズリ	外)橙色 内)褐灰色	やや粗 良好	
377	80	k6	甕 口縁部	弥生 後期	口径(15.9) 頸径(12.2)	複合口縁、擬凹線 文	刺突文→横方向ナ デ	口縁部横方向ナ デ、頸部ケズリ	外)にぶい黄橙色 内)淡黄色	やや粗 良好	
378	80	h6	甕 口縁部	弥生 後期	口径(17.0) 頸径(15.6)	複合口縁、擬凹線 文	横方向ナデ	口縁部横方向ナ デ、頸部ケズリ	外)淡黄色 内)黄褐色	密 良好	
379	80	i5	甕 口縁部	弥生 後期	口径(23.8) 頸径(19.1)	複合口縁、擬凹線 文	横方向ナデ	横方向ナデ	外)橙色 内)淡黄色	やや粗 良好	
380	80	i5	甕 口縁部	弥生 中期	口径(15.6) 頸径(13.4)	口縁部は上方に拡 張、3条の凹線文	頸部横方向ナデ、 胴部縦のハケメ	口縁～頸部横方向 ナデ、胴部ハケ メ→指オサエ	外)黒色 内)灰黄褐色	密 良好	外面全体にス ス付着
381	80	k7	壺 口縁部	弥生 中期	口径(28.0)	口縁部は上方に拡 張、凹線文	横方向ナデ	横方向ナデ	にぶい黄橙色	密 やや軟	
382	80	j5	壺 口縁部	弥生 中期	口径(21.7) 頸径(16.8)	口縁部は下方に短 く拡張、口縁下端 へラ状工具による 刻み、凹線文	指オサエ→ナデ	横方向ナデ	浅黄橙色	密 良好	内面全体黒班
383	80	k6	壺	弥生 後期	口径(20.0) 頸径(14.7)	口縁部は上下に短 く拡張、凹線文	頸部横方向ナデ、 肩部指オサエ→ナ デ	口縁部横方向ナ デ、頸部横方向ハ ケメ	外)淡黄色 内)明黄褐色	密 やや軟	
384	80	m6	壺 口縁部	弥生 後期	口径(20.0)	口縁部下位に凹 線・焼成前に穿孔	横方向ナデ	横方向ナデ	外)淡黄色 内)浅黄褐色	密 やや軟	

表28 古市流田遺跡土器・土製品観察表17

第4章 古市流田遺跡の調査

遺物番号	挿図	地区遺構	器種	時期	法量 cm	特徴	調整		色調	胎土 焼成	備考
							外面	内面			
385	80	h6	壺 口縁部	弥生 後期	口径(10.4) 頸径(9.2)	口縁部はくの字状 を呈す	横方向ナデ	口縁部横方向ナ デ、頸部ケズリ	淡黄色	密 やや軟	
386	80	g6	無頸壺 口縁部	弥生 後期	口径(14.2)	口縁端部を丸くお さめる	横方向ナデ	口縁部横方向ナ デ、頸部ケズリ	にぶい黄橙色	密 良好	
387	80	g6	器台 脚部	弥生 後期	—	脚部に擬凹線文	横方向ナデ	ケズリ	赤褐色	やや粗 良好	
388	80	j5	器台	古墳 前期	—	鼓形を呈す	横方向ナデ	横方向ナデ	淡黄色	やや粗 良好	
389	80	j5	低脚坏 脚部	弥生 後期	脚形 7.7	脚部は外に開く	脚部横方向ナデ、 底面ナデ	底部静止ナデ	淡黄色	やや粗 良好	
390	81	j5	壺 頸部	弥生 中期 前葉	頸径(14.5)	ヘラ描沈線文、巻 貝頂部?による刺 突文	ナデ	指オサエ→ヘラミ ガキ	外)明褐色 内)灰黄褐色	密 良好	
391	81	j5	壺 頸部	弥生 中期 前葉	—	ヘラ描沈線文、工 具による刺突文	ナデ	指オサエ→ナデ	にぶい黄橙色	やや粗 良好	
392	81	k6	壺 胴部	弥生 前期	—	ヘラ描沈線文、木 葉文	ナデ	ナデ	橙色	密 良好	
393	81	k6	甕 口縁部	弥生 中期 前葉	口径(23.5) 頸径(23.5) 胴径(24.0)	口縁部は短く外 反、端部刻目、ヘ ラ描沈線文	ナデ	横方向ナデ	にぶい黄橙色	密 良好	
394	81	i5	甕 口縁部	弥生 中期 前葉	口径(19.7) 頸径(18.8)	口縁部は短く外 反、ヘラ描沈線文	横方向ナデ	ナデ	にぶい黄橙色	密 良好	
395	81	j5	甕 口縁部	弥生 中期 前葉	口径(22.5) 頸径(21.4) 胴径(22.0)	口縁部は短く屈 曲、クシ描文	頸部指オサエ→ナ デ	横方向ナデ	外)にぶい黄橙色 内)明赤褐色	やや粗 良好	
396	81	i5	甕 口縁部	弥生 中期 前葉	口径(25.9) 頸径(23.5)	口縁部は短く外 反、端部に刻み	指オサエ→ナデ	横方向ナデ	にぶい黄橙色	密 良好	
397	81	k6	甕 口縁部	弥生 中期 前葉	口径(23.9) 頸径(23.7) 胴径(24.4)	口縁部が短く外 反、	指オサエ→ナデ	指オサエ→ナデ	淡黄色	密 やや軟	
398	81	j6	甕 口縁部	弥生 中期 前葉	口径(25.9) 頸径(24.3)	口縁部が短く外 反、	ナデ	ナデ	淡黄色	やや粗 良好	
399	81	j5	深鉢 口縁部	縄文 晩期 中葉	口径(24.1)	口縁端部に刻み	横方向ナデ	横方向ナデ	にぶい黄橙色	密 良好	
400	81	j6	深鉢 口縁部	縄文 晩期 後葉	—	口縁部から少し下 がった位置に無刻 目突帯がつく	横方向ナデ	横方向ナデ	淡黄色	密 良好	
401	81	m5	深鉢? 胴部	縄文 ?	—	ツメ形の刺突文、 沈線	ナデ	ナデ	にぶい黄橙色	やや粗 良好	
402	81	j6	—	弥生 ?	—	陰刻渦文	—	ナデ	外)灰黄褐色 内)にぶい黄褐色	やや粗 良好	
403	81	j5	注口 土器	弥生 後期	—	直線的で先細りす る	ナデ	ナデ	にぶい橙色	密 良好	
404	81	16	土製品	弥生 中期 後葉 ~ 古墳 前期	—	中空の土製品、鳥 形の可能性あり、 底部に穿孔	指オサエ→ナデ	ハケメ→ナデ	淡黄色	密 良好	
405	81	k6	土製品	弥生 中期 後葉 ~ 古墳 前期	直径 5.1	中空の土製品	指オサエ→ナデ	ケズリ	灰黄褐色	密 良好	
406	81	k6	底部	弥生	底径 8.3	中心付近に1個の 穿孔あり	横方向ナデ	指オサエ→ナデ	にぶい黄褐色	密 良好	
407	81	j6	底部	弥生	底径 6.1	凹底	指オサエ→ナデ	指オサエ→ナデ	外)灰黄色 内)淡黄色	密 やや軟	

表29 古市流田遺跡土器・土製品観察表18



遺物番号	挿図	地区遺構	器種	時期	法量 cm	特徴	調整		色調	胎土 焼成	備考
							外面	内面			
408	81	i5	底部	弥生	底径 4.6	平底	ナデ	指オサエ→ナデ	外) 灰黄色 内) 淡黄色	やや粗 良好	
409	81	j6	土玉	弥生 中期後葉 ~ 古墳 前期	直径 2.2	穿孔なし	手捏ね→ナデ	—	淡黄色	密 良好	

表30 古市流田遺跡土器・土製品観察表19

## 石器一覽表

1. 残存値は ( ) で示した。
2. 石材のうち、サヌカイトについては、調査員の肉眼観察による。

遺物番号	挿図	地区遺構	出土層位	器種	石材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重さ (g)	備考
S1	25	SX1	②~⑤層	微細剥離痕のある石器	サヌカイト	(34)	(30)	(7)	(5.7)	
S2	29	SK8	②~⑤層	大型蛤刃石斧	閃緑岩	(32)	(42)	(23)	(33.5)	
S3	40	SD9	②~⑤層	石鏃	黒曜石	19	14	4.2	0.8	
S4	40	SD9	②~⑤層	楔形石器	黒曜石	18	17	8	2.3	
S5	40	SD9	②~⑤層	磨製石斧	安山岩	(99.5)	(52)	(28.5)	(178)	
S6	40	SD9	②~⑤層	磨製石斧	緑色片岩	(8.5)	(2.6)	(2.6)	(92.5)	
S7	40	SD9	②~⑤層	打製石斧	頁岩	(7.4)	(5.1)	(3.15)	(155)	
S8	40	SD9	②~⑤層	礫石器	安山岩	12.5	11.2	5.8	995	
S9	40	SD9	②~⑤層	礫石器	安山岩	(5.5)	(8.8)	(4.75)	321	
S10	40	SD9	②~⑤層	柱状石製品?	花崗斑岩	(9.6)	(5.5)	(4.2)	295	
S11	40	SD9	②~⑤層	線刻礫	安山岩	4.4	3.8	3.1	66	
S12	42	SD15	②~⑤層	石鏃	サヌカイト	27	19	5.5	2.0	
S13	42	SD15	②~⑤層	削器	サヌカイト	33	73	16.7	27.2	
S14	51	SX2	③層	楔形石器	黒曜石	24	12	4.3	1.3	
S15	51	SX2	③層	石核	黒曜石	20	50	13	13.2	
S16	51	SX2	③層	打製石剣	サヌカイト	(117)	(41)	(11)	(32.5)	
S17	51	SX2	③層	大型蛤刃石斧	安山岩	(106.5)	(45.5)	(33)	(186)	
S18	51	SX2	⑦~⑪層	打製石斧	安山岩	190	80	35	822	
S19	51	SX2	⑦~⑪層	磨製石斧?	安山岩	(120)	(50)	(33)	(292)	
S20	51	SX2	③層	礫石器	花崗岩	104.5	82	48	595	
S21	51	SX2	③層	礫石器	安山岩	86	80	52.5	565	
S22	74	P86	埋土	砥石	花崗斑岩	(197)	(102)	(62)	(1780)	
S23	74	P244	埋土	石核	黒曜石	25	30	16	10.8	
S24	78	1区	5層	石鏃	サヌカイト	14	13	2.1	0.3	
S25	78	1区	5層	石鏃	黒曜石	24	17	3	0.8	
S26	78	1区	5層	石鏃	サヌカイト	18	16	4	0.9	
S27	78	1区	5層	石鏃	サヌカイト	16	17	3.5	0.8	
S28	78	i6	5層	石鏃	サヌカイト	22	15	3	1.1	
S29	78	1区	5層	石鏃	サヌカイト	13	10	4	0.8	
S30	78	3区	5層	石鏃	サヌカイト	16	14	3	0.8	
S31	78	15	5層	石鏃	サヌカイト	20	15	3.8	1.2	
S32	78	o2	5層	石鏃	サヌカイト	19	10	2.2	0.4	
S33	78	j5	5層	楔形石器	黒曜石	19	25.5	11	4.8	
S34	78	3区	5層	楔形石器	黒曜石	26	20.5	13	6.2	
S35	79	1区	5層	楔形石器	サヌカイト	27.5	21.5	11.5	6.3	
S36	79	1区	5層	石核	サヌカイト	37.5	49	23.5	28.6	
S37	79	e6	5層	柱状片刃石斧	緑色片岩	164.5	55	47.5	670	
S38	79	j5	5層	両刃石斧	花崗斑岩	(85)	(61)	(42)	(260)	
S39	79	f7	5層	環石	花崗斑岩	(73.5)	((37)	(37.5)	(116)	
S40	79	i5	5層	環石	滑石片岩	75	34	17	65.5	
S41	79	g6	5層	砥石	花崗斑岩	(64.5)	(65)	(54)	(250)	
S42	79	p3	5層	石錘	石英	66	44	22	90	
S43	79	1区	5層	石錘	安山岩	52	17	16	13.5	

表31 古市流田遺跡石器一覽表1

第4章 古市流田遺跡の調査

遺物番号	挿図	地区遺構	出土層位	器種	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	備考
S44	79	i 5	5層	柱状石製品?	花崗斑岩	(88)	(74)	(48)	(362)	
S45	79	k 6	5層	柱状石製品?	花崗斑岩	(56)	(30)	(9)	(28)	
S46	79	l 6	5層	玉砥石?	花崗斑岩	(79)	(83)	(51)	(245)	
S47	82	k 6	6層	石鏃	黒曜石	21.5	15	3.7	0.6	
S48	82	n 5	6層	石鏃	黒曜石	19	22.5	3	0.5	
S49	82	j 6	6層	石鏃	サヌカイト	19	15	4	0.6	
S50	82	j 6	6層	石鏃	サヌカイト	25	16	5	1.2	
S51	82	k 6	6層	石鏃	サヌカイト	25	18	3.8	1.8	
S52	82	j 5	6層	石鏃	黒曜石	(45)	(22)	(9)	(4.8)	
S53	82	n 6	6層	石錐	サヌカイト	30.5	9	3.8	1.2	
S54	82	k 6	6層	石錐	黒曜石	39	10.5	6.8	2.8	
S55	82	k 6	6層	楔形石器	黒曜石	18.5	14	10.5	3.2	
S56	82	j 5	6層	楔形石器	黒曜石	17	16	10.3	1.9	
S57	82	k 5	6層	楔形石器	黒曜石	23	16	8.5	2.9	
S58	83	g 7	6層	石核	サヌカイト	35	24	17	9.5	
S59	83	o 5	6層	石核	黒曜石	31	28	24	19.5	
S60	83	l 6	6層	両刃石斧	白色片岩	127.5	57.5	21	220	
S61	83	m 6	6層	大型蛤刃石斧	花崗岩	(84.5)	(70)	(42)	(390)	
S62	83	j 5	6層	磨製石器	頁岩	62	13.5	5	6.6	
S63	83	m 6	6層	有溝石錘	安山岩	84.5	59	47.5	288	
S64	83	k 6	6層	磨製石剣	頁岩	(37)	(23.5)	(6.5)	(8.3)	

表32 古市流田遺跡石器一覧表 2